

福音書

シノダル訳

目次 イエス

マタイによる福音書、冒頭: [1](#) [2](#) [3](#) [4](#) [5](#) [6](#) [7](#) [8](#) [9](#) [10A](#) [10B](#) [11](#) [12](#) [13](#)
[14](#) [15](#) [16](#) [17](#) [18](#) [19](#) [20A](#) [20B](#) [21](#) [22](#) [23](#) [24](#) [25](#) [26](#) [27](#) [28](#) [29](#) [30](#) [31](#)
[32](#) [33](#) [34A](#) [34B](#) [35](#) [36](#) [37](#) [38A](#) [38B](#) [39](#) [40](#) [41](#) [42](#) [43](#) [44](#) [45](#) [46A](#)
[46B](#) [47](#) [48](#) [49](#) [50](#) [51](#) [52A](#) [52B](#) [53](#) [54](#) [55](#) [56](#) [57](#) [58](#) [59](#) [60](#) [61](#) [62](#)
[63](#) [64](#) [65](#) [66](#) [67A](#) [67B](#) [68](#) [69](#) [70](#) [71](#) [72](#) [73](#) [74](#) [75](#) [76](#) [77](#) [78](#) [79](#) [80](#)
[81](#) [82](#) [83A](#) [83B](#) [84A](#) [84B](#) [85](#) [86](#) [87](#) [88](#) [89](#) [90A](#) [90B](#) [91](#) [92](#) [93](#) [94](#)
[95](#) [96](#) [97](#) [98](#) [99](#) [100](#) [101](#) [102](#) [103](#) [104](#) [105](#) [106](#) [107](#) [108](#) [109](#) [110A](#)
[110B](#) [111](#) [112](#) [113](#) [114](#) [115](#) [116](#)

マルコによる福音書、冒頭: [1](#) [2A](#) [2B](#) [3](#) [4](#) [5](#) [6](#) [7](#) [8](#) [9](#) [10](#) [11](#) [12](#) [13](#)
[14](#) [15](#) [16](#) [17](#) [18](#) [19](#) [20](#) [21](#) [22](#) [23](#) [24](#) [25](#) [26](#) [27](#) [28](#) [29](#) [30](#) [31](#) [32](#)
[33](#) [34](#) [35](#) [36](#) [37](#) [38](#) [39](#) [40](#) [41](#) [42](#) [43](#) [44](#) [45](#) [46](#) [47](#) [48](#) [49](#) [50](#) [51](#)
[52](#) [53](#) [54](#) [55](#) [56](#) [57](#) [58](#) [59](#) [60](#) [61](#) [62](#) [63](#) [64](#) [65](#) [66](#) [67A](#) [67B](#) [68](#)
[69A](#) [69B](#) [70](#) [71](#)

ルカによる福音書、冒頭: [1](#) [2](#) [3A](#) [3B](#) [4](#) [5](#) [6](#) [7](#) [8A](#) [8B](#) [9](#) [10](#) [11](#) [12](#)
[13](#) [14](#) [15](#) [16](#) [17](#) [18](#) [19](#) [20](#) [21](#) [22](#) [23](#) [24](#) [25](#) [26](#) [27](#) [28](#) [29](#) [30](#) [31](#) [32](#)
[33](#) [34](#) [35](#) [36](#) [37](#) [38](#) [39](#) [40](#) [41](#) [42](#) [43](#) [44](#) [45](#) [46](#) [47](#) [48A](#) [48B](#) [49](#)
[50A](#) [50B](#) [51A](#) [51B](#) [52](#) [53](#) [54](#) [55](#) [56](#) [57](#) [58](#) [59](#) [60](#) [61](#) [62](#) [63](#) [64](#) [65](#)
[66](#) [67](#) [68](#) [69](#) [70](#) [71](#) [72](#) [73](#) [74](#) [75](#) [76](#) [77](#) [78](#) [79](#) [80](#) [81](#) [82](#) [83](#) [84](#)
[85](#) [86](#) [87](#) [88](#) [89](#) [90](#) [91](#) [92](#) [93](#) [94](#) [95](#) [96](#) [97](#) [98](#) [99](#) [100](#) [101](#) [102](#)
[103](#) [104](#) [105](#) [106](#) [107](#) [108A](#) [108B](#) [109](#) [110](#) [111](#) [112](#) [113](#) [114](#)

ヨハネによる福音書、冒頭: [1](#) [2](#) [3](#) [4](#) [5](#) [6](#) [7](#) [8](#) [9](#) [10](#) [11](#) [12](#) [13](#) [14A](#)
[14B](#) [15](#) [16](#) [17](#) [18](#) [19](#) [20](#) [21](#) [22](#) [23](#) [24](#) [25](#) [26](#) [27](#) [28](#) [29](#) [30](#) [31](#) [32](#)
[33](#) [34](#) [35A](#) [35B](#) [36](#) [37A](#) [37B](#) [38](#) [39](#) [40](#) [41A](#) [41B](#) [42A](#) [42B](#) [43](#) [44](#) [45](#)
[46](#) [47](#) [48A](#) [48B](#) [49](#) [50](#) [51](#) [52](#) [53](#) [54](#) [55](#) [56](#) [57](#) [58](#) [59A](#) [59B](#) [60](#) [61A](#)
[61B](#) [62](#) [63](#) [64](#) [65A](#) [65B](#) [65C](#) [66](#) [67](#)

付録

福音書の朗読順序:

すべての週について	177
四旬節	189
日曜日の朝の福音書	192

12ヶ月の集録:

[9月](#) [10月](#) [11月](#) [12月](#) [1月](#) [2月](#)
[3月](#) [4月](#) [5月](#) [6月](#) [7月](#) [8月](#)

福音書:

聖人共通	212
様々な場面で	214

マタイによる福音書 ヨハネによる福音書

マタイによる福音書、冒頭1

ダビデの子、アブラハムの子であるイエス・キリストの系図。アブラハムはイサクをもうけ、イサクはヤコブをもうけ、ヤコブはユダとその兄弟たちをもうけ、ユダはファマリからファレスとザラをもうけ、ファレスはエスロムをもうけ、エスロムはアラムをもうけ、アラムはアミナダブをもうけた。アミナダブはナアソンをもうけた。ナアソンはサルモンをもうけた。サルモンはラハベとの間にボアズをもうけた。ボアズはルツとの間にオビドをもうけた。オビドはイッサイをもうけた。イッサイはダビデ王をもうけた。ダビデ王はウリヤの妻との間にソロモンをもうけた。ソロモンはロボアムをもうけた。ロボアムはアビヤをもうけた。アビヤはアサをもうけた。アサはヨシャファトをもうけた。ヨシャファトはヨラムをもうけた。ヨラムはウジヤをもうけた。ウジヤはヨアフアムをもうけた。ヨアフアムはアハズをもうけた。アハズはヒゼキヤをもうけた。ヒゼキヤはマナセをもうけた。マナセはアモンを生んだ。アモンはヨシヤを生んだ。ヨシヤはヨアキムを生んだ。ヨアキムは、バビロンへの移住の前に、エホニアとその兄弟たちを生んだ。バビロンへの移住の後、エホニアはサラフィエルを生んだ。サラフィエルはゾロバベルを生んだ。ゾロバベルはアビウドをもうけた。アビウドはエリヤキムをもうけた。エリヤキムはアゾルをもうけた。アゾルはサドクをもうけた。サドクはアヒムをもうけた。アヒムはエリウドをもうけた。エリウドはエレアザルをもうけた。エレアザルはマトファンをもうけた。マトファンはヤコブをもうけた。ヤコブはヨセフをもうけた。ヨセフはマリアの夫であり、マリアからはイエス、すなわちキリストと呼ばれる方が生まれた。こうして、アブラハムからダビデまでの系図は十四代、ダビデからバビロン捕囚までの系図は十四代、バビロン捕囚からキリストまでの系図は十四代である。イエス・キリストの誕生は、次のようにあった。その母マリアがヨセフと婚約した後、二人がまだ同居する前に、マリアが聖霊によって身ごもっていることがわかった。彼女の夫ヨセフは、義人であったため、彼女を公に恥をかかせたくなく、密かに彼女を離縁しようとした。しかし、彼がそう考えを巡らせていると、主の御使いが夢の中に現れて言った。「ダビデの子ヨセフよ、恐れることはない。あなたの妻マリアを迎え入れなさい。彼女のお腹に宿っている子は聖霊によるものである。彼女は男の子を産む。その名をイエスと名付けなさい。彼は、自分の民をその罪から救うからである。」これらすべてのことは、主が預言者を通して語られた言葉が成就するためであった。「見よ、処女が身ごもって男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。これは『神は我々と共におられる』という意味である。」ヨセフは眠りから覚めると、主の御使いが命じたとおりにし、妻を迎え入れたが、彼女と関係を持たなかった。やがて彼女は長子である息子を産み、ヨセフはその子に「イエス」という名をつけた。

マタイによる福音書 1:1-25
キリスト降誕前週、聖なる父たち。

マタイによる福音書、第2章の冒頭

イエス・キリストの誕生は、次のようにあった。その母マリアがヨセフと婚約した後、二人がまだ同居する前に、マリアが聖霊によって身ごもっていることが分かった。彼女の夫ヨセフは、義人であったため、彼女を公に恥をかかせたくなく、密かに彼女を離縁

しようとした。しかし、彼がそう考えを巡らせていると、見よ、主の御使いが夢の中に現れて言った。「ダビデの子ヨセフよ、恐れることはない。あなたの妻マリアを迎え入れなさい。彼女のお腹に宿っている子は聖霊によるものである。彼女は男の子を産む。その名をイエスと名付けなさい。彼は、自分の民をその罪から救うからである。」これらすべてのことは、主が預言者を通して語られた言葉が成就するためであった。「見よ、処女が身ごもって男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。これは『神は我々と共におられる』という意味である。」ヨセフは眠りから覚めると、主の御使いが命じたとおりにし、妻を迎え入れたが、彼女と関係を持たなかった。やがて彼女は長子である息子を産み、ヨセフはその子にイエスという名をつけた。

マタイによる福音書 1:18-25
キリストの降誕前夜、第1時。
キリストの降誕、早課にて。

マタイによる福音書、第3章の冒頭

ヘロデ王の治世の頃、イエスがユダヤのベツレヘムで生まれたとき、東方の博士たちがエルサレムに来て、「ユダヤの王として生まれた方はどこにおられますか。私たちは東の方でその方の星を見ましたので、拝みに参りました」と言った。これを聞いて、ヘロデ王は動揺し、エルサレム中も彼と共に動揺した。そこで、大祭司や民の律法学者たちをすべて集め、彼らに尋ねた。「キリストはどこで生まれることになっているのか。」すると、彼らは彼にこう答えた。「ユダヤのベツレヘムです。預言者を通してこう記されているからです。『ベツレヘムよ、ユダの地よ、あなたはユダの諸郡に決して劣ることはない。なぜなら、あなたから、わたしの民イスラエルを牧する指導者が現れるからである。』」そこでヘロデは、密かに博士たちを呼び寄せ、星が現れた時期を聞き出し、彼らをベツレヘムへ遣わして言った。「行って、その幼子について詳しく調べなさい。見つけ次第、私に知らせてほしい。私も行って、その方に拝礼したいからだ。」彼らは王の言葉を聞いて、そこへ向かった。すると、東の方角で彼らが見た星が、彼らの前を導くように進み、ついに幼子のおられる場所の上で止まった。彼らはその星を見て、非常に大きな喜びに満たされ、家に入ると、幼子とその母マリアがいたのを見て、ひれ伏して幼子に礼拝し、宝物箱を開けて、金、乳香、没薬という贈り物を捧げた。そして、夢の中でヘロデのもとへ戻ってはならないという啓示を受けたため、別の道を通して自分たちの国へ帰っていった。

マタイによる福音書 2:1-12
キリストの降誕前夜、第6時。
キリストの降誕、聖体礼儀にて。

マタイによる福音書、第4章の冒頭

東方の三博士が去った後、見よ、主の御使いが夢の中でヨセフに現れて言った。「起きて、幼子とその母を連れてエジプトへ逃げなさい。そして、私が告げるまで、そこに留まりなさい。ヘロデは幼子を探し出して、殺そうとしているからである。」ヨセフは起きて、夜中に幼子とその母を連れてエジプトへ行き、ヘロデが死ぬまでそこに留まった。これは、主が預言者を通して、「わたしはエジプトからわが子呼び出した」と語られたことが成就するためであった。そこで、ヘロデは、東方の博士たちに嘲笑されたと知って、大いに怒り、博士たちから聞き出した時期に基づき、ベツレヘムとその周辺一帯の、二歳以下のすべての幼児を殺すよう命じた。こうして、預言者エレミヤを通して語られた言葉が成就した。「ラマで声が聞こえる。泣き声とすすり泣き、そして大きな叫び声。ラケルは自分の子供たちのために泣き、慰めを受け入れようとしなさい。彼らはもういないからだ。」ヘロデの死後、見よ、主の御使いがエジプトにいるヨセフの夢に現れて言った。「起きなさい。幼子とその母を連れて、イスラエルの地へ行きなさい。幼子の命を狙

っていた者たちは皆、死んだからである。」ヨセフは起きて、幼子とその母を連れて、イスラエルの地へ戻った。しかし、父ヘロデに代わってアルケライがユダヤで王となっていると聞いたので、そこへ行くのを恐れた。しかし、夢の中で啓示を受けたので、ガリラヤの地方へ行き、そこに着いてナザレという町に住み着いた。これは、預言者たちを通して、「彼はナザレ人と呼ばれる」と告げられていたことが成就するためであった。

マタイによる福音書 2:13-23
キリストの降誕前夜、第9時。
12月26日、至聖なる神の母。
12月29日、聖なる幼子たち。
キリストの降誕後の週。

マタイによる福音書、第5章の冒頭

そのころ、洗礼者ヨハネが現れ、ユダヤの荒野で宣教し、こう言った。「悔い改めよ。天の御国が近づいたからである。」彼は、預言者イザヤが言った、「荒野で叫ぶ者の声。主の道を整え、その道筋をまっすぐにせよ」と預言したその人である。ヨハネ自身は、らくだの毛の衣をまとい、腰には皮の帯を締め、その食べ物はイナゴと野の蜜であった。そこで、エルサレムとユダヤ全土、そしてヨルダン川周辺のすべての人々が、彼のもとへ出て行き、ヨルダン川で彼から洗礼を受け、自分の罪を告白した。ヨハネは、多くのパリサイ人やサドカイ人がバプテスマを受けにやって来るのを見て、彼らに言った。「毒蛇の子らよ! 『誰が、あなたがたに、来るべき怒りから逃れるよう教えたのか。悔い改めにふさわしい実を結べ。そして、「私たちにはアブラハムが父である」と心の中で思うな。神は、これらの石からでもアブラハムの子らを立てることができるからだ』と。すでに斧は木の根元に置かれている。良い実をも結ばない木は、すべて切り倒されて火に投げ込まれる。わたしはあなたがたに悔い改めのために水でバプテスマを授けるが、わたしの後に来られる方はわたしよりも力強い。わたしは、その方の履物を運ぶに値しない。その方は、聖霊と火をもってあなたがたにバプテスマを授けてくださる。」

マタイによる福音書 3:1-11
主の顕現前の土曜日。
主顕節の前夜、第1時。

マタイによる福音書、第6章の冒頭

そのころ、イエスはガリラヤからヨルダン川へ来て、ヨハネから洗礼を受けようとなさった。しかし、ヨハネはイエスを引き留めて言った。「私こそ、あなたがたから洗礼を受けべきなのに、あなたが私のところに來られるのですか。」すると、イエスは彼に答えて言われた。「今はそのままにしておきなさい。このようにして、私たちはすべての義を全うすべきだからです。」そこで、ヨハネはイエスを受け入れた。イエスはバプテスマを受けると、すぐに水から上がった。すると、天が開き、ヨハネは神の御霊が鳩のように降りてきて、イエスの上に留まるのを見た。すると、天から声がして言った。「これは、わたしの愛する子、わたしの心に適う者である。」

マタイによる福音書 3:13-17
主の顕現の前夜、第9時。
主の顕現の日、聖体礼儀にて。

マタイによる福音書、第7章の冒頭

そのころ、イエスは御霊に導かれて荒野へ行き、悪魔からの試みに遭われた。そして、四十日四十夜断食された後、ついに空腹を感じられた。すると、誘惑者が近づいて来て言った。「もしあなたが神の子なら、これらの石をパンに変えてみよ。」イエスは彼に答えて言われた。「『人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出るすべての言葉によって生きる』と書いてある。」それから、悪魔はイエスを聖なる都に連れて行き、神

殿の屋根の端に立たせて、こう言った。「もしあなたが神の子なら、ここから下に飛び降りなさい。聖書にこう書いてある。『神は御自分の天使たちにあなたについて命じ、彼らはあなたをその手で支え、あなたの足が石にぶつからないようにする』と。」 イエスは彼に言われた。「『あなたの神、主を試してはならない』とも書いてある。」 また、悪魔はイエスを非常に高い山に連れて行き、世のすべての国々とその栄華を見せ、こう言った。「もしひれ伏して私に礼拝するなら、これらすべてをあなたに与えよう。」 そこで、イエスは彼に言われた。「サタンよ、私から離れよ。聖書にこう書いてある。『あなたの主なる神を拝み、神のみに仕えよ。』」すると、悪魔はイエスを離れ、見よ、御使いたちが近寄って来て、イエスに仕えた。

マタイによる福音書 4:1-11
主の顕現後の土曜日。

マタイによる福音書、第8章の冒頭

そのころ、イエスは、ヨハネが捕らえられたと聞いて、ガリラヤへ退かれ、ナザレを離れて、海辺のカペナウムに来て、そこに住まわれた。そこはザブロンザブルンの地とネフィリムの地、ヨルダン川を越えた海沿いの地域であった。これは、預言者イザヤを通して語られたことが成就するためである。イザヤはこう言っている。「ザブロンザブルンの地、ネフィリムの地、ヨルダン川の向こう側の海沿いの道、異邦人の地ガリラヤ。暗やみに座する民は、大いなる光を見た。死の陰の地に座する者たちの上に、光が輝いた。」その時から、イエスは宣教を始め、こう語り始めた。「悔い改めよ。天の御国が近づいた。」

マタイによる福音書 4:12-17
主の顕現後の週。

マタイによる福音書、第9章の冒頭

その頃、イエスはガリラヤ湖のほとりを通りかかると、シモン（ペトロと呼ばれる者）とその兄弟アンデレという二人の兄弟が、海に網を投げ入れているのを見かけました。彼らは漁師だったからです。イエスは彼らに言われました。「わたしについてきなさい。あなたがたを人の漁師にしよう。」すると、彼らはすぐに網を置いて、イエスに従った。そこからさらに進んで行くと、イエスは別の二人の兄弟、ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネが、父ゼベダイと共に舟に乗って網を繕っているのを見て、彼らと呼ばい寄せた。彼らはすぐに舟と父を残して、イエスに従った。イエスはガリラヤ全土を巡り歩き、彼らの会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、人々のあらゆる病気やあらゆる弱さを癒やされた。

マタイ 4:18-23
五旬節後の第2週。

マタイによる福音書、第10A章

そのころ、ガリラヤやデカポリス、エルサレム、ユダヤ、そしてヨルダン川の向こうから、大勢の群衆がイエスに従っていた。イエスは群衆を見て、山に登られた。そして座られると、弟子たちがイエスのところに近寄ってきた。そこで、イエスは口を開いて彼らに教え、こう言われた。「霊的に貧しい者は幸いである。天の御国は彼らのものだからである。泣いている人は幸いである。彼らは慰められるからである。柔和な人は幸いである。彼らは地を受け継ぐからである。義に飢え渴いている人は幸いである。彼らは満たされるからである。憐れみ深い人は幸いである。彼らは憐れみを受けるからである。心の清い人は幸いである。彼らは神を見るからである。平和をつくる者は幸いである。彼らは神の子と呼ばれるからである。義のために追放される者は幸いである。天の御国は彼らのものだからである。あなたがたが、わたしのために侮辱され、迫害され、あらゆる不当

な悪口で中傷されるとき、幸いである。喜び、喜びなさい。天におけるあなたがたの報いは大きいからである。

マタイによる福音書 4:25-5:12A
聖なる方々に。

マタイによる福音書、冒頭10B

そのころ、ガリラヤやデカポリス、エルサレム、ユダヤ、そしてヨルダン川の向こうから、大勢の群衆がイエスに従ってきた。イエスは群衆を見て、山に登られた。そして座られると、弟子たちがイエスのところに近寄ってきた。そこでイエスは口を開いて、彼らに教え始められた。「霊的に貧しい者は幸いである。天の御国は彼らのものだから。泣いている者は幸いである。彼らは慰められるから。柔和な者は幸いである。彼らは地を受け継ぐから。義に飢え渴く者は幸いである。彼らは満たされるから。憐れみ深い者は幸いである。彼らは憐れみを受けるから。心清き者は幸いである。彼らは神を見るからである。平和をつくる者は幸いである。彼らは神の子と呼ばれるからである。義のために迫害される者は幸いである。天の御国は彼らのものだからである。あなたがたが、わたしのために侮辱され、迫害され、あらゆる不当な悪口を言われるとき、幸いである。喜び、喜びなさい。天においてあなたがたの報いは大きいからである。あなたがたより先にいた預言者たちも、同じように迫害されたのである。あなたがたは地の塩である。もし塩がその塩気を失ったら、何によってそれを塩気のあるものにするのか。もはや何の役にも立たず、人々に踏みつけられるために捨てられるだけである。

マタイによる福音書 4:25-5:13
第1週の火曜日。

マタイによる福音書、第11章の冒頭

主は弟子たちに言われた。「あなたがたは世の光である。山の上にある町は隠れることができない。また、灯をともして、それを器の下に置くのではなく、燭台の上に置く。そうすれば、家の中の人すべてに光が照らされる。同じように、あなたがたの光を人々の前で輝かせなさい。そうすれば、人々はあなたがたの善い行いを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようになる。」わたしが律法や預言者を破るために来たと思うな。破るために来たのではなく、成就するために来たのだ。まことに、あなたがたに告げる。天と地が消え去るまでは、律法の一点一画も決して消え去ることはない。すべてが成就するまでである。それゆえ、これらの戒めのうち、最も小さいものの一つでも破り、人々をそのように教える者は、天の御国において最も小さい者と呼ばれる。しかし、それを実行し、また教える者は、天の御国において偉大な者と呼ばれる。

マタイによる福音書 5:14-19
聖人たちに。

マタイによる福音書、第12章の冒頭

主は弟子たちに言われた。「もしあなたがたの義が、律法学者やパリサイ人たちの義に勝たなければ、あなたがたは天の御国に入ることはできない。古の人々に『殺してはならない』と言われたのを、あなたがたは聞いた。殺す者は裁きを受ける。しかし、わたしはあなたがたに言う。兄弟に対してむやみに怒る者は、裁きを受ける。また、兄弟に『バカ』と言う者は、サンヘドリンの裁きを受ける。さらに、『狂人』と言う者は、火のゲヘナに投げ込まれる。だから、もしあなたがたが供え物を祭壇に捧げようとして、そこで兄弟があなたがたに対して何か恨みを持っていることを思い出したなら、供え物を祭壇の前に置いたまま、まず行って兄弟と和解しなさい。それから戻って、供え物を捧げなさい。敵と和解するのは、まだその敵と道中にあるうちに、速やかにせよ。そうすれば、敵があ

なたを裁判官に引き渡すこともなく、裁判官があなたを役人に引き渡すこともなく、あなたが牢屋に投げ込まれることもない。まことに、あなたに告げる。最後のクドラントを支払うまで、そこから出ることはできない。

マタイによる福音書 5:20-26
第1週の水曜日。

マタイによる福音書、第13章の冒頭

主は言われた。「あなたがたは、古の人々に『姦淫してはならない』と言われたことを聞いた。しかし、わたしはあなたがたに言う。女を欲情の目で見る者は、すでに心の中でその女と姦淫を犯したのである。もしあなたの右の目があなたを罪に誘うなら、それをえぐり出して捨てなさい。あなたの体の部分の一つが減びる方が、あなたの全身がゲヘナに投げ込まれるよりはましだからである。また、もしあなたの右手があなたを罪に誘うなら、それを切り落として捨てなさい。あなたの体のうちの一つが減びる方が、あなたの全身がゲヘナに投げ込まれるよりはましだからである。「もし誰かが妻と離婚するなら、離婚状を渡さなければならない」とも書かれている。しかし、わたしはあなたがたに言う。姦淫の罪以外で妻と離婚する者は、彼女に姦淫の口実を与えることになる。また、離婚した女性と結婚する者は、姦淫を犯すことになる。

マタイによる福音書 5:27-32
第1週の木曜日。

マタイによる福音書、第14章の冒頭

主は言われた。「あなたがたは、古の人々に『誓いを破ってはならない。主の御前で誓ったことは果たさなければならない』と言われたのを聞いた。しかし、わたしはあなたがたに言う。決して誓ってはならない。天によっても誓ってはならない。それは神の御座だからである。地によっても誓ってはならない。それは神の御足の台だからである。エルサレムによっても誓ってはならない。それは大いなる王の都だからである。また、自分の頭によっても誓ってはならない。あなたは、自分の髪の毛一本を白くしたり黒くしたりすることさえできないからである。あなたがたの言葉は、『はい、はい』、『いいえ、いいえ』であるべきだ。それ以上のことは、すべて悪者から出ているのである。『目には目を、歯には歯を』と言われたことを、あなたがたは聞いた。しかし、わたしはあなたがたに言う。悪に抵抗してはならない。もしだれかがあなたの右の頬を打つなら、もう一方の頬も向けなさい。また、だれかがあなたと裁判をして、あなたのシャツを奪おうとするなら、上着も与えなさい。さらに、だれかがあなたを半マイル同行させようとするなら、二マイル同行しなさい。

マタイによる福音書 5:33-41
第1週の金曜日。

マタイによる福音書、第15章の冒頭

主は言われた。「あなたに求める者には与え、あなたから借りたいと願う者を拒んではならない。あなたがたは、『隣人を愛し、敵を憎め』と言われたことを聞いた。しかし、わたしはあなたがたに言う。敵を愛し、あなたがたをののしる者を祝福し、あなたがたを憎む者に善を行い、あなたがたを迫害し、迫害する者のために祈りなさい。そうすれば、あなたがたは天の父の子となる。なぜなら、父は御自分の太陽を悪人にも善人にも昇らせ、義人にも不義な者にも雨を降らせてくださるからである。もしあなたがたが、自分を愛してくれる者だけを愛するなら、何の報いがあるだろうか。徴税人たちも、それと同じことをしているではないか。また、もしあなたがたが、兄弟たちだけに挨拶するなら

、何が特別だろうか。異邦人たちも、それと同じことをしているではないか。だから、あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全でありなさい。

マタイによる福音書 5:42-48
五旬節後の第1土曜日。

マタイによる福音書、第16章

主は言われた。「見よ、人々にあなたたちを見てもらおうとして、人々の前で施しをしてはならない。そうすれば、天の父から報いを受けることはない。だから、施しをするときは、偽善者たちが会堂や通りで人々に称賛されるために、自分の前でラッパを吹くようにしてはならない。まことに、あなたがたに告げる。彼らはすでにその報いを受けている。しかし、あなたが施しをするときは、右手が何をしているかを左手に知らせてはならない。そうすれば、あなたの施しは隠されたものとなる。隠されたところを見られるあなたの父が、公に報いてくださる。また、祈るときは、会堂や通りの角に立ち止まって、人々の前で目立つために祈ることを好む偽善者たちのようであってはならない。まことに、あなたがたに告げる。彼らはすでにその報いを受けている。あなたがたは、祈るとき、自分の部屋に入り、戸を閉めて、隠れたところにおられるあなたがたの父に祈りなさい。そうすれば、隠れたところを見通しておられるあなたがたの父が、公に報いてくださる。また、祈るときは、異邦人のように無駄な言葉を並べてはならない。彼らは、言葉を多くすれば聞き入れられると思っているからである。彼らに倣ってはならない。あなたがたが父に求める前に、あなたがたに必要なものを、あなたがたの父は知っておられるからである。それゆえ、このように祈りなさい。『天にいます私たちの父よ。御名が聖とされますように。御国が来ますように。御心が天で行われるように、地でも行われますように。私たちの日ごとの糧を今日お与えください。そして、私たちの罪を赦してください。私たちも、私たちに罪を犯した者を赦しますように。私たちに誘惑に遭わせないでください。悪から救い出してください。御国と力と栄光は、永遠にあなたのものです。アーメン。』

マタイによる福音書 6:1-13
チーズ週間の土曜日。

マタイによる福音書、第17章

主は言われた。「もしあなたがたが人々の罪を赦すなら、あなたがたの天の父もあなたがたを赦してくださる。しかし、もしあなたがたが人々の罪を赦さないなら、あなたがたの父もあなたがたの罪を赦さない。また、断食するときは、偽善者たちのように陰気な顔をしてはならない。彼らは、人々に断食していると思わせるために、わざと暗い顔をやるからである。まことに、あなたがたに告げる。彼らはすでにその報いを受けている。しかし、あなたが断食するときは、頭を油で塗り、顔を洗いなさい。それは、人々の前で断食しているように見せるためではなく、隠れたところにおられるあなたの父の前で断食していることを示すためである。そうすれば、隠れたところを見られるあなたの父が、公に報いてくださる。あなたがたは、虫や錆が食い荒らし、盗人が穴を掘って盗むこの地上に、宝を積んではならない。むしろ、虫も錆も食い荒らすことなく、盗人が穴を掘って盗むことのない天に、宝を積みなさい。あなたがたの宝のあるところには、あなたがたの心もあるからである。

マタイによる福音書 6:14-21
四旬節の週。

マタイによる福音書、第18章

主は言われた。「体の灯は目である。だから、もしあなたの目が清ければ、あなたの体全体も明るい。もしあなたの目が悪ければ、あなたの体全体も暗くなる。それゆえ、もしあなたの中にある光が闇であるなら、その闇はどれほど深いことか。だれも、ふたりの主人に仕えることはできない。ひとりを憎んで、もうひとりを愛するか、ひとりに熱心で、もうひとりを疎かにするかのどちらかになるからだ。あなたがたは、神とマモンとに仕えることはできない。だから、あなたがたに言う。自分の魂のために、何を食べ、何を飲むか、また自分の体のために、何を着るかを心配してはならない。命は食べ物よりも大切であり、体は衣服よりも大切ではないか。空の鳥たちを見なさい。彼らは種を蒔くことも、刈り取ることも、倉に蓄えることもない。それでも、あなたがたの天の父は彼らを養ってくださる。あなたがたは彼らよりもはるかに価値があるではないか。また、あなたがたのうち、心配したところで、自分の身長をわずか一肘でも伸ばすことのできる者がいるだろうか。衣服については、なぜ心配するのか。野のユリがどのように育つかを見てごらん。彼らは働かず、紡ぎもしない。しかし、あなたがたに言う。ソロモンでさえ、その全盛期の栄華のさなかで、これらの一つほどにも着飾ってはいない。もし、今日あるが明日炉に投げ込まれる野の草でさえ、神がこのような着飾らせてくださるのなら、あなたがた、信仰の薄い者たちよ、あなたがたはなおさらではないか。だから、心配して、「何を食べようか」「何を飲もうか」「何を着ようか」などと言ってはならない。そのようなものは、異邦人たちも求めている。あなたがたの天の父は、あなたがたがこれらすべてを必要としていることを知っておられるからだ。まず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて与えられる。

マタイによる福音書 6:22-33
第3週。

マタイによる福音書、第19章

主は言われた。「何を食べようか、何を飲もうか、何を着ようかと心配してはならない。これらのものはすべて、異邦人が求めているものであり、あなたがたの天の父は、あなたがたがこれらすべてを必要としていることを知っておられるからである。まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべてあなたがたに与えられる。」だから、明日のことを心配してはならない。明日は明日が自ら心配するからである。一日の心配は、その日だけで十分である。あなたがたのうち、もし息子がパンをねだっても、石を与えるような者がいるだろうか。また、魚をねだっても、蛇を与えるような者がいるだろうか。それならば、あなたがたは、悪であるにもかかわらず、自分の子供たちに良いものを与えることができるのだから、なおさら、天の父は、御自分に求める人々に良いものを与えてくださる。

マタイによる福音書 6:31-34; 7:9-11
第2週の月曜日。

マタイによる福音書、20A節

主は言われた。「人を裁いてはならない。そうすれば、あなたがたも裁かれることがない。あなたがたがどのような裁きで裁くかによって、あなたがたもそのように裁かれる。また、あなたがたがどのような尺度で量るかによって、あなたがたもそのように量られる。なぜ、兄弟の目にあるちりばかりを気にかけ、自分の目にある梁には気づかないのか。また、どうして兄弟に『さあ、あなたの目からちりを取り出そう』と言えるのか。あなた自身の目には丸太があるではないか。偽善者よ。まず自分の目から丸太を取り出せ。そうすれば、兄弟の目からちりを取り出す方法もわかるだろう。聖なるものを犬たちに与えてはならない。また、あなたがたの真珠を豚の前に投げてはならない。それらがそれ

を足で踏みつけ、振り向いてあなたがたを引き裂くことのないように。求めなさい。そうすれば与えられる。探しなさい。そうすれば見つかる。門をたたきなさい。そうすれば開かれる。求める者は皆受け、探す者は皆見つけ、門をたたく者には開かれるからである。

マタイによる福音書 7:1-8
第2週の土曜日。

マタイによる福音書、20B節

主は言われた。「求めなさい。そうすれば与えられます。探しなさい。そうすれば見つけます。門をたたきなさい。そうすれば開かれます。求める者はみな受け、探す者はみな見つけ、門をたたく者には開かれるからです。」 あなたがたのうち、もし自分の息子がパンを求めに来たとき、石を与える者がいるだろうか。また、魚を求めに来たとき、蛇を与える者がいるだろうか。それならば、あなたがたは、悪であるにもかかわらず、自分の子供たちに良いものを与えることができるのだから、なおさら、天の父は、御自分に求める人々に良いものを与えてくださる。

マタイによる福音書 7:7-11
あらゆる願いに対して。

マタイによる福音書 第21章

主は言われた。「あなたがたも、人々にどう扱われたいか、そのように人々を扱いなさい。これこそが律法と預言者たちの教えである。狭い門から入りなさい。滅びへと通じる門は広く、その道は広々としており、そこを通る者は多い。しかし、いのちへと通じる門は狭く、その道は細く、それを見つかる者は少ない。」 偽預言者たちに気をつけなさい。彼らは羊の衣をまとい、あなたがたのところに來るが、内側は貪欲な狼である。その実によって彼らを見分けることができる。茨からぶどうを、アザミからいちじくを摘むだろうか。同じように、良い木は良い実を結び、悪い木は悪い実を結ぶ。良い木が悪い実を結ぶことはなく、悪い木が良い実を結ぶこともない。良い実を結ばない木は、みな切り倒されて火に投げ込まれる。だから、その実によって彼らを見分けるのだ。「主よ！ 主よ！」という者すべてが天の御国に入るのではなく、天におられるわたしの父の御心を行う者だけが入るのである。

マタイ 7:12-21
聖なる方へ。

マタイによる福音書、第22章

主は言われた。「羊の衣をまとい、あなたがたのところに來る偽預言者たちに気をつけなさい。彼らは内面は貪欲な狼である。その実によって彼らを見分けることができる。茨からぶどうを、あるいはアザミからいちじくを摘むだろうか。それと同じように、良い木は良い実を結び、悪い木は悪い実を結ぶ。良い木が悪い実を結ぶことはなく、悪い木が良い実を結ぶこともない。良い実を結ばない木は、みな切り倒されて火に投げ込まれる。だから、その実によって彼らを見分けるのだ。「主よ！ 主よ！」という者すべてが天の御国に入るのではなく、天におられるわたしの父の御心を行う者だけが入るのである。

マタイ 7:15-21
第2週の火曜日。

マタイによる福音書、第23章の冒頭

主は言われた。「わたしに向かって『主よ、主よ』という者すべてが、天の御国に入るわけではない。天におられるわたしの父の御心を行う者だけが、そこに入るのだ。その日、多くの人がわたしにこう言うだろう。『主よ！ 主よ！ 私たちはあなたの御名によって預言をしませんでしたか。あなたの御名によって悪霊を追い出さなかったでしょうか

。あなたの御名によって多くの奇跡を行わなかったでしょうか。」すると、わたしは彼らにこう告げる。「わたしはあなたがたを一度も知らなかった。不義を行う者たちよ、わたしから離れ去れ。」

マタイによる福音書 7:21-23
第2週の水曜日。

マタイによる福音書、24章の冒頭

主は言われた。「わたしのこれらの言葉を聞いて、それを行う者はだれでも、岩の上に家を建てた賢い人に似ている。雨が降り、川が氾濫し、風が吹き荒れ、その家に襲いかかったが、家は倒れなかった。岩の上に建てられていたからである。しかし、わたしのこれらの言葉を聞いても、それを実行しない者は、砂の上に家を建てた愚かな人に似ている。雨が降り、川が氾濫し、風が吹き荒れ、その家に襲いかかったとき、家は倒れた。その倒れ方はひどかった。イエスがこれらの言葉を語り終えると、人々はイエスの教えに驚嘆した。イエスは、律法学者やパリサイ人たちとは異なり、権威ある者として彼らに教えておられたからである。イエスが山から下って来られると、大勢の群衆がイエスに従った。すると、あるハンセン病患者が近づいて来て、イエスにひれ伏して言った。「主よ、お望みなら、私を清めてください。」イエスは手を伸ばして彼に触れ、「そうしたい。清くなれ」と言われた。すると、彼はたちまちらい病から清められた。イエスは彼に言われた。「見よ、だれにも言わないで、行って、祭司に身を現し、モーセが定めた供え物をささげ、彼らへの証しとしなさい。」

マタイ 7:24-8:4
第3週の安息日。

マタイによる福音書、第25章

その頃、イエスがカペナウムに入られると、百人隊長が近寄って来て、こう願った。「主よ、私のしもべが家に寝込んでいて、ひどく苦しんでいます。」イエスは彼に言われた。「行こう。彼を癒してやろう。」すると、百人隊長は答えて言った。「主よ、私は、あなたが私の屋根の下に入られるにふさわしくありません。ただ一言おっしゃってくださいれば、私のしもべは癒やされます。というのも、私もまた、人々の指揮下にある者ですが、配下の兵士たちには、『行け』と言えば行き、『来い』と言えば来ます。そして、私のしもべには、『これをせよ』と言えば、彼はそれを行うからです。」これを聞いて、イエスは驚かれ、ご自身に従っていた人々に言われた。「まことに、あなたがたに言います。イスラエルの中でも、これほどの信仰を見たことはありません。あなたがたに言います。東からも西からも多くの人々が来て、天の御国でアブラハム、イサク、ヤコブと共に食卓を囲むでしょう。しかし、御国の子らは外側の暗闇に放り出される。そこでは、泣き叫び、歯ざしりするだろう。」そして、イエスは百人隊長に言われた。「行きなさい。あなたが信じたとおりに、あなたにかなえよう。」その瞬間、そのしもべは癒やされた。

マタイによる福音書 8:5-13
第4週。

マタイによる福音書、第26章

その頃、イエスはペトロの家に行かれると、熱にうなされているペトロの義母を見かけ、その手に触れられた。すると、熱は引いた。彼女は起き上がって、彼らに仕えた。夕方になると、多くの悪霊に取りつかれた人々がイエスのところに連れて来られた。イエスは御言葉によって悪霊を追い出し、すべての病人を癒された。これは、預言者イザヤを通して語られたことが成就するためであった。「彼は私たちの弱さを引き受け、私たちの病を負われた。」イエスは、自分の周りに大勢の群衆が集まっているのを見て、弟子た

ちに「向こう岸へ渡りなさい」と命じられた。すると、ある律法学者が近づいて来て、イエスに言った。「先生、あなたがどこへ行かれるにしても、私はあなたに従います。」すると、イエスは彼に言われた。「狐には穴があり、空の鳥には巣があるが、人の子には頭を横たえる場所さえない。」また、弟子の一人がイエスに言った。「主よ、どうか、まず私の父を葬らせてから、あなたに従わせてください。」しかし、イエスは彼に言われた。「わたしに従いなさい。死者を葬るのは、死者に任せておきなさい。」そして、イエスが舟に乗られると、弟子たちはイエスに従った。

マタイによる福音書 8:14-23
第4週の安息日。

マタイによる福音書、第27章

その頃、イエスが舟に乗られると、弟子たちはイエスに従った。すると、海は大いに荒れ、舟は波に覆われたが、イエスは眠っておられた。そこで弟子たちはイエスのところへ行き、目を覚まさせて言った。「主よ、助けてください。私たちは滅びそうです。」すると、イエスは彼らに言われた。「なぜそんなに臆病なのか。信仰の薄い者たちよ。」そして、起き上がって風と海を叱りつけると、大いなる静けさが訪れた。人々は驚きながら、「風も海も彼に従うとは、いったいこの方はどなたなのだろうか」と言った。

マタイによる福音書 8:23-27
第2週の木曜日。
10月26日、聖体礼儀にて。

マタイによる福音書、28節から

イエスが対岸のゲルゲセンの地に着かれたとき、棺から出てきた二人の悪霊に取りつかれた者が出迎えた。彼らは非常に凶暴で、誰もその道を通り過ぎようとはしなかった。すると、彼らは叫んで言った。「イエス、神の子よ、私たちと何の関係があるのですか。まだ時期が早いうちに、私たちを苦しめに来られたのですか。」彼らの少し離れたところには、大きな豚の群れが放牧されていた。悪霊たちはイエスに願った。「もし私たちを追い出すなら、その豚の群れの中へ送ってください。」イエスは彼らに言われた。「行け。」すると、彼らは出て行って、豚の群れの中へ入っていった。すると、豚の群れはすべて、断崖から海へ飛び込み、水の中で死んでしまった。羊飼いたちは走って町へ行き、すべての出来事と、悪霊に取りつかれていた者たちに何が起きたかを告げた。すると、町中の人々がイエスを出迎えたが、イエスを見ると、自分たちの地域から立ち去ってほしいと懇願した。そこでイエスは舟に乗り込み、対岸へ渡り、ご自身の町へ戻られた。

マタイ 8:28-9:1
第5週。

マタイによる福音書、第29章

その頃、イエスは舟に乗り、対岸へ渡って、ご自分の町にお着きになった。すると、床に寝かされた中風の人を、人々がイエスのところへ連れて来た。イエスは彼らの信仰を見て、中風の人に言われた。「勇気を出しなさい、子よ。あなたの罪は赦された。」すると、律法学者たちの中には、心の中で「この人は神を冒瀆している」と言う者もいた。しかし、イエスは彼らの思いを見抜いて言われた。「なぜ、あなたがたは心の中で悪事を企んでいるのか。『あなたの罪は赦された』と言うことと、『起き上がって歩け』と言うこと、どちらが容易か。しかし、人の子が地上で罪を赦す権威を持っていることをあなたがたに知らせるために——そう言って、イエスは中風の人に言われた。「起き上がり、床を担いで、自分の家へ帰りなさい。」すると、その人は起き上がり、床を担いで、自分の家へ帰った。民はこれを見て驚き、このような権威を人々に与えられた神を賛美した。

マタイによる福音書、第30章

その頃、イエスは通りかかったとき、税関に座っているマタイという男を見かけ、彼に言われた。「わたしについてきなさい。」すると、彼は立ち上がって、イエスに従った。イエスが家でご馳走を受けていると、多くの徴税人や罪人がやって来て、イエスや弟子たちと一緒に食卓を囲んだ。それを見たパリサイ人たちは、イエスの弟子たちに言った。「なぜ、あなたがたの師は徴税人や罪人たちと一緒に食べたり飲んだりしているのですか。」イエスはこれを聞いて、彼らに言われた。「健康な人は医者が必要としない。病んでいる人こそ必要とするのだ。『わたしは慈しみを求め、いけにえを求めない』という言葉の意味を、行って学べ。」わたしは、義人ではなく、罪人を悔い改めに招くために来たのだ。

マタイによる福音書 9:9-13
第5週の土曜日。

11月16日、使徒にして福音記者マタイ。

マタイによる福音書、第31章

その頃、ヨハネの弟子たちがイエスのところに来て言った。「なぜ、私たちやパリサイ人はよく断食するのに、あなたの弟子たちは断食しないのですか。」イエスは彼らに言われた。「花婿が彼らと共にある間、婚礼の宴の客たちが悲しむことができるだろうか。しかし、花婿が彼らから取り去られる日が来ると、その時こそ彼らは断食するだろう。また、古着に漂白していない布の継ぎ布を当てる者はいない。新しく縫い付けたものが古いものを引き裂き、穴はさらにひどくなるからである。また、新しいぶどう酒を古い皮袋には注がない。そうしないと、皮袋が破れて、ぶどう酒がこぼれ出し、皮袋も台無しになってしまう。しかし、新しいぶどう酒は新しい皮袋に注ぐ。そうすれば、ぶどう酒も皮袋も保たれるのである。

マタイによる福音書 9:14-17
第2週の金曜日。

マタイによる福音書、第32章の冒頭

そのとき、ある指導者がイエスのところに来て、ひれ伏して言った。「私の娘が今、死にかけています。どうか来て、彼女に御手を置いてください。そうすれば、彼女は生き返ります。」そこで、イエスは立ち上がって、その人の後について行き、弟子たちもついて行った。すると、十二年間も出血に苦しんでいた女性が、後ろから近づいてきて、イエスの衣の端に触れた。彼女は心の中で、「もしイエスの衣に触れるだけでも、癒やされるだろう」と思っていたからである。イエスは振り返って彼女を見て、言われた。「勇気を出しなさい、娘よ。あなたの信仰があなたを救った。」その瞬間、その女は癒やされた。イエスが長官の家に着き、笛を吹く者たちや騒ぎ立てる群衆を見て、彼らに言われた。「出て行け。少女は死んだのではなく、眠っているのだ。」しかし、人々はイエスを嘲笑った。群衆が追い出されると、イエスは中に入り、少女の手を取られた。すると、少女は起き上がった。この出来事は、その地方一帯に広まった。

マタイによる福音書 9:18-26
第6週の安息日。

マタイによる福音書、第33章

その頃、二人の盲人がイエスに従い、「ダビデの子イエスよ、私たちに憐れんでください」と叫んでいた。イエスが家に入ると、盲人たちはイエスのところに近寄った。イエ

スは彼らに言われた。「わたしにそれができると信じるか。」彼らはイエスに答えた。「はい、主よ。」そこで、イエスは彼らの目に触れ、「あなたがたの信仰のとおりになれ」と言われた。すると、彼らの目が開かれた。イエスは彼らに厳しく、「だれにも知られないように気をつけなさい」と言われた。しかし、彼らは出て行って、その地方一帯でイエスのことを広めた。彼らが去って行くと、人々は悪霊に取りつかれた口がきけない人をイエスのところに連れて来た。悪霊が追い出されると、その人は話すようになった。人々は驚きながら、「イスラエルでこれほどの奇跡はかつてなかった」と言った。しかし、パリサイ人たちは、「彼は悪霊の王の力によって悪霊を追い出しているのだ」と言った。イエスは、すべての町や村を巡り歩き、会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、人々のあらゆる病気やあらゆる弱さを癒やされた。

マタイ 9:27-35
第7週。

マタイによる福音書、第34A章

その頃、イエスは大勢の群衆を見て、彼らが疲れ果て、羊飼いのいない羊のように散らばっているのを見て、憐れみを感じられた。そこで、弟子たちに言われた。「収穫は多いが、働き手は少ない。だから、収穫の主なる神に、その収穫のために働き手を送ってくださるよう祈りなさい。」そして、十二人の弟子を呼び寄せ、彼らに汚れた霊を追い出し、あらゆる病気やあらゆる弱さを癒やす権威を与えられた。十二使徒の名は次のとおりである。第一はシモン、ペトロと呼ばれる者、その兄弟アンデレ、ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネ、フィリポとバルトロマイ、トマス、徴税人のマタイ、ヤコブ・アルフェオの子、レウヴェイ（ファデオと呼ばれる者）、シモン・カナニテ、そしてイエスを裏切ったユダ・イスカリオテである。イエスはこの十二人を遣わし、彼らにこう命じられた。「異邦人のところへは行かないで、サマリア人の町にも入ってはいけない。むしろ、イスラエルの家の中の迷い出た羊たちのところへ行きなさい。行きながら、『天の御国が近づいた』と宣べ伝えなさい。病人を癒やし、らい病人を清め、死者をよみがえらせ、悪霊を追い出しなさい。あなたがたはただで受けたのだから、ただで与えなさい。」

マタイによる福音書 9:36-10:8
第3週の月曜日。

マタイによる福音書、34B節

そのころ、イエスは十二人の弟子を呼び寄せ、汚れた霊を追い出し、あらゆる病気やあらゆる弱さを癒やす権能を彼らに与えられた。イエスはこの十二人を遣わし、こう命じて言われた。「異邦人のところへは行かないで、サマリア人の町にも入ってはいけない。むしろ、イスラエルの家の中の、迷い出た羊たちのところへ行きなさい。行きながら、『天の御国が近づいた』と宣べ伝えなさい。病人を癒し、らい病人を清め、死者をよみがえらせ、悪霊を追い出せ。あなたがたはただで受けたのだから、ただで与えなさい。」

マタイによる福音書 10:1, 5-8
無償の奉仕者たちへ。

マタイによる福音書、第35章

主は弟子たちに言われた。「金も銀も銅も帯に帯びてはならない。旅の袋も、着替えの服も、履物も、杖も持ってはならない。働く者は、その糧を受けるにふさわしいからである。あなたがたがどの町や村に入っても、そこにふさわしい人がいるかどうかを確かめ、そこから出るまではそこに留まりなさい。また、家に入るときは、『この家に平安あれ』と言って挨拶しなさい。もしその家がふさわしいなら、あなたがたの平安はその家に

来る。もしふさわしくないなら、あなたがたの平安はあなたがた自身に戻ってくる。もし、だれかがあなたがたを受け入れず、あなたがたの言葉に耳を傾けないなら、その家や町から出て行くとき、あなたがたの足のほこりを払い落しなさい。まことに、あなたがたに告げる。裁きの日に、ソドムやゴモラの地でさえ、その町よりもまだましである。

マタイによる福音書 10:9-15
第3週の火曜日。

マタイによる福音書、第36章の冒頭

主は弟子たちに言われた。「見よ、わたしはあなたがたを、羊を狼の群れの中に送るよう遣わす。だから、蛇のように賢く、鳩のように純真であれ。人々に気をつけなさい。彼らはあなたがたを裁判所に引き渡し、会堂であなたがたを殴り、わたしのために、支配者や王たちの前に連れて行き、彼らや異邦人の前で証しをさせるからです。しかし、あなたがたが引き渡される時、何を、どのように話すべきか、心配してはなりません。その時には、何を言うべきかが与えられるからである。あなたがたが話すのではなく、あなたがたの父の御霊が、あなたがたの中で語られるからである。兄弟は兄弟を死に渡し、父は子を死に渡し、子供たちは両親に立ち向かい、彼らを殺すであろう。また、わたしの名のために、あなたがたはすべての人から憎まれるであろう。しかし、最後まで耐え忍ぶ者は救われる。

マタイによる福音書 10:16-22
第3週の水曜日。
殉教者たち。

マタイによる福音書、第37章の冒頭

主は弟子たちに言われた。「ある町で迫害されたら、別の町へ逃げなさい。まことに、あなたがたに告げる。イスラエルの町々を巡り終える前に、人の子が来るからである。弟子は師より優ることはなく、しもべは主人のより優ることはない。弟子が師のようであり、しもべが主人のようであるだけで、十分である。もし家の主人がベエルゼブルと呼ばれたのなら、その家族はなおさらそう呼ばれるのではないか。だから、彼らを恐れてはならない。隠されているもので、明らかにされないものではなく、秘密にされているもので、知られないものはないからである。私が暗闇の中であなたがたに語ることは、光の中で語りなさい。また、耳元で聞くことは、屋上で宣べ伝えなさい。体を殺しても、魂を殺すことのできない者たちを恐れてはならない。むしろ、魂も体もゲヘナで滅ぼすことのできる方を、もっと恐れるべきである。二羽の小鳥がアッサリオンで売られているではないか。そのうちのどれ一羽も、あなたがたの父の御心なしには、地に落ちることではない。あなたがたの頭の毛さえも、すべて数えられている。だから恐れてはならない。あなたがたは、多くの小鳥よりもはるかに尊いのだ。

マタイによる福音書 10:23-31
第3週の木曜日。

マタイによる福音書、冒頭38A

主は弟子たちに言われた。「だれでも、人の前でわたしを認めるなら、わたしも天の父の前でその人を認める。しかし、人の前でわたしを否むなら、わたしも天の父の前でその人を否む。父や母をわたしよりも愛する者は、わたしにふさわしくない。また、息子や娘をわたしよりも愛する者も、わたしにふさわしくない。自分の十字架を負ってわたしに従わない者も、わたしにふさわしくない。そこでペテロはイエスに言った。「見よ、私たちはすべてを捨てて、あなたに従いました。では、私たちにはどうなるのでしょうか。」イエスは彼らに言われた。「まことに、あなたがたに告げます。わたしに従ったあなたがたは、来世において、人の子がその栄光の座に着くとき、あなたがたも十二の座に

着き、イスラエルの十二部族を裁くことになるのです。 また、わたしの名のために、家や兄弟、姉妹、父、母、妻、子供、あるいは畑を捨てた者は、百倍を受け、永遠のいのちを受け継ぐ。しかし、多くの人は、先頭にいる者が最後になり、最後にいる者が先頭になる。」

マタイ 10:32-33, 37-38; 19:27-30
ペンテコステ後第1週、諸聖人の日。

マタイによる福音書、冒頭38B

主は弟子たちに言われた。「だれでも、人の前でわたしを認めるなら、わたしも天の父の前でその人を認める。しかし、人の前でわたしを否むなら、わたしも天の父の前でその人を否む。わたしが地上に平和をもたらすために来たと思うな。 わたしがもたらすのは平和ではなく、剣である。わたしは、人をその父と、娘をその母と、嫁をその姑と、引き裂くために来たからである。人の敵は、その家の者たちである。イエスは十二人の弟子たちへの教えを終えると、そこから立ち去り、彼らの町々で教え、宣教された。

マタイ 10:32-36; 11:1
第3週の金曜日。
8月1日、マカベオの殉教者たち。

マタイによる福音書、第39章

主は言われた。「わたしよりも父や母を愛する者は、わたしにふさわしくない。また、わたしよりも息子や娘を愛する者も、わたしにふさわしくない。自分の十字架を負ってわたしに従わない者も、わたしにふさわしくない。 自分の命を救おうとする者はそれを失い、わたしのために自分の命を失う者はそれを救う。あなたがたを受け入れる者は、わたしを受け入れるのであり、わたしを受け入れる者は、わたしを遣わされた方を受け入れるのである。預言者を受け入れる者は、預言者の名によって報いを受け、義人を受け入れる者は、義人の名によって報いを受ける。 また、これらの小さな者たちのうちの一人に、ただ冷たい水一杯を、弟子という名において飲ませてやる者も、まことに、あなたがたに言っておく。その人は、自分の報いを失うことはない。イエスは、十二人の弟子たちへの教えを終えると、そこから立ち去り、彼らの町々で教え、宣教された。

マタイ 10:37-11:1
第7週の土曜日。
十字架の挙揚前の土曜日。

マタイによる福音書、第40章

その頃、ヨハネは牢獄の中でキリストの御業を聞き、弟子たちの中から二人を遣わして、キリストにこう尋ねさせた。「あなたは、来るべき方ですか。それとも、私たちは別の誰かを待つべきでしょうか。」 イエスは彼らに答えて言われた。「行って、ヨハネに、あなたがたが見聞きしていることを伝えなさい。盲人は目が見え、足の不自由な人は歩き、らい病人は清められ、耳の聞こえない人は聞こえ、死者はよみがえり、貧しい人々に福音が宣べ伝えられている。また、わたしについてつまずかない人は幸いである。」 彼らが去った後、イエスは民衆にヨハネについて語り始められた。「あなたがたは、何を見に荒野へ行ったのか。風に揺れる葦か。では、何を見にいったのか。柔らかい服を着た人か。柔らかい服を着ている者は、王宮にいる。では、何を見にいったのか。預言者か。そう、あなたがたに言っておく。預言者以上の者だ。なぜなら、彼こそは、こう書かれている者だからである。『見よ、わたしはあなたの前にわたしの御使いを遣わし、あなたの道をあなたの前に整えさせる。』 まことに、あなたがたに言っておく。女から生まれた者の中で、洗礼者ヨハネより偉大な者は現れなかった。しかし、天の御国では、彼より小さい者でさえ、彼より偉大である。 洗礼者ヨハネの時代から今日に至るまで、天の御国は

力づくで奪い取られており、努力する者たちがそれを手に入れている。すべての預言者と律法は、ヨハネまで預言していたからである。もし受け入れるなら、彼は来るべきエリヤである。耳のある者は聞きなさい。

マタイによる福音書 11:2-15

第4週の月曜日。

洗礼者ヨハネの首の発見、聖体礼儀にて。

マタイによる福音書、41節の冒頭

主は言われた。「この世代を何に例えようか。それは、通りに座って仲間たちにこう言う子供たちのようだ。『私たちは笛を吹いて聞かせたが、あなたがたは踊らなかった。悲しみの歌を歌ったが、あなたがたは泣かなかった。』ヨハネが来たが、食べもせず、飲んでもいない。すると人々は言う。『彼には悪霊が宿っている。』人の子が来て、食べたり飲んだりすると、人々は『見よ、この人は食べたりワインを飲んだりするのが好きで、取税人や罪人たちの友だ』と言う。こうして、知恵はその子らによって正当化された。そこで、主は、御自分の力が最も顕著に現れた町々を、悔い改めなかったことを理由に責め始めた。

マタイによる福音書 11:16-20

第4週の火曜日。

マタイによる福音書、第42章の冒頭

その頃、イエスは、御自分の力が最も顕著に現れた町々を、悔い改めなかったことを理由に責め始められた。「ホラジンよ、おまえは災いだ。ベツサイダよ、おまえは災いだ。もし、ティルスやシドンで、あなたがたに現れたような力が現れていたなら、とっくに麻布をまとして灰をまいて悔い改めていたであろう。しかし、あなたがたに言うておく。裁きの日、ティルスとシドンの方が、あなたがたよりも救われる。また、カペナウムよ、天にまで高ぶったあなたも、地獄にまで落とされる。もしソドムに、あなたがたに現されたような力が現されていたなら、ソドムは今日まで残っていただろう。しかし、あなたがたに言うておく。裁きの日、ソドムの地の方が、あなたがたよりも救われる。そのとき、イエスはさらにこう言われた。「天と地の主である父よ、私はあなたを賛美します。あなたは、このことを知恵ある者や賢い者からは隠し、幼子たちに現わしてくださいました。そうです、父よ。それは、あなたの御心であったからです。」

マタイ 11:20-26

第4週の水曜日。

マタイによる福音書、第43章の冒頭

主は弟子たちに言われた。「わたしの父は、すべてのものをわたしに委ねておられる。父以外の誰も御子を知らず、御子以外の誰も父を知らない。また、御子が明らかにしたいと思う者だけが父を知るのだ。 労苦し、重荷を負っている者は、みなわたしのもとに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげよう。わたしのくびきを負い、わたしから学びなさい。わたしは心優しく、へりくだっているから、あなたがたの魂に安らぎを見いだすだろう。わたしのくびきは良くて、わたしの重荷は軽いからである。

マタイによる福音書 11:27-30

第4週の木曜日。

聖人たちの日。

マタイによる福音書、第44章の冒頭

その頃、イエスは安息日に種まきされた畑を通り過ぎられた。すると、弟子たちは腹を空かせ、穂を摘んで食べ始めた。ファリサイ派の人々はこれを見て、イエスに言った。

「見なさい、あなたの弟子たちは、安息日にはしてはならないことをしている。」すると、イエスは彼らに言われた。「ダビデが、自分と共にあった者たちが飢えたとき、何をしたか、あなたがたは読んだことがないのか。彼は神の家に入り、自分にも、共にあった者たちにも食べてはならない、祭司たちだけが食べてよい供えのパンを食べたではないか。また、律法の中で、安息日に祭司たちが神殿で安息日を破っても罪に問われない、と書かれていないか。しかし、あなたがたに言うておく。ここには、神殿よりも偉大な方がおられる。もし『私は慈しみを求め、いけにえを求めない』という言葉の意味を知っていたなら、罪のない者を非難することはなかっただろう。人の子は安息日の主でもあるからだ。」

マタイによる福音書 12:1-8
第4週の金曜日。

マタイによる福音書、第45章の冒頭

そのころ、イエスはユダヤ人の会堂に入られた。すると、そこに片手が不自由な人がいた。人々はイエスを陥れようと、「安息日に癒やすことは許されるか」と尋ねた。イエスは彼らに言われた。「あなたがたのうち、一匹の羊を飼っている者がいて、もしそれが安息日に穴に落ちたなら、それを抱き上げて引き上げない者がいるだろうか。人は羊よりもはるかに尊いではないか。だから、安息日に善を行うことは許されている。」そして、その人に言われた。「手を伸ばしなさい。」すると、彼は手を伸ばすと、その手はもう一方の手と同じように健やかになった。

マタイによる福音書 12:9b-13
第5週の月曜日。

マタイによる福音書、第46A節

その頃、パリサイ人たちは、イエスをどうにかして滅ぼそうと、イエスに対して相談していた。しかし、イエスはそれを知ると、そこから立ち去られた。すると、大勢の群衆がイエスに従った。イエスは彼ら全員を癒やし、自分について人々に知らせることを禁じられた。その時、悪霊に取りつかれた盲人で口がきけない人がイエスのところに連れて来られた。イエスは彼を癒やされたので、その人は目が見えるようになり、口がきけるようになった。民衆は皆驚いて、「この方は、ダビデの子キリストではないか」と言った。しかし、パリサイ人たちはこれを聞いて、「彼は、悪霊の王ベエルゼブルの力によって悪霊を追い出しているに違いない」と言った。しかし、イエスは彼らの考えを知って、彼らに言われた。「自分の中で分裂している王国は荒廃し、自分の中で分裂している町や家は立ち行かなくなる。もしサタンがサタンを追い出しているのなら、彼は自分自身と対立していることになる。それでは、どうして彼の王国が存続できようか。もし私がベエルゼブルの力で悪霊を追い出しているのなら、あなたがたの息子たちは、いったい誰の力で追い出しているのか。それゆえ、彼らはあなたがたの裁き人となる。もしわたしが神の御霊によって悪霊を追い出しているのなら、神の御国は確かにあなたがたに到来したのである。あるいは、誰かが力ある者の家に入り、その持ち物を奪い取るには、まずその力ある者を縛らなければならないのではないか。そうして初めて、その家を略奪することができるのだ。わたしと共になければ、わたしに敵対する者であり、わたしと共に集めない者は、散らす者である。

マタイによる福音書 12:14-16, 22-30
第5週の火曜日。

マタイによる福音書、46B節

その頃、大勢の群衆がイエスに従った。イエスは彼ら全員を癒やし、自分について人々に知らせることを禁じられた。それは、預言者イザヤを通して語られた言葉が成就するためであった。「見よ、わたしの選ばれた若者、わたしの愛する者、わたしの魂が喜ぶ者。」 わたしはわたしの霊をその人の上に置く。その人は諸国民に裁きを告げ知らせる。その人は反論せず、叫び声を上げず、街頭でその声を聞く者もない。折れかけた葦を折らず、くすぶる亜麻の火を消さず、裁きに勝利をもたらすまで。そして、諸国民はその人の名に望みを置く。」

マタイによる福音書 12:15-21
キリストの降誕後の土曜日。

マタイによる福音書、第47章の冒頭

主は言われた。「わたしと共にいない者は、わたしに敵対する者である。また、わたしと共に集めない者は、散らす者である。それゆえ、あなたがたに言うておく。人はどんな罪や冒涇も赦されるが、聖霊に対する冒涇だけは赦されない。もし人が人の子に対して何かを言っても、それは赦される。しかし、聖霊に対して何かを言う者は、この世でも来世でも決して赦されない。木が良いと認めるなら、その実も良いと認めなさい。木が悪いと認めるなら、その実も悪いと認めなさい。木はその実によって知られるからである。まむしの子らよ。あなたがたは悪であるのに、どうして良いことを言うことができるのか。口は心の満ち溢れるところから語るからである。良い人は良い宝から良いものを取り出し、悪い人は悪い宝から悪いものを取り出す。だから、あなたがたに言うておく。人が口にするあらゆるむなしい言葉について、裁きの日にその答えを問われることになる。なぜなら、自分の言葉によってあなたは義とされ、また自分の言葉によってあなたは罪に定められるからである。

マタイによる福音書 12:30-37
第8週の土曜日。

マタイによる福音書、第48章

そのとき、律法学者やパリサイ人の中から数人がイエスのところに来て、言った。「先生、あなたからしるしを見せていただきたいのです。」しかし、イエスは彼らに答えて言われた。「悪しき世代、不貞な世代はしるしを求める。しかし、預言者ヨナのしるし以外には、しるしは与えられない。なぜなら、ヨナが鯨の腹の中に三日三晩いたように、人の子もまた地の中心に三日三晩いるからである。ニネベの人々は、この世代と共に裁きの座に立ち、これを断罪するであろう。彼らはヨナの説教によって悔い改めたからである。見よ、ここにはヨナよりも偉大な者がいる。南方の女王も、この世代と共に裁きの座に立ち、彼らを裁くであろう。彼女は地の果てから、ソロモンの知恵を聞くためにやって来たからである。見よ、ここにはソロモンよりも偉大な者がいる。汚れた霊が人から出て行くと、水のない場所をさまよい、安らぎを求めても見つからない。そこで、「私が出てきた自分の家に戻ろう」と言う。そして戻ってみると、その家は空いていて、掃除され、整えられているのを見つける。そこで、自分よりさらに邪惡な七つの霊を連れてきて、中に入り、そこに住み着く。その結果、その人にとって、後の状態は最初よりもさらに悪くなる。この邪惡な一族についても、同じことが起こるだろう。

マタイによる福音書 12:38-45
第5週の水曜日。

マタイによる福音書、第49章の冒頭

そのとき、イエスがまだ民に語っておられると、御母と兄弟たちが家の外に立って、イエスとお話ししたいと願っていた。すると、ある人がイエスに言った。「御母と兄弟たちが外に立っておられ、あなたとお話ししたいと願っておられます。」すると、イエスはその人に答えて言われた。「わたしの母とはだれか。わたしの兄弟とはだれか。」そして、御自分の弟子たちを指さして言われた。「見よ、これがわたしの母、わたしの兄弟たちである。天におられるわたしの父の御心を行う者こそ、わたしにとっての兄弟、姉妹、母である。」その日、イエスは家を出て、湖のほとりに座られた。すると、大勢の群衆がイエスのところに集まってきたので、イエスは舟に乗り込んで座られた。群衆は皆、岸に立っていた。そして、イエスは多くのたとえを用いて彼らに教えを説かれた。

マタイ 12:46-13:3A
第5週の木曜日。

マタイによる福音書、第50章の冒頭

主は、このたとえを語られた。「見よ、種を蒔く人が出て行って蒔いた。蒔いていると、ある種は道端に落ち、鳥が飛んできてそれを啄み食った。またある種は、土の浅い岩だらけの場所に落ち、土が浅かったため、すぐに芽を出した。しかし、太陽が昇ると、枯れてしまい、根がなかったため、干からびてしまった。また、ある種は茨の中に落ち、茨が生い茂ってそれを覆い隠してしまった。また、ある種は良い土に落ち、実を結んだ。あるものは百倍、あるものは六十倍、またあるものは三十倍の実を結んだ。耳のある者は、聞きなさい。

マタイによる福音書 13:3b-9
第5週の金曜日。

マタイによる福音書、第51章の冒頭

その時、弟子たちがイエスに尋ねた。「なぜ、彼らにたとえ話で語られるのですか。」イエスは彼らに答えて言われた。「あなたがたには天の御国の奥義を知る恵みが与えられているが、彼らには与えられていないからだ。持っている者にはさらに与えられ、豊かになるが、持たない者からは、持っているものまでも取り去られてしまう。だから、彼らにはたとえ話で語るのだ。彼らは見ても見えず、聞いても聞かず、理解しないからである。イザヤの預言が彼らの上に成就しているのだ。それはこう言っている。『耳で聞いても悟らず、目で見ても見えない。この人々の心は鈍り、耳は聞き取りにくく、目は閉ざされている。目で見ず、耳で聞かず、心で悟らず、回心してわたしに癒やされることがないように』と。しかし、あなたがたの目には幸いがある。見ているからだ。あなたがたの耳には幸いがある。聞いているからだ。まことに、あなたがたに告げる。多くの預言者や義人たちは、あなたがたが見ているものを見たいと願ったが、見ることができず、あなたがたが聞いていることを聞きたいと願ったが、聞くことができなかったのだ。さて、種を蒔く人のたとえの意味をよく聞きなさい。御国の言葉を聞いても理解しない人には、悪者がやって来て、その心に蒔かれたものを奪い去る。これが、道端に蒔かれた種を意味する。また、岩地に蒔かれた種は、御言葉を聞いてすぐに喜んで受け入れるが、根がなく、根気がない人を表している。御言葉のために苦難や迫害に遭うと、すぐに誘惑に負けてしまう。また、いばらの中に蒔かれた種は、御言葉を聞くが、この世の心配や富の誘惑が御言葉を覆い隠し、実を結ばない人を表している。一方、良い土に蒔かれた種は、御言葉を聞いて理解する人を表しており、その人は実を結ぶ。ある人は百倍の実を、ある人は六十倍の実を、またある人は三十倍の実を結ぶのである。

マタイによる福音書 13:10-23
第6週の月曜日。

マタイによる福音書、52A節

主はこのたとえを語られた。「天の御国は、自分の畑に良い種を蒔いた人に似ている。人々が眠っている間に、敵が来て、麦の中に毒麦をまいて去っていった。芽が出て実になる頃になると、毒麦も現れた。すると、家の主人のしもべたちが来て、彼に言った。「ご主人様、あなたは自分の畑に良い種を蒔かれたではありませんか。どうしてそこに毒麦があるのですか。」主人は彼らに言った。「人の敵がこれをしたのだ。」しもべたちは言った。「もしよろしければ、私たちが行って、それを取り除きましょうか。」しかし、主人は言った。「いや、雑草を取り除く際に、小麦まで一緒に引き抜いてしまわないように。収穫の時まで、両方を一緒に生えさせておきなさい。収穫の時には、刈り取り人たちにこう命じるつもりだ。『まず雑草を集めて束にし、焼き払うように。そして小麦は私の倉に納めなさい』と。」

マタイによる福音書 13:24-30
第6週の火曜日。

マタイによる福音書、52B節

主はこのたとえを語られた。「天の御国は、自分の畑に良い種を蒔いた人に似ている。人々が眠っている間に、敵が来て、麦の中に雑草をまいて去っていった。芽が出て実になる頃になると、雑草も現れた。すると、家の主人のしもべたちが来て、彼に言った。「ご主人様、あなたは自分の畑に良い種を蒔かれたではありませんか。どうしてそこに毒麦があるのですか。」主人は彼らに言った。「人の敵がこれをしたのだ。」しもべたちは言った。「もしよろしければ、私たちが行って、それを取り除きましょうか。」しかし、主人は言った。「いや、雑草を取り除く際に、小麦まで一緒に引き抜いてしまわないように。収穫の時まで、両方を一緒に生えさせておきなさい。収穫の時には、刈り取り人たちにこう命じるつもりだ。『まず雑草を集めて束にし、焼き払うように。そして小麦は私の倉に納めなさい』と。」そこで、弟子たちはイエスのところへ近寄って言った。「畑の雑草のたとえについて、私たちに説明してください。」イエスは答えて言われた。「良い種を蒔く者は人の子であり、畑は世である。良い種とは御国の子らであり、雑草とは悪者の子らである。それらを蒔いた敵は悪魔である。刈り取りとは世の終わりのことであり、刈り取る者たちは天使たちである。それゆえ、毒麦を集めて火で焼くように、この世の終わりにもそうなる。人の子が御自分の天使たちを遣わすと、彼らは御国からすべての誘惑と不法を行う者たちを集め、彼らを火の炉に投げ込む。そこでは泣き叫び、歯ざりする。その時、義人たちは、彼らの父の御国で、太陽のように輝き出す。耳のある者は、聞きなさい。」

マタイによる福音書 13:24-30, 36b-43
天使たちへ、早課にて。

マタイによる福音書、第53章の冒頭

主はこのたとえを語られた。「天の御国は、ある人が取って自分の畑に蒔いたからし種のようなのだ。それはすべての種の中で最も小さいが、育つとすべての穀物の中で最も大きくなり、木となる。そうして、空の鳥たちが飛んできて、その枝に巣を作る。」また、主は彼らに別のたとえを語られた。「天の御国は、ある女が取り、三メーラの小麦粉の中に混ぜて、すべてが発酵するまで置いたパン種のようなものである。」イエスは、これらすべてをたとえを用いて民に語り、たとえを用いずに彼らに語られることはなかった。それは、預言者を通して語られた次の言葉が成就するためである。「わたしはたとえを用いてわたしの口を開き、世界の創造以来隠されていたことを語り明かす。」そこで、イエスは民を解散させ、家に入られた。

マタイによる福音書、54章の冒頭

その頃、イエスは群衆を解散させ、家に入られた。すると、弟子たちがイエスのところに来て言った。「畑の雑草のたとえについて、私たちに説明してください。」すると、イエスは彼らに答えて言われた。「良い種を蒔く者は人の子であり、畑は世である。良い種とは御国の子らであり、雑草とは悪者の子らである。それらを蒔いた敵は悪魔であり、刈り取りは世の終わりであり、刈り取る者たちは天使たちである。それゆえ、毒麦を集めて火で焼くように、この世の終わりにもそうなる。人の子が御自分の天使たちを遣わすと、彼らは御国からすべての誘惑と不法を行う者たちを集め、彼らを火の炉に投げ込む。そこでは泣き叫び、歯ざしりする。そのとき、義人たちは、彼らの父の御国で、太陽のように輝き出す。耳のある者は、聞きなさい。

マタイによる福音書、第55章の冒頭

主はこのたとえを語られた。「天の御国は、畑に隠された宝のようなものである。ある人がそれを見つけると、それを隠しておき、その喜びのあまり、行って自分の持っているものをすべて売り払い、その畑を買う。また、天の御国は、良質の真珠を探している商人に似ている。その商人は、一つの貴重な真珠を見つけると、行って自分の持っているものをすべて売り払い、それを買取った。また、天の御国は、海に投げ入れられ、あらゆる種類の魚を捕らえた網のようなものである。網がいっぱいになると、それを岸に引き上げ、座って、良いものを器に集め、悪いものは捨てた。世の終わりには、このように起こる。天使たちが現れて、義人の中から悪人を分け隔てし、彼らを火の炉に投げ込む。そこでは、泣き叫びと歯ざしりがある。イエスは彼らに尋ねられた。「これらすべてを理解したか。」彼らはイエスに答えた。「はい、主よ。」そこで、イエスは彼らに言われた。「それゆえ、天の御国について教えを受けた律法学者は皆、宝物庫から新しいものも古いものも取り出す家の主人のようなものである。」イエスはこれらのたとえ話を終えると、そこから立ち去られた。そして、ご自分の故郷に着くと、彼らの会堂で彼らに教えられた。

マタイによる福音書、第56章の冒頭

その頃、イエスはご自分の故郷に来られ、彼らの会堂で民衆を教えられた。すると、人々は驚いて、「この人のこのような知恵と力はどこから来たのか。この人は大工の息子ではないか。その母はマリアと呼ばれ、兄弟たちはヤコブ、ヨセ、シモン、ユダではないか。また、その姉妹たちは皆、私たちの間にいるのではないか。一体、どこからこのようなことが彼にあるのか。」そして、彼らはイエスを非難した。イエスは彼らに言われた。「預言者は、自分の故郷や自分の家では、軽んじられるものなのだ。」そして、彼らの不信仰のゆえに、そこで多くの奇跡を行われなかった。

マタイによる福音書、第57章の冒頭

その頃、テトラルコス・ヘロデはイエスに関する噂を耳にし、側近たちに言った。「これは洗礼者ヨハネだ。彼は死者の中からよみがえったのだ。それゆえ、彼によって奇跡が行われているのだ。」と語った。実は、ヘロデはヨハネを捕らえて縛り、自分の兄弟フィリポの妻ヘロディアのために牢屋に閉じ込めておいた。それは、ヨハネがヘロデに、「彼女を妻にしてはならない」と告げていたからである。ヘロデはヨハネを殺そうとしたが、民を恐れた。民はヨハネを預言者と見なしていたからである。さて、ヘロデの誕生日の祝宴の際、ヘロディアの娘が客たちの前で踊り、ヘロデを喜ばせた。そこでヘロデは、彼女が何を願っても与えると誓って約束した。彼女は母のそそのかしに従い、「ここに、洗礼者ヨハネの首を皿に乗せてください」と言った。王は悲しんだが、誓いと、共に食卓を囲んでいた者たちのために、彼女の願いを叶えるよう命じ、牢獄にいるヨハネの首を斬り落とすよう命じた。そして、その首を皿に乗せて少女に渡し、彼女はそれを母親のもとに持ち帰った。一方、ヨハネの弟子たちはやって来て、その遺体を引き取り、葬った。そして、イエスにそのことを知らせに行った。それを聞いたイエスは、舟に乗ってそこから一人、人里離れた場所へ退かれた。しかし、そのことを聞いた人々は、町々から徒歩でイエスの後を追って行った。

マタイによる福音書 14:1-13

第7週の火曜日。

8月29日、洗礼者ヨハネの首斬り、早課にて。

マタイによる福音書、58節

その頃、イエスは大勢の群衆を見て、彼らを憐れみ、彼らの病人を癒やされた。夕方になると、弟子たちがイエスのところに来て言った。「ここは人里離れた場所で、もう時間も遅くなりました。群衆を解散させて、村へ行って食べ物を買わせてください。」しかし、イエスは彼らに言われた。「彼らに行かせる必要はない。あなたがたが彼らに食べ物を与えなさい。」すると、弟子たちはイエスに言った。「ここにはパンが五つと魚が二匹しかありません。」イエスは言われた。「それをここに持ってきなさい。」そして、群衆に草の上に座るように命じ、五つのパンと二匹の魚を取り、天を仰いで祝福し、それを裂いて弟子たちに渡し、弟子たちはそれを群衆に配った。皆が食べて満腹になり、残ったパンの切れ端を拾い集めると、十二の籠がいっぱいになった。食べた人は、女や子供を除いて、約五千人であった。そこで、イエスはすぐに弟子たちを舟に乗せ、ご自身が群衆を解散させる間、自分より先に向こう岸へ渡るように命じられた。

マタイによる福音書 14:14-22

第8週。

マタイによる福音書、第59章

その頃、イエスは弟子たちに舟に乗り込み、ご自身が群衆を解散させる間、自分より先に向こう岸へ渡るよう命じられた。そして、群衆を解散させると、イエスは山に登って、一人で祈りをささげ、夕方になってもそこに一人で残っておられた。舟はすでに海の中真ん中にあり、向かい風のため波に揺られていた。夜更けの四番目の番の頃、イエスは海の上を歩いて弟子たちのところへ来られた。弟子たちは、イエスが海の上を歩いて来られるのを見て、驚いて、「幽霊だ」と言い、恐怖のあまり叫び声を上げた。しかし、イエスはすぐに彼らに話しかけて言われた。「勇気を出しなさい。わたしだ。恐れることはない。」ペテロはイエスに答えて言った。「主よ、もしあなたなら、私に水の上を歩いてあなたのところへ行くように命じてください。」イエスは言われた。「来なさい。」そこでペテロは舟から降り、イエスのところへ行くために水の上を歩き始めた。しかし、強い風を見て恐れ、沈み始めたので、「主よ、助けてください」と叫んだ。イエスはすぐに手

を伸ばして彼を支え、こう言われた。「信仰の薄い者よ。なぜ疑ったのか。」そして、彼らが舟に乗り込むと、風は静まった。舟に乗っていた者たちは近寄って、イエスにひれ伏し、「あなたはまことに神の子です」と言った。そして、対岸に渡って、ゲネサレトの地に着いた。

マタイによる福音書 14:22-34
第9週。

マタイによる福音書、第60章

その頃、ゲネサレトの住民たちはイエスのことを知ると、その周辺一帯に知らせを広め、すべての病人をイエスのところへ連れて来て、ただイエスの衣の端に触れさせてほしいと願った。そして、触れた者は皆、癒やされた。すると、エルサレムの律法学者やパリサイ人たちがイエスのところに来て言った。「なぜ、あなたの弟子たちは先人の伝承に背くのですか。彼らはパンを食べるとき、手を洗わないからです。」イエスは彼らに答えて言われた。「なぜ、あなたがたもまた、自分の伝承のために神の戒めに背くのですか。神は、『父と母を敬え』と命じ、『父または母をののしる者は、死ななければならない』とも命じられた。しかし、あなたがたは、『もし誰かが父または母に、「あなたが私から受け取るはずだったものは、神へのささげ物だ」と言えば、その人は父や母を敬わなくてもよい』と言う。このようにして、あなたがたは、自分たちの伝統によって神の戒めを無効にしてしまったのだ。偽善者たちよ。イザヤはあなたがたについて、よく預言した。「この民は口先ではわたしに近づき、舌ではわたしを敬うが、その心はわたしから遠く離れている。彼らは人間の教えや戒めを説くことで、むなしくわたしを敬っている。」そして、群衆を呼び寄せて、こう言われた。「よく聞いて、理解しなさい。口に入るものが人を汚すのではなく、口から出るものが人を汚すのである。」

マタイによる福音書 14:35-15:11
第7週の水曜日。

マタイによる福音書、第61章の冒頭

そのとき、イエスの弟子たちが近寄って、こう言った。「ファリサイ派の人々がこの言葉を聞いて、つまずいていることをご存知ですか。」すると、イエスは答えて言われた。「わたしの天の父が植えなかった草は、すべて根こそぎにされる。彼らを放っておきなさい。彼らは盲人の導き手である。盲人が盲人を導けば、二人とも穴に落ちる。」そこでペトロが答えて言った。「このたとえの意味を、私たちに説明してください。」イエスは言われた。「あなたがたも、まだ悟らないのか。口に入るものはすべて、腹に入り、やがて排泄されることを、まだ理解していないのか。しかし、口から出るもの——それは心から出るもの——こそが人を汚すのです。なぜなら、心から出るものは、悪意、殺人、姦淫、淫行、盗み、偽証、冒瀆であり、これらが人を汚すからです。しかし、洗っていない手で食べることは、人を汚すことにはなりません。」そして、そこから出て、イエスはティルスとシドンの地方へ去って行かれた。

マタイによる福音書 15:12-21
第7週の木曜日。

マタイによる福音書、第62章の冒頭

その頃、イエスはティルスとシドンの地方へ退かれた。すると、その地方から一人のハナネ人の女が出てきて、イエスに向かって叫んだ。「主よ、ダビデの子よ、私を憐れんでください。私の娘がひどく悪霊に取りつかれています。」しかし、イエスは彼女に一言も答えられなかった。そこで、弟子たちが近寄って、イエスに「彼女を放っておいてください。私たちの後ろで叫び続けているからです」と頼んだ。イエスは答えて言われた。

「わたしは、イスラエルの家の中の、迷い出た羊たちに遣わされたのです。」すると、彼女は近寄ってイエスにひれ伏し、「主よ、私を助けてください」と言った。すると、イエスは答えて言われた。「子供たちからパンを取り上げて、犬たちに投げるのはよくない。」彼女は言った。「そうです、主よ。しかし、犬たちも、主人の食卓から落ちるパンくずを食べます。」そこで、イエスは彼女に答えて言われた。「ああ、女よ。あなたの信仰は大きい。あなたの望むとおりにしてあげよう。」すると、その瞬間、彼女の娘は癒やされた。

マタイによる福音書 15:21-28
第17週。

マタイによる福音書、第63章

そのころ、イエスはガリラヤ湖のほとりに来られ、山に登ってそこに座られた。すると、大勢の群衆が、足の不自由な者、盲人、口がきけない者、体の不自由な者、その他多くの者を連れてイエスのところへやって来て、彼らをイエスの足元にひれ伏させた。イエスは彼らを癒やされた。そこで、人々は、口がきけない者が話し、体の不自由な者が健やかになり、足の不自由な者が歩き、盲人が見えるようになるのを見て驚き、イスラエルの神を賛美した。

マタイによる福音書 15:29-31
第7週の金曜日。

マタイによる福音書、第64章の冒頭

その頃、イエスは弟子たちを呼び寄せて言われた。「この人々が、もう三日もわたしのそばにいて、食べるものが何もないのが気の毒だ。空腹のまま彼らを帰すのは、道中で力尽きてしまうから、そうはしたくない。」すると、弟子たちはイエスに言った。「この荒野で、これほどの大勢の人々を養うのに十分なパンを、どこから手に入ればよいのでしょうか。」イエスは彼らに言われた。「パンはいくつあるか。」彼らは、「七つと、魚が少しだけあります」と答えた。そこで、イエスは群衆に地面に座るように命じられた。そして、七つのパンと魚を取り、感謝をささげてから、それを裂き、弟子たちに渡し、弟子たちはそれを群衆に配った。皆が食べて満腹になり、残ったパンの切れ端を七つの籠にいっぱい集めた。食べた人は、女や子供を除いて四千人であった。イエスは群衆を解散させ、舟に乗ってマグダラの地方へ渡られた。

マタイによる福音書 15:32-39
第9週の安息日。

マタイによる福音書、第65章

その頃、パリサイ人とサドカイ人がイエスのところに来て、試みて、天からのしるしを見せてほしいと願った。イエスは彼らに答えて言われた。「夕方には、『空が赤く染まっているから、明日は晴れるだろう』と言い、朝には、『空が紫色だから、今日は雨になるだろう』と言うではないか。偽善者たちよ。あなたがたは空の色を見分けることはできても、時代のしるしを見分けることはできない。悪意に満ち、不貞な世代はしるしを求めるが、預言者ヨナのしるし以外には、彼らにしるしは与えられない。」そして、彼らを置いて立ち去られた。対岸に渡ったとき、弟子たちはパンを持ってくるのを忘れていた。イエスは彼らに言われた。「見よ、パリサイ人やサドカイ人のパン種に気をつけなさい。」

マタイによる福音書 16:1-6
第8週の月曜日。

マタイによる福音書、第66章の冒頭

主は弟子たちに言われた。「見よ、パリサイ人やサドカイ人のパン種に気をつけなさい。」すると、弟子たちは心の中で考え、こう言った。「これは、パンを持ってこなかったからだろう。」イエスはそれを悟って、彼らに言われた。「信仰の薄い者たちよ、パンを持ってこなかったと、なぜ心の中で考えているのか。」 まだ悟らないのか。五千人のために五つのパンを分け与えたとき、あなたがたが何籠集めたかを覚えていないのか。また、四千人のために七つのパンを分け与えたとき、あなたがたが何籠集めたかを覚えていないのか。私が『ファリサイ派やサドカイ派のパン種に気をつけなさい』と言ったのは、パンについてのことではないと、どうして悟らないのか。そこで、彼らは、イエスがパンのかき混ぜ粉ではなく、パリサイ人やサドカイ人の教えに気をつけよと語っておられたのだと悟った。

マタイによる福音書 16:6-12
第8週の火曜日。

マタイによる福音書、67A節

その頃、イエスはケサレア・フィリッポの地方に来られ、弟子たちに尋ねられた。「人々は、わたし、すなわち人の子を、誰だと言っているのか。」弟子たちは答えた。「ある者はバプテスマのヨハネだと言い、ある者はエリヤだと言い、またある者はエレミヤか、あるいは預言者の一人だと言っています。」 イエスは彼らに言われた。「では、あなたがたはわたしを誰だと思っているのか。」すると、シモン・ペテロが答えて言った。「あなたは、生ける神の御子、キリストです。」そこで、イエスは彼に言われた。「シモン、ヨナの子よ、あなたは幸いである。肉と血とがあなたにこれを明らかにしたのではなく、天におられるわたしの父が明らかにされたのである。また、あなたに言おう。あなたはペトロである。この岩の上に、わたしはわたしの教会を築く。地獄の門も、それを打ち破ることはできない。そして、天の御国の鍵をあなたに授ける。あなたが地上で縛るものは、天でも縛られ、あなたが地上で解くものは、天でも解かれる。」

マタイによる福音書 16:13-19
6月29日、使徒ペトロとパウロの祝日、聖体礼儀にて。

マタイによる福音書、67B節

その頃、イエスはケサレア・フィリッポの地方に来られ、弟子たちに尋ねられた。「人々は、わたし、すなわち人の子を、誰だと言っているのか。」弟子たちは答えた。「ある者は洗礼者ヨハネだと言い、ある者はエリヤだと言い、またある者はエレミヤか、あるいは預言者の一人だと言っています。」 イエスは彼らに言われた。「では、あなたがたはわたしを誰だと思っているのか。」すると、シモン・ペトロが答えて言った。「あなたは、生ける神の御子、キリストです。」そこで、イエスは彼に答えて言われた。「シモン、ヨナの子よ、あなたは幸いである。肉と血とがあなたにこれを明らかにしたのではなく、天におられるわたしの父が明らかにされたのである。そして、わたしはあなたに言う。あなたはペトロである。この岩の上に、わたしはわたしの教会を建てよう。地獄の門も、それを打ち破ることはできない。」

マタイによる福音書 16:13-18
神殿の奉献に際して。

マタイによる福音書、第68章

そのころ、イエスは弟子たちに、ご自分がイエス・キリストであることを誰にも話さないようにと命じられた。その時から、イエスは弟子たちに、ご自分がエルサレムに行かなければならず、長老たちや大祭司たち、律法学者たちから多くの苦しみを受け、殺され、三日目に復活することを明らかにし始められた。そこで、ペトロはイエスを脇に呼び、こう言い返した。「主よ、どうかご自身を憐れんでください。そのようなことがあなたに起こることなどあってはなりません。」しかし、イエスは振り返ってペトロに言われた。「サタンよ、わたしの前から退け。あなたはわたしのつまずきだ。あなたは神の御心ではなく、人のことを考えているからだ。」そこで、イエスは弟子たちに言われた。「わたしに従いたいと思う者は、自分を捨て、自分の十字架を負い、わたしに従いなさい。」

マタイによる福音書 16:20-24
第8週の水曜日。

マタイによる福音書、第69章の冒頭

主は弟子たちに言われた。「わたしに従いたいと思う者は、自分を捨て、自分の十字架を負い、わたしに従いなさい。自分の命を救おうとする者はそれを失い、わたしのために自分の命を失う者はそれを得るからである。人が全世界を得ても、自分の魂を損なうなら、何の益があるだろうか。あるいは、人は自分のいのちと引き換えに、どのような代価を払うことができるだろうか。人の子は、御父の栄光のうちに御使いたちを伴って来られ、その時、各人にその行いに応じて報いを与えられる。まことに、あなたがたに告げる。ここに立っている人の中には、死ぬことなく、人の子がその御国に来られるのを見る者がいる。」

マタイによる福音書 16:24-28
第8週の木曜日。

マタイによる福音書、第70章の冒頭

そのころ、イエスはペトロとヤコブ、そしてその兄弟ヨハネを連れて、彼らだけを高い山に導き上げ、彼らの前で姿を変えられた。その顔は太陽のように輝き、その衣は光のように白くなった。すると、モーセとエリヤが現れ、イエスと語り合っていた。すると、ペトロはイエスに言った。「主よ、私たちがここにいるのは良いことです。もしお望みなら、ここに三つの小屋を建てましょう。一つはあなたのために、一つはモーセのために、もう一つはエリヤのために。」彼がまだ話しているうちに、見よ、明るい雲が彼らを覆った。そして、雲の中から声がして言った。「これは、わたしの愛する子、わたしの心に適う者である。この人の言うことを聞きなさい。」弟子たちはこれを聞いて、顔を地面につけてひれ伏し、ひどくおののいた。しかし、イエスは近づいて彼らに触れ、「起きなさい。恐れることはない。」と言われた。彼らが目を上げると、イエスお一人以外には誰も見えなかった。そして、彼らが山を下りていくとき、イエスは彼らに命じて言われた。「人の子が死者の中からよみがえるまでは、この幻について誰にも話してはならない。」

マタイによる福音書 17:1-9
主の変容、聖体礼儀にて。

マタイによる福音書、71章の冒頭

その頃、弟子たちがイエスに尋ねた。「なぜ、律法学者たちは、エリヤがまず来なければならないと言っているのですか。」イエスは答えて言われた。「確かに、エリヤは先にやって来て、すべてを整えるべきである。しかし、あなたがたに言うておく。エリヤはすでに来ているが、人々は彼だと気づかず、自分たちの思い通りに彼を扱った。同じよ

うに、人の子も彼らによって苦しめられることになる。」そこで、弟子たちは、イエスがバプテスマのヨハネのことを話しておられたのだと悟った。彼らが群衆のところへ来ると、ある男がイエスのところに近寄り、ひざまずいて言った。「主よ、どうか私の息子を憐れんでください。彼は新月のたびに悪霊に取りつかれてひどく苦しんでいます。しばしば火の中へ、また水の中へと飛び込むのです。私は彼をあなたの弟子たちのところへ連れて行きましたが、彼らは彼を癒すことができませんでした。」イエスは答えて言われた。「ああ、不信仰で墮落した世代よ。いつまであなたがたと共にいなければならないのか。いつまであなたがたと耐えなければならないのか。その子を私のところへ連れて来なさい。」イエスが彼に命じると、悪霊は彼から出て行き、その少年はその時すぐに癒やされた。

マタイによる福音書 17:10-18
第8週の金曜日。

マタイによる福音書、第72章

そのとき、ある人がイエスのところに来て、ひざまずいて言った。「主よ、どうか私の息子を憐れんでください。彼は新月のたびに悪霊に取りつかれてひどく苦しんでいます。しばしば火の中や水の中に飛び込むのです。私は彼をあなたの弟子たちのところへ連れて行きましたが、彼らは彼を癒すことができませんでした。」イエスは答えて言われた。「ああ、不信仰で墮落した世代よ。いつまであなたがたと共にいなければならないのか。いつまであなたがたと耐えなければならないのか。その子を私のところへ連れて来なさい。」イエスが彼に命じると、悪霊は彼から出て行き、その少年はその時、癒やされた。そこで、弟子たちはイエスのところへ人目を避けて近づき、言った。「なぜ、私たちは彼を追いつけなかったのですか。」イエスは彼らに言われた。「あなたがたの不信仰のせいだ。まことに、あなたがたに告げる。もしあなたがたにからし種ほどの信仰があれば、この山に向かって『ここからあそこへ移れ』と言えば、山は移るだろう。あなたがたには、不可能なことは何もない。しかし、この種の悪霊は、祈りと断食によってのみ追い出されるのである。彼らがガリラヤに滞在していたとき、イエスは彼らに言われた。「人の子は人の手に引き渡され、殺されるが、三日目に復活する。」

マタイ 17:14-23A
第10週。

マタイによる福音書、第73章

その頃、ディドラクマを徴収する者たちがペトロに近づき、「あなたの師はディドラクマを納めないのですか」と言った。ペトロは「納めます」と答えた。彼が家に入ると、イエスは彼を呼び止めて言われた。「シモン、どう思うか。この世の王たちは、税や賦税を誰から徴収するのか。自分の子らからか、それとも他者からか。」ペトロはイエスに答えた。「他の人々からです。」イエスは彼に言われた。「それなら、子たちは免除されている。しかし、彼らを惑わさないために、海へ行き、網を投げ入れ、最初に引っかかる魚を捕まえなさい。その魚の口を開けると、スタティル硬貨が見つかるだろう。それを取って、わたしとあなた自身の分として彼らに納めなさい。」そのとき、弟子たちがイエスのところに来て言った。「天の御国では、だれが最も偉いのですか。」イエスは、ひとりの子供を呼び寄せ、彼らの真ん中に立たせて言われた。「まことに、あなたがたに告げます。もしあなたがたが心を改め、子供たちのようにならなければ、天の御国に入ることはできません。ですから、この子供のように自分を低くする者が、天の御国で最も偉大な者なのです。」

マタイによる福音書 17:24-18:4
第10週の土曜日。

マタイによる福音書、第74章

そのとき、弟子たちがイエスのところに来て、「天の御国で、だれが最も偉いのですか」と尋ねた。イエスは、ひとりの子どもを呼び寄せ、彼らの真ん中に立たせて言われた。「まことに、あなたがたに告げます。あなたがたが心を改め、子どものようにならなければ、決して天の御国に入ることはできません。だから、この子どものように自分を低くする者が、天の御国で最も偉大な者である。また、わたしの名によって、このような子ども一人を受け入れる者は、わたしを受け入れるのである。しかし、わたしを信じるこれらの小さな者たちのうち、ただ一人でもつまずかせる者は、その首に水車の石を懸けられ、海の深みに沈められるほうが、まだましである。この世は誘惑によって災いに遭う。誘惑が起こるのは避けられないが、誘惑をもたらすその人には災いが及ぶ。もしあなたの手や足があなたを罪に誘うなら、それを切り捨てて捨て去りなさい。両手両足を持って永遠の火に投げ込まれるよりは、手一つ、あるいは足一つで命に入るほうが、あなたにとってましである。また、もしあなたの目があなたを誘惑するなら、それをえぐり出して捨てなさい。両目を持って火のゲヘナに投げ込まれるよりは、片目で命に入るほうが、あなたにとってましである。見よ、これらの小さな者たちのうち、だれ一人として軽んじてはならない。天にいる彼らの天使たちは、いつもわたしの天の父の御顔を仰いでいるからだ。人の子は、失われたものを探し出し、救うために来たのである。

マタイによる福音書 18:1-11
第9週の月曜日。

マタイによる福音書、第75章の冒頭

主は言われた。「見よ、これらの小さな者たちのうち、だれ一人として軽んじてはならない。あなたがたに言う。彼らの天使たちは、天において、わたしの天の父の御顔を常に見ているからだ。人の子は、失われたものを探し出し、救うために来たのである。あなたがたはどう思うか。もし誰かが百匹の羊を飼っていて、そのうちのひと匹が迷い出たら、その人は九十九匹を山に残して、迷い出た一匹を探しに行くだろうか。そして、もしそれを見つけたら、まことに、あなたがたに言うが、その人は、迷い出なかった九十九匹よりも、その一匹の方を喜ぶのである。このように、あなたがたの天の父は、これらの小さな者たちのうちの一人でも滅びることを望んでおられません。もしあなたの兄弟があなたに対して罪を犯したなら、行って、あなたと彼との二人きりの間で、彼を戒めなさい。もし彼があなたに聞き従うなら、あなたは兄弟を取り戻したことになる。もし聞き従わないなら、さらに一人か二人を連れて行き、二人の、あるいは三人の証人の口によって、あらゆる言葉が裏付けられるようにしなさい。もし彼らにも聞き入れないなら、教会に告げなさい。もし教会にも聞き入れないなら、その人はあなたにとって、異邦人や徴税人と同じである。まことに、あなたがたに告げる。あなたがたが地上で縛るものは、天でも縛られ、あなたがたが地上で解くものは、天でも解かれる。また、まことにあなたがたに言います。もしあなたがたのうちの二人が地上で、どんな事柄についても心を合わせて祈るなら、何を願っても、天の父はそれを彼らに与えてくださいます。なぜなら、二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいるからです。

マタイによる福音書 18:10-20
聖霊の月曜日。
四旬節第1週、祈祷の歌。

マタイによる福音書、76節

主は弟子たちに言われた。「まことに、あなたがたに告げます。あなたがたが地上で縛るものは、天でも縛られ、あなたがたが地上で解くものは、天でも解かれるのです。

また、まことにあなたがたに言います。もしあなたがたのうちの二人が地上で、どんな事柄についても心を合わせて祈るなら、何を求めても、わたしの天の父はそれを彼らに与えてくださいます。なぜなら、二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいるからです。すると、ペトロがイエスに近づいて言った。「主よ、私に対して罪を犯す兄弟を、何度まで赦すべきでしょうか。七回まででしょうか。」イエスは彼に言われた。「七回までとは言わない。七の七十倍まで赦しなさい。」イエスがこれらの言葉を語り終えると、ガリラヤを出て、ヨルダン川の向こう側のユダヤの地方へ行った。多くの人々がイエスに従い、イエスはそこで彼らを癒やされた。すると、子供たちがイエスのところに連れて来られ、イエスが彼らに手を置いて祈ってくださるよう願われたが、弟子たちはそれを禁じた。しかし、イエスは言われた。「子供たちを放っておきなさい。わたしのところに来るのを妨げてはならない。天の御国は、このような者たちのものである。」そして、子供たちに手を置いてから、そこを立ち去られた。

マタイ 18:18-22; 19:1-2, 13-15
第9週の火曜日。

マタイによる福音書、第77章

主はこのたとえを語られた。「天の御国は、自分のしもべたちと精算をしようとした王に似ている。精算を始めたとき、彼に1万タラントの借金がある者が連れて来られた。しかし、彼には支払うものがなかったため、主人は彼と、その妻と、子供たち、そして彼が持っているすべてのものを売り払って、借金を返済するよう命じた。すると、そのしもべはひれ伏して、主人にこう言った。「ご主人様、どうか私を待ってください。そうすれば、すべてお返しいたします。」主人はその奴隷を憐れみ、彼を解放し、借金を免除した。ところが、その奴隷は外に出ると、自分に百ディナリを借りていた仲間のひとりを見出し、彼を捕まえて首を絞めながら言った。「借金を返せ。」すると、その仲間は彼の足元にひれ伏し、懇願して言った。「どうか待ってください。すべてお返しします。」しかし、彼は聞き入れず、その仲間を借金を返すまで牢屋に閉じ込めた。その仲間たちは、この出来事を目撃して深く悲しみ、主人のもとへ行行って、あったことをすべて報告した。すると、主人は彼を呼びつけて言った。「悪い僕よ！ あなたが私に懇願したので、私はその借金のすべてを赦したのではないか。私があなたを赦したように、あなたもまた、その仲間を赦すべきではなかったのか。」そして、主人は怒り、彼が借金の全額を返済するまで、彼を拷問者に引き渡した。あなたがたの一人一人が、心から兄弟の過ちを赦さないなら、天の父もあなたがたに同じようにされるであろう。

マタイによる福音書 18:23-35
第11週。

マタイによる福音書、第78章

その頃、パリサイ人たちがイエスのところにやって来て、試みようとして言った。「どんな理由があっても、人は妻と離婚してよいのでしょうか。」イエスは彼らに答えて言われた。「あなたがたは、『初めに、神は人を男と女とを造られた』と書いてあるのを読んだことがないのか。そして言われた。「それゆえ、人は父と母を離れて、妻と結ばれ、二人は一体となる。もはや二人がではなく、一体となるのである。だから、神が結び合わせたものを、人は離してはならない。」彼らはイエスに言った。「では、なぜモーセは離縁状を与えて妻と離れるように命じたのですか。」イエスは彼らに言われた。「モーセは、あなたがたの心が頑なであるゆえに、妻と離縁することを許したのである。しかし、初めからそうであったわけではない。わたしはあなたがたに言う。姦淫以外の理由で妻と離縁して、他の女性と結婚する者は、姦淫を犯すのである。また、離縁された女性と結婚する者も、姦淫を犯すのである。」すると、弟子たちはイエスに言った。「もし、夫

の妻に対する義務がそのようなものであるなら、結婚しないほうがましです。」イエスは彼らに言われた。「すべての人がこの言葉を理解できるわけではない。しかし、与えられた者には理解できる。なぜなら、母の胎内からそのように生まれた去勢者もいれば、人によって去勢された者もあり、また、天の御国のために自ら去勢した者もいるからだ。受け入れることができる者は、受け入れるがよい。

マタイによる福音書 19:3-12
第11週の土曜日。

マタイによる福音書、第79章の冒頭

そのとき、ある人が近づいてきて、イエスに言った。「善き先生。永遠の命を得るために、私は何をすべきでしょうか。」イエスは彼に言われた。「なぜ、わたしを『善き』と呼ぶのか。神お一人だけが善き方である。もし永遠の命に入りたいのなら、戒めを守りなさい。」彼はイエスに、「どのような戒めですか」と尋ねた。イエスは言われた。「『殺してはならない。姦淫してはならない。盗んではならない。偽証してはならない。父と母を敬え。』そして、『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ。』」すると、その若者は言った。「これらのことは、若い頃からすべて守ってきました。まだ私に足りないものは何ですか。」イエスは彼に言われた。「もし完全になりたいのなら、行って、あなたの財産を売り払い、貧しい人々に分け与えなさい。そうすれば、天に宝を持つことになる。そして、ここに来て、わたしに従いなさい。」この言葉を聞いて、その若者は悲しんで去って行った。彼には多くの財産があったからである。イエスは弟子たちに言われた。「まことに、あなたがたに告げます。金持ちが天の御国に入るのは難しいことです。さらに言います。金持ちが神の御国に入るのは、らくだが針の穴を通るよりも難しいのです。」これを聞いて、弟子たちは大いに驚いて言った。「それでは、いったい誰が救われることができるのでしょうか。」イエスは彼らを見回して言われた。「人間にはできないが、神には何でもできる。」

マタイによる福音書 19:16-26
第12週。

マタイによる福音書、第80章

主は、次のたとえを語られた。「天の御国は、ある家の主人に似ている。その人は、早朝、自分のぶどう園で働く労働者を雇うために出て行き、労働者たちと一日に一デナリで契約を結んで、彼らを自分のぶどう園に送った。三時ごろに出て行くと、市場でぶらぶらしている人たちを見かけ、彼らに言った。「あなたたちも私のぶどう畑へ行きなさい。その日、得られる分だけお支払いします。」彼らは行った。また、六時と九時ごろに出て行き、同じことをした。ついに、十一時ごろに出て行くと、他の者たちがぼんやりと立っているのを見つけ、彼らに言った。「なぜ一日中、ここにぼんやりと立っているのか。」彼らは彼に言った。「誰も私たちを雇ってくれませんでした。」彼は彼らに言った。「あなたたちも私のぶどう園に行きなさい。後で決まる分を受け取ることになる。」夕方になると、ぶどう園の主人は管理人に言った。「労働者たちを呼び、最後に来た者から順に、最初に来た者まで、賃金を支払ってやりなさい。」すると、11時頃にやってきた者たちは、一人一ディナリを受け取った。最初にやって来た者たちは、もっと多くもらえんと思っていたが、彼らも一人一ディナリを受け取った。そして、受け取ると、家の主人に不平を言い出し、こう言った。「この最後に来た者たちはたった一時間しか働いていないのに、あなたは、一日の重労働と炎天下に耐えてきた私たちと同じ扱いをするのですか。」すると、主人はその中の一人に答えて言った。「友よ！ 私はあなたを不当に扱っているわけではない。あなたは私と一デナリで取り決めたのではないのか。自分の分を受け取って行きなさい。私はこの最後に来た者にも、あなたと同じものを与えたいのだ。自分

のもので、私が望むことをする権利がないというのか。それとも、私が親切であることに、あなたの目が妬んでいるのか。」こうして、最後の者が最初になり、最初の者が最後になる。招かれた者は多いが、選ばれた者は少ないからである。

マタイによる福音書 20:1-16

第9週の水曜日。

3月9日、セバステアの40人の殉教者。

マタイによる福音書、第81章の冒頭

その頃、イエスはエルサレムへ上る途中、道中で十二人の弟子たちを別室に呼び寄せ、こう言われた。「見よ、私たちはエルサレムへ上って行く。そこで、人の子は祭司長や律法学者たちに引き渡され、死刑の判決を受ける。そして、異邦人に引き渡されて、侮辱され、鞭打たれ、十字架につけられる。しかし、三日目に復活する。」その時、ゼベダイの子らの母が、息子たちを連れてイエスのところへ近づき、ひれ伏して何かを願い求めた。イエスは彼女に言われた。「何を望むのか。」彼女は言った。「どうか、この二人の息子を、あなたの御国で、一人はあなたの右に、もう一人は左に座らせてください。」イエスは答えて言われた。「あなたがたは、何を願っているのか分かっていない。『わたしが飲む杯を飲むことができるか。また、わたしが受けるバプテスマを受けることができるか。』彼らはイエスに、「できます」と答えた。イエスは彼らに言われた。「わたしの杯を飲むことも、わたしが受けるバプテスマを受けることもできる。しかし、わたしの右と左に座することは、わたしが決めることではなく、わたしの父によって定められた者たちのためのものだ。」これを聞いて、他の十人の弟子たちは、その二人の兄弟に憤りを覚えた。そこで、イエスは彼らと呼ばせて言われた。「あなたがたも知っているように、諸国の支配者たちは民を支配し、高官たちは民を支配している。しかし、あなたがたの間ではそうであってはならない。あなたがたの間で偉くなりたいと思う者は、あなたがたのしもべとなりなさい。あなたがたの間で第一になりたいと思う者は、あなたがたの僕となりなさい。人の子は、仕えられるためではなく、仕え、多くの人の贖いのために自分の命を捧げるために来たのだから。」

マタイによる福音書 20:17-28

第9週の木曜日。

マタイによる福音書、第82章の冒頭

その頃、イエスがエリコを出られるとき、大勢の群衆がイエスに従っていた。すると、道端に座っていた二人の盲人が、イエスが通り過ぎられるのを聞いて、「主よ、ダビデの子よ、私たちに憐れんでください」と叫び始めた。人々は彼らを黙らせようとしたが、彼らはなおさら大声で叫び続けた。「主よ、ダビデの子よ、私たちに憐れんでください！」イエスは立ち止まり、彼らと呼ばせて言われた。「わたしに何を望むのか。」彼らはイエスに言った。「主よ、私たちの目が見えるようにしてください。」イエスは憐れみ深く、彼らの目に触れられた。すると、たちまち彼らの目は開かれ、彼らはイエスに従って行った。

マタイによる福音書 20:29-34

第12週の土曜日。

マタイによる福音書、83A節

その頃、イエスがエルサレムに近づき、ベファギヤのオリーブ山に来られたとき、二人の弟子を遣わして、こう言われた。「あなたがたの目の前の村へ行きなさい。すぐに、つながれた雌ロバと、そのそばにいる子ロバを見つけるでしょう。それを解いて、わたしのところへ連れて来なさい。もし誰かが何か言ってきたら、『主のために必要なのです』と答えなさい。そうすれば、すぐに彼らを放してくれるだろう。」これは、預言者を通

して語られた言葉が成就するためであった。預言者はこう言っている。『シオンの娘に告げよ。「見よ、あなたの王が、柔和な者として、雌ロバと若いロバ、すなわちくびきを負う者の子に乗って、あなたのもとに来られる。」』弟子たちは行って、イエスが命じられたとおりにした。雌ロバと若いロバを連れて来て、その上に自分の服を敷き、イエスはその上に座られた。大勢の民は道に自分の衣を敷き、また他の者たちは木から枝を切り取って道に敷いた。先頭に立って行く者も、後ろからついて行く者も、「ダビデの子にオサナ！主の御名によって来られる方に祝福あれ！天にオサナ！」と叫んだ。そして、イエスがエルサレムに入られると、街中が騒然となり、「この方はどなたか」と人々は言った。すると、民衆は、「この方は、ガリラヤのナザレ出身の預言者、イエスである」と言った。しかし、大祭司や律法学者たちは、イエスがなされた奇跡や、神殿で「ダビデの子にオサナ！」と叫び、賛美している子供たちを見て、憤り、イエスに言った。「彼らが言っていることを聞いているか。」イエスは彼らに言われた。「そうだ。あなたがたは、『幼子や乳飲み子の口から、あなたは賛美を備えられた』と書かれているのを、一度も読んだことがないのか。」そして、彼らを置いて、町を出てベタニヤへ行き、そこで一夜を過ごされた。

マタイによる福音書 21:1-11; 15-17
ヴァイの週、早課にて。

マタイによる福音書、83B節

その頃、イエスは神の宮に入り、宮の中で売り買いしていた者たちをすべて追い出し、両替人の机や鳩を売る人々の腰掛けをひっくり返し、彼らに言われた。「『わたしの家は祈りの家と呼ばれる』と書いてある。しかし、あなたがたはそれを強盗の巢窟にしてしまった。」すると、神殿で盲人や足の不自由な人々がイエスのところにやって来たので、イエスは彼らを癒やされた。そして、彼らを残して町を出てベタニヤへ行き、そこで一夜を過ごされた。翌朝、町に戻る途中、主はお腹を空かせた。道端に一本のイチジクの木を見かけ、それに近づいたが、葉以外には何も見つからなかった。そこで、その木に向かって言われた。「今後、永遠に実を結ぶことがないように。」すると、そのイチジクの木はたちまち枯れてしまった。これを見て、弟子たちは驚き、「どうしてイチジクの木はたちまち枯れてしまったのですか」と言った。

マタイ 21:12-14; 17-20
第9週の金曜日。

マタイによる福音書、84A節

その頃、イエスは町へ戻られる途中、空腹を感じられた。道端に一本のいちじくの木を見かけ、近づいて行かれたが、葉以外には何も見つからなかった。そこで、その木にこう言われた。「今後、永遠に実を結ぶことはない。」すると、そのいちじくの木はたちまち枯れてしまった。これを見て、弟子たちは驚き、「どうしていちじくの木はたちまち枯れてしまったのですか」と言った。すると、イエスは彼らに答えて言われた。「まことに、あなたがたに言います。もしあなたがたが信仰を持ち、疑わなければ、このイチジクの木に起こったことだけでなく、たとえこの山に向かって、『立ち上がって、海に飛び込め』と言っても、そのとおりになります。また、信仰をもって祈り求めることは何でも、受け取ることができるのです。」

マタイによる福音書 21:18-22
第10週の月曜日。

マタイによる福音書、84B節

その頃、イエスは町へ戻る途中、お腹が空いた。道端に一本のイチジクの木を見かけ、その木に近づいたが、葉以外には何も見つからなかった。そこでイエスは木に向かって、「今後、永遠に実を結ぶことがないように」と言われた。すると、そのイチジクの木はたちまち枯れてしまった。これを見て、弟子たちは驚き、「どうしてあのイチジクの木はたちまち枯れてしまったのですか」と言った。すると、イエスは彼らに答えて言われた。「まことに、あなたがたに言います。もしあなたがたが信仰を持ち、疑わなければ、このイチジクの木に起こったことだけでなく、たとえこの山に向かって、『立ち上がって、海に飛び込め』と言っても、その通りになります。また、信仰をもって祈り求めることは何でも、受け取ることができるのです。」イエスが神殿に入って教えを説いておられると、大祭司たちや民の長老たちが近寄ってきて、言った。「あなたは、どのような権威をもって、このようなことをしているのですか。誰があなたにそのような権威を与えたのですか。」イエスは彼らに答えて言われた。「私もあなたがたに一つのことを尋ねましょう。もしそのことについて答えてくださるなら、私も、どのような権威をもってこれを行っているのか、あなたがたに告げましょう。ヨハネの洗礼は、どこから来たのか。天からか、それとも人からか。」彼らは互いに議論し合った。「『天から』と言えば、『では、なぜ彼を信じなかったのか』と言われるだろう。『人から』と言えば、民を恐れる。皆、ヨハネを預言者と見なしているからだ。」そこで、彼らはイエスに答えて言った。「分からない。」そこで、イエスは彼らに言われた。「それなら、わたしも、どのような権威をもってこれをしているのか、あなたがたには言わない。さて、あなたがたはどう思うか。ある人に二人の息子がいた。彼は長男に近づき、「息子よ、今日、私のぶどう畑に行って働け」と言った。しかし、息子は「行きたくない」と答えたが、後で後悔して行った。次に次男に近づき、同じことを言った。次男は「はい、行きます」と答えたが、行かなかった。この二人のうち、どちらが父の意志を果たしたのか。人々はイエスに、「最初の息子です」と答えた。イエスは彼らに言われた。「まことに、あなたがたに告げます。取税人や娼婦たちが、あなたがたより先に神の国に入ります。なぜなら、義の道を歩むヨハネがあなたがたのところに來たのに、あなたがたは彼を信じなかったが、取税人や娼婦たちは彼を信じたからです。あなたがたはそれを見ていながら、後に悔い改めて彼を信じることはしませんでした。」もう一つのたとえ話を聞いてください。ある家の主人が、ぶどう園を植え、それを柵で囲み、その中に井戸を掘り、見張り塔を建て、それをぶどう園の管理人たちに任せて、旅に出ました。実りの時期が近づくと、彼は僕たちをぶどう園の農夫たちのところへ送り、実を受け取らせようとした。しかし、農夫たちはその僕たちを捕らえ、ある者は殴り、ある者は殺し、またある者は石で打ち殺した。そこで彼は、以前よりも多くの僕たちを再び送ったが、彼らに対しても同じように扱われた。ついに、彼は自分の息子を彼らのもとに遣わし、『彼らは私の息子を敬うだろう』と言った。しかし、ぶどう園の農夫たちは息子を見て、互いに言った、『これは相続人だ。さあ、彼を殺して、その相続財産を奪い取ろう。』そして、彼を捕らえてぶどう園の外へ引きずり出し、殺してしまった。さて、ぶどう園の主人が來たとき、このぶどう園の農夫たちにどうするだろうか。」人々は彼に言った。「この悪人どもを惨い死に追いやるでしょう。そして、ぶどう園は、定められた時期に実を納める他の農夫たちに任せるでしょう。」イエスは彼らに言われた。「あなたがたは、聖書の中で、『建築者たちが捨てた石が、隅の親石となった』という箇所を、一度も読んだことがないのか。これは主によるものであり、私たちの目には不思議なことではないか。それゆえ、あなたがたに告げる。神の国はあなたがたから取り去られ、その実を結ぶ民に与えられるであろう。」

マタイによる福音書、第85章

その頃、イエスが神殿に来て教えておられたとき、祭司長たちや民の長老たちがイエスに近づき、言った。「あなたは、どのような権威をもって、このようなことをしているのですか。そして、誰があなたにそのような権威を与えたのですか？」イエスは彼らに答えて言われた。「私もあなたがたに一つのことを尋ねよう。もしそのことを私に答えてくれるなら、私もあなたがたに、どのような権威をもってこれを行っているのかを教えてください。ヨハネの洗礼は、どこから来たのか。天からか、それとも人からか。」彼らは互いに相談し合った。「もし『天から』と言えば、『では、なぜ彼を信じなかったのか』と言われるだろう。もし『人から』と言えば、民を恐れる。皆、ヨハネを預言者と見なしているからだ。」そこで彼らはイエスに答えて言った。「分からない。」イエスは彼らに言われた。「それなら、わたしも、どのような権威をもってこのようなことをしているのか、あなたたちに言わない。」

マタイによる福音書 21:23-27
第10週の火曜日。

マタイによる福音書、第86章

主はこのたとえを語られた。「ある人に二人の息子がいた。彼は長男に近づき、『息子よ、今日、私のぶどう畑に行き働け』と言った。しかし、彼は『行きたくない』と答えたが、後で後悔して行った。そして、もう一人のところへ行き、同じことを言った。すると、その子は「はい、行きます」と答えたが、行かなかった。この二人のうち、どちらが父の望みを果たしたのか。」人々は「最初の子です」と答えた。イエスは彼らに言われた。「まことに、あなたがたに告げます。取税人や娼婦たちが、あなたがたより先に神の国に入ります。なぜなら、義の道を歩むヨハネがあなたがたのところに來たのに、あなたがたは彼を信じなかったが、取税人や娼婦たちは彼を信じたからです。あなたがたは、それを見ていながら、後に悔い改めて彼を信じることはしませんでした。」

マタイによる福音書 21:28-32
第10週の水曜日。

マタイによる福音書、第87章の冒頭

主はこのたとえを語られた。「ある家の主人が、ぶどう園を植え、その周りに垣根を巡らせ、その中に搾り場を作り、見張り塔を建て、それをぶどう園の番人たちに任せて、旅に出た。実りの時が近づくと、彼は自分の僕たちをぶどう園の番人たちのところへ遣わして、実を受け取らせようとした。しかし、ぶどう園の農夫たちは、そのしもべたちを捕らえ、ある者は殴り、ある者は殺し、またある者は石で打ち殺した。そこで、主人は以前よりも多くのしもべたちを再び遣わしたが、彼らに対しても同じように扱われた。ついに、主人は自分の息子を彼らのもとに遣わし、『彼らは私の息子を侮ることはないだろう』と言った。しかし、ぶどう園の農夫たちは、その息子を見て互いに言った。「こいつは相続人だ。さあ、彼を殺して、その相続財産を奪い取ろう。」そして、彼を捕らえてぶどう園の外へ引きずり出し、殺してしまった。さて、ぶどう園の主人が來たとき、この農夫たちをどうするだろうか。人々はイエスに言った。「あの悪人たちは残酷な死に処され、ぶどう畑は他のぶどう園の管理人たちに渡され、彼らは定められた時期に実を納めるでしょう。」イエスは彼らに言われた。「あなたがたは、聖書にこう書かれているのを一度も読んだことがないのか。『建築者たちが捨てた石が、隅の親石となった』。これは主によるものであり、私たちの目には驚くべきことではないか。」

マタイによる福音書 21:33-42
第13週。
12月27日および8月2日、初殉教者ステファノ。

マタイによる福音書、第88章

主は、御自身のもとにやって来たユダヤ人たちに言われた。「神の国はあなたがたから取り去られ、その実を結ぶ民に与えられる。また、この石にぶつかる者は砕かれ、この石が誰の上に落ちて、その者を押しつぶす。」そして、そのたとえ話を聞いた祭司長やパリサイ人たちは、主が自分たちのことを言っておられると悟り、主を捕らえようとしたが、民を恐れた。なぜなら、民は主を預言者と見なしていたからである。

マタイによる福音書 21:43-46
第10週の木曜日。

マタイによる福音書、第89章

主はこのたとえを語られた。「天の御国は、ある王に似ている。その王は、自分の息子のために婚礼の宴を催し、しもべたちを遣わして、招かれた人々を宴に招かせた。しかし、彼らは来ることを拒んだ。王はまた別の僕たちを遣わし、こう言わせた。「招かれた人々にこう伝えなさい。『見よ、私は食事の支度を整えた。子牛や肥えた家畜を屠り、すべて準備が整った。婚礼の宴に来なさい。』」しかし、彼らはこれを無視して、ある者は自分の畑へ、ある者は商売へと行ってしまった。また、他の者たちは、その僕たちを捕らえて、侮辱し、殺してしまった。これを聞いた王は激怒し、軍隊を遣わして、その殺人者たちを皆殺しにし、彼らの町を焼き払った。そこで王は僕たちに言った。「婚礼の宴は用意できたが、招かれた者たちはそれにふさわしくなかった。だから、分かれ道へ出て、見つける者すべてを婚礼の宴に招き入れなさい。」そこで、その僕たちは道に出て、見つけた者すべて、善人も悪人も問わず集め、婚礼の宴は席に着く者たちで満たされた。王は席に着く者たちを見に中に入ると、そこに婚礼の衣装を着ていない男が一人いるのを見て、彼に言った。「友よ！ どうして婚礼の衣装を着ずにここに入ったのか？」と尋ねた。しかし、その男は黙っていた。そこで王は僕たちに言った。「その男の手足を縛り、外側の暗闇に放り出せ。そこでは泣き叫び、歯ざしりするだろう。招かれた者は多いが、選ばれた者は少ないからだ。」

マタイによる福音書 22:1-14
第14週。

マタイによる福音書、90A節

その頃、パリサイ人たちは行って、どうすればイエスの言葉を毘にかけることができるか相談した。そして、弟子たちをヘロデ党員たちと共にイエスのところへ遣わし、こう言わせた。「先生、私たちは、あなたが正しい方であり、神の道を真実の通りに教えておられ、誰の顔色もうかがわず、誰にも気遣わないことを知っています。ですから、お答えください。カエサル税を納めることは、許されるのでしょうか、それとも許されないのでしょうか。」しかし、イエスは彼らの偽善を見抜いて、こう言われた。「偽善者たちよ、なぜわたしを試みるのか。税を納めるための硬貨を見せてくれ。」彼らはディナリウス一枚をイエスに差し出した。イエスは彼らに言われた。「この肖像と銘文は、誰のものか。」彼らは言った。「カエサルのものです。」そこでイエスは言われた。「それなら、カエサルのはカエサルに返し、神のものは神に返しなさい。」これを聞いて、彼らは驚いて、イエスを置いて立ち去った。

マタイによる福音書 22:15-22
第13週の安息日。

マタイによる福音書、90B節

その頃、パリサイ人たちは行って、どのようにしてイエスの言葉を毘にかけるか相談した。そして、弟子たちをヘロデ党員たちと共にイエスのところへ遣わし、こう言わせた

。「先生、私たちは、あなたが正しい方であり、神の道を真実にお教えになり、誰の顔色もうかがわず、誰にも気遣わないことを知っています。ですから、お答えください。カエサルを納めることは、許されるのでしょうか、それとも許されないのでしょうか。」しかし、イエスは彼らの偽善を見抜いて、こう言われた。「偽善者たちよ、なぜわたしを試みるのか。税を納めるための硬貨を見せてくれ。」彼らはディナリウス一枚をイエスに差し出した。イエスは彼らに言われた。「この肖像と銘文は、誰のものか。」彼らはイエスに、「カエサルのもので」と答えた。そこでイエスは彼らに言われた。「それなら、カエサルのはカエサルに返し、神のものは神に返しなさい。」これを聞いて、彼らは驚いて、イエスを置いて立ち去った。その日、復活はないと主張するサドカイ派の人々がイエスのところに来て、尋ねた。「先生、モーセはこう言っています。『もし誰かが子供のいないまま死んだなら、その兄弟は彼の妻を娶り、兄弟のために子孫を残さなければならない』。私たちには七人の兄弟がいました。一番上の兄弟は結婚しましたが、子供のいないまま死んで、妻を兄弟に譲りました。二番目も、三番目も、七番目まで同じようにしました。その後、妻も皆より先に亡くなりました。では、復活の際、彼女はその七人のうち誰の妻となるのでしょうか。皆が彼女を妻としていたのですから。」イエスは彼らに答えて言われた。「あなたがたは、聖書も神の力も知らないために、誤っています。復活の世では、人は結婚もせず、嫁ぐこともなく、天にいる神の御使いたちのように、ただ存在しているのです。死者の復活について、神があなたがたに言われた言葉を、あなたがたは読まなかったのか。『わたしはアブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である』。神は死者の神ではなく、生ける者の神である。」これを聞いて、人々はイエスの教えに驚嘆した。ファリサイ派の人々は、イエスがサドカイ派の人々を黙らせたことを聞いて、集まってきた。その中の一人、律法学者が、イエスを試そうとして、こう尋ねた。「先生、律法の中で、最も重要な戒めは何ですか。」イエスは彼に言われた。「『心を尽くし、魂を尽くし、思いを尽くして、あなたの神、主を愛せよ。』これが第一の、最も重要な戒めである。第二の戒めもこれと同様である。『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ』。この二つの戒めによって、律法全体と預言者たちが確立されている。」さて、パリサイ人たちが集まったとき、イエスは彼らに尋ねられた。「あなたがたはキリストについてどう思うか。彼は誰の子か。」彼らはイエスに言った。「ダビデの子です。」イエスは彼らに言われた。「では、ダビデは、靈感を受けて、なぜ彼を『主』と呼んでいるのか。『主は、わが主に言われた。『わたしの右の座に着きなさい。わたしがあなたの敵をあなたの足の下に置くまで。』』と。ダビデが彼を『主』と呼んでいるのなら、どうして彼がダビデの子となり得るのか。」誰もイエスに一言も答えることができなかった。その日から、もはや誰もイエスに質問する勇氣はなかった。そこで、イエスは民衆と弟子たちに語りかけ、こう言われた。「律法学者たちとパリサイ人たちは、モーセの座に座っている。だから、彼らがあなたがたに守るよう命じることはすべて、守り、実行しなさい。しかし、彼らの行いには従ってはならない。彼らは口では言うが、行わないからだ。彼らは重くて背負いきれない荷を結び、人々の肩に負わせるが、自分たちは指一本動かそうともしない。それにもかかわらず、彼らは人々に自分たちを見てもらうために、あらゆる行いをしている。彼らは自分の宝物庫を広げ、衣のふちを長くしている。また、宴会での上座や、会堂での最前列の席、人々の集まりでの挨拶を好み、人々に『先生、先生』と呼ばれたいと願っている。しかし、あなたがたは『先生』と呼ばれてはならない。あなたがたの先生はキリストただお一人であり、あなたがたは皆、兄弟だからである。また、地上の誰をも『父』と呼んではならない。あなたがたの父は、天におられるただお一人だからである。さらに、『導き手』と呼ばれてはならない。あなたがたの導き手はキリストただお一人だからである。あなたがたの中で最も偉い者は、あなたがたのしもべとなりなさい。なぜなら、自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるからであ

る。ああ、律法学者たち、パリサイ人たち、偽善者たちよ、あなたがたは人々に天の御国を閉ざしている。あなたがた自身は入らず、入ろうとする者をも入れないからだ。 ああ、律法学者たち、パリサイ人たち、偽善者たちよ、あなたがたは未亡人の家を食べ物にし、偽善的に長い祈りを捧げている。それゆえ、あなたがたはなおさら厳しい裁きを受けることになる。ああ、律法学者たち、パリサイ人たち、偽善者たちよ、あなたがたは、たった一人でも改宗させるために海も陸も駆け巡る。そして、それが実現すると、その人をゲヘナの息子とし、自分たちよりも二倍も悪い者にしてしまう。 ああ、盲目の指導者たちよ、あなたがたは『神殿にかけて誓うなら何の問題もないが、神殿の金にかけて誓うならその誓いを果たさなければならない』と言う。愚かで盲目な者たちよ！ 金と、その金を聖別する神殿と、どちらがより重要なのか。 また、祭壇にかけて誓うなら何の問題もないが、その上に置かれた供え物にかけて誓うなら、その誓いを果たさなければならない。愚か者たち、盲人どもよ。どちらがより重要か。供え物か、それともその供え物を聖別する祭壇か。それゆえ、祭壇にかけて誓う者は、祭壇とその上に置かれたすべてのものを誓うのである。また、神殿にかけて誓う者は、神殿とそこに住まわれる方を誓うのである。さらに、天にかけて誓う者は、神の御座と、その上に座しておられる方を誓うのである。災いあれ、律法学者たち、パリサイ人たち、偽善者たちよ。あなたがたは、ミント、アニス、クミンから十分の一を納めながら、律法の中で最も重要なこと、すなわち、正義、憐れみ、誠実さを無視している。これらを行うべきであり、それらは無視してはならない。盲目の指導者たちよ、蚊を濾し取りながら、らくだを飲み込んでいるではないか！ ああ、律法学者たち、パリサイ人たち、偽善者たちよ、あなたがたは杯や皿の外側をきれいにしているが、その内側は強奪と不正で満ちている。盲目のパリサイ人よ！ まず杯や皿の内側をきれいにしなさい。そうすれば、外側もきれいになるのだ。 ああ、律法学者たち、パリサイ人たち、偽善者たちよ。あなたがたは、外見は美しく見えるが、内側は死人の骨やあらゆる不浄なもので満たされた、塗り固められた墓のような者たちだ。あなたがたもまた、外見上は人々に義人に見えるが、内側は偽善と不法に満ちている。 ああ、律法学者たち、パリサイ人たち、偽善者たちよ。あなたがたは預言者たちの墓を建て、義人たちの記念碑を飾り立て、「もし私たちが先祖たちの時代に生きていたなら、預言者たちの血を流すことに加担することはなかっただろう」と言う。こうして、あなたがたは自ら、預言者たちを殺した者たちの子孫であることを証ししているのだ。 さあ、あなたがたの先祖の罪の杯を満たしなさい。まむしども、毒蛇の群れよ！ あなたがたは、ゲヘナでの裁きから、どうして逃れられるというのか。それゆえ、見よ、わたしはあなたがたに預言者たち、知者たち、律法学者たちを遣わす。あなたがたは、ある者たちを殺し、十字架につけ、またある者たちを会堂で打ち、町から町へと追い回すであろう。 こうして、地上で流されたすべての義人の血が、義人アベルの血から、あなたがたが神殿と祭壇の間で殺したバラキヤの子ザカリヤの血に至るまで、あなたがたの上に降りかかるであろう。まことに、あなたがたに告げる。これらすべてがこの一族の上に降りかかる。エルサレム、エルサレム。預言者を殺し、あなたに遣わされた者たちを石で打ち殺す者よ！ 何度、私は鳥が雛を翼の下に集めるように、あなたがたの子供たちを集めようとしたことか。しかし、あなたがたはそれを望まなかった！ 見よ、あなたがたの家は荒れ果てたまま残される。なぜなら、あなたがたに告げる。あなたがたが『主の御名によって来られる方、祝福あれ』と叫ぶまでは、今後、私を見ることはないからだ。

マタイによる福音書 22:15-23:39
聖火曜日、早課にて。

マタイによる福音書、第91章

そのころ、復活はないと主張するサドカイ派の人々がイエスのもとにやって来て、こう尋ねた。「先生、モーセはこう言っています。『もし誰かが子供のいないまま死んだら、

その兄弟は妻を娶り、兄弟の子孫を残さなければならない。』私たちには七人の兄弟がいました。長男は結婚したが、子供のないまま死んで、妻を弟に残した。次男も、三男も、七男に至るまで、皆同じようにした。その後、妻も死んでしまった。では、復活のとき、七人のうち、誰の妻となるのだろうか。皆が彼女を妻にしていたのだから。」 イエスは彼らに答えて言われた。「あなたがたは、聖書も神の力も知らないから、誤っている。復活の世では、人は結婚もせず、嫁ぐこともなく、天にいる神の御使いたちのように、ただ存在しているのだ。」 また、死者の復活について、神があなたがたに言われたことを読まなかったのか。『わたしはアブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である』。神は死者の神ではなく、生ける者の神である。これを聞いて、人々はイエスの教えに驚いた。

マタイによる福音書 22:23-33
第10週の金曜日。

マタイによる福音書、第92章の冒頭

その頃、ある律法学者がイエスを試そうとして、こう尋ねた。「先生、律法の中で最も重要な戒めは何ですか。」 イエスは彼に言われた。「『心を尽くし、魂を尽くし、思いを尽くして、あなたの神、主を愛せよ。』これが第一の、最も重要な戒めである。第二の戒めもこれと同様である。『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ』。この二つの戒めによって、律法全体と預言者たちが確立されている。」 さて、パリサイ人たちが集まったとき、イエスは彼らに尋ねられた。「あなたがたはキリストについてどう思うか。彼は誰の子か。」 彼らはイエスに言った。「ダビデの子です。」 イエスは彼らに言われた。「では、ダビデは、靈感を受けて、主を『主』と呼んでいるではないか。『主は、わが主に言われた。『わたしの右の座にすわれ。わたしがあなたの敵をあなたの足の下に置くまで。』』と。」 それなら、ダビデが彼を『主』と呼んでいるのに、どうして彼がダビデの子と言えるのか。」 すると、誰もイエスに一言も答えることができず、その日から、もはや誰もイエスに質問することを敢えてしなくなった。

マタイによる福音書 22:35-46
第15週。

マタイによる福音書、第93章の冒頭

その頃、イエスは民衆や弟子たちに語りかけ、こう言われた。「律法学者やパリサイ人たちは、モーセの座に就いている。だから、彼らがあなたがたに守れと言うことはすべて、守り、実行しなさい。しかし、彼らの行いには従ってはならない。彼らは口では言うが、実行はしないからだ。彼らは重くて背負いきれない荷を結び、人々の肩に負わせるが、自分たちは指一本動かそうともしない。それにもかかわらず、彼らは人々に自分たちを見てもらうために、あらゆる行いをしている。彼らは自分の宝物庫を広げ、衣のふちを長くしている。また、宴会での上座や、会堂での最前列の席、人々の集まりでの挨拶を好み、人々に『先生、先生』と呼ばれたいと願っている。しかし、あなたがたは『先生』と呼ばれてはならない。あなたがたの先生はキリストお一人であり、あなたがたは皆、兄弟だからである。また、地上の誰をも『父』と呼んではならない。あなたがたの父は、天におられるお一人だけだからである。さらに、『導き手』と呼ばれてはならない。あなたがたの導き手はキリストお一人だからである。あなたがたの中で最も偉い者は、あなたがたのしもべとなりなさい。なぜなら、自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるからである。

マタイによる福音書 23:1-12
第14週の土曜日。

マタイによる福音書、94節

主は、御自身のもとにやって来たユダヤ人たちにこう言われた。「ああ、律法学者たち、パリサイ人たち、偽善者たちよ。あなたがたは、人々に天の御国を閉ざしている。あなたがた自身は入らないばかりか、入ろうとする者をも入れないからだ。」「ああ、律法学者たち、パリサイ人たち、偽善者たちよ、あなたがたは未亡人の家を食べ物にし、偽善的に長い祈りを捧げている。それゆえ、あなたがたはなおさら厳しい裁きを受けることになる。ああ、律法学者たち、パリサイ人たち、偽善者たちよ、あなたがたは海も陸も巡り歩いて、たった一人でも改宗させようと努める。そして、それが実現すると、その人をゲヘナの息子とし、自分たちよりも二倍も悪い者にしてしまう。ああ、盲目の指導者たちよ、あなたがたは『神殿にかけて誓うなら何の問題もないが、神殿の金にかけて誓うならその誓いを果たさなければならない』と言う。愚かで盲目な者たちよ！ 金と、その金を聖別する神殿と、どちらがより重要なのか。また、祭壇にかけて誓うなら何の問題もないが、その上に置かれた供え物にかけて誓うなら、その誓いを果たさなければならない。愚か者たち、盲人どもよ。どちらがより重要か。供え物か、それともその供え物を聖別する祭壇か。それゆえ、祭壇にかけて誓う者は、祭壇とその上に置かれたすべてのものを誓うのである。また、神殿にかけて誓う者は、神殿とそこに住まわれる方を誓うのである。さらに、天にかけて誓う者は、神の御座と、その上に座しておられる方を誓うのである。

マタイによる福音書 23:13-22
第11週の月曜日。

マタイによる福音書、第95章の冒頭

主は、御自身のもとにやって来たユダヤ人たちにこう言われた。「ああ、律法学者たち、パリサイ人たち、偽善者たちよ。あなたがたは、ミント、アニス、クミンなどの十分の一を納めながら、律法の中で最も重要なこと、すなわち、正義、憐れみ、誠実さを無視している。これを行うべきであり、あれを無視してはならない。盲目の指導者たちよ、蚊を濾し取りながら、ラクダを飲み込む者たちよ！ ああ、あなたたち、律法学者やパリサイ人、偽善者たちよ。杯や皿の外側を清めながら、その内側は強奪と不正で満ちているとは。盲目のパリサイ人よ！ まず杯や皿の内側を清めなさい。そうすれば、その外側も清くなるのだ。ああ、律法学者たち、パリサイ人たち、偽善者たちよ。あなたがたは、外見は美しく見えるが、内側は死人の骨やあらゆる不浄なもので満たされている、塗り固められた墓のような者たちだ。あなたがたもまた、外見上は人々に義人に見えるが、内側は偽善と不法に満ちている。

マタイによる福音書 23:23-28
第11週の火曜日。

マタイによる福音書、第96章

主は、御自身のもとにやって来たユダヤ人たちにこう言われた。「ああ、律法学者たち、パリサイ人たち、偽善者たちよ。あなたがたは預言者たちの墓を築き、義人たちの記念碑を飾り立て、『もし私たちが先祖の時代に生きていたなら、預言者たちの血を流すことに加担することはなかっただろう』と言う。こうして、あなたがたは、自分たちが預言者たちを殺した者たちの子孫であることを、自ら証言しているのだ。さあ、あなたがたの先祖の罪を、さらに満たしなさい。まむしども、毒蛇の子らよ！ あなたがたは、ゲヘナでの裁きから、どうして逃れられるというのか。それゆえ、見よ、わたしはあなたがたに預言者たち、知者たち、律法学者たちを遣わす。あなたがたは、ある者たちを殺し、十字架につけ、またある者たちを会堂で打ち、町から町へと追い回すであろう。こうして、地上で流されたすべての義人の血が、義人アベルの血から、あなたがたが神殿と祭壇の間で殺したバラキヤの子ザカリヤの血に至るまで、あなたがたの上に降りかかるであろう。

う。まことに、あなたがたに告げる。これらすべてがこの一族の上に降りかかる。エルサレム、エルサレム。預言者を殺し、あなたに遣わされた者たちを石で打ち殺す者よ！ 何度、私は鳥が雛を翼の下に集めるように、あなたがたの子供たちを集めようとしたことか。しかし、あなたがたはそれを望まなかった！ 見よ、あなたがたの家は荒れ果てたまま残される。なぜなら、あなたがたに告げる。あなたがたが『主の御名によって来られる方、祝福あれ』と叫ぶまでは、今後、私を見ることはないからだ。

マタイによる福音書 23:29-39
第11週の水曜日。

マタイによる福音書、第97章

その頃、イエスの弟子たちが近寄って来て、神殿の建物を見せようとした。イエスは彼らに言われた。「これらすべてが見えるか。まことに、あなたがたに告げる。ここには石が一つも石の上に残らず、すべて取り壊される。」イエスがオリーブ山に座しておられるとき、弟子たちが人目を避けて近寄って来て、尋ねた。「教えてください。それはいつのことですか。 また、あなたの再臨と世の終わりのしるしはどのようなものですか」。イエスは答えて言われた。「だれにも惑わされないように気をつけなさい。多くの者がわたしの名をかたってやって来て、『わたしがキリストだ』と言い、多くの人を惑わすからです。また、戦争や戦争のうわさも耳にするでしょう。 見よ、恐れてはならない。これらすべては起こるべきことだが、まだ終わりではない。民族が民族に、王国が王国に立ち向かい、所々で飢饉や疫病、地震が起こるだろう。しかし、これらは苦難の始まりに過ぎない。 そのとき、あなたがたは迫害を受け、殺されることになる。また、わたしの名のために、すべての民から憎まれる。そのとき、多くの者がつまずき、互いに裏切り、互いに憎み合うようになる。また、多くの偽預言者が現れて、多くの人を惑わす。不法がはびこるため、多くの人の愛は冷める。しかし、最後まで耐え忍ぶ者は救われる。

マタイによる福音書 24:1-13
第15週の土曜日。

マタイによる福音書、98節

その頃、イエスがオリーブ山に座しておられたとき、弟子たちが人目を避けてイエスのところに来て、尋ねた。「教えてください。それはいつ起こるのですか。また、あなたの再臨と世の終わりのしるしは何ですか。」イエスは答えて言われた。「だれにも惑わされないように気をつけなさい。多くの者がわたしの名をかたってやって来て、『わたしこそがキリストだ』と言い、多くの人を惑わすだろう。また、戦争や戦争の噂を耳にするだろう。しかし、恐れてはならない。それらはすべて起こるべきことだが、まだ終わりではない。民族が民族に、王国が王国に立ち向かい、所々で飢饉や疫病、地震が起こるだろう。しかし、これらはすべて、苦難の始まりに過ぎない。 そのとき、あなたがたは迫害を受け、殺されることになる。また、わたしの名のために、すべての民から憎まれる。そのとき、多くの者がつまずき、互いに裏切り、互いに憎み合うようになる。多くの偽預言者が現れて、多くの人を惑わす。不法がはびこるため、多くの者の愛は冷める。 しかし、最後まで耐え忍ぶ者は救われる。そして、この御国の福音が、すべての国々への証しとして、全世界に宣べ伝えられる。そのとき、終わりが来る。 それゆえ、預言者ダニエルによって語られた『荒廃の憎むべきもの』が聖なる場所に立っているのを見たら——読む者は理解せよ——そのとき、ユダヤにいる者は山へ逃げよ。屋根の上にいる者は、家から何かを取りに下りてはならない。野原にいる者は、着替えを取りに振り返ってはならない。 その頃、妊娠している者や乳飲み子を抱いている者には、なんと悲惨なことか。あなたがたの逃亡が冬や安息日に当たらないよう、祈りなさい。その時には、世の初めから今に至るまで、また今後もないような大いなる苦難が起こるからである。もしあの日数が

短縮されなければ、いかなる人間も救われることはなかっただろう。しかし、選ばれた者たちのために、あの日数は短縮されるのである。そのとき、もしだれかが『見よ、キリストはここにいる』とか『あそこにいる』と言ったら、信じてはならない。偽キリストや偽預言者たちが現れ、もし可能なら、選ばれた者たちまでも惑わそうとして、大きなしるしや奇跡を行うからである。見よ、わたしはあらかじめあなたがたに告げておいた。ですから、もし『見よ、彼は荒野にいる』と言われても、そこへ行ってはなりません。『見よ、彼は隠れた部屋にいる』と言われても、信じてはなりません。なぜなら、稲妻が東から出て西まで見えるように、人の子の到来もそうなるからです。死体があるところには、鷲が集まるからです。そして、あの日々の苦難の後、突然、太陽は暗くなり、月は光を放たず、星は天から落ち、天の力は揺らぐ。その時、人の子のしるしが天に現れる。そして、地上のすべての民族は嘆き悲しみ、人の子が天の雲に乗って、大いなる力と栄光をもって来られるのを見る。また、主は御自分の天使たちを、轟くラッパの音とともに遣わし、四方の風から、天の果てから果てまで、御自分の選ばれた者たちを集める。いちじくの木を例に挙げよう。その枝が柔らかくなり、葉が生え始めると、夏が近いことを知る。同じように、あなたがたがこれらすべてを見たら、それが近く、戸口まで来ていることを知れ。まことに、あなたがたに告げる。この世代が過ぎ去る前に、これらすべてが起こる。天と地は過ぎ去っても、わたしの言葉は決して過ぎ去らない。

マタイによる福音書 24:3-35
聖月曜日、聖体礼儀にて。

マタイによる福音書、第99章

主は弟子たちに言われた。「最後まで耐え忍ぶ者は救われる。この御国の福音が、すべての国々に宣べ伝えられ、すべての民への証しとなる。そして、そのとき、終わりが来る。」それゆえ、預言者ダニエルによって語られた『荒廃の忌まわしきもの』が聖なる場所に立っているのを見たら——読む者は悟れ——そのとき、ユダヤにいる者は山へ逃げよ。屋根の上にいる者は、家から何かを取りに下りてはならない。野原にいる者は、着替えを取りに振り返ってはならない。その頃、妊娠している者や乳飲み子を抱いている者には、なんと悲惨なことか。あなたがたの逃亡が冬や安息日に当たらないよう、祈りなさい。その時には、世の初めから今に至るまで、また今後もないような大いなる苦難が起こるからである。もしあの日が短縮されなければ、いかなる人間も救われないだろう。しかし、選ばれた者たちのために、あの日は短縮されるのである。そのとき、もしだれかが『見よ、キリストはここにいる』とか『あそこにいる』と言ったら、信じてはならない。偽キリストや偽預言者たちが現れ、もし可能なら、選ばれた者たちまでも惑わそうとして、大きなしるしや奇跡を行うからである。見よ、わたしはあらかじめあなたがたに告げておいた。ですから、もし『見よ、彼は荒野にいる』と言われても、そこへ行ってはならない。『見よ、彼は隠れた部屋にいる』と言われても、信じてはならない。なぜなら、稲妻が東から出て西まで見えるように、人の子の到来もそうなるからである。死体があるところには、鷲が集まるからである。

マタイによる福音書 24:13-28
第11週の木曜日。

マタイによる福音書、第100節

主は弟子たちに言われた。「稲妻が東から輝き、西まで見えるように、人の子の到来もそうである。死体があるところには、鷲が集まるからである。そして、あの日々の苦難の後、突然、太陽は暗くなり、月は光を放たず、星は天から落ち、天の力は揺らぐ。その時、人の子のしるしが天に現れる。そして、地上のすべての民族は嘆き悲しみ、人の子が天の雲に乗って、大いなる力と栄光をもって来られるのを見る。また、主は御自分の

天使たちを、轟くラッパの音とともに遣わし、四方の風から、天の果てから果てまで、御自分の選ばれた者たちを集める。 いちじくの木を例に挙げよう。その枝が柔らかくなり、葉が生え始めると、夏が近いことを知る。同じように、あなたがたがこれらすべてを見たら、それが近く、戸口まで来ていることを知れ。 だから、目を覚ましていなさい。あなたがたの主がいつ来られるか、あなたがたには分からないからである。しかし、あなたがたも知っているように、もし家の主人が、泥棒がどの番の時間にやって来るかを知っていたなら、目を覚ましていて、自分の家に穴を掘られることを防いだであろう。それゆえ、あなたがたも備えをしておきなさい。あなたがたが思ってもいない時に、人の子が来られるからである。 さて、主人が自分のしもべたちを管理し、時宜にかなって食事を与えるよう任せた、忠実で分別のあるしもべとは、いったい誰のことでしょうか。主人が帰って来て、そのようにしているのを見つけたしもべは、幸いである。まことに、あなたがたに言うておく。主人はそのしもべを、自分のすべての財産の管理者に任せるであろう。しかし、もしそのしもべが悪意を持って、心の中で『主人はすぐには来ない』と言い、仲間のしもべたちを殴り、酒飲みたちと一緒に食べたり飲んだりし始めたなら、そのしもべの主人は、彼が予期しない日、思いもよらない時に来て、彼を厳しく罰し、偽善者たちと同じ運命に処するであろう。そこでは、泣き叫びと歯ざしりがあるであろう。

マタイ 24:27-33; 42-51
第11週の金曜日。

マタイによる福音書、101節

主は弟子たちに言われた。「まことに、あなたがたに告げます。この世代が過ぎ去るまでは、これらのことがすべて起こるでしょう。天と地は過ぎ去っても、わたしの言葉は決して過ぎ去ることはありません。その日とその時については、だれも知りません。天の御使いたちも知りません。ただ、わたしの父だけが知っておられます。 しかし、ノアの日のように、人の子の到来もそうなるであろう。すなわち、大洪水の前の日々に、人々は食べ、飲み、結婚し、嫁いでいたが、ノアが箱舟に入ったその日まで、洪水が来てすべての人を滅ぼすまでは、何も気づかなかった。人の子の到来も、それと同じようにあるであろう。 その時、畑に二人がいれば、一人は連れて行かれ、もう一人は残される。石臼で粉を挽いている二人のうち、一人は連れて行かれ、もう一人は残される。 だから、目を覚ましていなさい。あなたがたの主がいつ来られるか、あなたがたには分からないからである。しかし、あなたがたはこれを知っている。もし家の主人が、泥棒がどの番の時間にやって来るかを知っていたなら、目を覚ましていて、自分の家に穴を開けさせなかったであろう。それゆえ、あなたがたも備えをしておきなさい。あなたがたが思ってもいない時に、人の子が来られるからである。

マタイによる福音書 24:34-44
第16週の土曜日。

マタイによる福音書、102節

主は弟子たちに言われた。「その日と時刻については、だれも知らない。天の御使いたちも知らず、ただわたしの父だけが知っておられる。 しかし、ノアの日のように、人の子の到来もそうなるであろう。すなわち、大洪水の前の日々に、人々は食べ、飲み、結婚し、嫁いでいたが、ノアが箱舟に入ったその日まで、大洪水がやって来てすべての人を滅ぼすまで、何も気づかなかった。人の子の到来も、それと同じようにあるであろう。 その時、畑に二人がいれば、一人は連れて行かれ、もう一人は残される。石臼で粉を挽いている二人のうち、一人は連れて行かれ、もう一人は残される。 だから、目を覚ましていなさい。あなたがたの主がいつ来られるか、あなたがたには分からないからである。しかし、あなたがたも知っているように、もし家の主人が、泥棒がどの番の時間にやって来

るかを知っていたなら、目を覚ましていて、自分の家に穴を開けさせたりはしなかっただろう。それゆえ、あなたがたも備えをしておきなさい。あなたがたが思ってもいない時に、人の子が来られるからである。 さて、主人が自分のしもべたちの上に立てて、時宜にかなって食事を与えるようにした、忠実で分別のあるしもべとは、いったい誰のことでしょうか。主人が帰って来て、そのようにしているのを見つけたしもべは、幸いである。まことに、あなたがたに言っておく。主人はそのしもべを自分のすべての財産の管理者に立てるであろう。 しかし、もしそのしもべが悪意を持って、心の中で『主人はすぐには来ない』と言い、仲間のしもべたちを殴り、酒飲みたちと一緒に食べたり飲んだりし始めたなら、そのしもべの主人は、彼が予期しない日、思いもよらない時にやって来て、彼を厳しく罰し、偽善者たちと同じ運命に処するであろう。 そこでは泣き叫び、歯ぎしりするだろう。そのとき、天の御国は、ランプを持って花婿を迎えに出た十人の乙女たちに似ている。そのうち五人は賢く、五人は愚かであった。愚かな者たちは、ランプは持ったが、油は持っていかなかった。しかし、賢い者たちは、ランプとともに、自分の器に油を入れて持っていた。 花婿が遅れたため、皆うとうとして眠り込んでしまった。しかし真夜中、叫び声が響いた。「見よ、花婿が来る。彼を迎えに出よ。」そこで、すべての乙女たちは起き上がり、自分のランプを整えた。愚かな者たちは賢い者たちに言った。「私たちに油を分けてください。私たちのランプが消えかけているのです。」すると、賢い乙女たちは答えた。「私たちにあなたたちにも不足が生じないように、売り手のもとへ行って、自分で買ってきなさい。」彼女たちが買いに行っている間に、花婿がやって来て、準備の整っていた者たちは彼と共に婚礼の宴に入り、扉が閉ざされた。その後、他の乙女たちもやって来て言った。「主よ！ 主よ！ 私たちに開けてください。」すると、花婿は彼らに答えて言った。「まことに、あなたがたに言います。私はあなたがたを知りません。 だから、目を覚ましていなさい。人の子がいつ来るのか、その日もその時間も、あなたがたには分からないからである。彼は、外国へ旅立つ人が、自分のしもべたちを呼び集めて、自分の財産を任せたのと同じようにする。ある者には五タラント、ある者には二タラント、またある者には一タラントを、それぞれの能力に応じて与え、すぐに旅立った。 五タラントを受け取った者は行って、それを運用してさらに五タラントを儲けた。同様に、二タラントを受け取った者も、さらに二タラントを儲けた。しかし、一タラントを受け取った者は行って、それを地中に埋めて、主人の銀を隠しておいた。長い時間が経って、その僕たちの主人が帰ってきて、彼らに報告を求めた。すると、五タラントを受け取った者が近づき、さらに五タラントを持って来て言った。「ご主人様、あなたは私に五タラントをお与えになりました。ご覧ください、これでさらに五タラントを稼いだのです。」主人は彼に言った。「よくやった、良い忠実な僕だ。わずかなことに忠実であったから、多くのことを任せるつもりだ。ご主人様の喜びの中に入れ。」 また、二タラントを受け取った者も近づいて来て言った。「ご主人様！ あなたは私に二タラントをお与えになりました。ご覧ください、それでさらに二タラントを稼いで参りました。」すると、その主人は彼に言った。「よくやった、良い忠実な僕だ。わずかなことに忠実であったから、多くのことを任せるつもりだ。ご主人様の喜びの中に入れ。」 また、一つのタラントを受け取った者も近づいて来て言った。「ご主人様！ あなたは厳しい方だと知っていました。蒔いていないところで刈り取り、撒いていないところで集める方ですから。恐れて、あなたのタラントを地中に隠しておきました。さあ、これをお受け取りください。」すると、主人は彼に答えて言った。「悪賢く、怠惰な僕よ！ 私が蒔いていないところで刈り取り、撒いていないところで集めることを、あなたは知っていたはずだ。それゆえ、私の銀を商人たちに預けておくべきだった。そうすれば、私が戻ったとき、元金に加えて利益も受け取れたはずだ。 だから、彼からそのタラントを取り上げて、十タラント持っている者に与えなさい。持っている者はさらに与えられて増し加えられるが、持たない者からは、

持っているものまでも取り上げられるからだ。そして、この役に立たないしもべを、外の暗闇に放り出せ。そこでは、泣き叫び、歯ざしりするだろう。 こう言った後、主はこう叫ばれた。「聞く耳のある者は、聞きなさい。」 人の子がその栄光のうちに、すべての聖なる天使たちを伴って来るとき、その栄光の御座に着き、すべての民がその御前に集められる。そして、羊飼いが羊と山羊とを分け隔てるように、人々を分け隔て、羊を御自身の右に、山羊を左に立たせる。 その時、王は右側にいる者たちにこう言われる。「さあ、わたしの父に祝福された者たちよ、世の初めからあなたがたのために用意されていた御国を受け継ぎなさい。わたしは空腹だったとき、あなたがたはわたしに食べ物を与えてくれた。 渴いていたとき、あなたがたは私に飲み物を与えてくれた。旅人であったとき、あなたがたは私を受け入れてくれた。裸であったとき、あなたがたは私に服を着せてくれた。病んでいたとき、あなたがたは私を見舞ってくれた。牢屋にいたとき、あなたがたは私を訪ねてくれた。」 その時、義人たちは彼に答えて言うでしょう。「主よ、いつ私たちが、あなたが飢えているのを見て、食べ物を差し上げたのでしょうか。あるいは、渴いているのを見て、飲み物を差し上げたのでしょうか。いつ私たちが、あなたが旅人であるのを見て、迎え入れたのでしょうか。あるいは、裸であるのを見て、服を着せてあげたのでしょうか。いつ私たちが、あなたが病気であるのを見て、あるいは牢屋にいるのを見て、あなたを訪ねたのでしょうか。」 すると、王は彼らに答えて言われる。「まことに、あなたがたに告げます。あなたがたが、これらのわたしの最も小さな兄弟たちの一人にしたことは、わたしにしたのです。」 それから、左側にいる者たちにもこう言われる。「わたしから離れよ、のろわれた者たちよ。悪魔とその使いたちのために用意された永遠の火の中へ。わたしは飢えていたのに、あなたがたはわたしに食べ物を与えなかった。 渴いていたのに、あなたがたは私に飲み物を与えなかった。旅人であったのに、あなたがたは私を受け入れなかった。裸であったのに、あなたがたは私に服を着せてくれなかった。病に伏せ、牢屋にいたのに、あなたがたは私を訪ねてくれなかった。」 すると、彼らもまた彼に答えて言うだろう。「主よ！ いつ、あなたがたは、わたしが飢えているのを見たり、渴いているのを見たり、旅人であるのを見たり、裸であるのを見たり、病気であるのを見たり、牢屋にいるのを見たりして、わたしに仕えなかったのですか。」 すると、主は彼らに答えて言われる。「まことに、あなたがたに告げます。あなたがたが、これらの最も小さい者の一人にさえ、そうしなかったのは、わたしにそうしなかったのです。」 こうして、彼らは永遠の懲罰へと行き、義人たちは永遠の命へと行くのです。 イエスはこれらの言葉をすべて語り終えると、弟子たちに言われた。「あなたがたも知っているように、二日後には過越の祭りが始まり、人の子は十字架につけられる。」

マタイによる福音書 24:36-26:2
聖火曜日、聖体礼儀にて。

マタイによる福音書、103章の冒頭

主は弟子たちに言われた。「目を覚ましていなさい。あなたがたの主がいつ来られるか、あなたがたにはわからないからである。しかし、家の主人が、泥棒がどの番の時間にやって来るかを知っていたなら、目を覚ましていて、自分の家に穴を開けさせなかっただろうということは、あなたがたも知っているはずだ。 それゆえ、あなたがたも備えをしておきなさい。あなたがたが思ってもいない時に、人の子が来られるからである。主人が、自分のしもべたちを管理し、時宜にかなって食事を与えるようにと、そのしもべたちの上に立てた、忠実で分別のあるしもべとは、いったい誰のことだろうか。主人が帰って来て、そのしもべがこのようにしているのを見つけたなら、そのしもべは幸いである。まことに、あなたがたに告げる。主人は、そのしもべを自分のすべての財産の管理者に立てるであろう。

マタイによる福音書、第104章

主はこのたとえを語られた。「天の御国は、十人の乙女に似ている。彼女たちは、自分のランプを持って、花婿を迎えに出かけた。そのうち五人は賢く、五人は愚かであった。愚かな者たちは、自分のランプは持ったが、油は持っていかなかった。しかし、賢い者たちは、自分のランプとともに、器に油を入れて持っていた。花婿が遅れたため、皆うとうとして眠り込んでしまった。しかし、真夜中に「花婿が来る。出迎えてあげなさい」という叫び声が上がった。そこで、すべての乙女たちは起き上がり、自分のランプを整えた。愚かな乙女たちは賢い乙女たちに言った。「私たちのランプが消えかけているので、あなたの油を少し分けてください。」すると、賢い乙女たちは答えた。「私たちにもあなたたちにも不足が生じないように、売り手のもとへ行って、自分で買ってきなさい。」彼女たちが買いに行っている間に、花婿がやって来た。準備ができていた者たちは、彼と共に婚礼の宴に入り、扉は閉ざされた。その後、他の乙女たちもやって来て言った。「主よ！主よ！私たちに開けてください。」すると、彼は答えて言った。「まことに、あなたがたに言います。私はあなたがたを知りません。」ですから、目を覚ましていなさい。人の子がいつ来るのか、その日もその時間も、あなたがたには分からないからです。

マタイ 25:1-13
第17週の土曜日。
殉教者たち。

マタイによる福音書、105節

主はこのたとえを語られた。「ある人が、外国へ旅立つにあたり、自分の僕たちを呼び寄せ、自分の財産を彼らに託した。ある者には五タラント、ある者には二タラント、またある者には一タラントを、それぞれの能力に応じて与え、すぐに旅立った。五タラントを受け取った者は行って、それを運用してさらに五タラントを儲けた。同様に、二タラントを受け取った者も、さらに二タラントを儲けた。しかし、一タラントを受け取った者は行って、それを地中に埋めて、主人の銀を隠しておいた。長い時が経って、その僕たちの主人が帰ってきて、彼らに報告を求めた。すると、五タラントを受け取った者が近づき、さらに五タラントを持って来て言った。「ご主人様、あなたは私に五タラントをお与えになりました。ご覧ください、これでさらに五タラントを稼いだのです。」主人は彼に言った。「よくやった、良い忠実な僕だ。わずかなことに忠実であったから、多くのことを任せるつもりだ。ご主人様の喜びの中に入れ。」また、二タラントを受け取った者も近づいて来て言った。「ご主人様！あなたは私に二タラントをお与えになりました。ご覧ください、それでさらに二タラントを稼いで参りました。」すると、その主人は彼に言った。「よくやった、良い忠実な僕だ。わずかなことに忠実であったから、多くのことを任せるつもりだ。ご主人様の喜びの中に入りなさい。」また、一つのタラントを受け取った者も近づいて来て言った。「ご主人様！あなたは厳しい方だと知っていました。蒔いていないところで刈り取り、撒いていないところで集める方ですから。恐れて、あなたのタラントを地中に隠しておきました。さあ、これをお受け取りください。」すると、主人は彼に答えて言った。「悪賢く、怠惰な僕よ！私が蒔いていないところで刈り取り、撒いていないところで集めることを、あなたは知っていたはずだ。それゆえ、私の銀を商人たちに預けておくべきだった。そうすれば、私が戻ったとき、元金に加えて利益も受け取れたはずだ。だから、彼からそのタラントを取り上げて、十タラント持っている者に与えなさい。持っている者はさらに与えられて増し加えられるが、持たない者からは、持っているものまでも取り上げられるからだ。そして、この役に立たないしもべを、外の

暗闇に放り出せ。そこでは、泣き叫び、歯ぎしりするだろう。 こう言われた後、主はこう叫ばれた。「聞く耳のある者は、聞きなさい。」

マタイによる福音書 25:14-30
第16週。

マタイによる福音書、106節

主は言われた。「人の子がその栄光のうちに、すべての聖なる御使いたちを伴って来るとき、その栄光の御座に着き、すべての民がその御前に集められる。そして、羊飼いが羊と山羊とを分け隔てるように、人を分け隔てる。 羊を御自身の右に、山羊を左に立たせる。その時、王は右にいる者たちにこう言われる。『さあ、わたしの父に祝福された者たちよ、世の初めからあなたがたのために用意されていた御国を受け継ぎなさい。わたしは飢えていたのに、あなたがたはわたしに食べ物を与えてくれた。 渴いていたとき、あなたがたは私に飲み物を与えてくれた。旅人であったとき、あなたがたは私を受け入れてくれた。裸であったとき、あなたがたは私に服を着せてくれた。病んでいたとき、あなたがたは私を見舞ってくれた。牢屋にいたとき、あなたがたは私を訪ねてくれた。』 その時、義人たちは彼に答えて言うでしょう。「主よ、いつ私たちが、あなたが飢えているのを見て、食べ物を差し上げたのでしょうか。あるいは、渴いているのを見て、飲み物を差し上げたのでしょうか。いつ私たちが、あなたが旅人であるのを見て、迎え入れたのでしょうか。あるいは、裸であるのを見て、服を着せてあげたのでしょうか。いつ私たちが、あなたが病気であるのを見て、あるいは牢屋にいるのを見て、あなたを訪ねたのでしょうか。」すると、王は彼らに答えて言われる。「まことに、あなたがたに告げます。あなたがたが、これらのわたしの最も小さな兄弟たちの一人にしたことは、わたしにしたのです。」それから、左側にいる者たちにもこう言われる。「わたしから離れよ、のろわれた者たちよ。悪魔とその使いたちのために用意された永遠の火の中へ。わたしは飢えていたのに、あなたがたはわたしに食べ物を与えなかった。 渴いていたのに、あなたがたは私に飲み物を与えなかった。旅人であったのに、あなたがたは私を受け入れなかった。裸であったのに、あなたがたは私に服を着せてくれなかった。病に伏せ、牢屋にいたのに、あなたがたは私を訪ねてくれなかった。」すると、彼らもまた彼に答えて言うだろう。「主よ！ いつ、あなたがたは、私が飢えているのを見たり、渴いているのを見たり、旅人であるのを見たり、裸であるのを見たり、病気であるのを見たり、牢屋にいるのを見たりして、私に仕えなかったのですか？」すると、主は彼らにこう答えて言われる。「まことに、あなたがたに告げます。あなたがたが、これらの最も小さい者の一人にさえ、そうしなかったのは、私にもそうしなかったのです。」こうして、彼らは永遠の懲罰へと行き、義人たちは永遠の命へと行くのです。

マタイによる福音書 25:31-46
肉断ちの週。

マタイによる福音書、第107章

主は弟子たちにこう言われた。「あなたがたも知っているように、あと二日で過越の祭りが始まり、人の子は十字架につけられることになる。」 そこで、祭司長たち、律法学者たち、そして民の長老たちは、カイアファという名の祭司長の庭に集まり、評議会でイエスを策略をもって捕らえ、殺すことを決めた。しかし、「民衆の間に騒動が起こらないように、祭りの期間中は避けるように」と話し合った。 イエスがベタニヤにある、らい病のシモンの家におられたとき、ある女が、高価な香油の入ったアラバストルの壺を持ってイエスのところへ近づき、横たわっておられるイエスの頭にその香油を注いだ。これを見た弟子たちは憤り、言った。「なぜ、そんな無駄遣いをするのか。 この香油を高い値段で売って、貧しい人々に施すこともできたはずだ。」しかし、イエスはその意図を悟

って、彼らに言われた。「なぜ、この女を責めるのか。彼女はわたしのために良い行いをしたのだ。貧しい人々はいつもあなたがたと共にいるが、わたしはずっとあなたがたと共にいるわけではない。この香油をわたしの体に注ぐことで、彼女はわたしの埋葬の準備をしたのだ。まことに、あなたがたに言うておく。この福音が全世界で宣べ伝えられるところでは、彼女の記念として、また彼女がしたこの行いについても語られるであろう。」

すると、十二人のうちの一人、ユダ・イスカリオテと呼ばれる者が、祭司長たちのところへ行って言った。「あなたがたは私に何を与えてくれるか。そうすれば、私は彼をあなたがたに引き渡そう。」 彼らは彼に三十シェケル銀を提示した。それ以来、彼はイエスを引き渡す好機を伺っていた。過越の祭りの初日、弟子たちはイエスのところに来て言った。「どこで、あなたのために過越の食事を用意すればよいのでしょうか。」 イエスは言われた。「町へ行って、ある人のところへ行き、『先生がおっしゃるには、わたしの時は近づいている。あなたの家で、わたしの弟子たちと共に過越の食事をとろう』と伝えなさい。」 弟子たちは、イエスが命じられたとおりにして、過越の食事を用意した。夕方になると、イエスは十二人の弟子たちと共に食卓に着かれた。 イエスは、父がすべてのものを御自分の手に委ねておられること、また、御自身が神から出てきて、神のもとへ帰られることを知っておられた。そこで、夕食の席から立ち上がり、上着を脱ぎ、布を取り、腰に巻かれた。それから、洗面器に水を注ぎ、弟子たちの足を洗い、腰に巻いていた布で拭き始めた。 シモン・ペテロのところに来ると、ペテロはイエスに言った。「主よ、あなたが私の足を洗われるのですか。」 イエスは彼に答えて言われた。「私が今していることは、あなたは今はわからないが、後でわかるようになる。」 ペテロは言った。「決して私の足を洗わないでください。」 イエスは彼に言われた。「もし私があなたを洗わなければ、あなたは私と何の関係もない。」 シモン・ペテロは言った。「主よ、足だけでなく、手も頭も洗ってください。」 イエスは彼に言われた。「すでに洗われた者は、足だけを洗えばよい。全身が清いからである。あなたがたも清いが、すべてではない。」 イエスは、自分を裏切る者が誰であるかを知っておられたから、「あなたがたはすべて清いわけではない」と言われたのである。そして、彼らの足を洗い、自分の服を着ると、再び席に着いて、彼らに言われた。「わたしがあなたがたにしたことを、わかっているか。あなたがたは、わたしを『先生』、『主』と呼んでいる。その通りだ。わたしはまさにそれだからである。それゆえ、わたしが、主であり先生であるのに、あなたがたの足を洗ったのだから、あなたがたも互いに足を洗い合わなければならない。 わたしはあなたがたに模範を示したので、あなたがたも、わたしがあなたがたにしたのと同じことをするように。まことに、まことに、あなたがたに言います。しもべは主人に勝るものではなく、使者は遣わした者に勝るものではありません。もしあなたがたがこれを知っているのであれば、それを実行するとき、あなたがたは幸いである。そして、彼らが食事をしているとき、イエスは言われた。「まことに、あなたがたに言います。あなたがたのうちの一人がわたしを裏切ります。」 彼らは大いに悲しみ、一人ひとりがイエスに尋ねた。「主よ、私ではありませんか。」するとイエスは答えて言われた。「わたしと一緒に皿に手を入れた者が、わたしを裏切るのだ。しかし、人の子は、彼について書かれているとおりに行く。ただ、人の子が裏切られるその人には、災いがある。その人は、生まれてこなかったほうがよかったのだ。」

すると、イエスを裏切るユダも、「先生、私ではありませんか」と言った。イエスは彼に言われた。「あなたが言ったのだ。」 彼らが食事をしているとき、イエスはパンを取り、祝福して、それを裂き、弟子たちに配りながら言われた。「これを受け取り、食べなさい。これはわたしの体である。」 また、杯を取り、感謝をささげてから、彼らに差し出し、こう言われた。「皆、これから飲みなさい。これは、多くの人の罪を赦すために注がれる、わたしの血、すなわち新しい契約の血である。あなたがたに言うておく。

これから先、わたしの父の御国で、あなたがたと共に新しいぶどう酒を飲むその日まで、わたしはもはやこのぶどうの実から造られた酒を飲むことはない。」そして、賛美を歌った後、彼らはオリブ山へと向かった。その時、イエスは彼らに言われた。「今夜、あなたがたは皆、わたしのことでつまづくことになる。なぜなら、『わたしは羊飼いを打つ。そうすれば、羊の群れは散らされる』と書いてあるからだ。しかし、わたしが復活した後、ガリラヤであなたがたに先立って行く。」ペトロはそれに答えて言った。「たとえ皆があなたに背いたとしても、私は決して背きません。」イエスは彼に言われた。「まことに、あなたに告げます。今夜、鶏が鳴く前に、あなたは三度、わたしを否むでしょう。」ペテロはイエスに言った。「たとえ、あなたと共に死ぬことになっても、あなたを否定することはありません。」弟子たちも皆、同じように言った。その後、イエスは彼らと共にゲツセマネと呼ばれる場所へ行き、弟子たちに言われた。「私があそこで祈っている間、あなたがたはここに座っていてください。」そして、ペトロとゼベダイの二人の息子を連れて行き、深く悲しみ、苦悩し始めた。その時、イエスは彼らに言われた。「わたしの心は死の苦しみで満ちている。ここにいて、わたしと共に目を覚ましていなさい。」そして、少し離れて、顔を地面につけて祈り、こう言われた。「父よ！もし可能ならば、この杯をわたしから取り除いてください。しかし、わたしの願いではなく、御心のままに。」すると、天から御使いが現れて、イエスを力づけた。イエスは苦闘しながら、なお熱心に祈り続け、その汗は、まるで血の滴のように地面に落ちていた。祈りを終えて立ち上がり、弟子たちのところへ来ると、彼らは眠っていた。そこでペトロに言った。「あなたがたは、たった一時間でも、わたしと共に目を覚ましていられなかったのか。誘惑に陥らないように、目を覚まして祈りなさい。霊は目覚めているが、肉は弱いのだ。」また、別の時に離れて行き、こう祈られた。「わが父よ。もしこの杯が、わたしがそれを飲まずに済むように、わたしを過ぎ去ることができないのなら、あなたの御心が行われますように。」そして戻ってくると、彼らはまた眠っていた。彼らの目は重くなっていたからである。そこで、彼らを置いて再び離れ、三度目に同じ言葉を述べて祈った。それから、弟子たちのところに来て、彼らに言った。「あなたがたは、まだ眠って休んでいるのか。見よ、時は近づいた。人の子は罪人たちの手に引き渡される。起きなさい、行こう。見よ、わたしを裏切る者が近づいている。」イエスがまだ話しておられると、十二人の一人であるユダが、大祭司や民の長老たちから遣わされた剣や棒を持った大勢の群衆を連れてやって来た。イエスを引き渡す者は、彼らに合図をして言った。「私が口づけをする者がその人だ。その人を捕らえなさい。」そして、すぐにイエスのところへ近づき、「ラビ、おめでとう」と言って、イエスに口づけをした。イエスは彼に言われた。「友よ、何のために来たのか。」すると、人々が近づいてイエスに手をかけ、捕らえた。すると、イエスと共におられた者の一人が、手を伸ばして剣を抜き、大祭司の僕を打って、その耳を切り落とした。そこで、イエスは彼に言われた。「その剣を鞘に納めなさい。剣を取る者は皆、剣によって滅びる。それとも、私が今、父に願えば、父が十二軍団もの天使を私のために遣わしてくださると思わないのか。しかし、そうなるべきだと書かれている聖書の言葉はどうなるのか。」そのとき、イエスは民衆に言われた。「まるで強盗を捕らえるかのように、剣や棒を持って、わたしを捕らえに来たのか。わたしは毎日、あなたがたと共に神殿で教えていたが、あなたがたはわたしを捕らえようとはしなかった。しかし、これらはすべて、預言者たちの聖書が成就するためであった。」すると、弟子たちは皆、イエスを見捨てて逃げ去った。イエスを捕らえた者たちは、大祭司カイアファのところに連れて行った。そこには、律法学者や長老たちが集まっていた。ペテロは、遠くからイエスについて行き、大祭司の庭まで入った。そして中に入り、どうなってしまうのか見届けるために、奉仕者たちと一緒に座った。大祭司や長老たち、そしてシネドリオの全員は、イエスを死に追いやるために、イエスに対する偽りの証言を探したが、見つからな

かった。多くの偽証人が現れたが、見つからなかった。しかし、ついに二人の偽証人が来て、こう言った。「彼は、『私は神の神殿を壊し、三日で建て直すことができる』とっていた。」そこで、大祭司は立ち上がって、イエスに言った。「何も答えないのか。彼らがあなたに対して証言していることについて、どう答えるのか。」イエスは黙っておられた。大祭司はイエスに言った。「生ける神にかけて誓って、私たちに告げなさい。あなたはキリスト、神の子なのか。」イエスは彼に言われた。「あなたが言ったとおりだ。さらに言うておく。これから、人の子が、力の右に座し、天の雲に乗って来るのを見るだろう。」すると、大祭司は自分の衣を引き裂いて言った。「彼は神を冒瀆している！ これ以上、証人が必要だろうか。ほら、今、あなたがたは彼の神への冒瀆を聞いたではないか。どう思うか？」彼らは答えて言った。「死に値する。」そこで、彼らはイエスの顔に唾を吐きかけ、耳を引っ張り、またある者たちは頬を叩いて言った。「キリストよ、誰があなたを打ったのか、予言してみよ。」ペテロは外の中庭に座っていた。すると、一人の女中が彼に近づいて来て言った。「あなたも、ガリラヤ人イエスと一緒にいたでしょう。」しかし、彼は皆の前で、「あなたが何を言っているのか、知らない」と言って、イエスであることを否認した。彼が門の外に出ようとしたとき、別の女が彼を見て、そこにいた人々に言った。「この人も、ナザレのイエスと一緒にいた人だ。」そこで彼は、その人を知らないと言った。しばらくして、そこに立っていた人々がペテロに近づき、「あなたも確かに彼らの一人だ。あなたの話し方があなたを裏切っている。」と言った。そこでペテロは、その人を知らないと言った。神にかけて誓い始めた。すると、突然、雄鶏が鳴いた。ペテロは、イエスが自分に言われた言葉を思い出した。「雄鶏が鳴く前に、あなたは三度わたしを否むだろう。」そして外に出て、激しく泣いた。朝になると、大祭司たちや民の長老たちは皆、イエスを死に追いやるために協議を行い、イエスを縛って引き立て、総督ポンティオ・ピラトに引き渡した。

マタイ 26:2-20; ヨハネ 13:3-17; マタイ 26:21-39; ルカ 22:43-45; マタイ 26:40-27:2
聖木曜日、聖体礼儀にて。

マタイによる福音書、108節

その頃、イエスがベタニヤの、らい病のシモンの家におられたとき、ある女が、高価な香油の入ったアラバストルの壺を持ってイエスのところに来て、横たわっておられるイエスの頭にそれを注ぎかけた。これを見た弟子たちは憤り、言った。「なぜ、そんな無駄遣いをするのか。この香油を高い値段で売って、貧しい人々に施すこともできたはずだ。」しかし、イエスは彼らの考えを悟って、こう言われた。「なぜ、この女を責めるのか。彼女は私のために良い行いをしたのだ。貧しい人々はいつもあなたがたと共にいるが、私はいつもあなたがたと共にいるわけではない。この香油をわたしの体に注ぐことで、彼女はわたしの埋葬の準備をしたのだ。まことに、あなたがたに告げる。この福音が全世界で宣べ伝えられるところでは、彼女の記念として、また彼女がしたこの行いについても語られるであろう。」すると、十二使徒の一人で、イスカリオテのユダと呼ばれる者が、祭司長たちのところへ行行って言った。「あなたがたは、私に何を与えてくれるか。そうすれば、私は彼をあなたがたに引き渡そう。」彼らは彼に三十枚の銀貨を提示した。それ以来、彼はイエスを引き渡す好機をねらっていた。

マタイによる福音書 26:6-16
聖水の水曜日、聖体礼儀にて。

マタイによる福音書、109節

その頃、イエスを捕らえた兵士たちは、大祭司カイアファのもとへ連れて行った。そこには、律法学者や長老たちが集まっていた。ペトロは、遠くからイエスについて行き、大祭司の庭まで入った。そして中に入り、使用人たちのそばに座って、事の結末を見守っ

ていた。大祭司や長老たち、そしてシネドリオの全員は、イエスを死に追いやるために、イエスに対する偽りの証言を探したが、見つからなかった。多くの偽証人が現れたが、見つからなかった。しかし、ついに二人の偽証人が来て、こう言った。「彼は、『私は神の神殿を壊し、三日で建て直すことができる』と言っていた。」そこで、大祭司は立ち上がって、イエスに言った。「何も答えないのか。彼らがあなたに対して証言していることについて、どう答えるのか。」イエスは黙っておられた。大祭司はイエスに言った。「生ける神にかけて誓って、私たちに告げなさい。あなたはキリスト、神の子なのか。」イエスは彼に言われた。「あなたが言ったとおりだ。さらに言うておく。これから、人の子が、力の右に座し、天の雲に乗って来るのを見るだろう。」すると、大祭司は自分の衣を引き裂いて言った。「彼は神を冒瀆している！ これ以上、証人が必要だろうか。ほら、今、あなたがたは彼の神への冒瀆を聞いたではないか。どう思うか？」彼らは答えて言った。「死に値する。」そこで、彼らはイエスの顔に唾を吐きかけ、耳を引っ張り、またある者たちは頬を叩いて言った。「キリストよ、誰があなたを打ったのか、予言してみよ。」ペテロは外の中庭に座っていた。すると、一人の女中が彼に近づいて来て言った。「あなたも、ガリラヤ人イエスと一緒にいたでしょう。」しかし、彼は皆の前で、「あなたが何を言っているのか、知らない」と言って、イエスであることを否認した。彼が門の外に出ようとしたとき、別の女が彼を見て、そこにいた人々に言った。「この人も、ナザレのイエスと一緒にいた人だ。」そこで彼は、その人を知らないと言って、再び否定した。しばらくして、そこに立っていた人々がペテロに近づき、「あなたも確かに彼らの一人だ。あなたの話し方があなたを裏切っている。」と言った。そこでペテロは、その人を知らないと言ひ、神にかけて断言し始めた。すると、突然、雄鶏が鳴いた。ペテロは、イエスが自分に言われた言葉を思い出した。「雄鶏が鳴く前に、あなたは三度わたしを否むだろう。」そして外に出て、激しく泣いた。

マタイによる福音書 26:57-75
聖金曜日、早課の第3福音書。

マタイによる福音書、冒頭110A

その頃、朝になると、大祭司たちと民の長老たちは皆、イエスを死に追いやるために協議を行い、イエスを縛って、総督ポンティオ・ピラトのもとに引き渡した。すると、イエスを裏切ったユダは、イエスが有罪とされたのを見て、後悔し、三十枚の銀貨を大祭司や長老たちに返し、「私は罪を犯した。無実の人の血を売ってしまった」と言った。しかし、彼らは彼に、「私たちには関係のないことだ。自分でどうするか決めなさい」と言った。そこで、彼は銀貨を神殿の中に投げ捨て、出て行って、首を吊って死んだ。大祭司たちは銀貨を受け取ると、「これは血の代価であるから、神殿の宝庫に入れることは許されない」と言った。そこで協議した末、その銀貨で陶工の畑を買い、旅人の埋葬地とした。それゆえ、その土地は今日に至るまで「血の畑」と呼ばれている。こうして、預言者エレミヤを通して語られた言葉が成就した。「イスラエルの子らが評価した、評価された方の代価である三十枚の銀貨を取り、主がわたしに告げられたとおり、陶工の土地の代金として支払った。」イエスは総督の前に立たれた。総督はイエスに尋ねた。「あなたはユダヤ人の王か。」イエスは彼に言われた。「あなたがそう言うのだ。」大祭司や長老たちがイエスを告発したとき、イエスは何も答えなかった。そこでピラトはイエスに言った。「あなたに対してこれほど多くの証言がされているのに、聞こえないのか。」しかし、イエスは一言も答えなかったため、総督は大変驚いた。さて、過越の祭りの際、総督には、民が望む囚人一人を釈放するという慣習があった。当時、彼らの中にはバラバという名の有名な囚人がいた。そこで、人々が集まったとき、ピラトは彼らに言った。「あなたがたは、誰を釈放してほしいのか。バラバか、それともキリストと呼ばれるイエスか。」

「彼は、イエスが妬みから引き渡されたことを知っていたからである。その間、ピラトが裁判の席に座っていると、妻が人を通じて彼にこう伝えさせた。「あの義人に対して、何もしないでください。今、私は夢の中で、その方のためにひどく苦しんだのです。」しかし、大祭司たちと長老たちは、民を扇動してバラバを釈放するよう求め、イエスを殺そうとした。そこで総督は彼らに尋ねた。「この二人のうち、どちらを釈放してほしいのか。」彼らは言った。「バラバだ。」ピラトは彼らに言った。「では、キリストと呼ばれるイエスをどうすべきか。」皆が彼に言った。「十字架につけよ。」総督は言った。「彼は一体どんな悪事を働いたというのか。」しかし、彼らはなおさら激しく叫んだ。「十字架につけよ。」ピラトは、どうにもならないこと、むしろ騒ぎがますます大きくなっているのを見て、水を汲んで民衆の前で手を洗い、「この義人の血については、私には罪がない。あなたがたが責任を負うのだ」と言った。すると、民衆全体が声を揃えて言った。「その血は、私たちと私たちの子孫の上に降りかかれ。」そこでピラトはバラバを釈放し、イエスを鞭打ってから、十字架につけるために引き渡した。そこで、総督の兵士たちはイエスを総督官邸に連れて行き、全軍を集めてイエスを裸にし、緋色の衣を着せた。また、いばらの冠を編んでイエスの頭に載せ、右手に葦の杖を持たせた。そして、イエスの前にひざまずいて、「ユダヤの王よ、おめでとう!」と言って嘲り、イエスに唾を吐きかけ、葦の杖を取り上げて、イエスの頭を叩いた。イエスを嘲り終わると、彼らはイエスから紫の衣を脱がせ、イエスの服を着せ、十字架へ連れて行った。出て行く途中、彼らはキリネ人シモンという男に出くわし、彼にイエスの十字架を背負わせた。そして、「ゴルゴタ」と呼ばれる場所、すなわち「顎の丘」に着くと、胆汁を混ぜた酢をイエスに飲ませようとしたが、イエスはそれを口に含んで、飲みたがらなかった。イエスを十字架につけた者たちは、くじを引いてその衣を分け合い、そこに座ってイエスを見張っていた。また、イエスの頭上には、その罪を記した看板を掲げた。「これはユダヤ人の王、イエスである」。その時、イエスと共に二人の強盗が十字架につけられた。一人は右側に、もう一人は左側にいた。通りかかる人々は、首を振りながら、彼をののしり、「神殿を壊して、三日で建て直すという者よ。自分自身の命を救え。もしあなたが神の子なら、十字架から降りてみよ」と言った。同様に、大祭司たちや律法学者たち、長老たち、パリサイ人たちも、あざ笑って言った。「他人を救ったくせに、自分自身を救うことなどできない。もし彼がイスラエルの王なら、今すぐ十字架から降りてみよ。そうすれば、彼を信じる。神に信頼を置いているのだから、神が彼を喜ばれるなら、今こそ救ってやるがよい。」彼はこう言ったからだ。『わたしは神の子である。』また、イエスと共に十字架につけられた強盗たちも、イエスをののしった。第六時から第九時まで、全地に暗闇が覆った。第九時頃、イエスは大声で叫ばれた。「エリ、エリ! ラマ サバクファニ?」すなわち、「わが神、わが神! なぜわたしを見捨てたのですか?」そこに立っていた人々のうち、これを聞いた者たちは、「彼はエリヤを呼んでいる」と言った。すると、そのうちのひとりがすぐに走り寄り、海綿を取り、酢を浸して葦の棒につけ、彼に飲ませようとした。しかし、他の者たちは、「待て、エリヤが来て彼を救うかどうか見てみよう」と言った。イエスは再び大声で叫ばれ、息を引き取られた。すると、神殿の幕が上から下まで真っ二つに裂け、大地が揺れ動き、岩が裂け、墓が開き、多くの聖人の遺体がよみがえり、イエスの復活に際して墓から出て、聖都に入り、多くの人々の前に現れた。百人隊長と、彼と共にイエスを見張っていた者たちは、地震と起こったすべての出来事を見て、大いに恐れおののき、「まことに、この方は神の子であった」と言った。そこには、ガリラヤからイエスに従い、仕えていた多くの女性たちもいて、遠くからその様子を見ていた。その中には、マグダラのマリア、ヤコブとヨシヤの母マリア、そしてゼベダイの子らの母もいた。

マタイによる福音書、冒頭110B

その頃、すべての祭司長と民の長老たちは、イエスを死に追いやるために協議を行い、イエスを縛って引き立て、総督ポンティオ・ピラトに引き渡した。すると、イエスを裏切ったユダは、イエスが有罪とされたのを見て、後悔し、三十枚の銀貨を大祭司や長老たちに返し、「私は罪を犯した。無実の人の血を売ってしまった」と言った。彼らは彼に、「私たちには関係のないことだ。自分でどうするか決めなさい」と言った。そこで彼は、銀貨を神殿の中に投げ捨て、出て行って、首を吊って死んだ。大祭司たちは銀貨を受け取ると、「これは血の代価であるから、神殿の宝庫に入れることは許されない」と言った。そこで協議した末、その銀貨で陶工の畑を買い、旅人の埋葬地とした。それゆえ、その土地は今日に至るまで「血の畑」と呼ばれている。こうして、預言者エレミヤを通して語られた言葉が成就した。「イスラエルの子らが評価した、評価された方の代価である三十枚の銀貨を取り、主がわたしに告げられたとおり、陶工の畑の代金として支払った。」イエスは総督の前に立たれた。総督はイエスに尋ねた。「あなたはユダヤ人の王か。」イエスは彼に言われた。「あなたがそう言うのだ。」大祭司や長老たちがイエスを告発したとき、イエスは何も答えなかった。そこでピラトはイエスに言った。「あなたに対してこれほど多くの証言がされているのに、聞こえないのか。」しかし、イエス是一言も答えなかったため、総督は大変驚いた。さて、過越の祭りの際、総督には、民が望む囚人一人を釈放するという慣習があった。当時、彼らの中にはバラバという名の有名な囚人がいた。そこで、人々が集まったとき、ピラトは彼らに言った。「あなたがたは、誰を釈放してほしいのか。バラバか、それともキリストと呼ばれるイエスか。」彼は、イエスが妬みから引き渡されたことを知っていたからである。その間、ピラトが裁判の席に座っていると、妻が使いを送って言わせた。「あの義人に対して、何もしないでください。今、私は夢の中で、その方のためにひどく苦しんだのです。」しかし、大祭司たちと長老たちは、民を扇動してバラバを釈放するよう求め、イエスを殺そうとした。そこで総督は彼らに尋ねた。「この二人のうち、どちらを釈放してほしいのか。」彼らは言った。「バラバだ。」ピラトは彼らに言った。「では、キリストと呼ばれるイエスをどうすべきか。」皆が彼に言った。「十字架につけよ。」総督は言った。「彼は一体どんな悪事を働いたというのか。」しかし、彼らはなおさら激しく叫んだ。「十字架につけよ。」ピラトは、どうにもならないこと、むしろ騒ぎがますます大きくなっているのを見て、水を取り、民衆の前で手を洗い、「この義人の血については、私には罪がない。あなたがたが責任を負うのだ」と言った。すると、民衆全体が声を揃えて言った。「その血は、私たちと私たちの子孫の上に降りかかれ。」そこでピラトはバラバを釈放し、イエスを鞭打ってから、十字架につけるために引き渡した。そこで、総督の兵士たちはイエスを総督官邸に連れて行き、全軍を集めてイエスを裸にし、緋色の衣を着せた。また、いばらの冠を編んでイエスの頭に載せ、右手に葦の杖を持たせた。そして、イエスの前にひざまずいて、「ユダヤの王よ、おめでとう!」と言って嘲り、イエスに唾を吐きかけ、葦の杖を取り上げて、イエスの頭を叩いた。イエスを嘲り終わると、彼らはイエスから紫の衣を脱がせ、イエスの服を着せ、十字架へ連れて行った。出て行く途中、彼らはキリネ人シモンという男に出くわし、彼にイエスの十字架を背負わせた。そして、「ゴルゴタ」と呼ばれる場所、すなわち「顎の丘」に着くと、胆汁を混ぜた酢をイエスに飲ませようとしたが、イエスはそれを口に含んで、飲みたがらなかった。イエスを十字架につけた者たちは、くじを引いてその衣を分け合い、そこに座ってイエスを見張っていた。また、イエスの頭の上には、その罪を記した看板を掲げた。「これはユダヤ人の王、イエスである」。その時、イエスと共に二人の強盗が十字架につけられた。一人は右側に、もう一人は左側にいた。通りかかる人々は、首を振りながら、彼をののしり、「神殿を壊して、三日で建て直すという者よ。自分自身の命を救え。もしあなたが神の子なら、十字架から降りてみよ」と言った

。同様に、大祭司たちや律法学者たち、長老たち、パリサイ人たちも、嘲りながらこう言った。「他人を救ったくせに、自分自身を救うことなどできない。もし彼がイスラエルの王なら、今すぐ十字架から降りてみよ。そうすれば、我々は彼を信じる。神に信頼を置いているのだ。もし神が彼を喜ばれるなら、今こそ彼を救ってみよ。」彼はこう言ったからである。『わたしは神の子である』と。十字架にかけられた悪人の一人は、イエスをののしって言った。「もしあなたがキリストなら、自分と私たちを救ってみなさい。」しかし、もう一人は、それに対して彼をなだめて言った。「あなたも、同じ刑に処されているのに、神を恐れないのか。 私たちも、自分の行いに応じて当然の報いを受けているのだから、正當に裁かれている。しかし、この方は何の悪もなさっていない。」そして、イエスに言った。「主よ、あなたが御国に来られるとき、私を思い出してください。」イエスは彼に言われた。「まことに、あなたに告げる。あなたは今日、私と共に樂園にいる。」第六時から第九時まで、全地に暗闇が覆った。第九時頃、イエスは大声で叫ばれた。「エリ、エリ！ ラマ サバクファニ？」すなわち、「わが神、わが神。なぜわたしを見捨てられたのですか？」そこに立っていた人々のうち、これを聞いて言った者たちがいた。「彼はエリヤを呼んでいる。」すると、そのうちのひとりがすぐに駆け寄り、海綿を取り、酢を浸して葦の棒につけ、イエスに飲ませようとした。しかし、他の人々は、「待て、エリヤが来て彼を救うかどうか見てみよう」と言った。イエスは再び大声で叫ばれ、息を引き取られた。すると、神殿の幕が上から下まで真っ二つに裂け、大地が揺れ動き、岩が裂け、墓が開き、多くの聖なる死者の体がよみがえり、イエスの復活に際して墓から出て、聖都に入り、多くの人々の前に現れた。百人隊長と、彼と共にイエスを看守していた者たちは、地震と起こったすべての出来事を見て、大いに恐れおののき、「まことに、この方は神の子であった」と言った。しかし、その日は金曜日であったため、ユダヤ人たちは、安息日に十字架に遺体を残さないように——その安息日は大安息日であったから——ピラトに、彼らのすねの骨を砕いて遺体を降ろすよう求めた。そこで兵士たちがやって来て、最初に十字架にかけられていた者のすねの骨を砕き、次にイエスと共に十字架にかけられていた者のすねの骨も砕いた。しかし、イエスのところに来て、すでに亡くなっておられるのを見ると、その脛の骨を打ち砕くことはせず、兵士の一人が槍でイエスの脇腹を刺した。すると、たちまち血と水が流れ出た。これを見た者が証言しており、その証言は真実である。彼は、あなたがたが信じるようにと、真実を語っているのだ。これは、聖書の言葉が成就するためであった。「その骨は一つも砕かれてはならない」。また、聖書の別の箇所にもこう書かれている。「彼らは、刺し通された方を見上げる」。そこには、ガリラヤからイエスに従い、仕えていた多くの女性たちもいて、遠くからその様子を見ていた。その中には、マグダラのマリア、ヤコブとヨシヤの母マリア、そしてゼベダイの子らの母もいた。夕方になると、アリマタヤの裕福な人、ヨセフという者がやって来た。彼もまたイエスに教えを受けていた者であった。彼はピラトのところへ行き、イエスの遺体を求めた。そこでピラトは遺体を引き渡すよう命じた。ヨセフは遺体を受け取ると、清い亜麻布で包み、岩を掘って造った自分の新しい墓に納めた。そして、墓の入り口に大きな石を転がして塞ぐと、その場を離れた。そこにはマグダラのマリアと、もう一人のマリアがいて、墓の向かいに座っていた。

マタイ27:1-43; ルカ23:39-43; マタイ27:45-54; ヨハネ19:31-37; マタイ27:55-61
聖金曜日、晩禱にて。

マタイによる福音書、第111章の冒頭

その頃、イエスを裏切ったユダは、イエスが有罪判決を受けたのを見て、後悔し、三十枚の銀貨を大祭司や長老たちに返して、「私は罪を犯した。無実の人の血を裏切ったのだ」と言った。しかし、彼らは彼に言った。「私たちには関係のないことだ。自分でどうするか決めなさい。」そして、彼は銀貨を神殿の中に投げ捨て、出て行って首を吊った

。大祭司たちは銀貨を受け取り、「これは血の代価だから、教会の宝庫に入れることは許されない」と言った。そこで彼らは協議の末、その銀貨で陶工の土地を買い、旅人の埋葬地とした。それゆえ、その土地は今日に至るまで「血の地」と呼ばれている。こうして、預言者エレミヤを通して語られた言葉が成就した。「彼らは、イスラエルの子らが定めた『評価された方』の代価である三十枚の銀貨を取り、主がわたしに告げられたとおり、陶工の土地の代金としてそれを支払った。」イエスは総督の前に立たれた。総督はイエスに尋ねた。「あなたはユダヤ人の王か。」イエスは彼に言われた。「あなたがそう言うのだ。」大祭司や長老たちがイエスを告発したとき、イエスは何も答えなかった。そこでピラトはイエスに言った。「あなたに対してこれほど多くの証言がされているのに、聞かないのか。」しかし、イエスは一言も答えなかったため、総督は大変驚いた。さて、過越の祭りの際、総督には、民が望む囚人一人を釈放するという慣習があった。当時、彼らの中にはバラバという名の有名な囚人がいた。そこで、人々が集まったとき、ピラトは彼らに言った。「あなたがたは、誰を釈放してほしいのか。バラバか、それともキリストと呼ばれるイエスか。」彼は、イエスが妬みから引き渡されたことを知っていたからである。その間、彼が裁判官の席に座っていると、妻が使いを送って言わせた。「あの義人に対して、何もしないでください。今、私は夢の中で、その方のためにひどく苦しめられたからです。」しかし、大祭司たちと長老たちは、民衆を扇動してバラバを釈放するよう求め、イエスを殺そうとした。そこで総督は彼らに尋ねた。「この二人のうち、どちらを釈放してほしいのか。」彼らは言った。「バラバだ。」ピラトは彼らに言った。「では、キリストと呼ばれるイエスをどうしようか。」皆が彼に言った。「十字架につけよ。」総督は言った。「この人は、いったいどんな悪事を働いたというのか。」しかし、彼らはなおさら激しく叫んで、「十字架につけよ」と言った。ピラトは、どうにもならないこと、むしろ騒ぎがますます大きくなっているのを見て、水を取り、民衆の前で手を洗い、「この義人の血について、私には罪がない。あなたがたが責任を負うのだ」と言った。すると、民全体が声を揃えて言った。「その血は、私たちと私たちの子孫の上に降りかかれ。」そこで、ピラトはバラバを釈放し、イエスを鞭打ってから、十字架につけるために引き渡した。すると、総督の兵士たちはイエスを総督官邸に連れて行き、全軍を集めてイエスを裸にし、緋色の衣を着せた。また、いばらの冠を編んでその頭に載せ、右手に葦の杖を持たせた。そして、その前にひざまずいて、「ユダヤの王よ、おめでとう」と言ってあざけり、彼に唾を吐きかけ、葦の杖を取り上げて頭を打った。そして、イエスを嘲り終わると、彼らはイエスから紫の衣を脱がせ、イエスの服を着せ、十字架につけるために連れて行った。出て行く途中、彼らはキリネ人シモンという男に出くわし、彼にイエスの十字架を背負わせた。

マタイによる福音書 27:3-32
聖金曜日、早課の第5福音書。

マタイによる福音書、112節

その頃、総督の兵士たちは、イエスを総督官邸に連行し、全軍を集めてイエスの服を脱がせ、緋色の衣を着せた。また、いばらの冠を編んでイエスの頭に載せ、右手に葦の杖を持たせた。そして、イエスの前にひざまずいて、「ユダヤの王よ、おめでとう！」と言って嘲り、イエスに唾を吐きかけ、葦の杖を取り上げて、イエスの頭を叩いた。イエスを嘲り終わると、彼らはイエスから緋色の外套を脱がせ、イエスの服を着せ、十字架へ連れて行った。出て行く途中、彼らはキリネ人シモンという男に出くわし、彼にイエスの十字架を背負わせた。

マタイによる福音書 27:27-32
尊き十字架への礼拝。
7月10日、主の衣の祝日、早課にて。

マタイによる福音書、113章の冒頭

その頃、兵士たちはゴルゴタと呼ばれる場所、すなわち「顎の丘」という場所にやって来て、イエスに胆汁を混ぜた酢を飲ませようとしたが、イエスはそれを味わって、飲むことを拒まれた。イエスを十字架につけた者たちは、くじを引いてその衣を分け合い、そこに座ってイエスを見張っていた。また、イエスの頭上には、その罪を記した看板を掲げた。「この方は、ユダヤ人の王、イエスである」。その時、二人の強盗がイエスと共に十字架につけられた。一人は右側に、もう一人は左側にいた。通りかかる人々は、首を振りながら、彼をののしり、「神殿を壊して、三日で建て直すという者よ。自分自身の命を救え。もしあなたが神の子なら、十字架から降りてみよ」と言った。同様に、大祭司たちや律法学者たち、長老たち、パリサイ人たちも、あざ笑って言った。「他人を救ったくせに、自分自身を救うことなどできない。もし彼がイスラエルの王なら、今すぐ十字架から降りてみよ。そうすれば、彼を信じる。神に信頼を置いているのだから、神が彼を喜ばれるなら、今こそ救ってやるがよい。」彼はこう言ったからだ。『わたしは神の子である。』また、イエスと共に十字架につけられた強盗たちも、イエスをののしった。第六時から第九時まで、全地に暗闇が覆った。第九時頃、イエスは大声で叫ばれた。「エリ、エリ！ ラマ サバクファニ？」すなわち、「わが神、わが神！ なぜわたしを見捨てたのですか？」そこに立っていた人々のうち、これを聞いた者たちは、「彼はエリヤを呼んでいる」と言った。すると、そのうちのひとりがすぐに走り寄り、海綿を取り、酢を浸して葦の棒につけ、彼に飲ませようとした。しかし、他の者たちは、「待て、エリヤが来て彼を救うかどうか見てみよう」と言った。イエスは再び大声で叫ばれ、息を引き取られた。すると、神殿の幕が上から下まで真っ二つに裂け、大地が揺れ動き、岩が裂け、墓が開き、多くの聖人の遺体がよみがえり、イエスの復活に際して墓から出て、聖都に入り、多くの人々の前に現れた。百人隊長と、彼と共にイエスを見張っていた者たちは、地震と起こったすべての出来事を見て、大いに恐れおののき、「まことに、この方は神の子であった」と言った。

マタイによる福音書 27:33-54
聖金曜日、早課における第7の福音書。

マタイによる福音書、114節

金曜日が過ぎた翌日、祭司長たちとパリサイ人たちはピラトのもとに集まり、こう言った。「総督様。あの詐欺師が、まだ生きていた時に、『三日後に復活する』と言っていたことを思い出しました。ですから、三日目まで墓を厳重に警備するよう命じてください。そうすれば、弟子たちが夜中にやって来て、その遺体を盗み出し、民衆に『死からよみがえった』などと言わせないようにできます。そうすれば、最初の欺きよりもさらにひどい、最後の欺きになるでしょう。」ピラトは彼らに言った。「警備隊はいるでしょう。行って、自分たちの知るところに従って警備しなさい。」彼らは行って、墓の周りに警備隊を配置し、石に封印を施した。

マタイによる福音書 27:62-66
聖金曜日 12 福音書（早課にて）。
聖土曜日、早課にて。

マタイによる福音書、115節

安息日が過ぎ、週の初めの日の明け方、マグダラのマリアと、もう一人のマリアが、墓を見に来た。すると、大きな地震が起こった。天から降りてきた主の御使いが、墓の入り口に近づき、石をどかし、その上に座っていたからである。その姿は稲妻のようで、その衣は雪のように白かった。御使いを恐れた見張りの者たちは震え上がり、死人のように動かなくなった。すると、御使いは女たちに語りかけて言った。「恐れることはあり

ません。あなたがたが十字架につけられたイエスを探していることを、私は知っています。ここにはおられません。おっしゃったとおり、復活されました。さあ、主が横たわっておられた場所を見て、急いで行って、弟子たちに、イエスが死者の中から復活され、あなたがたより先にガリラヤへ行かれることを告げなさい。そこでイエスにお会いになるでしょう。」 「ほら、私はあなたがたに告げた。」そして、彼女たちは急いで墓から出て、恐れと大きな喜びのうちに、弟子たちに知らせようと走り去った。彼女たちが弟子たちに知らせようと歩いていると、イエスが彼女たちに会って言われた。「喜びなさい。」彼女たちは近づいて、イエスの足にすがりつき、礼拝した。すると、イエスは彼女たちに言われた。「恐れることはない。行って、わたしの兄弟たちに、ガリラヤへ行くように伝えなさい。そこで、彼らはわたしを見るだろう。」彼女たちが去って行くと、警備兵のうちの何人かが町に入り、大祭司たちに起こったことすべてを報告した。そこで、彼らは長老たちと集まって協議し、兵士たちに多額の金を渡して言った。「『私たちが眠っている間に、弟子たちが夜中に来て、彼を盗み出した』と告げなさい。もしこの話が総督の耳に入っても、私たちが彼を説得して、あなたたちをトラブルから救い出すから。」彼らは金を受け取り、教えられたとおりにした。そして、この話は今日に至るまでユダヤ人の間で広まっている。一方、十一人の弟子たちは、イエスが命じられたガリラヤの山へ行き、イエスを見かけると、ひれ伏して礼拝したが、中には疑う者もいた。イエスは近づいて来て、彼らに言われた。「わたしには、天においても地においても、すべての権威が与えられている。だから、行って、すべての民を弟子とし、父と子と聖霊の名によって彼らにバプテスマを授け、わたしがあなたがたに命じたすべてのことを守るように教えなさい。見よ、わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」アーメン。

マタイによる福音書 28:1-20
聖土曜日、聖体礼儀にて。

マタイによる福音書、116節

その頃、十一人の弟子たちは、イエスが命じられたガリラヤの山へ行き、イエスを見てひれ伏したが、中には疑う者もいた。イエスは近づいて来て、彼らに言われた。「わたしには、天と地の一切の権威が与えられている。」だから、行って、すべての民を弟子とし、父と子と聖霊の名によって彼らに洗礼を授け、私があなたがたに命じたすべてのことを守るように教えなさい。見よ、世の終わりまで、私はいつもあなたがたと共にいる。アーメン。

マタイによる福音書 28:16-20
第1主日福音。
洗礼の秘跡を執り行う際。

[目次へ。](#)

マルコによる福音書

マルコによる福音書、冒頭 1

神の子イエス・キリストの福音書の始まりは、預言者たちが記した通りである。「見よ、わたしはあなたの前にわたしの天使を遣わす。その者があなたの前にあなたの道を整える。」 荒野で叫ぶ者の声。「主のために道を整え、その道筋をまっすぐにせよ。」 ヨハネが現れ、荒野でバプテスマを受け、罪の赦しのための悔い改めのバプテスマを宣べ伝えた。すると、ユダヤ全土の人々とエルサレムの人々が彼のもとへ出て行き、皆、ヨルダン川で彼からバプテスマを受け、自分の罪を告白した。ヨハネは、らくだの毛の衣を身にまとい、腰には皮の帯を締め、イナゴと野の蜜を食べていた。そして、こう宣べ伝えていた。「わたしより力ある方が、わたしの後に来られる。その方の靴のひもを解くことさえ、わたしにはふさわしくない。わたしはあなたがたに水でバプテスマを授けたが、その方は聖霊でああなたがたにバプテスマを授けてくださる。」

マルコによる福音書 1:1-8
主の顕現の前週。
主顕現の前夜、第3時。

マルコによる福音書、第2A章

その頃、ガリラヤのナザレからイエスが来られ、ヨルダン川でヨハネから洗礼を受けられた。イエスが水から上がられると、たちまちヨハネは天が開き、鳩のように御霊がイエスの上に下って来られるのを見た。そして、天から声が聞こえた。「あなたは、わたしの愛する子、わたしの心に適う者である。」その直後、御霊はイエスを荒野へと導かれた。イエスはそこで四十日間、サタンに試みられ、野獣たちと共に過ごされた。そして、御使いたちがイエスに仕えた。その後、ヨハネが捕らえられた後、イエスはガリラヤに来て、神の国の福音を宣べ伝え、「時は満ち、神の国は近づいた。悔い改めよ。福音を信じよ」と語られた。

マルコによる福音書 1:9-15
主の顕現の前夜、第6時。
第12週の月曜日。

マルコによる福音書、2B節

そのころ、ガリラヤのナザレからイエスが来られ、ヨルダン川でヨハネから洗礼を受けられた。イエスが水から上がられると、たちまちヨハネは天が開き、聖霊が鳩のようにイエスの上に下って来るのを見た。そして、天から声が聞こえた。「あなたは、わたしの愛する子、わたしの心に適う者である。」

マルコによる福音書 1:9-11
主顕節、早課にて。
水の聖別式。

マルコによる福音書、第3章の冒頭

その頃、イエスはガリラヤ湖のほとりを通りかかると、シモンとその兄弟アンデレが湖に網を投げ入れているのを見られた。彼らは漁師であったからである。イエスは彼らに言われた。「わたしについて来なさい。あなたがたを人の漁師にしよう。」そこで彼らは、すぐに網を置いて、イエスに従った。そこから少し進んだところで、イエスはゼベダ

イの子ヤコブとその兄弟ヨハネが、同じく舟の中で網を繕っているのを見て、すぐに彼らを招かれた。そこで、彼らは父ゼベダイを雇い人たちと共に舟に残して、イエスに従った。そして、カペナウムに着いた。まもなく安息日になり、イエスは会堂に入って教えられた。人々はイエスの教えに驚いた。イエスは、律法学者たちのようにではなく、権威ある者として彼らに教えておられたからである。

マルコによる福音書 1:16-22
第12週の火曜日。

マルコによる福音書、第4章の冒頭

その頃、会堂に、汚れた霊に取りつかれたある男がいて、「去れ！ ナザレのイエスよ、私たちと何の関係があるのですか？」「あなたは私たちを滅ぼしに来たのだ！ あなたが誰であるか、私は知っている。神の聖なる方だ。」しかし、イエスは彼を叱りつけて言われた。「黙れ。彼から出て行け。」すると、汚れた霊は、その人を激しく震わせ、大声で叫んで、彼から出て行った。人々は皆、恐れおののき、互いに「これは一体何だろう？ この新しい教えとは何なのか。彼は汚れた霊たちにも権威をもって命じ、それらが彼に従うとは」と尋ね合った。そして、すぐにガリラヤの周辺一帯に、イエスに関する噂が広まった。

マルコによる福音書 1:23-28
第12週の水曜日。

マルコによる福音書、第5章の冒頭

その頃、イエスはヤコブとヨハネを伴って、シモンとアンデレの家に行かれた。シモンの義母は熱病で床に伏していたが、人々はすぐにそのことをイエスに告げた。イエスは近づいて、彼女の手を取って起こされた。すると、熱はたちまち引いて、彼女は彼らに仕えるようになった。夕方になり、日が沈む頃になると、人々は病人や悪霊に取りつかれた者たちを皆、イエスのところへ連れて来た。すると、町中の人々が門の周りに集まった。イエスは、さまざまな病に苦しむ多くの人々を癒やし、多くの悪霊を追い出された。また、悪霊たちが「この方はキリストである」と知っていると言っていると口にするのを許されなかった。朝になると、イエスは非常に早く起きて、人里離れた場所へ出て行き、そこで祈られた。

マルコによる福音書 1:29-35
第12週の木曜日。

マルコによる福音書、第6章の冒頭

その頃、イエスは人里離れた場所へ退き、そこで祈っておられた。シモンと彼と共にいた者たちはイエスを追いかけて行き、イエスを見つけると、「皆、あなたをお探しです」と言った。イエスは彼らに言われた。「近隣の村や町へ行こう。そこでも福音を宣べ伝えなければならない。それこそが、わたしが来た目的だからである。」そして、イエスはガリラヤ全土の会堂で宣教し、悪霊を追い出された。そこに、あるハンセン病患者がイエスのところに来て、ひれ伏して懇願し、「お望みなら、私を清めてください」と言った。イエスは彼を憐れみ、手を伸ばして彼に触れ、「そうしたい。清くなれ」と言われた。この言葉が終わるやいなや、らい病は彼から去り、彼は清くなった。イエスは彼を厳しく見つめると、すぐに彼を帰し、こう言われた。「見よ、だれにもこのことを話してはならない。ただ行って、祭司に身を現し、モーセが定めた清めの供え物をささげ、彼らへの証しとなさい。」

マルコによる福音書 1:35-44
四旬節第2安息日。

マルコによる福音書、第7章の冒頭

その頃、イエスはカペナウムに来られた。イエスが家におられるという噂が広まった。たちまち大勢の人が集まり、もはや戸口にも立つ場所がなくなっていた。イエスは彼らに御言葉を語っておられた。そこへ、四人の人が、中風の人を担いでイエスのところに来た。しかし、人だかりのためにイエスのそばに近づくことができなかった。イエスがいる家の屋根を開け、穴を開けて、中風の人を寝かせた寝台を降ろした。イエスは彼らの信仰を見て、中風の人に言われた。「子よ、あなたの罪は赦された。」そこに、律法学者たちが何人か座っていて、心の中でこう考えていた。「なぜ、彼はこのように神を冒瀆するのか。神以外、誰が罪を赦すことができるというのか。」イエスは、御霊によって彼らが心の中でそう考えていることをすぐに悟り、彼らに言われた。「なぜ、心の中でそのようなことを考えるのか。どちらが容易か。中風の人に『あなたの罪は赦された』と言うことか。それとも、『起き上がり、床を担いで歩きなさい』と言うことか。しかし、人の子が地上で罪を赦す権威を持っていることをあなたがたに知らせるために、イエスは中風の人に言われた。「あなたがたに言います。起き上がり、床を担いで、あなたの家へ帰りなさい。」すると、彼はすぐに起き上がり、床を担いで、みんなの目の前で出て行った。それを見て、人々は皆驚き、神を賛美して、「こんなことは今まで見たことがない」と言った。

マルコによる福音書 2:1-12
四旬節第2週。

マルコによる福音書、第8章の冒頭

その頃、イエスは通りかかると、税関に座っているレビ・アルフェオを見かけ、彼に言われた。「わたしについてきなさい。」すると、彼は立ち上がって、イエスに従った。イエスが彼の家で食事をしていると、弟子たちや多くの徴税人や罪人たちもイエスと共に食卓を囲んでいた。彼らには大勢いて、イエスに従っていたからである。律法学者やパリサイ人たちは、イエスが徴税人や罪人たちと一緒に食事をしているのを見て、弟子たちに言った。「どうして、彼は徴税人や罪人たちと一緒に食べたり飲んだりしているのか。」これを聞いて、イエスは彼らに言われた。「健康な人は医者が必要としない。病んでいる人こそ必要とするのだ。わたしは、義人ではなく、罪人を悔い改めに招くために来たのだ。」

マルコによる福音書 2:14-17
四旬節第3土曜日。

マルコによる福音書、第9章の冒頭

その頃、ヨハネの弟子たちやパリサイ人たちは断食をしていた。彼らはイエスのところに来て言った。「なぜ、ヨハネの弟子たちやパリサイ人たちは断食するのに、あなたの弟子たちは断食しないのですか。」イエスは彼らに言われた。「花婿が彼らと共にある間、婚礼の宴の客たちが断食できるだろうか。花婿が彼らと共にある間は、断食することはできない。しかし、花婿が彼らから取り去られる日が来る。その時には、彼らはその日に断食するだろう。誰も、古い服に漂白していない布の継ぎ布を当てたりはしない。そうすれば、新しく縫い付けたものが古い服を引き裂き、穴はさらにひどくなってしまうからだ。また、新しいぶどう酒を古い皮袋に注ぐ者はいない。そうすれば、新しいぶどう酒が皮袋を破り、ぶどう酒はこぼれ出し、皮袋も台無しになってしまう。新しいぶどう酒は、新しい皮袋に注がなければならない。

マルコによる福音書 2:18-22
第12週の金曜日。

マルコによる福音書、第10章

その頃、イエスは安息日に種まきされた畑のそばを通りかかられた。すると、弟子たちは道端で穂を摘み始めた。ファリサイ派の人々はイエスに言った。「ご覧なさい。彼らは安息日に、してはならないことをしているではありませんか。」イエスは彼らに言われた。「ダビデが困窮し、自分や同行者たちが飢えていたとき、何をしたか、あなたがたは一度も読んだことがないのか。　ダビデが、大祭司アビアファルの時代に神の家に入り、祭司以外には食べてはならない供えのパンを食べ、一緒にいた者たちにも与えたことを、一度も読んだことがないのか。」そして、イエスは彼らに言われた。「安息日は人のためにあるものであり、人が安息日のためにあるのではない。それゆえ、人の子は安息日の主でもある。」　そして、再び会堂に行かれた。そこには、片手が萎えていた人がいた。人々は、安息日に彼を癒やすかどうかを見張って、非難する口実を探していた。イエスは、片手が萎えていた人に言われた。「真ん中に立ちなさい。」そして、人々に言われた。「安息日に善を行うべきか、悪を行うべきか。人の命を救うべきか、滅ぼすべきか。」　しかし、彼らは黙り込んでいた。イエスは怒りの眼差しで彼らを見つめ、彼らの心の頑なさを嘆きつつ、その人に言われた。「手を伸ばしなさい。」すると、彼は手を伸ばすと、その手はもう一方の手と同じように健やかになった。

マルコによる福音書 2:23-3:5
四旬節第1安息日。

マルコによる福音書、第11章の冒頭

その頃、パリサイ人たちはヘロデ党の人々と共謀して、イエスをどうにかして滅ぼそうと画策した。しかし、イエスは弟子たちと共に海辺へ退かれた。すると、ガリラヤ、ユダヤ、エルサレム、エドム、そしてヨルダン川の向こう側から、大勢の群衆がイエスに従って来た。　また、ティルスやシドンの周辺に住む人々も、イエスの行いを聞いて、大勢でイエスのところへやって来た。そこでイエスは、群衆が押し寄せてくるのを防ぐため、弟子たちに、自分用の舟を用意しておくよう命じられた。イエスは多くの人々を癒やされたので、腫れ物のある人々は、イエスに触れようと、こぞってイエスのところに駆け寄ったからである。　また、汚れた霊たちは、イエスを見ると、イエスの前にひれ伏して、「あなたは神の子です」と叫んだ。しかし、イエスは、ご自分の正体が知られないようにと、彼らに厳しく禁じられた。

マルコ 3:6-12
第13週の月曜日。

マルコによる福音書、第12章の冒頭

そのころ、イエスは山に登り、ご自分の望む人々を呼び寄せられた。すると、彼らはイエスのところに来た。イエスは、彼らの中から十二人を選び、ご自身と共にいさせ、宣教に遣わし、また、病を癒やし、悪霊を追い出す権能を与えるために、　シモンをペトロと名付け、ゼベダイの子ヤコブとヤコブの兄弟ヨハネを、ボアネゲス、すなわち「雷の子ら」と名付け、　アンデレ、フィリポ、バルトロマイ、マタイ、トマス、ヤコブ・アルフェオの子、タダイ、シモン・カナニテ、そしてイエスを裏切ったイスカリオテのユダを任命された。

マルコ 3:13-19
第13週の火曜日。
6月30日、12使徒。

マルコによる福音書、第13章の冒頭

その頃、イエスが家に入られると、また人々が集まってきて、パンを食べる暇さえなかった。それを聞いた周囲の人々は、イエスが正気を失ったと噂していたため、イエスを捕らえに行こうとした。また、エルサレムから来た律法学者たちは、イエスがベエルゼブルを宿しており、悪霊の王の力によって悪霊を追い出していると主張していた。そこで、イエスは彼らと呼ばせ、たとえを用いてこう言われた。「サタンがサタンを追い出すことなどできるだろうか。もし、ある王国が内部で分裂すれば、その王国は存続できない。また、ある家が内部で分裂すれば、その家は存続できない。もしサタンが自分自身に反旗を翻して分裂したなら、彼は存続できず、その終わりが来るのだ。強い者の家に入って、その持ち物を奪い取る者は、まずその強い者を縛らなければならず、そうして初めてその家を略奪することができる。

マルコによる福音書 3:20-27
第13週の水曜日。

マルコによる福音書、第14章の冒頭

主は言われた。「まことに、あなたがたに告げる。人の子には、どんな罪や冒瀆であっても、すべて赦される。しかし、聖霊を冒瀆する者は、決して赦されず、永遠の裁きを受けることになる。」主がこう言われたのは、人々が「彼には汚れた霊が宿っている」と言っていたからである。すると、御母と兄弟たちがやって来て、家の外に立って、人を遣わしてイエスと呼んだ。イエスの周りには群衆が座っていた。彼らはイエスに言った。「ご存じですか。あなたの御母と兄弟たち、そして姉妹たちが、家の外であなたをお尋ねになっています。」イエスは彼らに答えて言われた。「わたしの母、わたしの兄弟とは、いったい誰のことか。」そして、自分の周りに座っている人々を見回して、こう言われた。「見よ、これがわたしの母、わたしの兄弟たちである。神の御心を行う者はだれでも、わたしにとって兄弟であり、姉妹であり、母である。」

マルコによる福音書 3:28-35
第13週の木曜日。

マルコによる福音書、第15章の冒頭

そのころ、イエスは湖のほとりで教え始められた。すると、大勢の群衆がイエスのところに集まってきたので、イエスは舟に乗り込み、湖の上にお座りになり、群衆はみな湖のほとりの陸にいた。イエスは多くのたとえを用いて彼らに教え、その教えの中でこう言われた。「よく聞きなさい。見よ、種を蒔く人が出て行って蒔いた。蒔いていると、ある種は道端に落ち、鳥が飛んできてそれを啄み食った。またある種は、土の浅い岩場の上に落ち、土が浅かったためすぐに芽を出したが、太陽が昇ると枯れてしまい、根がなかったため、干からびてしまった。また、ある種は茨の中に落ち、茨が生い茂って種を覆い隠し、実を結ばなかった。また、ある種は良い土に落ち、実を結んだ。それは芽を出して成長し、あるものは三十倍、あるものは六十倍、あるものは百倍の実を結んだ。そして、彼らに言われた。「聞く耳のある者は、聞きなさい。」

マルコによる福音書 4:1-9
第13週の金曜日。

マルコによる福音書、第16章の冒頭

そのとき、弟子たちがイエスのところに密かに近寄り、そのたとえについて尋ねた。イエスは彼らに言われた。「あなたがたには、神の国の奥義を知る恵みが与えられている。しかし、外にいる者たちには、すべてがたとえ話として語られる。彼らは自分の目で見ても見えず、自分の耳で聞いても理解できない。そうすれば、彼らが立ち返って、罪

が赦されることがないようにするためである。」そして、イエスは彼らに言われた。「このたとえが分からないのか。では、どうしてあなたがたはすべてのたとえを理解できるだろうか。種を蒔く人は、御言葉を蒔くのである。道端に蒔かれた種は、御言葉が蒔かれる人々を意味するが、彼らがそれを聞くとすぐにサタンが来て、彼らの心に蒔かれた御言葉を奪い去ってしまう。同様に、岩地に蒔かれたものは、御言葉を聞くとすぐに喜んで受け入れるが、根がなく、気まぐれな人々を意味する。その後、御言葉のために苦難や迫害が訪れると、すぐに惑わされてしまう。茨の中に蒔かれた種は、御言葉を聞くが、この世の心配事や富への誘惑、その他の欲望が心に入り込み、御言葉を覆い隠してしまい、実を結ばない人々を意味する。また、良い地に蒔かれた種は、御言葉を聞いて受け入れ、実を結ぶ人々を意味する。ある者は三十倍、ある者は六十倍、またある者は百倍の実を結ぶ。そして、彼らに言われた。「灯火は、器の下やベッドの下に置くために持ち出されるのか。燭台の上に置くためではないのか。」隠されていることで、明らかにされないものはなく、秘められていることで、表に出ないものはない。聞く耳のある者は、聞きなさい。

マルコによる福音書 4:10-23
第14週の月曜日。

マルコによる福音書、第17章

主は弟子たちに言われた。「あなたがたは、聞いていることに注意しなさい。あなたがたがどのような尺度で測るかに応じて、あなたがたにもそのように測り返され、さらに、聞く者にはさらに与えられる。持っている者には与えられ、持たない者からは、持っているものまでも取り去られるからである。」そして言われた。「神の国は、人が種を地に蒔き、眠り、昼も夜も起きているようなものである。種がどのようにして芽を出し、成長するのか、その人は知らない。地が自然に、まず青葉を出し、次に穂を出し、やがて穂の中に実った穀物をもたらすからである。実が熟すと、すぐに鎌を送り込む。収穫の時が来たからである。そして言われた。「神の国を何に例えようか。あるいは、どのようなたとえでそれを表そうか。それは、からの種のようである。それは、地に蒔かれるとき、地上のあらゆる種の中で最も小さいが、蒔かれると芽を出し、すべての穀物の中で最も大きくなり、大きな枝を伸ばすので、天の鳥たちがその陰に身を隠すことができる。そして、彼らが聞き取れる限り、このような多くのたとえを用いて、彼らに御言葉を説いた。しかし、彼らにはたとえ話以外では語らず、弟子たちには人目を避けてすべてを詳しく説明された。

マルコ 4:24-34
第14週の火曜日。

マルコによる福音書、第18章の冒頭

主は弟子たちに言われた。「向こう岸へ渡ろう。」そこで、彼らは群衆を解散させ、主が舟におられるままに、主を連れて行った。主の舟のほかに、他の舟もいくつかあった。すると、激しい嵐が吹き荒れ、波が舟に打ち寄せ、舟はすでに水で満たされかけていた。しかし、主は船尾の寝台で眠っておられた。弟子たちは主を起こして言った。「先生、私たちが滅びようとしているのに、あなたは気にも留めないのですか。」主は起き上がると、風に命じて海に言われた。「黙れ。静まれ。」すると、風は静まり、大いなる静けさが訪れた。そして、彼らに言われた。「なぜそんなに臆病なのか。どうして信仰がないのか。」彼らは大きな恐れに襲われ、互いに言った。「この方はいったいどなたなのか。風や海さえも従うとは。」

マルコによる福音書 4:35-41
第14週の水曜日。

マルコによる福音書、第19章の冒頭

その頃、イエスは海の向こう岸、ガダラ地方にやって来られた。イエスが舟から降りると、すぐに、墓場から出てきた、汚れた霊に取りつかれた男がイエスに出迎えました。その男は墓場を住处としており、誰も彼を鎖で縛ることさえできませんでした。彼は何度も足枷や鎖で縛られていましたが、鎖を引きちぎり、足枷を打ち砕いてしまい、誰も彼を制圧することができなかったのです。彼は昼夜を問わず、山や墓場で絶えず叫び、岩に体を打ちつけていた。しかし、遠くからイエスを見かけると、駆け寄ってひれ伏し、大声で叫んで言った。「イエスよ、至高の神の子よ、私とあなたに何の関係があるのですか。神にかけて誓います。私を苦しめないでください！」イエスは彼に言われた。「汚れた霊よ、この人から出て行け。」そして彼に尋ねられた。「お前の名は何か。」すると彼は答えて言った。「私の名は『レギオン』です。私たちは大勢いるからです。」そして、彼らはイエスに、自分たちをその地方から追い出さないでほしいと懇願した。そこには、山のふもとに大きな豚の群れが放牧されていた。そこで、すべての悪霊たちはイエスに願い出て言った。「私たちを豚の中に入れてください。そうすれば、私たちも豚の中に入ることができます。」イエスはすぐにそれを許された。すると、汚れた霊たちは出て行き、豚たちの中に入った。すると、その群れは崖から海へと駆け下り、その数は約二千頭であったが、海で溺れ死んだ。豚の飼いたちは逃げ出し、町や村々でそのことを告げた。住民たちは、何が起きたのか見ようと外へ出てきた。人々はイエスのところに来て、レギオンという悪霊に取りつかれていた男が、服を着て正気を取り戻して座っているのを見て、恐れおののいた。目撃者たちは、その男に何が起きたか、また豚の件について彼らに語った。そして人々は、イエスに自分たちの地域から立ち去ってほしいと懇願し始めた。イエスが舟に乗り込むと、悪霊に取りつかれていた男は、イエスと一緒にいたいと願った。しかし、イエスはそれを許さず、こう言われた。「あなたの家族のもとに帰って、主があなたに何をしてくださったか、また、どのようにあなたを憐れんでくださったかを、彼らに語りなさい。」そこで、その男は十郡の町々で、イエスが自分に何をしてくださったかを宣べ伝え始めた。人々は皆、驚いた。

マルコによる福音書 5:1-20
第14週の木曜日。

マルコによる福音書、第20章の冒頭

その頃、ヤイロという名の会堂の長の一人がイエスのところに来て、イエスを見ると、その足元にひれ伏し、切に願い求めて言った。「私の娘が死にかけています。どうか来て、彼女に手を置いて、癒やして、生き延びさせてください。」イエスは彼と共に歩まれた。大勢の群衆がイエスに従い、押し寄せていた。すると、会堂の長のもとから人々がやって来て言った。「あなたの娘は亡くなりました。なぜ、まだ先生をお煩わせになるのですか。」しかし、イエスはその言葉を聞くと、すぐに会堂の長に言われた。「恐れるな。ただ信じなさい。」そして、ペテロ、ヤコブ、そしてヤコブの兄弟ヨハネ以外の誰にも、ご自身についてくることを許されなかった。会堂の長の家に入ると、そこには騒ぎがあり、人々が泣き叫び、大声で嘆き悲しんでいた。イエスは中に入って、彼らに言われた。「なぜ動揺し、泣いているのか。少女は死んだのではなく、眠っているのだ。」人々はイエスを嘲笑った。しかし、イエスは皆を追い出し、少女の父と母、そして共にいた者たちだけを連れて、少女が横たわっている部屋に入られた。そして、少女の手を取って言われた。「タリファ・クミ」。これは、「少女よ、あなたに言う。起きなさい」という意味である。すると、その少女はたちまち起き上がり、歩き始めた。彼女は十二歳だったからである。それを見た人々は、大いに驚いた。イエスは、このことを誰にも知られない

ようにと厳しく命じ、彼女に食べ物を与えるように言われた。そこから出て、イエスはご自分の故郷へ戻られた。弟子たちはイエスに従った。

マルコ 5:22-24; 35b-6:1
第14週の金曜日。

マルコによる福音書、第21章の冒頭

その頃、大勢の群衆がイエスに従い、彼を取り囲んでいた。十二年間も出血に苦しんでいたある女がいた。彼女は多くの医者に見てもらってひどく苦しめられ、持っていた財産をすべて使い果たしたが、何の効き目も得られず、かえって状態が悪化していた。——イエスのことを聞き、群衆の中に混じって後ろから近づき、イエスの衣に触れた。彼女は「たとえ衣に触れるだけでも、癒やされるだろう」と思っていたからである。すると、たちまち彼女の出血は止まり、体の中で病が癒やされたのを感じた。ちょうどその時、イエスはご自身の中に力が流れ出たのを感じられ、群衆の中で振り返って言われた。「だれがわたしの衣に触れたのか。」弟子たちはイエスに言った。「群衆があなたを押し合っているのをご覧になって、なお『だれがわたしに触れたのか』とおっしゃるのですか。」しかし、イエスは、それをした女を見つけようと、周囲を見回しておられた。その女は、自分に何が起きたかを知り、恐れおののきながら近づき、イエスの前にひれ伏して、すべてを正直に打ち明けた。するとイエスは彼女に言われた。「娘よ。あなたの信仰があなたを救った。安心して帰りなさい。あなたの病気は治った。」

マルコによる福音書 5:24-34
第15週の月曜日。
殉教者たち。

マルコによる福音書、第22章の冒頭

その頃、イエスはご自分の故郷においでになった。弟子たちがイエスに従っていた。安息日になると、イエスは会堂で教え始められた。それを聞いた多くの人々は驚きながら、「この人はどこからこんなことを得たのか。この人に与えられたこの知恵は一体何なのか。どうしてこのような奇跡が、この人の手によって行われるのか」と言った。「この人は、大工ではないか。マリアの子で、ヤコブ、ヨシヤ、ユダ、シモンの兄弟ではないか。その姉妹たちも、ここに、私たちの間にいるではないか。」そして、彼らはイエスを非難した。イエスは彼らに言われた。「預言者は、自分の故郷や親族、自分の家では、軽んじられるものだ。」そこで、イエスはそこでは何の奇跡も行いうことができなかった。ただ、数人の病人に手を置いて、彼らを癒しただけである。そして、彼らの不信仰に驚かれた。その後、イエスは周辺の村々を巡り、教えを説かれた。また、十二人を呼び寄せ、二組に分けて遣わし始め、彼らに汚れた霊に対する権威を与えられた。

マルコ 6:1-7
第15週の火曜日。

マルコによる福音書、第23章の冒頭

そのころ、イエスは十二人を呼び寄せ、二組ずつに分け、彼らを遣わし始め、汚れた霊に対する権威を彼らに与えられた。そして、旅の途中で、杖一本以外は何も持たないようにと命じられた。袋も、パンも、帯に銭も持たず、素足で歩き、上着を二枚着てはならない。また、こう言われた。「どこかの家に入ったら、その場所を去るまで、その家に留まりなさい。もし、あなたがたを受け入れず、あなたがたの言うことを聞かない者がいれば、そこから出て行くとき、彼らの目の前で証しとするために、足のほこりを払い落とせ。まことに、あなたがたに告げる。裁きの日、ソドムやゴモラよりも、その町の方がむしろ救われるだろう。彼らは出て行き、悔い改めを宣べ伝え、多くの悪霊を追い出し、多くの病人に油を塗って癒した。

マルコによる福音書、第24章の冒頭

そのころ、ヘロデ王はイエスのことを聞き（その名が広く知れ渡っていたからである）、こう言った。「これは洗礼者ヨハネが死者の中からよみがえったのだ。だから、彼によって奇跡が行われているのだ。」また、ある人々は「これはエリヤだ」と言い、またある人々は「これは預言者、あるいは預言者の一人だ」と言った。しかし、ヘロデはそれを聞いて、「これは、私が首を切ったヨハネだ。彼が死からよみがえったのだ」と言った。というのも、このヘロデは、自分の兄弟フィリポの妻ヘロディアと結婚したため、使者を送ってヨハネを捕らえ、牢屋に閉じ込めていたからである。というのも、ヨハネはヘロデに、「あなたは兄弟の妻を妻にしてはならない」と言っていたからである。ヘロディアはヨハネに憤り、彼を殺そうとしたが、できなかった。ヘロデは、ヨハネが義人であり聖なる人であることを知っていたため、彼を恐れ、彼を守っていた。また、彼の言うことを聞き入れ、多くのことを行い、喜んで彼の言葉に耳を傾けていた。ある好機が訪れた。ヘロデが自身の誕生日を祝って、高官たち、千人隊長たち、そしてガリラヤの長老たちを招いて宴会を開いていた時、ヘロディアの娘が入ってきて踊り、ヘロデと彼と共に席に着いていた者たちを喜ばせた。王は少女に言った。「望むものを何でも求めてくれ。与えよう。」そして彼女に誓って言った。「何を求めても、たとえ私の王国の半分であっても、与えよう。」彼女は出て行き、母に「何を求めればよいのか」と尋ねた。母は答えた。「洗礼者ヨハネの首だ。」彼女はすぐに急いで王のもとへ行き、こう願い出た。「今すぐ、洗礼者ヨハネの首を皿に乗せてください。」王は悲しんだが、誓いの言葉と、共に食卓を囲んでいた者たちのために、彼女を拒むことはできなかった。そこで王は直ちに兵士を遣わし、その首を持ってくるよう命じた。その従者は行って、牢獄でヨハネの首を切り落とし、それを皿に乗せて少女に渡し、少女はそれを自分の母に渡した。弟子たちはこれを聞いてやって来て、その遺体を引き取り、墓に葬った。そして、使徒たちはイエスのところに集まり、すべてのこと、自分たちが何をしたか、何を教えたかをイエスに報告した。

マルコによる福音書 6:14-30
8月29日、洗礼者ヨハネの首の切断記念日、聖体礼儀にて。

マルコによる福音書 第25章

その頃、使徒たちがイエスのところへ集まり、自分たちがしたことや教えたことすべてをイエスに報告した。イエスは彼らに言われた。「あなたがただけで人里離れた場所へ行き、少し休みなさい。行き来する人が多く、食事をする暇さえなかったからである。」そこで、彼らは舟に乗って、人里離れた場所へ一人で行った。人々は彼らが旅立つのを目撃し、多くの者が彼らだと気づいた。そこで、あらゆる町から徒歩の人々がそこへ駆けつけ、彼らに知らせると、イエスのもとへ集まってきた。イエスは船から上陸して、大勢の群衆を見て、彼らを憐れまれた。彼らはまるで羊飼いのいない羊のようであったからである。そして、彼らに多くのことを教え始められた。しばらく時間が経つと、弟子たちがイエスのところに来て言った。「ここは人里離れた場所ですし、時間もかなり経ちました。彼らを解散させて、周辺の村や集落へ行き、自分たちでパンを買えるようにしてください。彼らには食べるものが何もないのです。」イエスは彼らに答えて言われた。「あなたがたが彼らに食べ物を与えなさい。」すると、弟子たちは言った。「私たちが行って、二百デナリ分のパンを買って、彼らに食べさせればよいのでしょうか。」しかし、イエスは彼らに尋ねられた。「パンはいくつあるか。行って確かめてみよ。」弟子たちは調べて、「五つのパンと二匹の魚です」と答えた。そこで、イエスは彼らに、緑の草の上に人

々をグループごとに座らせるよう命じられた。人々は百人ずつ、五十人ずつ列をなして座った。イエスは五つのパンと二匹の魚を取り、天を見上げて祝福し、パンを裂いて弟子たちに渡し、人々に配らせた。また、二匹の魚を皆に分け与えた。すると、皆が食べて満腹した。そして、パンの切れ端や魚の残りを集めると、十二の籠がいっぱいになった。パンを食べた者は、男だけで約五千人であった。イエスはすぐに弟子たちに舟に乗り、民を解散させる間、先立って対岸のベツサイダへ向かうよう命じられた。

マルコ 6:30-45
第15週の木曜日。

マルコによる福音書、第26章の冒頭

そのとき、イエスは弟子たちに舟に乗り込み、ご自身が群衆を解散させる間、先立って対岸のベツサイダへ向かうよう命じられた。そして、彼らを送り出した後、祈るために山へ登られた。夕方になると、舟は海の真ん中にあり、イエス様だけは陸におられた。イエス様は、逆風のため舟が苦戦しているのをご覧になった。夜中の第四番目の番の頃、イエス様は海の上を歩いて彼らに近づき、彼らの横を通り過ぎようとした。弟子たちは、イエス様が海の上を歩いておられるのを見て、幽霊だと思い、叫び声を上げた。皆がイエスを見て恐れおののいた。すると、イエスはすぐに彼らに語りかけ、こう言われた。「勇気を出しなさい。わたしだ。恐れることはない。」そして、イエスは彼らの舟に乗り込まれると、風は静まった。彼らは心の中で大いに驚き、不思議に思った。というのも、彼らの心は硬くなっていたため、パンに関する奇跡の意味を理解できていなかったからである。そして、対岸に渡り、ゲネサレトの地に到着して、岸に上陸した。

マルコによる福音書 6:45-53
第15週の金曜日。

マルコによる福音書、第27章

その頃、イエスが舟から上陸されると、住民たちはすぐにイエスだと気づき、その一帯を駆け巡り、病人を寝台に乗せて、イエスがいると聞いた場所へ運び始めた。そして、イエスがどこへ行かれるにしても、村であれ、町であれ、集落であれ、人々は病人を野外に寝かせ、せめてイエスの衣の端にでも触れてほしいと願った。そして、イエスに触れた者は皆、癒やされた。エルサレムからやって来たパリサイ人や律法学者たちが、イエスの周りに集まり、弟子たちの一部が「汚れた」、すなわち洗っていない手でパンを食べているのを見て、彼らを非難した。パリサイ人やすべてのユダヤ人は、先祖の伝承に従って、手を念入りに洗わずに食事をとらないからである。また、市場から帰ってきても、身を清めずに食事をするのではない。他にも、彼らが守ることを定めた多くの慣習がある。例えば、杯や水差し、鍋、食卓の清めを厳守することなどである。そこで、パリサイ人と律法学者たちはイエスに尋ねた。「なぜ、あなたの弟子たちは先祖の伝承に従わず、手を洗わずにパンを食べるのですか。」イエスは彼らに答えて言われた。「イザヤは、あなたがた偽善者たちについて、よく預言した。こう書かれている。『この民は口先ではわたしを敬うが、その心はわたしから遠く離れている。彼らは人間の教えや戒めを説くことで、むなしくわたしを敬っている。』あなたがたは、神の戒めを捨てて、人間の伝承に固執しているからだ。」

マルコ 6:54-7:8A
第16週の月曜日。

マルコによる福音書、28章の冒頭

そのとき、パリサイ人と律法学者たちがイエスに尋ねた。「なぜ、あなたの弟子たちは、先祖の伝承に従わず、手を洗わずにパンを食べるのですか。」イエスは彼らに答え

て言われた。「イザヤは、あなたがた偽善者たちについて、よく預言した。こう書かれている。『この民は口先ではわたしを敬うが、その心はわたしから遠く離れている。彼らは人間の教えや戒めを説くことで、むなしくわたしを敬っている。』 あなたがたは、神の戒めを捨てて、人の伝承、すなわち杯や鉢を洗うことなどに固執し、この他にも多くの同様のことを行っている。そして、彼らに言われた。「あなたがたは、自分の伝承を守るために、神の戒めを無効にしているのか。モーセは、『父と母を敬え』と命じ、 また、『父または母をののしる者は、死に処せられなければならない』とも言っている。しかし、あなたがたは、『父または母に、「コルワン」、すなわち、あなたが私から得るはずだったものを神への捧げ物とする』と言う。それによって、あなたがたは、自分たちが定めた伝統によって神の言葉を無効にし、父や母のために何もしないことを許している。そして、これと同様のことを数多く行っている。そして、すべての民を呼び集めて、彼らにこう言われた。「皆、わたしに耳を傾け、よく理解しなさい。人の外から入って来るものは、人を汚すことはできない。しかし、人から出て行くものこそ、人を汚すのである。聞く耳のある者は、聞きなさい。」

マルコによる福音書 7:5-16
第16週の火曜日。

マルコによる福音書、第29章の冒頭

そのとき、イエスはすべての民を呼び寄せ、彼らにこう言われた。「皆、わたしに耳を傾け、よく理解しなさい。人の外から入って来るものは、人を汚すことはできない。しかし、人から出てくるものこそ、人を汚すのである。聞く耳のある者は、聞きなさい。」そして、イエスが群衆の中から家に入ると、弟子たちがそのたとえについて尋ねた。イエスは彼らに言われた。「あなたたちも、それほど理解力がないのか。外から人の内に入るものは、人を汚すことはできないということを、まだ悟らないのか。それは人の心に入るのではなく、腹に入り、そこから排出されるからであり、それによってあらゆる食物は清められるのだ。」 さらに、こう言われた。「人から出てくるものが、人を汚すのである。なぜなら、人の内側、すなわち人の心から、悪意、姦淫、淫行、殺人、盗み、強奪、悪意、欺瞞、放蕩、嫉妬の眼差し、冒瀆、高慢、狂気——これらすべての悪は内側から出てきて、人を汚すからである。そして、そこから立ち去って、ティルスとシドンの地方へ行った。

マルコによる福音書 7:14-24A
第16週の水曜日。

マルコによる福音書、第30章の冒頭

その頃、イエスはティルスとシドンの地方に来られた。そして、ある家に入られたが、誰にも知られなくなかった。しかし、隠れることはできなかった。というのも、娘が汚れた霊に取りつかれていたある女性が、イエスのことを聞きつけ、やって来てイエスの足元にひれ伏したからである。その女性は異邦人で、シリア・フェニキア人であった。彼女は、娘から悪霊を追い出してくれるようイエスに願った。しかし、イエスは彼女に言われた。「まず子供たちが満腹になるのを待ちなさい。子供たちからパンを取り上げて、犬たちに投げるのは良くないからだ。」すると、彼女は答えて言った。「そうです、主よ。しかし、犬たちも食卓の下で、子供たちのパンくずを食べています。」 イエスは彼女に言われた。「その言葉のゆえに、行きなさい。悪霊はあなたの娘から出て行った。」彼女は家に帰ると、悪霊が去り、娘がベッドに横たわっているのを見つけた。

マルコによる福音書 7:24-30
第16週の木曜日。

マルコによる福音書、第31章

その頃、イエスはティルスとシドンの地方を後にし、十都市の地方を通して、再びガリラヤ湖へと向かわれた。人々が、耳が聞こえず、言葉もろくに話せない人をイエスのところに連れて来て、彼に手を置いてくださるよう願った。イエスは、その人を群衆から離れて連れ出し、指をその耳に差し入れ、唾を吐いてその舌に触れ、天を見上げてため息をつき、「エファファ」、すなわち「開け」と言われた。すると、たちまちその人の耳が開き、舌の結び目が解けて、はっきり話せるようになった。イエスは彼らに、誰にもこのことを話さないようにと命じられた。しかし、イエスがいくら禁じても、彼らはかえってますます広めていった。人々は非常に驚き、「この方は、何をするにも素晴らしい。耳の聞こえない者を聞こえるようにし、口のきけない者を話せるようにする」と言った。

マルコによる福音書 7:31-37
四旬節第4安息日。

マルコによる福音書、32章の冒頭

その頃、大勢の群衆が集まり、食べるものが何もない状況であった。イエスは弟子たちを呼び寄せて言われた。「この人々が、もう三日もわたしのそばにいて、食べるものが何もないのが気の毒だ。もし何も食べさせずに家へ帰らせれば、道中で力尽きてしまうだろう。彼らの中には、遠くから来た者もいるのだから。」弟子たちはイエスに答えた。「この荒野で、彼らに食べさせるパンをどこから手に入れられるでしょうか。」イエスは彼らに尋ねた。「パンはいくつあるか。」彼らは言った。「七つです。」そこで、イエスは群衆に地面に腰を下ろすように命じ、七つのパンを取り、感謝をささげてから、それを裂いて弟子たちに渡し、配るように言われた。弟子たちはそれを群衆に配った。また、彼らには少量の魚もあった。イエスはそれを祝福して、それも配るように命じられた。人々は食べて満腹し、残ったパンの切れ端を七つの籠に集めた。食べた人は約四千人であった。イエスは彼らを帰された。そしてすぐに弟子たちと共に舟に乗り込み、ダルマヌフの地方へ到着された。

マルコによる福音書 8:1-10
第16週の金曜日。

マルコによる福音書、第33章の冒頭

その頃、パリサイ人たちがやって来て、イエスと論争を始め、天からのしるしを求め、イエスを試みた。イエスは深くため息をついて言われた。「なぜ、この世代はしるしを求めるのか。まことに、あなたがたに告げる。この世代にはしるしは与えられない。」そして、彼らを置いて、再び舟に乗り込み、対岸へ向かわれた。その時、弟子たちはパンを持ってくるのを忘れており、舟の中にはパンが一つしか持ち合わせていなかった。そこで、イエスは彼らに命じて言われた。「気をつけなさい。ファリサイ派のパン種とヘロデのパン種に気をつけなさい。」弟子たちは互いに話し合い、「これは、私たちにパンがないということだ」と言った。イエスはそれを察して、彼らに言われた。「パンがないことについて、なぜ話し合っているのか。まだ悟らず、理解できないのか。まだあなたがたの心は石のように固いのか。目があるのに見えず、耳があるのに聞こえず、思い出せないのか。わたしが五つのパンを五千人のために裂いたとき、あなたがたはパンのかけらを何籠分集めたか。」彼らは「十二籠です」と答えた。「では、七つのパンを四千人のために裂いたとき、残りのパンのかけらを何籠分集めたか。」彼らは「七籠です」と答えた。そこでイエスは彼らに言われた。「どうして悟らないのか。」

マルコによる福音書 8:11-21
第30週の月曜日。

マルコによる福音書、第34章

その頃、イエスはベツサイダに来られた。人々が盲人を連れて来て、イエスに彼に触れてくださるようお願いした。イエスは盲人の手を取って、村の外へ連れ出し、その目に唾を吐きかけ、彼に手を置いて、「何か見えるか」と尋ねられた。彼は見回して、「通り過ぎる人々が、木のように見えます」と言った。そこで、イエスは再びその人の目に手を置き、よく見るようにと命じられた。すると、彼は癒やされ、すべてをはっきりと見るようになった。イエスは彼を家に帰し、「村には入らないで、村の誰にもこのことを話してはならない」と言われた。

マルコによる福音書 8:22-26
第30週の火曜日。

マルコによる福音書、第35章の冒頭

その頃、イエスは弟子たちを連れて、ケサレア・フィリップの町々へ向かわれた。道中、イエスは弟子たちに尋ねられた。「人々はわたしを誰だと言っているのか。」弟子たちは答えた。「バプテスマのヨハネだと言う者もいれば、エリヤだと言う者もいれば、また、預言者の一人だと言う者もいます。」イエスは彼らに言われた。「では、あなたがたはわたしを誰だと思っているのか。」ペトロが答えて言った。「あなたはキリストです。」イエスは、自分について誰にも話さないようにと彼らに命じられた。そして、人の子は多くの苦しみを受け、長老たちや祭司長たちや律法学者たちに拒まれ、殺され、三日目に復活しなければならない、と教え始められた。

マルコによる福音書 8:27-31
四旬節第5土曜日。

マルコによる福音書、第36章

そのころ、イエスは弟子たちに、ご自身について誰にも話さないよう厳しく禁じられた。そして、人の子は多くの苦しみを受け、長老たちや大祭司たち、律法学者たちに拒まれ、殺され、三日目に復活しなければならない、と教え始められた。そして、このことを公然と語られた。しかし、ペテロはイエスを脇に呼び、反論し始めた。イエスは振り返って弟子たちを見渡し、ペテロを叱りつけて言われた。「サタンよ、わたしの前から去れ。あなたは神の御心ではなく、人のことを考えているからだ。」そして、群衆と弟子たちを呼び寄せ、彼らに言われた。「わたしに従いたい者は、自分を捨て、自分の十字架を負い、わたしに従いなさい。」

マルコによる福音書 8:30-34
第30週の水曜日。

マルコによる福音書、第37章の冒頭

主は言われた。「わたしに従いたい者は、自分を捨て、自分の十字架を負い、わたしに従いなさい。自分の命を救おうとする者は、それを失い、わたしと福音のために自分の命を失う者は、それを救う。人が全世界を得ても、自分の魂を損なうなら、何の益があるだろうか。あるいは、人は自分のいのちと引き換えに、どのような代価を払うことができるだろうか。この姦淫と罪に満ちた世の中で、わたしやわたしの言葉を恥じる者は、人の子もまた、御父の栄光のうちに聖なる御使いたちと共に来るとき、その者を恥じるであろう。そして、彼らに言われた。「まことに、あなたがたに告げます。ここに立っている人の中には、死を味わうことなく、力強く到来する神の御国を見る者がいるのです。」

マルコによる福音書 8:34-9:1
四旬節第3週。
主の十字架の挙揚の後の週。

マルコによる福音書、38節から

その頃、イエスはペトロ、ヤコブ、ヨハネを連れて、彼らだけを特に高い山に導き上げ、彼らの前で姿を変えられた。イエスの衣は輝き、雪のように真っ白になり、地上の漂白師が漂白することのできないほどであった。すると、エリヤとモーセが現れ、イエスと語り合っていた。その時、ペテロはイエスに言った。「ラビ、ここにいるのは良いことです。三つの小屋を建てましょう。一つはあなたのために、一つはモーセのために、もう一つはエリヤのために。」彼は何を言えばよいのか分からなかった。彼らは恐れおののいていたからである。すると、雲が現れて彼らを覆い、雲の中から声がして言った。「これは、わたしの愛する子である。彼に聞き従え。」そして、ふと周りを見回すと、イエスお一人以外、誰も一緒にいるのが見えなかった。彼らが山を下りる際、イエスは、人の子が死者の中からよみがえるまでは、見たことを誰にも話してはならないと命じられた。

マルコによる福音書 9:2-9
主の変容、早課にて。

マルコによる福音書、第39章

その頃、弟子たちはイエスの言葉を心に留め、「死者の中からよみがえる」とはどのようなことか、互いに尋ね合っていた。そして、彼らはイエスに尋ねた。「では、なぜ律法学者たちは、エリヤがまず来なければならないと言っているのですか。」イエスは答えて言われた。「確かに、エリヤはまず来て、すべてを整えなければならない。そして、人の子は、彼について書かれているとおり、多くの苦しみを受け、辱められなければならない。しかし、あなたがたに言う。エリヤもすでに来たが、彼については、彼について書かれているとおり、人々は彼に好きなように扱ったのだ。イエスは弟子たちのところに来ると、彼らの周りに大勢の群衆が集まっており、律法学者たちが彼らと論争しているのを見た。群衆はイエスを見るやいなや、皆驚いて、駆け寄ってイエスを歓迎した。イエスは律法学者たちに尋ねた。「彼らと何について論争しているのか。」

マルコによる福音書 9:10-16
第30週の木曜日。

マルコによる福音書、第40章の冒頭

その頃、ある人がイエスのところに来て、ひれ伏して言った。「先生、私の息子は、口がきけない悪霊に取りつかれています。その悪霊は、どこで彼を捕らえても、地面に倒し、彼は泡を吹き、歯ざしりをして、硬直してしまいます。私はあなたの弟子たちに、その悪霊を追い出してもらおうと頼みましたが、彼らはできませんでした。」イエスは彼に答えて言われた。「ああ、不信仰な者たちよ。いつまで私はあなたがたと共にいなければならないのか。いつまであなたがたを忍ばなければならないのか。彼をわたしのところへ連れて来なさい。」そこで、彼らは彼をイエスのところへ連れて来た。悪霊に取りつかれた者がイエスを見ると、悪霊が彼を激しく揺さぶり、彼は地面に倒れて、泡を吹いてのたうち回った。イエスはその父に尋ねられた。「いつからこのようなことが彼に起きているのか。」父は答えた。「幼い頃からです。その霊は何度も彼を火の中や水の中に投げ込み、彼を滅ぼそうとしてきました。しかし、もしおできになるなら、私たちを憐れんで、助けてください。」イエスは彼に言われた。「少しでも信じることができるなら、信じる者には何でもできる。」すると、その少年の父親はすぐに涙ながらに叫んだ。「主よ、信じます！ 私の不信仰をお助けください。」イエスは、人々が集まってくるのを見て、汚れた霊に命じて言われた。「口がきけない、耳の聞こえない霊よ！ あなたに命じる。彼から出て行き、今後二度と彼の中に入ってはいけない。」すると、悪霊は叫び声を上げ、少年を激しく震わせた後、出て行った。少年はまるで死んだかのようになり、多くの人が「彼は死んだ」と言った。しかし、イエスは少年の手を取って起こすと、少年

は立ち上がった。イエスが家に入ると、弟子たちは人目を避けて尋ねた。「なぜ私たちには、あの悪霊を追い出せなかったのですか。」 イエスは彼らに言われた。「この種の悪霊は、祈りと断食によってでなければ、追い出すことはできない。」そこから出て、ガリラヤ地方を通り抜けたが、イエスは誰にも知られたくなかった。なぜなら、イエスは弟子たちに教え、こう語っておられたからである。「人の子は人の手に引き渡され、殺される。しかし、殺された後、三日目に復活する。」

マルコによる福音書 9:17-31
四旬節第4週。

マルコによる福音書、第41章の冒頭

そのころ、イエスと弟子たちはカペナウムに着いた。家に入ると、イエスは彼らに尋ねた。「道中、何について話し合っていたのか。」彼らは黙っていた。道中、誰が最も偉いかにについて話し合っていたからである。そこで、イエスは座って十二人を呼び寄せ、こう言われた。「誰かが一番になりたいと思うなら、すべての人の最後になり、すべての人のしもべにならなければならない。」そして、幼子を抱き上げ、彼らの真ん中に立たせ、その子を抱きしめて、彼らに言われた。「このような幼子の一人を、わたしの名によって受け入れる者は、わたしを受け入れるのである。そして、わたしを受け入れる者は、わたしを受け入れるのではなく、わたしを遣わした方を受け入れるのである。」すると、ヨハネが言った。「先生、私たちは、あなたの御名によって悪霊を追い出しているが、私たちに従わない人を見かけました。私たちに従わないので、彼を禁じました。」 イエスは言われた。「彼を禁じてはならない。わたしの名によって奇跡を行う者は、すぐにわたしを冒瀆することなどできないからだ。あなたがたに敵対しない者は、あなたがたに味方しているのだ。また、あなたがたがキリストのものだからという理由で、わたしの名によって水一杯をあなたがたに飲ませてくれる者は、まことに、あなたがたに告げる。その人は自分の報いを失うことはない。」

マルコによる福音書 9:33-41
第30週の金曜日。

12月20日および1月29日、神を宿したイグナティウス。

マルコによる福音書、第42章の冒頭

主は言われた。「わたしを信じるこれらの小さな者たちのうち、ひとりをつまずかせる者は、その首に水車の石を懸けられて海に投げ込まれるほうが、まだましである。もしあなたの手があなたを罪に誘うなら、それを切り捨てなさい。両手を持ってゲヘナ、すなわち消えることのない火の中へ投げ込まれるよりは、不具となって命に入るほうが、あなたにとってましである。そこでは、虫は死なず、火は消えることがない。もしあなたの足があなたを罪に誘うなら、それを切り捨てなさい。両足を持ってゲヘナ、すなわち消えることのない火の中に投げ込まれるよりは、足の不自由な者として命に入るほうが、あなたにとってましである。そこでは、虫は死なず、火は消えることがない。もしあなたの目があなたを罪に誘うなら、それをえぐり出せ。両目を持って火のゲヘナに投げ込まれるよりは、片目で神の国に入るほうが、あなたにとってましである。そこでは、虫は死なず、火は消えることがない。すべてのものは火で塩漬けにされ、すべての供え物は塩で味付けされるからである。塩は良いものである。しかし、もし塩が塩気を失ったら、何をもってそれを塩気あるものにするのか。あなたがたは、自分の中に塩を持ち、互いに平和を保ちなさい。そこから立ち去って、ヨルダン川の向こう側のユダヤ人の地域へ行った。再び群衆がイエスのところに集まってきたので、イエスはいつものように、彼らに教えを説かれた。

マルコ 9:42-10:1
第31週の月曜日。

マルコによる福音書、第43章の冒頭

その頃、パリサイ人たちが近づいてきて、イエスを試そうとして尋ねた。「夫が妻と離婚することは許されるでしょうか。」イエスは彼らに答えて言われた。「モーセはあなたがたに何を命じましたか。」彼らは言った。「モーセは、離婚状を書いて離婚することを許しました。」イエスは彼らに答えて言われた。「あなたがたの心の硬さのために、モーセはあなたがたにこの戒めを書かせたのです。しかし、創造の初めから、神は人を男と女とを造られました。それゆえ、人は父と母を離れて、妻と結ばれ、二人は一体となるのです。そうして、もはや二人がではなく、一体となるのです。それゆえ、神が結び合わせたものを、人は離してはならない。」家の中で、弟子たちは再び同じことについてイエスに尋ねた。イエスは彼らに言われた。「だれでも、妻と離婚して別の女性と結婚する者は、その妻に対して姦淫を犯すことになる。また、妻が夫と離婚して別の男性と結婚する場合も、姦淫を犯すことになる。」

マルコによる福音書 10:2-12
第31週の火曜日。

マルコによる福音書、第44章の冒頭

主は言われた。「だれでも、妻と離婚して別の女と結婚する者は、その妻に対して姦淫を犯すことになる。また、妻が夫と離婚して別の男と結婚するならば、姦淫を犯すことになる。」人々は子供たちをイエスのところに連れて来て、イエスに手を触れてもらおうとしたが、弟子たちはそれを許さなかった。それを見て、イエスは憤り、弟子たちに言われた。「子供たちをわたしのところに来させておきなさい。妨げてはならない。神の国は、このような者たちのものである。まことに、あなたがたに告げる。子供のように神の国を受け入れない者は、決してそこに入ることはできない。」そして、子供たちを抱きしめ、彼らに手を置いて祝福された。

マルコによる福音書 10:11-16
第31週の水曜日。

マルコによる福音書、第45章

その頃、イエスが旅立たれようとしておられたとき、ある人が駆け寄って来て、イエスの前にひざまずき、こう尋ねた。「善き先生。永遠のいのちを得るためには、何をすべきでしょうか。」イエスは彼に言われた。「なぜ、わたしを『善き』と呼ぶのか。神お一人だけが善き方である。」『姦淫してはならない、殺してはならない、盗んではならない、偽証してはならない、冒瀆してはならない、父と母を敬え』という戒めを知っているでしょう。」すると、彼は答えて言った。「先生、私は若い頃からこれらすべてを守ってきました。」イエスは彼を見つめ、彼を愛おしく思い、こう言われた。「あなたには一つだけ欠けている。行って、持っているものをすべて売り払い、貧しい人々に分け与えなさい。そうすれば、天に宝を持つことになる。そして、十字架を背負って、わたしに従いなさい。」しかし、彼はこの言葉に動揺し、悲しんで立ち去った。彼には多くの財産があったからである。そして、イエスは周囲を見回して、弟子たちに言われた。「富を持つ者が神の国に入るのは、なんと難しいことか。」弟子たちはその言葉に愕然とした。しかし、イエスは再び彼らに答えて言われた。「子らよ。富に頼る者が神の国に入るのは、なんと難しいことか。ラクダが針の穴を通る方が、金持ちが神の国に入ることよりも容易である。」弟子たちは大いに驚き、互いに「それでは、誰が救われることができるのか」と話し合った。イエスは彼らを見据えて言われた。「人間にはできないが、神にはできる。神にはすべてのことが可能だからである。」

マルコによる福音書 10:17-27
第31週の木曜日。

マルコによる福音書、第46章の冒頭

主は言われた。「富を持つ者が神の国に入るのは、なんと難しいことか。」弟子たちはその言葉に愕然とした。しかし、イエスは再び彼らに答えて言われた。「子らよ。富に頼る者が神の国に入るのは、なんと難しいことか。」富んだ者が神の国に入るのは、らくだが針の穴を通るよりも難しい。彼らは大いに驚き、互いに言った。「それでは、誰が救われることができるのか。」イエスは彼らを見据えて言われた。「人にとっては不可能だが、神にとっては可能である。神にはすべてのことが可能だからである。」すると、ペテロがイエスにこう言い始めた。「見よ、私たちはすべてを捨てて、あなたに従いました。」イエスは答えて言われた。「まことに、あなたがたに言います。わたしと福音のために、家や兄弟、姉妹、父、母、妻、子供、あるいは土地を捨てた者で、今、この時代、迫害のさなかにおいて、家や兄弟、姉妹、父、母、子供、土地を百倍も受け、来るべき世では永遠の命を受けるのである。しかし、多くの人は、先頭にいる者が最後になり、最後にいる者が先頭になる。彼らがエルサレムへ上る道中、イエスは彼らの先頭を歩んでおられたが、彼らは恐れおののき、イエスに従いながら、不安に駆られていた。

マルコ 10:23B-32A
第31週の金曜日。

マルコによる福音書、第47章の冒頭

その頃、イエスは十二人を呼び寄せ、ご自身に起こるべきことについて語り始められた。「見よ、私たちはエルサレムへ上る。そして、人の子は祭司長や律法学者たちに引き渡され、死刑の判決を受け、異邦人に引き渡され、侮辱され、鞭打たれ、唾を吐きかけられ、殺される。しかし、三日目に復活する。」すると、ゼベダイの子であるヤコブとヨハネがイエスのところに来て言った。「先生、私たちがお願いすることを、どうか叶えてください。」イエスは彼らに言われた。「私に何をしてほしいのか。」彼らは言った。「あなたの栄光のうちに、一人はあなたの右に、もう一人は左に座らせてください。」しかし、イエスは彼らに言われた。「あなたがたは、何を願っているのか分かっていない。わたしが飲む杯を飲むことができ、わたしが受けるバプテスマを受けることができるか。」彼らは、「できます」と答えた。イエスは彼らに言われた。「わたしが飲む杯は、あなたがたも飲むことになる。また、わたしが受けるバプテスマは、あなたがたも受けることになる。しかし、わたしの右と左に座することは、わたしが決めることではなく、あらかじめ定められた者たちのものなのだ。」これを聞いて、十人の弟子たちはヤコブとヨハネを非難し始めた。そこで、イエスは彼らと呼ばせて言われた。「あなたがたも知っているように、諸国の支配者たちは民を支配し、高官たちは民を支配している。しかし、あなたがたの間ではそうであってはならない。あなたがたの間で偉くなりたいと思う者は、あなたがたのしもべとなり、あなたがたの間で第一になりたいと思う者は、すべての人のしもべとなささい。人の子は、仕えられるためではなく、仕え、多くの人の贖いのために自分の命を捧げるために来たのである。

マルコによる福音書 10:32b-45
四旬節第5週。

マルコによる福音書、48節

その頃、イエスが弟子たちや大勢の群衆を連れてエリコを出ようとしたとき、ティマイの子バルティマイという盲人が、道端に座って物乞いをしていた。それがナザレのイエスだと聞くと、彼は叫びながら言った。「ダビデの子イエスよ、私を憐れんでください。」多くの人が彼を黙らせようとしたが、彼はなおさら大声で叫んだ。「ダビデの子よ、私を憐れんでください。」イエスは立ち止まり、彼を呼ぶように命じられた。人々は盲人を呼び、「恐れることはない。立ち上がって、彼のもとへ行け。イエスがあなたを呼んで

おられる」と言った。彼は上着を脱ぎ捨て、立ち上がってイエスのところへ行った。イエスは彼に答えて、「わたしに何を望むのか」と尋ねられた。盲人は、「先生、目が見えるようになりたいのです」と言った。イエスは彼に、「行きなさい。あなたの信仰があなたを救った」と言われた。すると、彼はたちまち目が見えるようになり、道を歩いてイエスに従った。

マルコによる福音書 10:46-52
第17週および第32週の月曜日。

マルコによる福音書、第49章の冒頭

その頃、イエスと弟子たちがエルサレムに近づき、ピファジアやピファニヤ、オリーブ山に差し掛かったとき、イエスは弟子たちのうち二人を遣わして、こう言われた。「あなたがたの目の前の村へ行きなさい。そこに入ると、すぐに、まだ誰も乗ったことのない若いロバが繋いであるのを見つけるだろう。それを解いて連れて来なさい。もし誰かが『何をしているのか』と尋ねたら、『主のために必要なのです』と答えなさい。そうすれば、すぐにここへ送ってくれるだろう。」彼らは行って、通りの門のそばに縛られている子ロバを見つけ、それを解いた。そこに立っていた人々のうち、何人かが彼らに言った。「何をしているのか。なぜ子ロバの綱を解くのか。」彼らはイエスが命じられたとおりに答えると、人々は彼らを行かせた。そして、子ロバをイエスのところへ連れて行き、その上に自分の服を敷いた。イエスはそれに乗られた。また、多くの人が自分の服を道に敷き、他の人たちは木から枝を切り取って道に敷いた。先頭に行く者たちも、後ろからついていく者たちも、「オサナ！主の御名によって来られる方、祝福あれ！主の御名によって来る、私たちの父ダビデの王国、祝福あれ！天にオサナ！」と叫んだ。イエスはエルサレムに入り、神殿に入られた。そして、すでに時刻が遅くなっていたため、すべてを見回した後、十二弟子たちと共にベタニヤへ出られた。

マルコによる福音書 11:1-11
四旬節前の週の月曜日。

マルコによる福音書、第50章

その頃、イエスはエルサレムに入り、神殿に入られた。そして、すべてを見回されたが、すでに時刻が遅くなっていたので、十二弟子たちと共にベタニヤへ出られた。翌日、彼らがベファニヤを出たとき、イエスは空腹を感じられた。遠くから葉で覆われたイチジクの木を見かけ、その木に何か実があるかどうか確かめようと近づかれた。しかし、その木にたどり着いてみると、葉以外には何も見つからなかった。まだイチジクを収穫する時期ではなかったからである。そこでイエスはその木に言われた。「これから永遠に、だれもあなたの実を食べることがないように。」弟子たちはそれを聞いた。彼らはエルサレムに着いた。イエスは神殿に入り、神殿で売り買いしている者たちを追い出し始め、両替商の机や鳩を売る者の腰掛けをひっくり返し、だれも神殿を通して物を運び出すことを許さなかった。そして、彼らに教えながら言われた。「『わたしの家は、すべての民のための祈りの家と呼ばれる』と書いてあるではないか。それなのに、あなたがたはそれを強盗の巣窟にしてしまった。」これを聞いた律法学者や大祭司たちは、イエスを滅ぼす方法を模索した。彼らはイエスを恐れていたからである。民衆全体がイエスの教えに驚嘆していたからである。日が暮れると、イエスは町を出て行かれた。翌朝、そこを通りかかったとき、人々はイチジクの木が根元から枯れているのを見た。ペトロはそれを思い出し、イエスに言った。「ラビ、ご覧ください。あなたがのろわれたイチジクの木が枯れています。」イエスは答えて言われた。「神の信仰を持ちなさい。まことに、あなたがたに言います。もしだれかがこの山に向かって、『立ち上がって、海に飛び込め』と言い、心

の中で疑わず、その言葉どおりになると信じるなら、その人が言うことは何でもその通りになるのです。」

マルコによる福音書 11:11-23
第17週および第32週の火曜日。

マルコによる福音書、第51章の冒頭

主は弟子たちに言われた。「神の信仰を持ちなさい。まことに、あなたがたに告げます。もしだれかがこの山に向かって、『立ち上がって、海に飛び込め』と言い、心の中で疑わず、その言葉どおりになると信じるなら、その人が言うことは何でもその人にとって実現するでしょう。それゆえ、あなたがたに言うておく。祈りの中で何を願おうとも、それを受けると信じなさい。そうすれば、あなたがたには与えられる。また、祈っているときは、もし誰かに対して恨みがあるなら、その人を赦しなさい。そうすれば、天におられるあなたがたの父も、あなたがたの罪を赦してくださる。しかし、もしあなたがたが赦さないなら、天におられるあなたがたの父も、あなたがたの罪を赦してはくださらない。」

マルコによる福音書 11:23-26
第17週および第32週の水曜日。

マルコによる福音書、第52章の冒頭

そのころ、イエスはエルサレムにお入りになった。イエスが神殿を歩いておられると、大祭司や律法学者、長老たちが近づいて来て、こう言った。「どのような権威をもって、このようなことをなさるのですか。また、誰があなたにそのような権威を与えたのですか。」イエスは彼らに答えて言われた。「わたしもあなたがたに一つのことを尋ねよう。答えてくれ。そうすれば、わたしがどのような権威をもってこれを行っているのか、あなたがたに告げよう。ヨハネの洗礼は、天から来たものか、それとも人から来たものか。答えてくれ。」彼らは互いに議論し合った。「もし『天から』と言え、『では、なぜ彼を信じなかったのか』と言われるだろう。『人からのものだ』と言え、民を恐れていた。なぜなら、皆、ヨハネが確かに預言者であると信じていたからである。そこで彼らはイエスに答えて言った。「わかりません。」すると、イエスは彼らに言われた。「それなら、わたしも、どのような権威をもってこれをしているのか、あなたがたには言わない。」

マルコによる福音書 11:27-33
第17週および第32週の木曜日。

マルコによる福音書、第53章の冒頭

主は、次のようなたとえを語られた。「ある人がぶどう園を植え、それを柵で囲み、砕き場を作り、見張り塔を建て、それをぶどう園の管理人たちに任せて、旅に出た。やがて、収穫の時期になると、主人は使用人をぶどう園の農夫たちのところへ遣わし、ぶどう園の実を受け取らせようとした。しかし、農夫たちはその使用人を捕らえて殴り、何も持たせずに追い返した。主人はまた別のしもべを彼らのもとへ送ったが、そのしもべは石で頭を打ち砕かれ、辱めを受けて追い返された。さらに別のしもべを送ったが、そのしもべも殺された。他にも多くのしもべを送ったが、殴られたり殺されたりした。主人にはまだ一人、愛する息子が残っていたので、最後にその息子を彼らのもとへ送り、「私の息子なら、彼らは恥じるだろう」と言った。しかし、ぶどう園の農夫たちは互いに言った。「こいつは相続人だ。さあ、行って彼を殺そう。そうすれば、相続財産は私たちのものになる。」そして、彼を捕らえて殺し、ぶどう園の外へ放り出した。さて、ぶどう園の主人はどうするだろうか。——やって来て、農夫たちを殺し、ぶどう園を他の者たちに渡さるだろう。『聖書』にこう書かれているのを、あなたがたは読まなかったのか。「大工た

ちが捨てた石が、隅の親石となった。これは主によるものであり、私たちの目には不思議なことである。」彼らはイエスを捕らえようとしたが、民を恐れた。イエスが彼らについてこのたとえを語られたと悟ったからである。そこで、イエスを放っておいて立ち去った。

マルコによる福音書 12:1-12
第17週および第32週の金曜日。

マルコによる福音書、第54章の冒頭

その頃、ユダヤ人の大祭司たちや長老たちは、ファリサイ派やヘロデ派の人々を何人かイエスのところへ遣わし、言葉の罠にかけて捕らえようとした。彼らは来て、イエスに言った。「先生、私たちは、あなたが公正で、誰の顔色もうかがわず、まことに神の道を教えておられることを知っています。カエサルに税を納めることは許されるのでしょうか。納めるべきでしょうか、納めるべきではないのでしょうか。」しかし、イエスは彼らの偽善を見抜いて、こう言われた。「なぜわたしを試みるのか。ディナールを一つ持ってきて、それを見せてくれ。」彼らが持ってきた。そこでイエスは言われた。「この肖像と銘文は、誰のものか。」彼らは、「カエサルのものです」と答えた。イエスは彼らに言われた。「カエサルのものはカエサルに返し、神のものは神に返しなさい。」人々はイエスに驚嘆した。

マルコによる福音書 12:13-17
第33週の月曜日。

マルコによる福音書、第55章

その頃、復活はないと主張するサドカイ派の人々がイエスのところに来て、こう尋ねた。「先生、モーセは私たちにこう書いています。『もし兄弟が死んで妻を残し、子供を残さなかった場合、その兄弟は妻を娶り、兄弟の子孫を継がせなければならない』と。」兄弟が七人いました。最初の者がその妻を娶りましたが、死ぬとき、子供を残しませんでした。次に二番目の者が彼女を娶りましたが、彼も死ぬとき、子供を残しませんでした。三番目の者も同様でした。七人全員が彼女を妻として娶りましたが、誰も子供を残しませんでした。その後、その妻も死にました。さて、復活の時、彼らがよみがえったとき、彼女はそのうち誰の妻となるのでしょうか。何しろ、七人全員が彼女を妻としていたのだから。イエスは彼らに答えて言われた。「あなたがたは、聖書も神の力も知らないために、このように惑わされているのですか。死者がよみがえるとき、彼らは結婚もせず、嫁ぐこともなく、天の御使いたちのようになるのです。また、死者がよみがえることについては、モーセの書で、神が燃える荊のそばでモーセに言われた言葉を、あなたがたは読まなかったのか。『わたしはアブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である』と。神は死者の神ではなく、生ける者の神である。それゆえ、あなたがたは大きく誤っている。」

マルコによる福音書 12:18-27
第33週の火曜日。

マルコによる福音書、第56章の冒頭

その頃、ある律法学者がイエスのところに来て、サドカイ派の人々がイエスと論じ合っているのを聞き、イエスが彼らにうまく答えておられるのを見て、近づいて尋ねた。「すべての戒めの中で、最も重要なものはどれですか。」イエスは彼に答えて言われた。「『イスラエルよ、聞きなさい』——これがすべての戒めの中で最も重要なものです。『われらの神、主は唯一の主である。心を尽くし、魂を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、あなたの神、主を愛せよ』——これが第一の戒めである。第二の戒めもこれと同様で、『あなたの隣人をあなた自身のように愛せよ』である。これらの戒めより大きなものは

ない。」ある律法学者が彼に言った。「先生、よくおっしゃいました。神はただひとりであり、神以外に神はいない、というのは真実です。心を尽くし、思いを尽くし、魂を尽くし、力を尽くして神を愛し、隣人を自分自身のように愛することは、いかなる全焼のいけにえや犠牲よりも尊いのです。」イエスは、彼が賢明に答えたのを見て、彼に言われた。「あなたは神の国から遠くない。」その後、もはや誰もイエスに質問する勇氣はなかった。イエスは神殿で教えを続けながら、こう言われた。「律法学者たちは、キリストはダビデの子であると言うが、なぜなら、ダビデ自身が聖霊によってこう言ったからだ。『主は、わが主にこう言われた。「わたしの右の座に着きなさい。わたしがあなたの敵をあなたの足の下に置くまで。」』それゆえ、ダビデ自身が彼を「主」と呼んでいる。それなのに、どうして彼がダビデの子となり得るのか。」そして、大勢の民が喜びながらイエスの言葉を聞いていた。

マルコによる福音書 12:28-37
第33週の水曜日。

マルコによる福音書、第57章の冒頭

主は弟子たちに言われた。「長い衣をまとい、人々の集まりで挨拶を求められるのを好み、会堂では最前列に座り、宴会では上座に就くことを好む律法学者たちに気をつけなさい。彼らは未亡人の家を食い物にし、見せびらかすために長く祈る者たちであり、最も厳しい裁きを受けることになる。」そこで、イエスは献金箱の向かいに座り、人々が献金箱に金を入れるのを見ておられた。多くの金持ちは多額を入れました。ところが、ある貧しい未亡人が来て、二レプタ、すなわち一クオドラントを献金した。イエスは弟子たちを呼び寄せて、こう言われた。「まことに、あなたがたに告げます。この貧しい未亡人は、献金箱に献金した人々の中で、誰よりも多く献金しました。なぜなら、人々はみな、余剰から献金しましたが、彼女は貧しさの中から、自分の持っていたすべて、すなわち生活費のすべてを献金したからです。」

マルコによる福音書 12:38-44
第33週の木曜日。

マルコによる福音書、第58章

そのとき、イエスが神殿から出て来られると、弟子の一人がイエスに言った。「先生、この石や建物を見てください。」イエスは彼に答えて言われた。「この立派な建物が見えるか。これらはすべて取り壊され、石が石の上に残ることはない。」イエスが神殿の向かいにあるオリーブ山に座っておられると、ペトロ、ヤコブ、ヨハネ、アンデレが、人目を避けてイエスに尋ねた。「教えてください。それはいつ起こるのですか。また、これらすべてが成就する時のしるしは何ですか。」イエスは彼らに答えて、こう語り始められた。「だれにも惑わされないように気をつけなさい。多くの者がわたしの名をかたってやって来て、『わたしだ』と言うだろう。そして、多くの者が惑わされるだろう。また、戦争や戦争の噂を耳にしても、恐れてはならない。そのようなことは起こるべきことだが、まだ終わりではない。民族が民族に、王国が王国に立ち向かい、各地で地震や飢饉、騒乱が起こるだろう。これらは苦難の始まりである。

マルコによる福音書 13:1-8
第33週の金曜日。

マルコによる福音書、第59章

主は弟子たちに言われた。「あなたがたは身を引き締めていなさい。あなたがたは裁判所に引き渡され、会堂で打たれ、また、総督や王たちの前に、わたしのために引き出され、彼らの前で証しをさせられることになる。そして、すべての国民に、まず福音が宣べ

伝えられなければならない。あなたがたが引き渡される時、何を話すべきかあらかじめ心配したり、考え込んだりしてはならない。その時に与えられることを話せばよい。あなたがたが話すのではなく、聖霊が話すからである。兄弟は兄弟を死に渡し、父は子を死に渡し、子は親に立ち向かい、親を殺すようになる。あなたがたは、わたしの名のためにすべての人から憎まれるが、最後まで耐え忍ぶ者は救われる。

マルコによる福音書 13:9-13
第34週の月曜日。

マルコによる福音書、第60章

主は弟子たちに言われた。「預言者ダニエルが語った『荒廃の憎むべきもの』が、あるべきでない場所に立っているのを見たら——読む者は悟れ——そのとき、ユダヤにいる者は山へ逃げなさい。屋根の上にいる者は、家に戻ってはならない。また、家の中から何かを取りに中に入ってはいけない。野原にいる者は、着替えを取りに後ろを振り返ってはならない。その頃、身ごもっている者や乳飲み子を抱えている者には、悲惨なことになる。あなたがたの逃亡が冬にならないよう、祈りなさい。その日には、神が創造された世界の初めから今に至るまで、かつてなかったような苦難があり、今後もないであろうからである。もし主があの日々を短縮されなかったなら、いかなる肉なる者も救われなかったであろう。しかし、主はご自身が選ばれた者たちのために、あの日々を短縮されたのである。そのとき、もしだれかが『見よ、キリストはここにいる』とか、『見よ、あそこにいる』と言う者がいても、信じてはならない。偽キリストや偽預言者たちが現れ、しるしや奇跡を行って、もし可能なら、選ばれた者たちまでも惑わそうとするからだ。あなたがたは用心しなさい。見よ、わたしはあらかじめすべてをあなたがたに告げておいた。

マルコによる福音書 13:14-23
第34週の火曜日。

マルコによる福音書、第61章

主は弟子たちに言われた。「あの苦難の後の日々に、太陽は暗くなり、月は光を放たず、星は天から落ち、天の力は揺らぐ。その時、人々は、大いなる力と栄光をもって雲に乗って来られる人の子を見る。そして、主は御自分の天使たちを遣わし、四方の風から、地の果てから天の果てまで、御自分の選ばれた者たちを集められる。いちじくの木を例に挙げよう。その枝が柔らかくなり、葉を出し始めると、夏が近いことを知る。同じように、あなたがたがこれらのことが起こるのを見たら、それが近づき、戸口まで来ていることを知れ。まことに、あなたがたに告げる。この世代が過ぎ去るまでは、これらのことはすべて起こる。天と地は過ぎ去っても、わたしの言葉は決して過ぎ去らない。

マルコによる福音書 13:24-31
第34週の水曜日。

マルコによる福音書、第62章の冒頭

主は弟子たちに言われた。「天と地は過ぎ去っても、わたしの言葉は決して過ぎ去らない。しかし、その日やその時は、天の御使いたちも子も知らず、ただ父のみが知っておられる。だから、目を覚まし、祈り続けなさい。その時がいつ来るか、あなたがたには分からないからである。まるで、旅に出て家を離れる人が、しもべたちに権限を与え、それぞれに仕事を割り当て、門番には目を覚ましていなさいと命じたようなものである。だから、目を覚ましていなさい。家の主人がいつ帰って来るか、夕暮れか、真夜中か、鶏が鳴く頃か、朝か、あなたがたには分からないからだ。主人が突然帰って来て、あなたがたが眠っているのを見かけないように。私があなたがたに言っていることは、すべての人にも言っているのだ。「目を覚ましていなさい。」二日後には、過越の祭りとお無酵パン

の祭りが行われることになっていた。大祭司や律法学者たちは、どうすれば狡猾な手段でイエスを捕らえて殺せるかを探っていた。しかし、「民衆の騒動を招かないよう、祭りの期間中は避けるべきだ」と言っていた。

マルコ 13:31-14:2
第34週の木曜日。

マルコによる福音書、第63章

その頃、イエスはベタニヤにある、らい病のシモンの家において、食卓に着いておられた。すると、ある女が、純度の高い貴重なナルドの香油をアラバストルの壺に入れて持って来て、その壺を割って、イエスの頭に注いだ。しかし、ある者たちは憤り、互いにこう言った。「なぜ、この香油を無駄にするのか。これを売れば、三百デナリ以上になるはずだ。それを貧しい人々に施すこともできたのに。」そして、彼女を非難した。しかし、イエスは言われた。「彼女を放っておきなさい。なぜ彼女を責めるのか。彼女はわたしのために良い行いをしたのだ。貧しい人々はいつもあなたがたのそばにいて、望めばいつでも彼らに施しをすることができる。しかし、わたしがいつもあなたがたと共にいるわけではない。彼女は、自分のできることをしたのだ。埋葬に備えて、あらかじめわたしの体を香油で塗ったのである。まことに、あなたがたに告げる。この福音が全世界で宣べ伝えられるところでは、彼女の記念として、また彼女がしたこの行いについても語られるであろう。」

マルコによる福音書 14:3-9
第34週の金曜日。

マルコによる福音書、第64章の冒頭

そのころ、十二人のうちの一人であるイスカリオテのユダは、大祭司たちのところへ行き、イエスを彼らに引き渡そうとした。大祭司たちはそれを聞いて喜び、銀貨を与えることを約束した。そしてユダは、イエスを引き渡すのに都合の良い時機を伺っていた。種入れぬパンの初日、過越の小羊を屠る日、弟子たちはイエスに言った。「どこで過越の食事をなさりたいですか。私たちが行って準備をいたします。」そこで、イエスは弟子たちのうち二人を遣わして、こう言われた。「町へ行きなさい。水瓶を運んでいる人が出会うだろう。その人の後について行き、彼がどこに入るかを見極めて、その家の主人にこう言いなさい。『先生がおっしゃっています。「私と弟子たちが過越の食事をする部屋はどこですか?」』と。すると、その人は、敷物が敷かれ、準備の整った広い上階の部屋をあなたたちに示すでしょう。そこで私たちのために用意してください。』弟子たちは出て行き、町に着くと、言われたとおりに見つけて、過越の食事を用意した。夕方になると、イエスは十二人と共に来られた。彼らが食卓について食事をしていると、イエスは言われた。「まことに、あなたがたに告げます。わたしと共に食事をしているあなたがたのうちの一人が、わたしを裏切ります。」彼らは悲しみに打ちひしがれ、次々とイエスに尋ねた。「私ではありませんか。」「私ではありませんか。」すると、イエスは答えて言われた。「十二人のうちの一人、わたしと共に皿にパンを浸している者です。」しかし、人の子は、彼について書かれているとおりに去って行く。だが、人の子が引き渡されるその人には、災いがある。その人は、生まれてこなかったほうがよかったのだ。彼らが食事をしているとき、イエスはパンを取り、祝福して、裂いて彼らに与え、こう言われた。「これを受け取り、食べなさい。これはわたしの体である。」また、杯を取り、感謝をささげて彼らに与えられた。そして、皆がその中から飲んだ。そして、彼らに言われた。「これは、多くの人のために注がれる、わたしの新しい契約の血である。まことに、あなたがたに告げる。わたしは、神の御国で新しいぶどう酒を飲むその日まで、もはやぶどうの実からできた酒を飲むことはない。」そして、賛美を歌って、オリーブ山へ上った。イエス

は彼らに言われた。「今夜、あなたがたは皆、わたしによってつまづくであろう。なぜなら、『わたしは羊飼いを打つ。そうすれば、羊たちは散らされる』と書いてあるからである。しかし、わたしが復活した後、ガリラヤであなたがたに先立って行く。」ペテロはイエスに言った。「たとえ皆がつまづいたとしても、私はつまづきません。」すると、イエスは彼に言われた。「まことに、あなたに告げる。今夜、鶏が二度鳴く前に、あなたは三度わたしを否むだろう。」しかし、ペテロはなおも強く言い張った。「たとえ、あなたと共に死ぬことになっても、あなたを否むことはない。」他の者たちも皆、同じように言った。彼らはゲツセマネと呼ばれる場所に着いた。そこで、イエスは弟子たちに言われた。「私が祈っている間、ここに座っていてください。」そして、ペテロ、ヤコブ、ヨハネを連れて行かれた。イエスは深く動揺し、苦悩し始められた。そして彼らに言われた。「私の心は死の苦しみで満ちている。ここにいて、目を覚ましていなさい。」そして、少し離れて、地にひれ伏し、もし可能なら、この時が過ぎ去るようにと祈り、こう言った。「アッパ、父よ。あなたにはすべてが可能で、この杯を私から取り除いてください。しかし、私の望むままではなく、あなたの望むままに。」戻ってくると、彼らが眠っているのを見つけ、ペテロに言った。「シモン、眠っているのか。たった一時間、目を覚ましていられなかったのか。」誘惑に陥らないように、目を覚まして祈りなさい。霊は目覚めているが、肉は弱いのです。」そして、再び少し離れて、同じ言葉を繰り返して祈った。戻ってくると、また彼らが眠っているのを見つけた。彼らの目は重くなり、イエスに何と答えてよいか分からなかったからである。そして三度目に来て、彼らに言った。「まだ眠って休んでいるのか。もう時は来た。見よ、人の子は罪人たちの手に引き渡される。起きなさい、行こう。見よ、わたしを裏切る者が近づいている。」

マルコによる福音書 14:10-42
四旬節前の週の火曜日。

マルコによる福音書、第65章

そのとき、イエスがまだ弟子たちに話しておられる間に、十二人の一人であるユダが、大祭司や律法学者、長老たちから遣わされた剣や棒を持った大勢の群衆を連れてやって来た。イエスを裏切る者は、彼らに合図をして言った。「私が口づけをする者がその人だ。その人を捕らえて、慎重に連行しなさい。」そして、近づくとすぐにイエスのところへ行き、「ラビ、ラビ」と言って、イエスに口づけをした。すると、彼らはイエスに手をかけ、捕らえた。そこに立っていた者の一人が剣を抜いて、大祭司の僕を打ち、その耳を切り落とした。そこで、イエスは彼らに言われた。「まるで強盗を捕らえるかのように、剣や棒を持って、わたしを捕らえに来たのか。わたしは毎日、あなたがたと共に神殿にいて教えていたのに、あなたがたはわたしを捕らえようとはしなかった。しかし、聖書の言葉が成就するためである。」すると、人々はイエスを見捨てて、皆逃げ去った。ある若者が、裸の体に布をまとしてイエスに従っていたが、兵士たちが彼を捕らえた。しかし、彼は布を捨てて、裸のまま彼らから逃げ去った。そして、イエスは大祭司のもとに連れて行かれた。そこには、すべての大祭司や長老、律法学者たちが集まっていた。ペテロは遠くからイエスに従い、大祭司の庭の中まで入っていった。そして、使用人たちと一緒に座り、火のそばで暖をとっていた。大祭司たちやサンヘドリンの者たちは、イエスを死刑に処すための証言を探していたが、見つからなかった。多くの者がイエスに対して偽証したが、それらの証言は不十分だったからである。すると、ある者たちが立ち上がって、イエスに対して偽証し、こう言った。「私たちは、彼が『この人の手によって造られた神殿を壊し、三日後に、人の手によらない神殿を建て直す』と言うのを聞いた。」しかし、彼らのそのような証言も十分ではなかった。そこで、大祭司が真ん中に立ち、イエスに尋ねた。「何も答えないのか。彼らがあなたに対して証言していることについて、どう思うのか。」しかし、イエスは黙って、何も答えなかった。大祭司は再びイエスに尋ねて

言った。「あなたは、祝福された方の御子、キリストなのか。」 イエスは言われた。「その通りだ。あなたがたは、人の子が、力の右に座し、天の雲に乗って来るのを見るだろう。」すると、大祭司は自分の衣を引き裂いて言った。「これ以上、証人が必要だろうか。あなたがたは神への冒瀆を聞いた。どう思うか。」彼らは皆、イエスを死に値する者と認めた。 また、ある者たちはイエスに唾を吐きかけ、顔を覆って殴りつけ、「予言してみよ」と言った。そして、使用人たちはイエスの頬を打った。ペテロが下の庭にいたとき、大祭司の女中の一人がやって来て、暖をとっているペテロを見てじっと見つめ、「あなたもナザレのイエスと一緒にいた人ですね」と言った。 しかし、ペテロは「知らないし、あなたが何を言っているのかも分からない」と言って、それを否定した。そして、前庭に出て行くと、雄鶏が鳴いた。女中が再び彼を見て、そこに立っていた人々に言った。「この人も彼らの一人だ。」ペテロは再びそれを否定した。 しばらくして、そこに立っていた人々は再びペテロに言った。「お前は間違いなく彼らの一人だ。お前はガリラヤ人だし、訛りも似ているからだ。」しかし、彼は誓いを立て、神にかけて言った。「あなたがたが言っているその人など、私は知らない。」その時、雄鶏が二度目に鳴いた。 そこでペテロは、イエスが自分に言われた言葉を思い出した。「鶏が二度鳴く前に、あなたは三度わたしを否むだろう」。そして泣き出した。翌朝早く、大祭司たちと長老たち、律法学者たち、そしてサンヘドリンの全員が集まって会議を開き、イエスを縛って引き立て、ピラトに引き渡した。

マルコ 14:43-15:1
四旬節の水曜日。

マルコによる福音書、第66章

その頃、祭司長たち、長老たち、律法学者たち、そしてシネドリオンの全員が集まって協議し、イエスを縛って引き立て、ピラトに引き渡した。ピラトはイエスに尋ねた。「あなたはユダヤ人の王か。」イエスは彼に答えて言われた。「あなたがそう言うのだ。」そして、祭司長たちはイエスを多くの点で告発した。 ピラトは再びイエスに尋ねた。「何も答えないのか。あなたに対する告発がこれほど多いのに。」しかし、イエスはこれに対しても何も答えなかったため、ピラトは驚いた。 ピラトは、祝祭のたびに、人々が求める囚人一人を釈放していた。その時、バラバという名の男が、反乱の際に殺人を犯した共犯者たちと共に投獄されていた。民衆は叫び声を上げ、ピラトに、彼がいつも彼らのためにしていたことを求めた。ピラトは彼らに答えて言った。「もし望むなら、ユダヤの王を釈放してやろうか。」 彼は、大祭司たちが妬みからイエスを引き渡したことを知っていたからである。しかし、大祭司たちは民を扇動し、むしろバラバを釈放するよう求めた。ピラトは答えて、再び彼らに言った。「あなたがたがユダヤ人の王と呼ぶこの方に対して、私がどうすべきだと望むのか。」すると、彼らは再び叫んだ。「彼を十字架につけよ。」 ピラトは彼らに言った。「この人は、いったいどんな悪事を働いたというのか。」しかし、彼らはなおさら激しく叫んだ。「十字架につけよ。」そこでピラトは、民に気に入られようとして、バラバを釈放し、イエスを鞭打ってから、十字架につけるように引き渡した。

マルコによる福音書 15:1-15
四旬節前の週の木曜日。

マルコによる福音書、67A節

その頃、兵士たちはイエスを中庭、すなわち総督府の中に連れて行き、全軍を集め、イエスに緋色の衣を着せ、いばらの冠を編んでその頭に載せ、こう叫び始めた。「ユダヤの王よ、万歳！」 そして、葦の棒でイエスの頭を打ち、唾を吐きかけ、ひざまずいて礼をした。イエスを嘲り終わると、彼らはイエスから紫の衣を脱がせ、イエス自身の服を着

せ、十字架につけるために連れて行った。 また、畑から帰ってくる途中だったキリネ人シモン——アレクサンドロとルフォの父——を、通りかかったからといって、彼の十字架を背負わせた。そして、ゴルゴタという場所——「顎の場所」という意味である——へ彼を連れて行った。彼らは、没薬入りのぶどう酒を彼に飲ませようとしたが、彼は受け取らなかった。彼を十字架につけた者たちは、くじを引いて、誰が何を分けるかを決め、彼の服を分け合った。 第三の刻になり、イエスは十字架につけられた。その罪状には、「ユダヤ人の王」と書かれていた。イエスと共に二人の強盗も十字架につけられ、一人は右に、もう一人は左に置かれた。こうして、聖書の言葉が成就した。「彼は悪人たちに数え入れられた」。 通りかかる人々は、頭を振って彼をののしり、「ほら、神殿を壊して三日で建て直すという者だ！ 自分を救って、十字架から降りてみろ」と言った。同様に、祭司長や律法学者たちも、嘲りながら互いにこう言い合った。「他人を救ったくせに、自分を救うことなどできない。」 キリスト、イスラエルの王よ、今こそ十字架から降りて、私たちが見て、信じるようにしてください。

マルコによる福音書 15:16-32A
聖金曜日、早課における第6福音書。
7月10日、主の衣、聖体礼儀にて。

マルコによる福音書、67B節

そのとき、兵士たちはイエスを中庭、すなわちプレトリアに連れて行き、全軍を集めて、イエスに緋色の衣を着せ、いばらの冠を編んでその頭に載せ、こう叫び始めた。「ユダヤの王よ、万歳！」 そして、葦の棒でイエスの頭を打ち、唾を吐きかけ、ひざまずいて礼をした。イエスを嘲り終わると、彼らはイエスから紫の衣を脱がせ、イエス自身の服を着せ、十字架につけるために連れて行った。 また、畑から帰ってくる途中だったキリネ人シモン——アレクサンドロとルフォの父——を、通りかかったからといって、彼の十字架を背負わせた。そして、ゴルゴタという場所——「顎の場所」という意味である——へ彼を連れて行った。彼らは、没薬入りのぶどう酒を彼に飲ませようとしたが、彼は受け取らなかった。彼を十字架につけた者たちは、くじを引いて、誰が何を分けるかを決め、彼の服を分け合った。 第三の刻になり、イエスは十字架につけられた。その罪状には、「ユダヤ人の王」と書かれていた。イエスと共に二人の強盗も十字架につけられ、一人は右に、もう一人は左に置かれた。こうして、聖書の言葉が成就した。「彼は悪人たちに数え入れられた」。 通りかかる人々は、頭を振って彼をののしり、「へえ、神殿を壊して三日で建て直すという者よ！ 自分自身の命を救って、十字架から降りてみろ」と言った。同様に、祭司長や律法学者たちも、嘲りながら互いにこう言い合った。「他人を救ったくせに、自分自身の命は救えないのか。」 「キリスト、イスラエルの王よ、今こそ十字架から降りて、私たちに見せて、信じさせてくれ。」 また、彼と共に十字架につけられた者たちも、彼をののしった。第六時になると、全地に暗闇が訪れ、第九時まで続いた。第九時、イエスは大声で叫ばれた。「エロイ！ エロイ！ ラマ サバフファニ？」——これは、「わが神よ！ わが神よ！ なぜわたしを見捨てられたのですか」という意味である。そこに立っていた人々のうち、これを聞いて、「見よ、エリヤを呼んでいる」と言う者もいた。 また、ある人は走って行き、スポンジに酢を浸し、葦の棒の先に付けて、イエスに飲ませながら、「待て、エリヤが来て、彼を救い出すかどうか見てみよう」と言った。イエスは大声で叫ばれると、息を引き取られた。すると、神殿の幕が上から下まで真っ二つに裂けた。イエスの向かいに立っていた百人隊長は、イエスがそう叫んで息を引き取られたのを見て、「まことに、この方は神の子であった」と言った。 そこには、遠くからその様子を見守っていた女性たちもいた。その中には、マグダラのマリア、ヤコブ（小）とヨシヤの母マリア、サロメがいた。彼女たちは、イエスがガリラヤにおられた時から、

イエスに従い、仕えていた者たちであり、他にも、イエスと共にエルサレムへ上ってきた多くの女性たちがいた。

マルコによる福音書 15:16-41
聖金曜日、第3時。

マルコによる福音書、68節

そのとき、兵士たちはイエスをゴルゴタ、すなわち「顎の場所」と呼ばれる場所に連れて行った。第三時であり、彼らはイエスを十字架につけた。第六時には、全地に暗闇が訪れ、第九時まで続いた。第九時に、イエスは大声で叫ばれた。「エロイ、エロイ、ラマサバクタニ？」——これは、「わが神、わが神、なぜわたしを見捨てられたのですか」という意味である。そこに立っていた人々のうち、これを聞いて、「見よ、エリヤを呼んでいる」と言う者もいた。また、ある者は走って行き、スポンジに酢を浸し、葦の棒の先に付けて、イエスに飲ませながら、「待て、エリヤが来て、彼を降ろしてくれるかどうか見てみよう」と言った。イエスは大声で叫ばれると、息を引き取られた。すると、神殿の幕が上から下まで真っ二つに裂けた。イエスの向かいに立っていた百人隊長は、イエスがそう叫んで息を引き取られたのを見て、「まことに、この方は神の子であった」と言った。そこには、遠くからその様子を見守っていた女性たちもいた。その中には、マグダラのマリア、ヤコブ（小）とヨシヤの母マリア、サロメがいた。彼女たちは、イエスがガリラヤにおられた時から、イエスに従い、仕えていた者たちであり、他にも、イエスと共にエルサレムへ上ってきた多くの女性たちがいた。

マルコ 15:22, 25, 33-41
四旬節前の週の金曜日。

マルコによる福音書、69A節

その頃、アリマタヤのヨセフという、評議会の著名な一員で、自らも神の御国を待ち望んでいた人物がやって来て、あえてピラトのもとに入り、イエスの遺体を求めた。ピラトは、イエスがすでに亡くなっていたことに驚き、百人隊長を呼び寄せて、いつ亡くなったのかと尋ねた。そして、百人隊長から事情を聞くと、遺体をヨセフに引き渡した。ヨセフは亜麻布を買って、イエスの遺体を降ろし、その亜麻布に包んで、岩を掘って造られた墓に納め、墓の入り口に石を置いた。マグダラのマリアとヨセフの妻マリアは、イエスがどこに葬られるのかを見守っていた。

マルコによる福音書 15:43-47
聖金曜日、早課の第10福音書。

マルコによる福音書、69B節

その頃、アリマタヤのヨセフという、評議会の著名な一員で、自らも神の御国を待ち望んでいた人物がやって来て、あえてピラトのもとに入り、イエスの遺体を求めた。ピラトは、イエスがすでに亡くなっていたことに驚き、百人隊長を呼び寄せて、いつ亡くなったのかと尋ねた。そして、百人隊長から事情を聞くと、遺体をヨセフに引き渡した。ヨセフは亜麻布を買って、イエスをその布で包み、岩を掘って造られた墓に納め、墓の入り口に石を置いた。マグダラのマリアとヨセフの妻マリアは、イエスがどこに葬られるのかを見守っていた。安息日が過ぎると、マグダラのマリアとヤコブの妻マリア、そしてサロメは、イエスに香油を塗りにいくために香料を買った。そして、週の初めの日の朝早く、日の出とともに墓にやって来て、互いにこう言い合った。「誰が墓の入り口の石をどけてくれるだろうか。」見回すと、石がどかされていた。その石は実に大きかった。墓の中に入ると、右側に白い衣をまとった若者が座っているのを見て、彼女たちは恐怖に襲われた。すると、その若者は彼女たちに言った。「恐れることはない。あなたがたは、十字架

につけられたナザレのイエスを探しているのだ。彼はよみがえられました。ここにはおられません。ここに、彼が安置されていた場所があります。さあ、行って、弟子たちやペテロに、彼がガリラヤであなたがたに先立って待っておられると伝えてください。そこで、彼があなたがたに言われたとおり、彼に会えるでしょう。」彼女たちは墓から出て、走って逃げ去った。恐怖と戦慄に襲われ、恐れていたため、誰にも何も言わなかった。

マルコによる福音書 15:43-16:8

復活後第3週、聖なる香油を携えた女性たちの日、聖体礼儀にて。

マルコによる福音書、第70章の冒頭

その頃、安息日が過ぎると、マグダラのマリアとヤコブの妻マリア、そしてサロメは、イエスに香油を塗るために香料を買った。そして、週の初めの日の朝早く、日の出とともに墓へとやって来て、互いにこう言い合った。「誰が墓の入り口の石をどけてくれるだろうか。」見回すと、石がどかされていた。その石は実に大きかった。墓の中に入ると、右側に白い衣をまとった若者が座っているのを見て、彼女たちは恐怖に襲われた。すると、その若者は彼女たちに言った。「恐れることはありません。あなたがたは、十字架につけられたナザレのイエスを探しているのです。彼はよみがえられました。ここにはおられません。ここに、彼が安置されていた場所があります。さあ、行って、弟子たちやペテロに、彼がガリラヤであなたがたに先立って待っておられると伝えてください。そこで、彼があなたがたに言われたとおり、彼に会えるでしょう。」彼女たちは墓から出て、走って逃げ去った。彼女たちは恐れと戦慄に襲われ、恐れていたため、誰にも何も言わなかった。

マルコによる福音書 16:1-8

第2主日福音。

マルコによる福音書、71節

その頃、週の初めの日に早朝に復活されたイエスは、まず、七つの悪霊を追い出されたマグダラのマリアに現れた。彼女は行って、イエスと共にいた、泣き悲しんでいる人々にそのことを告げた。しかし、彼らは、イエスが生きておられ、彼女がイエスを見たと聞いて、信じようとしなかった。その後、二人が村へ向かう道中で、イエスは別の姿で彼らに現れた。二人は戻って他の者たちに告げたが、彼らもまた信じようとしなかった。ついに、夕食の席に着いていた十一人の弟子たちの前にご自身が現れ、復活された御姿を見たにもかかわらず信じなかったという彼らの不信仰と冷酷さを責められた。そして彼らに言われた。「全世界に出て行き、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい。信じる者はバプテスマを受け、救われる。しかし、信じない者は裁かれる。信じる者には、次のようなしるしが伴う。わたしの名によって悪霊を追い出し、新しい舌で語り、蛇を手に取り、たとえ致命的なものを飲んでも害を受けず、病人に手を置けば、彼らは癒される。」こうして、主は彼らと語り合った後、天に昇り、神の右の座に着かれた。そして彼らは、主の助けと、御言葉に続くしるしによる裏付けを得て、至る所で宣教した。アーメン。

マルコ 16:9-20

第3主日福音。

主の昇天、早課にて。

目次へ。

ルカによる福音書

ルカによる福音書、冒頭1

すでに多くの人々が、私たちの間に広く知られている出来事について、初めからその目撃者であり、御言葉の奉仕者であった者たちから伝えられたとおりに、物語を書き記し始めていた。そこで私も、すべてを初めから丹念に調査した上で、尊きテオフィロスよ、あなたが教えを受けたその教義の確かな根拠を知ることができるように、順を追ってあなたに記述しようと決心した。ユダヤの王ヘロデの時代、アビヤの組にザカリアという名の祭司がおり、その妻はアロンの家系に属するエリサベトという名であった。二人は神の前で義人であり、主のすべての戒めと定めを、非の打ち所なく守っていた。彼らには子供がいませんでした。エリサベトは不妊であり、また二人はすでに高齢になっていたからです。ある日、ザカリアが自分の組の順番に従って神の御前で奉仕していたとき、祭司たちの慣例通りくじ引きによって、彼が主の神殿に入って香を焚く番となった。香を焚く間、大勢の民が外で祈っていた。その時、主の御使いが、香の祭壇の右側に立って、彼の前に現れた。ザカリアはそれを見て戸惑い、恐れに襲われた。すると、御使いは彼に言った。「ザカリアよ、恐れることはない。あなたの祈りは聞き入れられた。あなたの妻エリサベトはあなたに息子を産む。その子をヨハネと名付けなさい。あなたには喜びと楽しみがあり、多くの人々が彼の誕生を喜ぶだろう。彼は主の御前で偉大な者となるからだ。彼はぶどう酒も麦酒も飲まず、母の胎内からすでに聖霊に満たされる。そして、イスラエルの子らの多くを、彼らの神である主のもとへ立ち返らせる。また、エリヤの霊と力とをもって主の先駆けとして歩み、父の心を子らに向けさせ、不従順な者たちを義人の考えへと立ち返らせ、主のために備えられた民を主のもとに導くのである。ザカリアは御使いに言った。「どうして、それを知ることができるのでしょうか。私は年老いており、妻も年を重ねているのですから。」すると、御使いは彼に答えて言った。「わたしは神の御前に立つガブリエルである。あなたに語りかけ、この知らせを伝えるために遣わされた。見よ、あなたは黙り、これが実現するその日まで、話すことができない。それは、時が来れば実現するわたしの言葉を信じなかったからである。」その間、民はザカリアを待ちわびており、彼が神殿に長く留まっているのを不思議に思っていた。彼が外に出てきたとき、彼らに話すことができなかった。そこで、人々は彼が神殿で幻を見たのだと悟った。彼は身振り手振りで彼らに伝えようとしたが、口が利けなかった。そして、奉仕の日数が満ちると、彼は自分の家に戻った。その後、彼の妻エリサベトは身ごもり、五ヶ月間身を隠して、こう言った。「主は、この数日間、私を顧みて、人々の間の恥を私から取り除いてくださったのです。」エリサベトの出産の時が来て、彼女は男の子を産んだ。近所の人々や親戚たちは、主が彼女に大きな恵みを施されたことを聞き、彼女と共に喜んだ。八日目に、人々が赤ん坊の割礼を行うためにやって来て、父の名にちなんでザカリアと名付けようとした。すると、その母は、「いいえ、彼をヨハネと名付けましょう」と言った。人々は彼女に、「あなたの親族の中に、この名を持つ者は一人もいません」と言った。そして、身振りでその父に、彼を何と呼びたいのか尋ねた。彼は板を求め、そこに「彼の名はヨハネである」と書いた。皆は驚いた。すると、たちまち彼の口と舌が解け、神を賛美し始めた。周囲に住む者たちすべてに恐れが臨み、この出来事はユダヤの山地一帯に広まった。これを聞いた人々は皆、心に留めて、「この子は将来どうなるのだろうか」と語り合った。そして、主の御手が彼と共におられた。また、その父ザカリアは聖霊に満

たされ、預言して言った。「イスラエルの神、主を賛美します。主は御自分の民を顧み、救いを与えてくださいました。 また、あなた、幼子よ、至高者の預言者と名付けられる。あなたは主の御前に進み出て、その道を整えるからである。幼子は成長し、霊において強められ、イスラエルに現れるその日まで、荒野に身を置いていた。

ルカ 1:1-25, 57-68, 76, 80
洗礼者ヨハネの誕生、聖体礼儀にて。

ルカによる福音書、第2章の冒頭

ユダヤの王ヘロデの時代、アビヤの組にザカリヤという名の祭司がおり、その妻はアロンの家系に属するエリサベトという名であった。二人は神の前で義人であり、主のすべての戒めと定めを、非の打ち所なく守っていた。 彼らには子供がいませんでした。エリサベトは不妊であり、また二人はすでに高齢になっていたからです。 ある日、ザカリヤが自分の組の順番に従って神の御前で奉仕していたとき、祭司たちの慣例通りくじ引きによって、彼が主の神殿に入って香を焚く番となった。香を焚く間、大勢の民が外で祈っていた。その時、主の御使いが、香の祭壇の右側に立って、彼の前に現れた。 ザカリヤはそれを見て戸惑い、恐れに襲われた。すると、御使いは彼に言った。「ザカリヤよ、恐れることはない。あなたの祈りは聞き入れられた。あなたの妻エリサベトはあなたに息子を産む。その子をヨハネと名付けなさい。あなたには喜びと楽しみがあり、多くの人々が彼の誕生を喜ぶだろう。彼は主の御前で偉大な者となるからだ。 彼はぶどう酒も麦酒も飲まず、母の胎内からすでに聖霊に満たされる。そして、イスラエルの子らの多くを、彼らの神である主のもとへ立ち返らせる。また、エリヤの霊と力とをもって主の先駆けとして歩み、父の心を子らに向けさせ、不従順な者たちを義人の考えへと立ち返らせ、主のために備えられた民を主のもとに導くのである。 ザカリヤは御使いに言った。「どうして、それを知ることができるのでしょうか。私は年老いており、妻も年を重ねているのですから。」すると、御使いは彼に答えて言った。「わたしは神の御前に立つガブリエルである。あなたに語りかけ、この福音を告げるために遣わされた。見よ、あなたは黙り、これが実現するその日まで、話すことができない。それは、時が来れば実現するわたしの言葉を信じなかったからである。」 その間、民はザカリヤを待ちわびており、彼が神殿に長く留まっているのを不思議に思っていた。彼が外に出てきたとき、彼らに話すことができなかった。そこで、人々は彼が神殿で幻を見たのだと悟った。彼は身振り手振りで彼らに伝えようとしたが、口が利けなかった。そして、奉仕の日数が満ちると、彼は自分の家に戻った。 その後、彼の妻エリサベトは身ごもり、五ヶ月間身を隠していた。そしてこう言った。「主は、この数日間、私を顧みて、人々の間の恥を私から取り除いてくださったのです。」

ルカ 1:5-25
9月23日、洗礼者ヨハネの受胎、聖体礼儀にて。

ルカによる福音書、第3A章

その頃、ザカリヤの妻エリサベトは身ごもり、五か月間身を隠して、こう言った。「主は、この日、私を見捨てず、人々の間の恥を私から取り除いてくださったのです。」六ヶ月目になると、神から天使ガブリエルが、ガリラヤのナザレという町に遣わされた。そこには、ダビデの家系に属するヨセフという男と婚約していた処女がいた。その処女の名はマリアであった。天使は彼女のところに入り、「恵まれた方よ、喜びなさい。主はあなたと共におられます。あなたは女たちの中で祝福されています」と言った。 彼女は天使を見て、その言葉に戸惑い、この挨拶は一体どういうことなのかと考え込んだ。すると天使は彼女に言った。「マリア、恐れることはない。あなたは神の恵みを受けた。見よ、あなたは身ごもって、男の子を産む。その子をイエスと名付けなさい。 その子は偉大と

なり、至高者の御子と呼ばれる。主なる神は、その父ダビデの王座を彼に与え、彼はヤコブの家を永遠に治め、その王国には終わりがありません。 マリアは御使いに言った。「私は夫を知りません。どうしてそのようなことがあり得るのでしょうか。」御使いは答えて言った。「聖霊があなたの上に臨み、いと高き方の力があなたを覆います。それゆえ、生まれる聖なる方は、神の子と呼ばれるのです。 見よ、あなたの親族であるエリサベトも、不妊だと言われていたが、年老いてから男の子を身ごもり、すでに六ヶ月になる。神にとって不可能なことなど何一つないからである。」そこでマリアは言った。「見よ、私は主のしもべです。あなたの言葉どおりになりますように。」すると、御使いは彼女のもとを去った。

ルカ 1:24-38
聖母マリアの受胎告知、聖体礼儀にて。

ルカによる福音書、冒頭3B

そのころ、ザカリアの妻エリサベトは身ごもり、五ヶ月間身を隠して、こう言った。「主は、この日、私を顧みて、人々の間の恥を私から取り除いてくださったのです。」エリサベトの出産の時が満ち、彼女は男の子を産んだ。近所の人々や親族は、主が彼女に大きな恵みを施されたことを聞き、彼女と共に喜んだ。八日目に、人々が赤ん坊の割礼を行うためにやって来て、父の名にちなんでザカリアと名付けようとした。すると、その母は、「いいえ、彼をヨハネと名付けましょう」と言った。人々は彼女に、「あなたの親族の中に、この名を持つ者は一人もいません」と言った。そして、手振りでその父に、彼を何と呼びたいのか尋ねた。彼は板を求め、そこに「彼の名はヨハネである」と書いた。皆は驚いた。すると、たちまち彼の口と舌が解け、神を賛美し始めた。周囲に住む者たちすべてに恐れが臨み、この出来事はユダヤの山地一帯に広まった。これを聞いた人々は皆、心に留めて、「この子は将来どうなるのだろうか」と語り合った。そして、主の御手が彼と共におられた。また、その父ザカリアは聖霊に満たされ、預言して言った。「イスラエルの神、主を賛美します。主は御自分の民を顧み、救いを与えてくださいました。また、あなた、幼子よ、至高者の預言者と名付けられる。あなたは主の御前に進み出て、その道を整えるからである。その幼子は成長し、霊において強められ、イスラエルに現れるその日まで、荒野に身を置いていた。

ルカ 1:24-25, 57-68, 76, 80
洗礼者ヨハネの誕生、早課にて。

ルカによる福音書、第4章の冒頭

そのころ、マリアは立ち上がって、急いで山間の地、ユダの町へ行き、ザカリアの家に入って、エリサベトに挨拶した。エリサベトがマリアの挨拶を聞いたとき、その胎内の幼子が跳ね上がった。エリサベトは聖霊に満たされ、大声で叫んで言った。「あなたは女のうちに祝福され、あなたの胎内の子も祝福されています。どうして、私の主の母が私のところに来られるのでしょうか。 あなたの挨拶の声が私の耳に届いたとき、私の胎内の赤ん坊も喜びで跳ね上がったのです。主から告げられたことが成就するから、主を信じたこの人は幸いである。」 マリアは言った。「私の魂は主を賛美し、私の霊は私の救い主である神を喜び祝います。主は、御自分のしもべのへりくだりに目を留めてくださったからです。今より後、すべての世代が私を幸いと呼ぶでしょう。全能者が私に偉大なことを成し遂げてくださったからです。その御名は聖なるものです。」 マリアは彼女のもとで約三ヶ月間過ごした後、自分の家に戻った。

ルカ 1:39-49, 56
至聖なる神の母よ、早課にて。

ルカによる福音書、第5章の冒頭

そのころ、カエサル・アウグストゥスから、全土に人口調査を行うよう勅令が出された。この人口調査は、クイリニウスがシリア総督であったときに初めて行われたものであった。人々は皆、それぞれの町へ行って登録した。ガリラヤのナザレという町に住んでいたヨセフもまた、ユダヤのダビデの町、すなわちベツレヘムへと向かった。彼はダビデの家系に属していたからである。彼は、婚約者であり、身ごもっていたマリアと共に、登録を受けるためであった。彼らがそこに滞在している間に、彼女の出産の時期が訪れた。彼女は長子である息子を産み、布でくるんで飼い葉桶に寝かせた。宿屋に彼らの泊まる場所がなかったからである。その地方の野原には、羊の群れの夜番をしていた羊飼いたちがいた。すると、主の御使いが彼らの前に現れ、主の栄光が彼らを照らしたので、彼らは大きな恐れに襲われた。御使いは彼らに言った。「恐れることはない。すべての人々に与えられる大きな喜びを、あなたがたに告げ知らせる。今日、ダビデの町で、あなたがたのために救い主がお生まれになった。その方は主キリストである。そして、あなたがたへのしるしはこうだ。おむつに包まれて飼い葉桶に寝かされている幼子を見つけるでしょう。」すると、突然、その天使と共に、数え切れないほどの天の軍勢が現れ、神を賛美してこう叫んだ。「いと高き所では神に栄光があり、地には平和、人々に神の御心があるように！」天使たちが彼らから離れて天に帰ると、羊飼いたちは互いに言った。「ベツレヘムへ行って、主が私たちに告げられたことが、そこでどうなったのか見てみよう。」そして、急いでそこへ行き、マリアとヨセフ、そして飼い葉桶に寝かされている幼子を見つけた。それを見て、彼らは、その幼子について告げられたことを皆に語った。それを聞いた人々は皆、羊飼いたちが語ったことに驚いた。マリアは、これらの言葉をすべて心に留め、反芻していた。そして、羊飼いたちは、告げられたとおりに、自分たちが聞いたり見たりしたすべてのことを、神を賛美し、称えながら帰っていった。

ルカ 2:1-20

キリストの降誕前夜、第3時、および聖体礼儀において。

ルカによる福音書、第6章の冒頭

その頃、羊飼いたちは、告げられたとおりに、自分たちが聞いたり見たりしたすべてのことを、神を賛美し、称えながら帰って来た。八日が過ぎ、幼子に割礼を施すべき時が来ると、彼らは、その子が母の胎内に宿る前から天使によって名付けられていた「イエス」という名を、彼に付けた。幼子は成長し、霊的に強められ、知恵に満ち、神の恵みが彼の上にありました。毎年、両親は過越の祭りのためにエルサレムへ行っていました。彼が十二歳になったとき、彼らはいつものように祭りのためにエルサレムへ行きました。祭りの期間が終了し、帰路についたとき、少年イエスはエルサレムに残っていた。ヨセフと御母はそれに気づかず、イエスが他の者たちと一緒に来ているのだと思っていた。一日の行程を過ぎたところで、彼らは親戚や知人の間でイエスを探し始めたが、見つからなかった。そこで、イエスを探し求めてエルサレムに戻った。三日後、彼らは神殿で、イエスが教師たちの真ん中に座り、彼らの話を聞き、質問しているのを見つけた。イエスの話を聞いていた人々は皆、その知恵と答えに驚嘆した。そして、イエスを見て驚いた。母はイエスに言った。「子よ、私たちに何をしたのですか。あなたのお父様と私は、大きな心配をしてあなたを探していました。」イエスは彼らに言われた。「なぜわたしを探したのですか。わたしが、わたしの父のことに従わなければならないことを、知らなかったのですか。」しかし、彼らはイエスの言われた言葉を理解できなかった。イエスは彼らと共にナザレへ戻り、両親に従順に過ごされた。そして、御母はこれらのことをすべて心に留めておられた。イエスは知恵と年齢を重ね、神と人との愛に満ちて成長された。

ルカによる福音書、第7章の冒頭

その頃、幼子イエスの両親は、主の律法に定められているとおり、すべての男子の初子を主に奉献し、また主の律法に記されている通り、二羽の鳩か、二羽の鳩のひなを捧げるためであった。その頃、エルサレムにシメオンという人がいた。彼は義にかなった敬虔な人で、イスラエルの慰めを待ち望んでおり、聖霊が彼の上に臨んでいた。聖霊によって、彼は、主のキリストを見るまでは死を見ないことが予告されていた。そこで、彼は靈感に従って神殿へ行った。そして、両親が幼子イエスを連れてきて、律法に定められた儀式を執り行おうとしたとき、彼はその子を腕に抱き、神を賛美してこう言った。「主よ、今、あなたの御言葉どおり、あなたのしもべを平安のうちに去らせてください。私の目は、あなたがすべての民の目の前で備えてくださったあなたの救い、異邦人を照らす光、そしてあなたの民イスラエルの栄光を見たからです。」ヨセフと御母マリアは、御子について語られたことに驚いた。シメオンは二人を祝福し、御母マリアに言った。「見よ、この子は、イスラエルの多くの人々の倒れる原因となり、また立ち上がる原因となり、また論争の的となる。そして、あなた自身の魂も剣が貫くであろう。そうして、多くの人々の心の思いが明らかにされるであろう。」そこにはまた、預言者アンナという女性がいた。彼女はファヌイルの娘で、アシェル族の出身であり、非常に高齢に達していた。処女の頃から夫と七年を共に過ごし、現在は八十四歳の未亡人であった。彼女は神殿を離れることなく、断食と祈りをもって昼も夜も神に仕えていた。その時、彼女も近づいて来て、主を賛美し、エルサレムで救いを待ち望んでいたすべての人々に主について語った。そして、彼らは主の律法に従ってすべてのことを果たした後、ガリラヤの自分たちの町ナザレに戻った。幼子は成長し、霊的に強められ、知恵に満ちていき、神の恵みが彼の上にあった。

ルカ 2:22-40
主の奉献、聖体礼儀にて。

ルカによる福音書、第8A章

そのころ、エルサレムにシメオンという人がいた。彼は義人であり、敬虔な人で、イスラエルの慰めを待ち望んでおり、聖霊が彼の上に臨んでいた。聖霊によって、彼は、主のキリストを見るまでは死なないことが告げられていた。そこで、彼は聖霊の導きによって神殿へ行った。そして、両親が幼子イエスを連れてきて、律法に定められた儀式を行おうとしたとき、シメオンはイエスを抱き上げ、神を賛美してこう言った。「主よ、今、あなたの御言葉どおり、あなたのしもべを平安のうちに去らせてください。私の目は、あなたがすべての民の目の前で備えてくださったあなたの救い、異邦人を照らす光、そしてあなたの民イスラエルの栄光を見たからです。」

ルカ 2:25-32
主の奉献、早課にて。

ルカによる福音書、8B節

そのころ、エルサレムにシメオンという人がいた。彼は義人であり、敬虔な人で、イスラエルの慰めを待ち望んでおり、聖霊が彼の上に臨んでいた。聖霊によって、彼は、主のキリストを見るまでは死なない、と予告されていた。そこで、彼は聖霊の導きによって神殿に来た。そして、両親が幼子イエスを連れてきて、律法に定められた儀式を行おうとしたとき、シメオンはイエスを抱き上げ、神を賛美してこう言った。「主よ、今、あなたの御言葉どおり、あなたのしもべを平安のうちに去らせてください。私の目は、あな

たがすべての民の目の前で備えてくださったあなたの救い、異邦人を照らす光、そしてあなたの民イスラエルの栄光を見たからです。」 ヨセフと御母は、御子について語られたことに驚いた。シメオンは彼らを祝福し、御母マリアに言った。「見よ、この子は、イスラエルの多くの人々の倒れる原因となり、また立ち上がる原因となり、また論争の的となる。そして、あなた自身の魂も剣が貫くであろう。そうして、多くの人の心の思いが明らかにされるであろう。」 そこにはまた、預言者アンナという女性がいた。彼女はファヌイルの娘で、アシェル族の出身であり、非常に高齢に達していた。処女の頃から夫と七年を共に過ごし、現在は八十四歳の未亡人であった。彼女は神殿を離れることなく、断食と祈りをもって昼も夜も神に仕えていた。 その時、彼女も近づいて来て、主を賛美し、エルサレムで救いを待ち望んでいたすべての人々に主について語った。

ルカ 2:25-38

2月3日、神を受け入れたシメオン。

ルカによる福音書、第9章

ティベリウス・カエサルの子の治世第15年、ポンティウス・ピラトがユダヤの総督を務め、ヘロデがガリラヤのテトラルコスであったとき、その兄弟フィリポはイトゥレアとトラコニテ地方のテトラルコス、リサニオスはアビレネのテトラルコスであり、大祭司アンナとカイアファの時代に、神の言葉がザカリヤの子ヨハネに、荒野で臨んだ。そこで彼はヨルダン川周辺の全地域を巡り、罪の赦しのための悔い改めの洗礼を宣べ伝えた。これは預言者イザヤの書に記されているとおりである。「荒野で叫ぶ者の声。主の道を整え、その道筋をまっすぐにせよ。すべての谷は埋められ、すべての山と丘は低くされ、曲がったところはまっすぐにされ、でこぼこした道は平らにされる。そうすれば、すべての肉なる者が神の救いを見るであろう。」ヨハネは、彼から洗礼を受けに来る民に言った。「毒蛇の子らよ。誰があなたがたに、来るべき怒りから逃れるよう教えたのか。悔い改めにふさわしい実を結べ。心の中で『私たちの父はアブラハムだ』などと言ってはならない。神は、これらの石からでもアブラハムの子らを立てることができるからだ。すでに斧は木の根元に置かれている。良い実を結ばない木はすべて、切り倒されて火に投げ込まれる。すると、民が彼に尋ねた。「では、私たちはどうすればよいのですか。」彼は答えて言った。「服を二着持っている者は、持たない者に与えなさい。食べ物を持っている者も、同じようにしなさい。」徴税人たちも洗礼を受けに来て、彼に言った。「先生、私たちはどうすればよいのですか。」彼は彼らに答えた。「あなたがたに定められた以上のことは求めないでください。」兵士たちもまた彼に尋ねた。「では、私たちはどうすればよいのですか。」すると、彼は彼らに言った。「だれにも不当な扱いをしてはならない。中傷してはならない。そして、自分の給料で満足しなさい。」人々が期待に胸を膨らませ、皆、心の中でヨハネについて『彼はキリストではないのか』と考えていたとき、ヨハネは皆に答えた。「私はあなたがたに水で洗礼を授けるが、私よりも力強い方が来られる。その方の靴のひもを解くことさえ、私にはふさわしくない。その方は聖霊と火をもってあなたがたにバプテスマを授けてくださる。その方の手には鋤があり、その方はご自身の脱穀場をきれいにし、小麦をご自身の倉に集め、もみ殻は消えることのない火で焼き尽くされる。」彼は民に多くのことを宣べ伝え、教えを説いた。

ルカ 3:1-18

主の顕現の前夜、聖体礼儀にて。

ルカによる福音書、第10章の冒頭

その頃、ヘロデ・テトラルコスは、兄弟の妻であるヘロディアの件や、ヘロデが行ったあらゆる悪事について、ヨハネに非難されていたが、さらに、ヨハネを牢に閉じ込めた

ことも、その非難に加えた。民衆が皆バプテスマを受け、イエスもバプテスマを受けた後、祈っておられたとき、天が開き、聖霊が鳩のような姿でイエスの上に降り、天から声がして、「あなたはわたしの愛する子、わたしはあなたを喜ぶ」と言われた。

ルカ 3:19-22
第18週の月曜日。

ルカによる福音書、第11章の冒頭

その頃、イエスは宣教を始められたが、三十歳であり、人々はイエスをヨセフの子、エリの系譜に属し、マタファの系譜に属し、レビの系譜に属し、メルキヤの子、ヤナナの子、ヨセフの子、マタフィの子、アモスの子、ナウムの子、エスリムの子、ナゲの子、マアフォの子、マタフィの子、セメイの子、ヨセフの子、ユダの子、ヨハナの子、リサエの子、ゾロバベルの子、サラフィエルの子、ニリの子、メルキヤの子、アディエフ、コサモフ、エルモダモフ、イロフ、イオシエフ、エリエゼロフ、イオリモフ、マトファトフ、レヴィイン、シメオノフ、イウディン、イオシフォフ、イオナノフ、エリアキモフ、メレアエフ、マイナノフ、マッタファエフ、ナファノフ、ダヴィドフ、イエッセエフ、オヴィドフ、ヴォオゾフ、サルモノフ、ナアソノフ、アミナダヴォフ、アラモフ、エスロモフ、ファレソフ、イウディン、ヤコブレフ、イサアコフ、アブラモフ、ファリン、ナホロフ、セルホフ、ラガヴォフ、ファレコフ、エヴェロフ、サリン、カイナノフ、アルファクサドフ、シモフ、ノエフ、ラメホフ、マフサロフ、エノホフ、ヤレドフ、マレレイロフ、カイナノフ、エノソフ、シフォフ、アダムフ、ボジイ。イエスは聖霊に満たされ、ヨルダン川から戻ると、聖霊に導かれて荒野へ行った。

ルカ 3:23-4:1
第18週の火曜日。

ルカによる福音書 第12章の冒頭

そのころ、イエスは聖霊に満たされ、ヨルダン川から戻って来られ、聖霊に導かれて荒野へ行かれた。そこで四十日間、悪魔から試みを受け、その間何も食べられなかったが、その期間が過ぎたとき、ついに空腹を感じられた。すると、悪魔がイエスに言った。「もしあなたが神の子なら、この石をパンに変えてみよ。」イエスは答えて言われた。「『人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出るすべての言葉によって生きる』と書いてある。」そして、悪魔はイエスを高い山に連れて行き、一瞬のうちに世界のすべての国々を見せ、イエスに言った。「『これらすべての国々とその栄光をあなたに与えよう。それは私に委ねられており、私が望む者に与えるからだ。だから、もし私にひれ伏すなら、すべてがあなたのものとなる。』」イエスは彼に答えて言われた。「サタン、私から離れよ。『あなたの神、主を拝み、主のみに仕えよ』と書いてある。」そして、悪魔はイエスをエルサレムに連れて行き、神殿の屋根の端に立たせて、こう言った。「もしあなたが神の子なら、ここから下に飛び降りなさい。聖書にこう書いてある。『神は御自分の御使いたちに、あなたを守れと命じられる。彼らはあなたをその手で支え、あなたの足が石にぶつからないようにする』と。」イエスは彼に答えて言われた。「『あなたの神、主を試してはならない』と書いてある。」こうして、すべての試みが終わると、悪魔はしばらくの間、イエスから離れた。イエスは御霊の力に満たされてガリラヤに戻られた。すると、イエスの評判は周辺の地方全体に広まった。イエスは彼らの会堂で教え、すべての人から称賛された。

ルカ 4:1-15
第18週の水曜日。

ルカによる福音書、第13章の冒頭

そのころ、イエスはご自身が育ったナザレに来られ、いつものように安息日に会堂に入って、立ち上がって聖書を読み始められた。人々は預言者イザヤの書を手渡した。イエスはその書を開き、次のように書かれている箇所を見つけた。「主の御霊が私の上に臨んでいる。主はわたしに油を注がれ、貧しい人々に福音を告げ知らせ、心の砕かれた人々を癒やし、捕らわれの身にある者に解放を、盲人に視力の回復を告げ、抑圧された者を自由の身とし、主の恵みの年を宣べ伝えるために、わたしを遣わされた。」そして、書物を閉じて係りの者に返すと、席に着かれた。会堂にいるすべての人の目が、イエスに注がれていた。イエスは彼らに語りかけられた。「今、あなたがたが聞いたこの聖書の言葉が、成就した。」人々は皆、このことをイエスに認め、その口から出る恵みの言葉に驚嘆した。

ルカ 4:16-22A
第18週の木曜日。
9月1日、新夏。

ルカによる福音書、第14章の冒頭

そのとき、人々はイエスの口から出る恵みの言葉に驚き、こう言った。「この人はヨセフの子ではないか。」イエスは彼らに言われた。「きっと、あなたがたは私に『医者よ、自分を治せ。カペナウムで聞いたようなことを、ここ、あなたの故郷でも行いなさい』という諺を言うだろう。」そして言われた。「まことに、あなたがたに言います。預言者は、自分の故郷では受け入れられません。まことに、あなたがたに言います。エリヤの時代、天が三年間六ヶ月間閉ざされ、全地に大飢饉が起きたとき、イスラエルには多くの未亡人がいましたが、エリヤはそれらの未亡人の誰のもとにも遣わされず、シドンのサレプタにいる一人の未亡人のもとだけに遣わされました。また、預言者エリシャの時代にも、イスラエルには多くのらい病人がいたが、シリア人ネエマン以外、そのうちのだれ一人として清められた者はいなかった。これを聞いた会堂の人々は皆、激怒し、立ち上がってイエスを町から追い出し、町が築かれた山の頂上へ連れて行き、イエスを突き落とそうとした。しかし、イエスは彼らの真ん中を通り抜けて、その場を去られた。

ルカ 4:22-30
第18週の金曜日。
7月20日、預言者エリヤ。

ルカによる福音書、第15章の冒頭

そのころ、イエスはガリラヤの町カペナウムに来られ、安息日に民を教えられた。人々はイエスの教えに驚いた。その言葉には力があったからである。会堂には、汚れた悪霊に取りつかれた男がいた。彼は大声で叫んで言った。「去れ！ ナザレのイエスよ、私たちと何の関係があるのだ？ あなたは私たちを滅ぼしに来たのだ。私はあなたが誰であるか知っている。神の聖なる方だ。」イエスは彼を叱りつけ、「黙れ。彼から出て行け」と言われた。すると、悪霊はその人を会堂の真ん中で倒し、彼に何の害も与えることなく、彼から出て行った。人々は皆、恐怖に襲われ、互いに話し合った。「これはどういうことか。なぜ、彼は権威と力を持って汚れた霊たちに命じ、それらが従うのか。」

ルカ 4:31-36
第18週の安息日。

ルカによる福音書、第16章の冒頭

その頃、イエスはシモンの家に入られた。すると、イエスの評判が周辺の各地に広まった。シモンの義母は激しい熱にうなされていたので、人々はイエスに彼女のことを頼んだ。イエスは彼女のところへ近づき、熱を静めると、熱は引いた。彼女はすぐに起き上

がり、彼らの世話をした。日が暮れると、さまざまな病気にかかっている人々を、皆イエスのところへ連れて来た。イエスは一人ひとりに手を置いて、彼らを癒やされた。また、多くの者から悪霊が叫び声を上げて出て行き、「あなたはキリスト、神の子です」と言った。しかし、イエスは、自分たちがイエスがキリストであることを知っていることを口外しないように彼らを戒められた。日が明けると、イエスは家を出て人里離れた場所へ行ったが、人々はイエスを探し求め、イエスのところに来て、自分たちから離れないように引き留めた。しかし、イエスは彼らに言われた。「わたしは、他の町々にも神の国を宣べ伝えなければならない。それこそが、わたしが遣わされた目的だからである。」そして、ガリラヤの会堂で宣教された。

ルカ 4:37-44
第19週の月曜日。

ルカによる福音書、第17章の冒頭

その頃、イエスはゲネサレト湖のほとりに立っておられた。すると、湖の上に二隻の舟が停まっているのを見かけ、漁師たちは舟から降りて網を洗っていた。イエスはシモンの舟に乗り込み、岸から少し離れるよう彼に頼まれた。そして舟に座って、人々に教えを説かれた。教えを終えると、イエスはシモンに言われた。「深いところへ漕ぎ出し、網を降ろして魚を捕りなさい。」シモンは答えて言った。「先生、私たちは一晩中働きましたが、何も捕れませんでした。しかし、あなたの言葉に従って網を降ろしてみます。」そうすると、彼らは非常に多くの魚を捕らえ、網が破れそうになるほどであった。そこで、彼らはもう一方の舟に乗っていた仲間たちに合図を送り、助けに来てもらった。仲間たちがやって来て、両方の舟を魚でいっぱいにしたため、舟は沈みそうになった。これを見たシモン・ペテロは、イエスの膝元にひれ伏して言った。「主よ、私から離れてください。私は罪深い者です。」彼と彼と共にいた者たちは皆、彼らが捕らえたこの大漁に恐怖に襲われた。シモンの仲間であるゼベダイの子ヤコブとヨハネも同様であった。そこで、イエスはシモンに言われた。「恐れることはない。これからは、人を捕える者となるのだ。」そして、二隻の舟を岸に引き上げると、彼らはすべてを捨てて、イエスに従った。

ルカ 5:1-11
第18週。
4月30日、使徒ヤコブ（ゼベダイの子）。

ルカによる福音書、第18章の冒頭

イエスがある町におられたとき、全身がらい病に冒された男がやって来て、イエスを見ると、ひれ伏して懇願し、「主よ、お望みなら、私を清めてください」と言った。イエスは手を伸ばして彼に触れ、「そうしたい。清くなれ」と言われた。すると、たちまちらい病は彼から去った。そして、イエスは彼に、誰にも告げずに、祭司のところへ行って、モーセの定めたとおりに、自分の清めのためのいけにえをささげ、彼らへの証しとするよう命じられた。しかし、イエスに関する噂はますます広まり、大勢の群衆がイエスのところへ押し寄せ、その教えを聞き、病を癒やしてもらおうとした。しかし、イエスは人里離れた場所へ退いて、祈っておられた。

ルカ 5:12-16
第19週の火曜日。

ルカによる福音書、第19章の冒頭

その頃、イエスは教えを説いておられた。そこには、ガリラヤやユダヤの各地、そしてエルサレムからやって来たパリサイ人や律法学者たちが座っていた。そして、病人を癒すという主の力が現れていた。すると、ある人々が、中風を患っている人を寝台に乗せて

連れて来て、家の中に運び込み、イエスの前に寝かせようとした。しかし、人だかりのせいで通り抜ける場所が見つからなかったため、彼らは家の上へ登り、屋根を突き破って、その人を寝台ごとイエスの目の前の真ん中に下ろした。イエスは彼らの信仰を見て、その人に言われた。「あなたの罪は赦された。」律法学者やパリサイ人たちは、こう論じ始めた。「この人は、神を冒瀆しているではないか。神以外に、誰が罪を赦すことなどできるだろうか。」イエスは彼らの考えを悟り、答えて言われた。「あなたがたは心の中で何を考えているのか。『あなたの罪は赦された』と言うことと、『起き上がって歩け』と言うこと、どちらが容易か。しかし、人の子が地上で罪を赦す権威を持っていることをあなたがたに知らせるために——と、イエスは中風の人に言われた。「あなたに言います。起き上がり、寝床を背負って、自分の家へ帰りなさい。」すると、彼はたちまち彼らの前で起き上がり、寝床を背負って、神を賛美しながら自分の家へ帰った。すると、皆が恐れに襲われ、神を賛美し、畏れに満たされて言った。「今日、私たちは驚くべき御業を見た。」

ルカ 5:17-26
第19週の安息日。

ルカによる福音書、第20章の冒頭

その頃、イエスは通りかかったとき、レビという名の徴税人が税関に座っているのを見て、彼に言われた。「わたしについてきなさい。」すると、彼はすべてを捨てて立ち上がり、イエスに従った。そして、レビは自分の家でイエスのために盛大な宴会を開いた。そこには多くの徴税人や、その他の人々がいて、彼らと共に食卓を囲んでいた。しかし、律法学者やパリサイ人たちは不平を言い、イエスの弟子たちに言った。「なぜ、あなたがたは徴税人や罪人たちと一緒に食べたり飲んだりするのか。」イエスは彼らに答えて言われた。「健康な人は医者が必要としない。病んでいる人こそ必要とするのだ。わたしは、義人ではなく、罪人を悔い改めに招くために来たのだ。」

ルカ 5:27-32
第20週の土曜日。

ルカによる福音書、第21章の冒頭

その頃、パリサイ人たちがイエスに近づいて言った。「なぜ、ヨハネの弟子たちは頻繁に断食し、祈りを捧げ、パリサイ人たちもそうしているのに、あなたの弟子たちは食べたり飲んだりしているのですか。」イエスは彼らに言われた。「花婿が一緒にいるのに、花婿の友人に断食を強いることができるだろうか。しかし、花婿が彼らから取り去られる日が来れば、その時には彼らは断食するようになる。」そして、イエスは彼らにたとえを語られた。「だれも、新しい服から布を裂いて、古着に継ぎ当てをすることはしない。そうすれば、新しい服も破れてしまうし、新しい服の継ぎ当ては古い服には合わないからだ。また、だれも新しいぶどう酒を古い皮袋には入れない。そうすれば、新しいぶどう酒が皮袋を破り、ぶどう酒もこぼれ出て、皮袋も台無しになってしまう。新しいぶどう酒は新しい皮袋に入れなければならない。そうすれば、ぶどう酒も皮袋も保たれる。古いぶどう酒を飲んだ者は、すぐに新しいぶどう酒を欲しがらない。なぜなら、『古いものの方が良い』と言うからだ。」

ルカ 5:33-39
第19週の水曜日。

ルカによる福音書、第22章の冒頭

その頃、イエスは安息日に種まきされた畑を通り過ぎられた。すると、弟子たちは穂を摘み取り、手でこねて食べていた。すると、ファリサイ派の人々のうち数人が彼らに言

った。「なぜ、安息日にはしてはならないことをしているのか。」 イエスは彼らに答えて言われた。「ダビデが、自分や同行者たちが飢えたとき、何をしたか、読んだことがないのか。彼は神の家に入り、祭司たち以外には食べてはならない供えのパンを取り、それを食べ、同行者たちにも与えたではないか。」そして、彼らに言われた。「人の子は安息日の主である。」 また別の安息日、イエスは会堂に入って教えを説かれた。そこには、右手が萎えていた人がいた。 律法学者やパリサイ人たちは、安息日に癒やしを行うかどうかを注視し、イエスを非難する口実を探していた。しかし、イエスは彼らの考えを見抜いて、右手が萎えている人に言われた。「立ち上がって、真ん中に来なさい。」すると、その人は立ち上がって前に出た。 そこで、イエスは彼らに言われた。「あなたがたに尋ねよう。安息日には、善を行うべきか、悪を行うべきか。人の命を救うべきか、滅ぼすべきか。」彼らは黙っていた。イエスは彼ら全員を見回して、その人に言われた。「手を伸ばしなさい。」彼はそのとおりにすると、その手はもう一方の手と同じように健やかになった。

ルカ 6:1-10
第21週の安息日。

ルカによる福音書、第23章の冒頭

その頃、イエスは祈るために山に登り、一晩中、神に祈りをささげられた。日が明けると、イエスは弟子たちを呼び寄せ、その中から十二人を選び、彼らを使徒と名付けられた。 シモン（彼をペトロと名付けた）、その兄弟アンデレ、ヤコブ、ヨハネ、フィリポ、バルトロマイ、マタイ、トマス、ヤコブ・アルフェオの子、ゼロテと呼ばれたシモン、ヤコブの子ユダ、そして後に裏切り者となったイスカリオテのユダである。 そして、彼らと共に下りて、平らな場所に立たれた。そこには、多くの弟子たちや、ユダヤ全土、エルサレム、そしてティルスやシドンの沿岸地域から、御言葉を聞き、病を癒やしてもらうために集まった大勢の人々、また汚れた霊に苦しむ者たちもいた。そして、彼らは癒やされた。 そして、民は皆、イエスに触れようと求めた。イエスから力が発して、すべての人を癒していたからである。

ルカ 6:12-19
第19週の木曜日。

ルカによる福音書、第24章の冒頭

その頃、イエスは平らな場所に立たれた。そこには、多くの弟子たちと、ユダヤ全土やエルサレム、またティルスやシドンの沿岸地方から、イエスの御言葉を聞き、病を癒やしてもらうために集まった大勢の民、そして汚れた霊に苦しむ者たちもいた。そして、彼らは癒やされた。 そして、民は皆、イエスに触れようと求めた。イエスから力が発して、すべての人を癒していたからである。イエスは目を上げて弟子たちを見渡し、こう言われた。「今、飢えている者たちは幸いである。あなたがたは満ち足りるからである。 人々があなたがたを憎み、あなたがたを排斥し、あなたがたをののしり、人の子のゆえにあなたがたの名前を不名誉なものとして扱うとき、あなたがたは幸いである。その日には喜び、喜び踊りなさい。天において、あなたがたに与えられる報いは大きいからである。」

ルカ 6:17-23A
第19週の金曜日。
聖人および敬虔な人々のための聖体礼儀。

ルカによる福音書、第25章の冒頭

主は、御自身のもとにやって来たユダヤ人たちにこう言われた。「ああ、富める者たちよ、あなたがたはすでに慰めを受けている。ああ、今、満ち足りている者たちよ、あな

たがたは飢えることになる。ああ、今、笑っている者たちよ、あなたがたは泣き叫び、嘆き悲しむことになる。ああ、すべての人があなたがたを称賛するとき、あなたがたは災いだ。彼らの先祖も、偽預言者たちに対して同じようにしたからだ。しかし、これを聞いているあなたがたには、こうしておく。敵を愛し、あなたがたを憎む者に善を行い、あなたがたをののしる者を祝福し、あなたがたを迫害する者のために祈りなさい。頬を打たれたら、もう一方の頬も差し出し、上着を奪おうとする者には、下着までも奪わせなさい。あなたがたに求める者には、だれにでも与えなさい。そして、あなたのものを取った者からは、それを返せと求めないでください。

ルカ 6:24-30
第20週の月曜日。

ルカによる福音書、26節

主は言われた。「あなたがたが人々にどう扱われたいと思うか、そのように人々を扱いなさい。もし、あなたがたを愛する者を愛するなら、何の報いがあるだろうか。罪人であっても、自分を愛する者を愛しているのだから。もし、あなたがたに善を行う者に善を行うなら、何の報いがあるだろうか。罪人であっても、同じことをしているのだから。また、返してもらえると期待している者に貸したところで、何の報いがあるだろうか。罪人であっても、同じだけのものを返してもらうために、罪人に貸すのだから。しかし、あなたがたは敵を愛し、施しをし、見返りを期待せずに貸しなさい。そうすれば、あなたがたには大きな報いがあり、あなたがたは天の父の子となるであろう。なぜなら、父は、恩知らずな者や悪人に対しても、慈しみ深いからである。だから、あなたがたの父が慈しみ深いように、あなたがたも慈しみ深くなれ。

ルカ 6:31-36
第19週。

ルカによる福音書、27節

主は言われた。「裁いてはならない。そうすれば、あなたがたも裁かれない。非難してはならない。そうすれば、あなたがたも非難されない。赦しなさい。そうすれば、あなたがたも赦される。与えなさい。そうすれば、あなたがたにも与えられる。良い、ふるいにかけて、押し固められ、あふれんばかりに満たされた量で、あなたがたのふところへと注がれる。あなたがたがどのような量で量るかに応じて、同じようにあなたがたにも量り返されるからである。」また、彼らにたとえを語られた。「盲人が盲人を導くことができるだろうか。二人とも穴に落ちはしないか。弟子は師より優れることはない。しかし、完成した者は、みなその師のようになる。なぜ、兄弟の目にあるちりばかりを見て、自分の目にある梁には気づかないのか。あるいは、どうして兄弟に『兄弟よ、あなたの目からちりを取り出そう』と言えるだろうか。あなた自身、自分の目にある梁に気づいていないのに。偽善者よ。まず自分の目から梁を取り除きなさい。そうすれば、兄弟の目からちりを取り除く方法が見えてくるだろう。良い木が悪い実を結ぶことはなく、悪い木が良い実を結ぶこともない。すべての木はその実によって知られるからである。いばらからいちじくを摘んだり、茨からぶどうを摘んだりすることはないからだ。良い人は、心の良い宝から良いものを取り出し、悪い人は、心の悪い宝から悪いものを取り出す。なぜなら、口は心の満ち溢れるところから語るからである。

ルカ 6:37-45
第20週の火曜日。

ルカによる福音書、28章の冒頭

主は言われた。「あなたがたは、なぜ『主よ、主よ』と呼びながら、わたしの言うことを行わないのか。わたしのもとに来て、わたしの言葉を聞き、それを行う者は、誰に似ているか、あなたがたに言おう。その人は、家を建てる人に似ている。その人は穴を掘り、深く掘り下げて、岩の上に土台を据えた。それゆえ、洪水が起こり、水がその家に押し寄せても、それを揺るがすことはできなかった。岩の上に建てられていたからである。しかし、聞いて実行しない人は、土の上に基礎を置かずに家を建てた人に似ている。水がその家に押し寄せると、すぐに崩れ落ち、その家の崩壊は甚大であった。イエスは、聞いていた民へのすべての言葉を終えると、カペナウムに入られた。

ルカ 6:46-7:1
第20週の水曜日。

ルカによる福音書、第29章の冒頭

その頃、イエスはカペナウムに入られた。ある百人隊長には、彼が大切にしていたしもべがいて、死の床に伏していた。イエスのことを聞いた百人隊長は、ユダヤ人の長老たちをイエスのところへ遣わし、自分のしもべを癒やすために来てくださるよう頼ませた。長老たちはイエスのところに来て、熱心に願い出た。「この人は、あなたがそのためにしてくださるにふさわしい方です。彼は私たちの民を愛し、私たちのために会堂を建ててくださったからです。」イエスは彼らと共に歩まれた。家まであと少しというところまで来られたとき、百人隊長は友人をイエスのところへ遣わし、こう言わせた。「主よ、お手間をおかけしないでください。私は、あなたが私の屋根の下に入られるにふさわしい者ではありません。それゆえ、私自身も、あなたのところへお伺いする資格があるとは思いませんでした。ただ、お言葉をおかけください。そうすれば、私のしもべは癒やされます。」というのも、私もまた、命令を下す立場にある者ですが、配下の兵士たちには、『行け』と言えば行き、『来い』と言えば来ます。そして、私のしもべには、『これをせよ』と言えば、彼はそれを行うのです。これを聞いて、イエスは彼を不思議に思い、振り返って、ご自身に従っていた群衆に言われた。「あなたがたに言う。イスラエルの中でも、これほどの信仰を見たことがない。」使者たちは家に戻ると、病んでいたしもべが癒やされているのを見つけた。

ルカ 7:1b-10
第22週の安息日。

ルカによる福音書、第30章の冒頭

そのころ、イエスはナインという町へお出かけになった。多くの弟子たちや大勢の群衆がイエスに付き従っていた。イエスが町の門に近づかれたとき、ちょうど、ある未亡人の一人息子である死者が運び出されようとしていた。彼女には多くの群衆が町からついてきていた。主は彼女を見て、憐れみを感じ、こう言われた。「泣いてはいけない。」そして、近づいて棺に触れると、運んでいた人々は立ち止まり、イエスは言われた。「若者よ、あなたに言う。起きなさい。」すると、死者は起き上がって座り、話し始めた。イエスは彼を母親に返された。人々は皆、恐れに満たされ、神を賛美して言った。「偉大な預言者が私たちの間に現れた。神は御自分の民を顧みてくださった。」

ルカ 7:11-16
第20週。

ルカによる福音書、第31章の冒頭

その頃、イエスについての噂がユダヤ全土とその周辺一帯に広まっていた。イエスの弟子たちは、そのことをすべてヨハネに伝えた。ヨハネは弟子たちのうち二人を呼び寄せ

、イエスのところへ遣わして尋ねさせた。「あなたは、来るべき方ですか。それとも、私たちは別の誰かを待つべきでしょうか。」 彼らはイエスのところに来て言った。「洗礼者ヨハネが、私たちがあなたのもとへ遣わして、『あなたは来るべき方ですか。それとも、私たちは別の誰かを待つべきでしょうか』と尋ねさせています。」その間、イエスは多くの人の病気や患い、悪霊を癒やし、多くの盲人の目を開かれた。そこで、イエスは彼らに答えて言われた。「行って、ヨハネに、あなたがたが見聞きしたことを伝えなさい。盲人は目が見え、足の不自由な人は歩き、らい病人は清められ、耳の聞こえない人は聞き、死者はよみがえり、貧しい人々は福音を宣べ伝えている。わたしについてつまずかない人は幸いである。」 ヨハネから遣わされた者たちが去った後、イエスは民衆にヨハネについて語り始められた。「あなたがたは、何を見に荒野へ行ったのか。風に揺れる葦か。では、何を見にいったのか。柔らかない服を着た人か。しかし、豪華な服を着て贅沢な暮らしをする者たちは、王の宮廷にいるのだ。では、何を見に荒野へ行ったのか。預言者か。そう、あなたがたに言うておく。預言者以上の者だ。この人こそ、こう書かれている者である。『見よ、わたしはあなたの前にわたしの御使いを遣わし、あなたの道をあなたの前に整えさせる。』 なぜなら、あなたがたに言うておく。女から生まれた者の中で、洗礼者ヨハネより偉大な預言者は一人もいない。しかし、神の御国では、彼より小さい者さえ、彼より偉大である。そして、彼の言葉を聞いたすべての民と徴税人たちは、ヨハネの洗礼を受けて神に栄光を帰したが、パリサイ人や律法学者たちは、彼から洗礼を受けなかったことで、自分たちに対する神の御心を拒んだのである。

ルカ 7:17-30
第20週の木曜日。

5月25日、洗礼者ヨハネの首の発見、早課にて。

ルカによる福音書、第32章の冒頭

主は言われた。「この世の人々を誰に例えようか。彼らは誰に似ているのか。彼らは、通りに座って互いに呼びかけ、こう言う子供たちに似ている。『私たちは笛を吹いて聞かせたが、あなたがたは踊らなかった。哀歌を歌って聞かせたが、あなたがたは泣かなかった。』 洗礼者ヨハネが来たとき、パンも食べず、ぶどう酒も飲まなかったのに、あなたがたは『彼には悪霊が宿っている』と言う。人の子が来て、食べ、飲むと、あなたがたは『見よ、この人は食べたりぶどう酒を飲んだりするのが好きで、取税人や罪人たちの友達』と言う。知恵は、そのすべての子供たちによって正当化されるのである。

ルカ 7:31-35
第20週の金曜日。

ルカによる福音書、第33章の冒頭

その頃、あるパリサイ人がイエスに、一緒に食事をしようと招いた。そこで、イエスはそのパリサイ人の家に入り、食卓に着かれた。すると、その町に住むある女——彼女は罪人であった——が、イエスとそのパリサイ人の家に座しておられることを知ると、香油の入ったアラバストルの壺を持って来て、イエスの後ろに立ち、その足元にひれ伏して泣きながら、涙でイエスの足を濡らし、自分の髪でそれを拭き、イエスの足に口づけをして、香油を塗った。これを見て、イエスを招いたファリサイ派の人は、心の中でこう言った。「もしこの人が預言者なら、自分に触れているのがどんな女か、誰なのかを知っているはずだ。彼女は罪人なのだから。」 イエスは彼に向き直って言われた。「シモン。あなたに言いたいことがある。」 シモンは、「先生、どうぞおっしゃってください」と言った。イエスは言われた。「ある金貸しに二人の借金者がいた。一人は五百ディナリ、もう一人は五十ディナリを借りていたが、二人とも支払うものがなかったため、金貸しは二人ともを赦した。さて、この二人のうち、どちらが彼をもっと愛するだろうか？」 シモ

ンは答えた。「おそらく、より多く赦された方でしょう。」イエスは彼に言われた。「その通りだ。」そして、その女の方を向いて、シモンに言われた。「この女が見えるか？私はあなたの家に来たが、あなたは私の足に水さえ注いでくれなかった。しかし、彼女は涙で私の足を濡らし、自分の髪で拭いてくれた。あなたは私に口づけさえしてくれなかったが、彼女は私が来てからずっと、私の足に口づけをし続けている。あなたは私の頭に香油を塗ってくれなかったが、彼女は私の足に香油を塗ってくれた。だから、あなたに言っておく。彼女は多くを愛したから、その多くの罪が赦されたのだ。しかし、赦されるのが少ない者は、愛も少ないのである。」そして、イエスはその女に言われた。「あなたの罪は赦された。」すると、イエスと共に食卓を囲んでいた者たちは、心の中でこう言い合った。「この人は一体誰なのか。罪まで赦すとは？」イエスはその女に言われた。「あなたの信仰があなたを救った。平安をもって行きなさい。」

ルカ 7:36-50
第21週の月曜日。
殉教者たち。

ルカによる福音書、第34章

その頃、イエスは町や村を巡り歩き、神の御国を宣べ伝え、福音を説いておられた。イエスには十二使徒と、悪霊や病気から癒やされたいいくつかの女性たちが同行していた。マリア、いわゆるマグダラのマリア（彼女からは七つの悪霊が追い出された）、またヘロデの家政係フザの妻ヨハンナ、スザンナ、そして自分の財産をもってイエスに仕えていた多くの女性たちであった。

ルカ 8:1-3
第21週の火曜日。
7月22日、マグダラのマリア。

ルカによる福音書、第35章の冒頭

主は、このたとえを語られた。「種を蒔く人が出て来て、種を蒔いた。蒔いていると、ある種は道端に落ち、踏みつけられ、空の鳥に啄まれた。またある種は岩の上に落ち、芽を出したが、水分がなかったので枯れてしまった。またある種は茨の中に落ち、茨が生い茂ってそれを覆い隠してしまった。またある種は良い土に落ち、芽を出して百倍の実を結んだ。」こう言われた後、主はこう叫ばれた。「聞く耳のある者は、聞きなさい。」すると、弟子たちはイエスに尋ねた。「このたとえは、どういう意味でしょうか。」イエスは言われた。「あなたがたには、神の国の奥義を知る恵みが与えられているが、他の人々にはたとえで語られる。彼らは見ても見えず、聞いても悟らないからである。」このたとえの意味はこうである。種とは神の言葉のことである。道端に落ちたものは、御言葉を聞く者たちのことである。その後、悪魔が来て、彼らの心から御言葉を奪い去り、彼らが信じず、救われないようにする。岩の上に落ちた種は、御言葉を聞いて喜びをもって受け入れるが、根を持たず、しばらくは信じるものの、試練の時には信仰を捨ててしまう人々である。茨の中に落ちた種は、御言葉を聞くが、立ち去って、世の心配事や富、快樂に押しつぶされ、実を結ばない人々である。また、良い土に落ちたものは、御言葉を聞いて、それを善く清い心に留め、忍耐をもって実を結ぶ人々である。こう言われた後、イエスは声を高めて言われた。「聞く耳のある者は、聞きなさい。」

ルカ 8:5-15
第21週。

ルカによる福音書、第36章

主は言われた。「だれも、灯をともして、それを器で覆ったり、ベッドの下に置いたりすることはなく、燭台の上に置く。それは、入ってくる人々が光を見るためである。隠

されているもので、明らかにされないものはない。また、秘められているもので、知られず、明らかにされないものはない。」 だから、あなたがたは、どのように聞くかに気をつけなさい。持っている者にはさらに与えられ、持たない者からは、持っていると思い込んでいるものまでも取り去られるからである。すると、イエスの母と兄弟たちがやって来たが、群衆のためにイエスのところへ近づくことができなかった。そこで、人々はイエスに告げた。「あなたの母と兄弟たちが、あなたにお会いしたいと外で待っています。」 イエスは彼らに答えて言われた。「わたしの母、わたしの兄弟とは、神の御言葉を聞き、それを行う人々である。」

ルカ 8:16-21

第23週の土曜日。

9月9日、12月9日、7月25日、聖アンナの日。

ルカによる福音書、第37章の冒頭

その頃、イエスは弟子たちと一緒に舟に乗り込み、彼らに「湖の向こう岸へ渡ろう」と言われた。そして、彼らは出発した。航行中、イエスは眠りにつかれた。すると、湖に激しい風が吹き荒れ、波が舟に打ち寄せ、彼らは危険な状況に陥った。そこで、弟子たちはイエスのところへ行き、目を覚まさせて言った。「先生！ 先生！ 私たちは死んでしまいます。」しかし、イエスは起き上がって、風と波を叱りつけられた。すると、風も波も静まり、静寂が訪れた。そこでイエスは彼らに言われた。「あなたがたの信仰はどこにあるのか。」彼らは恐れと驚きの中で、互いに言い合った。「この方はいったいどなたなのか。風や水さえも命じれば、従うというのか。」

ルカ 8:22-25

第21週の水曜日。

ルカによる福音書、第38章の冒頭

その頃、イエスはガリラヤの対岸にあるガダラ地方においでになった。イエスが岸に上がられると、その町から一人の男がイエスに近づいてきた。その男は、昔から悪霊に取りつかれており、衣服も着ず、家にも住まず、墓の中で暮らしていた。その男はイエスを見ると、叫び声を上げ、イエスの前にひれ伏して、大声で言った。「イエスよ、至高の神の子よ、私とあなたと何の関係があるのですか。どうか、私を苦しめないでください。」 イエスは、その人に長い間苦しめられていたため、鎖や縄で縛られて守られていたが、その人は縄を引き裂き、悪霊に追われて荒野をさまよっていた。そこで、イエスは彼に尋ねた。「お前の名は何か。」彼は言った。「レギオンです。」それは、多くの悪霊が彼の中に入っていたからである。そして、彼らはイエスに、自分たちを深淵へ行くよう命じないでほしいと懇願した。ちょうどその時、山の上には大きな豚の群れが放牧されていた。悪霊たちは、自分たちをその豚たちの中に入らせてほしいとイエスに願い出た。イエスはそれを許された。悪霊たちはその人から出て、豚たちの中に入った。すると、豚の群れは崖から湖へ飛び込み、溺れて死んでしまった。羊飼いたちは、この出来事を目撃すると、走って町や村々に伝えに行った。人々は出来事を見ようと出かけて行き、イエスのところに来ると、悪霊が追い出された男が、服を着て正気を取り戻し、イエスの足元に座っているのを見て、恐怖に襲われた。目撃者たちは、悪霊に取りつかれていた男がどのように癒やされたかを彼らに語った。すると、ガダラ周辺の住民たちは皆、大きな恐怖に襲われていたため、イエスにその場を去ってほしいと懇願した。イエスは舟に乗り込み、帰っていかれた。一方、悪霊に憑かれていた男は、イエスに「私を連れて行ってください」と願った。しかし、イエスは彼を去らせ、「自分の家に帰り、神があなたのためにしてくださったことを人々に伝えなさい」と言われた。そこで彼は去って行き、町中を回って、イエスが自分にしてくださったことを宣べ伝えた。

ルカによる福音書、第39章

その頃、ヤイロという名の人がイエスのところに来た。彼は会堂の長であった。彼はイエスの足元にひれ伏し、自分の家に入ってもらえないかと願った。彼には十二歳の娘が一人いたが、その娘は死の床にあったからである。イエスが歩いておられると、群衆がイエスを取り囲んだ。また、十二年間も出血に苦しんでいた女性がいた。彼女は医者たちに全財産を使い果たしたが、誰一人として治すことができなかった。その女性が後ろから近づき、イエスの衣の端に触れると、たちまち出血が止まった。イエスは言われた。「だれがわたしに触れたのか。」しかし、皆が否定すると、ペトロやイエスと一緒にだった人たちは言った。「先生、群衆があなたを取り囲んで押し寄せています。それなのに、『だれがわたしに触れたのか』とおっしゃるのですか。」しかし、イエスは言われた。「だれかがわたしに触れた。わたしから力が流れ出ているのを感じたからだ。」その女は、隠れていられないと悟ると、恐れおののきながら近づき、イエスの前にひれ伏して、なぜイエスに触れたのか、そしてどのようにして即座に癒やされたのかを、すべての民の前で告げた。イエスは彼女に言われた。「勇気を出しなさい、娘よ。あなたの信仰があなたを救った。平安のうちに帰りなさい。」イエスがまだそうおっしゃっている間に、会堂長の家からある人がやって来て、彼に言った。「あなたの娘は亡くなりました。先生をお煩わせしないでください。」しかし、イエスはこれを聞くと、彼に言われた。「恐れるな。ただ信じなさい。そうすれば、彼女は救われる。」そして家に入ると、ペテロ、ヨハネ、ヤコブ、そして少女の父と母以外の誰にも中に入ることを許さなかった。皆、彼女のために泣き、嘆いていた。しかし、イエスは言われた。「泣いてはいけない。彼女は死んだのではなく、眠っているのだ。」人々は、彼女が死んだことを知っていたので、イエスを嘲笑った。しかし、イエスは皆を外に追い出し、彼女の手を取って、「少女よ、起きなさい」と声を上げられた。すると、彼女の息が戻り、彼女はすぐに起き上がった。イエスは彼女に何か食べるものを与えるように命じられた。彼女の両親は驚いた。イエスは彼らに、この出来事を誰にも話さないようにと命じられた。

ルカによる福音書、第40章

その頃、イエスは十二人の弟子を呼び集め、すべての悪霊に対する力と権威、また病気を治す力を彼らに与え、神の国を宣べ伝え、病人を癒やすために彼らを遣わされた。そして、彼らに言われた。「旅の途中で、杖も、袋も、パンも、銀も、何も持って行つてはならない。また、服も二着ずつ持つてはならない。どの家に入っても、そこに泊まり、そこから旅立っていきなさい。もしどこかで受け入れられないなら、その町を出て、彼らの証しとして、足から塵を払い落とせ。」彼らは出て行き、村々を巡りながら、至る所で福音を宣べ伝え、病人を癒やした。

ルカによる福音書、第41章の冒頭

そのころ、テトラルコスであるヘロデは、イエスがなさったすべてのことを聞き、困惑した。ある者は「これはヨハネが死からよみがえったのだ」と言い、ある者は「エリヤが現れたのだ」と言い、またある者は「昔の預言者の一人がよみがえったのだ」と言ったからである。そこでヘロデは言った。「ヨハネは私が首を刎ねた。では、このような話

を聞くこの方は、いったい誰なのか。」そして、イエスに会おうと探した。使徒たちは戻って来て、自分たちがしたことをイエスに報告した。そこでイエスは彼らを連れて、ベツサイダという町の近くにある人里離れた場所に、人目を避けて退かれた。しかし、人々はそれを知ってイエスの後を追ってきた。イエスは彼らを受け入れ、神の御国について語り、癒やしを求めた人々を癒やされた。

ルカ 9:7-11
第21週の木曜日。

ルカによる福音書、第42章の冒頭

その頃、十二人がイエスのところに来て言った。「群衆を解散させて、周辺の村や集落へ行き、宿を取り、食べ物を手に入れさせてください。ここは人里離れた場所ですから。」しかし、イエスは彼らに言われた。「あなたがたが彼らに食べ物を与えなさい。」彼らは言った。「私たちには、パン五つと魚二匹しかありません。これほど大勢の人々のために食べ物を買うに行くべきでしょうか。」その数は約五千人であった。しかし、イエスは弟子たちに言われた。「彼らを五十人ずつ列に並べなさい。」弟子たちはその通りにして、皆を座らせた。イエスは五つのパンと二匹の魚を取り、天を見上げて祝福し、それを裂いて弟子たちに渡し、民に配らせた。人々は食べて、みな満腹した。そして、残ったパンの切れ端を拾い集めると、十二の籠に満たされた。ある時、イエスは人里離れた場所で祈っておられたが、弟子たちもイエスと共にいた。

ルカ 9:12B-18A
第21週の金曜日。

ルカによる福音書、第43章の冒頭

イエスが人里離れた場所で祈っておられ、弟子たちが一緒にいたとき、イエスは彼らに尋ねられた。「人々はわたしを誰だと言っているのか。」弟子たちは答えて言った。「洗礼者ヨハネだと言う者もいれば、エリヤだと言う者もいます。また、昔の預言者の一人がよみがえったと言う者もいます。」そこでイエスは彼らに尋ねられた。「では、あなたがたはわたしを誰だと思っているのか。」ペテロが答えた。「神のキリストです。」しかし、イエスは彼らに、このことを誰にも話してはならないと厳しく命じ、こう言われた。「人の子は多くの苦しみを受け、長老たちや大祭司たち、律法学者たちに拒まれ、殺され、三日目に復活しなければならない。」

ルカ 9:18-22
第22週の月曜日。

ルカによる福音書、第44章の冒頭

主は言われた。「わたしに従いたいと思う者は、自分を捨て、自分の十字架を負い、わたしに従いなさい。自分の命を救おうとする者は、それを失うが、わたしのために自分の命を失う者は、それを救う。人が全世界を得ても、自分自身を滅ぼしたり、損なったりするならば、何の益があるだろうか。わたしとわたしの言葉を恥じる者なら、人の子も、その栄光と父と聖なる御使いたちと共に来るとき、その者を恥じるであろう。まことに、あなたがたに告げる。ここに立っている者の中には、死ぬことなく、神の御国を見る者もいる。」

ルカ 9:23-27
第22週の火曜日。

ルカによる福音書、第45章

そのころ、イエスはペトロ、ヨハネ、ヤコブを連れて、祈るために山に登られた。祈っておられると、御顔の様相が変わり、御衣はまばゆいばかりの白さになった。すると

、二人の人がイエスと語り合っていた。それはモーセとエリヤであった。彼らは栄光のうちに現れ、イエスがエルサレムで成し遂げなければならない御業について語っていた。ペテロと彼と共にいた者たちは、眠気に襲われていた。しかし、目を覚ますと、イエスの栄光と、イエスのそばに立っている二人の人を見た。彼らがイエスから離れていくとき、ペテロはイエスに言った。「先生、ここにいるのは良いことです。三つの小屋を建てましょう。一つはあなたのために、一つはモーセのために、もう一つはエリヤのために。」彼は自分が何を言っているのか分かっていなかった。彼がそう言っているとき、雲が現れて彼らを覆った。そして、雲の中に入ったとき、彼らは恐れた。すると、雲の中から声がして、「これはわたしの愛する子である。彼に聞き従え」と言った。その声が聞こえたとき、イエスだけが残った。彼らは黙り込み、その日、見たことを誰にも話さなかった。

ルカ 9:28-36
主の変容、早課にて。

ルカによる福音書、第46章

その頃、イエスが山から下って来られると、大勢の群衆がイエスを出迎えた。すると、群衆の中からある人が叫んで言った。「先生、どうか私の息子を見てください。私にはこの子しかいません。悪霊に取りつかれて、突然叫び声を上げ、苦しめられて泡を吹くのです。そして、彼をひどく苦しめた後、やっと離れていくのです。私はあなたの弟子たちに、その悪霊を追い出してくれるよう頼みましたが、彼らにはできませんでした。」イエスは答えて言われた。「ああ、不信仰で墮落した世代よ。いつまで私はあなたがたと共にいて、あなたがたに耐えなければならないのか。あなたの息子をここに連れてきなさい。」その子がまだ歩いてくる間に、悪霊が彼を倒して殴りつけた。しかし、イエスはその汚れた霊を叱りつけ、少年を癒やし、その父に返された。そして、皆は神の偉大さに驚嘆した。

ルカ 9:37-43
第25週の土曜日。

ルカによる福音書、第47章の冒頭

主は弟子たちに言われた。「この言葉をよく心に留めておきなさい。人の子は人の手に引き渡される。」しかし、彼らはこの言葉を理解できず、その意味が彼らには隠されていたため、その意味を悟ることができなかった。また、この言葉についてイエスに尋ねることも恐れていた。そこで、彼らの中に「彼らの中で誰が最も偉いのか」という考えが浮かんだ。イエスは彼らの心の思いを見抜くと、子供を一人連れてきて、自分の前に立たせ、彼らに言われた。「わたしの名によってこの子供を受け入れる者は、わたしを受け入れるのである。また、わたしを受け入れる者は、わたしを遣わした方を受け入れるのである。あなたがたの中で最も小さい者こそ、偉大な者となるからである。」すると、ヨハネが言った。「先生、私たちは、あなたの御名によって悪霊を追い出している人を見かけましたが、彼は私たちと一緒に歩んでいないので、彼を禁じました。」イエスは彼に言われた。「禁じてはならない。あなたがたに敵対しない者は、あなたがたに味方する者だからである。」

ルカ 9:44-50
第22週の水曜日。

ルカによる福音書、48A節

そのとき、イエスの弟子の一人がイエスのところに来て、こう言った。「先生、私たちは、あなたの御名によって悪霊を追い出している人を見かけましたが、彼は私たちと一緒に歩んでいないので、それを禁じました。」イエスは彼に言われた。「禁じてはならな

い。あなたがたに敵対しない者は、あなたがたに味方する者だからである。」 さて、イエスが世から連れ去られる日が近づくと、イエスはエルサレムへ行こうと決心された。そこで、先遣者を遣わされた。彼らは行って、サマリアの村に入り、イエスのために準備をしようとしたが、イエスがエルサレムへ向かう旅人のように見えたため、そこではイエスを受け入れなかった。 それを見た弟子たち、ヤコブとヨハネは言った。「主よ、もしお望みなら、エリヤがしたように、天から火を降らせて彼らを滅ぼしましょうか。」 しかし、イエスは彼らに向き直って、それを禁じ、こう言われた。「あなたがたは、どのような霊を持っているのか分からない。人の子は、人の魂を滅ぼすために来たのではなく、救うために来たのだ。」そして、彼らは別の村へと向かった。

ルカ 9:49-56
第22週の木曜日。

ルカによる福音書、48B節

その頃、イエスが世から取り去られる日が近づくと、イエスはエルサレムへ行こうと望まれ、ご自身の先遣隊を遣わされた。彼らは行ってサマリアの村に入り、イエスのために準備をしようとしたが、イエスがエルサレムへ向かう旅人のように見えたため、そこでは受け入れられなかった。 それを見た弟子たち、ヤコブとヨハネは言った。「主よ、もしお望みなら、エリヤがしたように、天から火を降らせて彼らを滅ぼしましょうか。」しかし、イエスは彼らに向き直って、それを禁じ、こう言われた。「あなたがたは、どのような霊に動かされているのか、分かっていない。 人の子は、人の魂を滅ぼすために来たのではなく、救うために来たのだ。」そして、彼らは別の村へと向かった。イエスは言われた。「すべては、わたしの父によってわたしに委ねられている。子が誰であるかを知る者は、父以外にはいない。また、父が誰であるかを知る者は、子以外にはいない。そして、子が明らかにしたいと思う者にのみ、父は知られるのである。」 そして、弟子たちの方を向いて、特にこう言われた。「あなたがたが見ているものを見る目を持つ者は幸いである。あなたがたに言うておく。多くの預言者や王たちが、あなたがたが見ているものを見たいと願ったが、見ることができず、あなたがたが聞いていることを聞きたいと願ったが、聞くことができなかったのだ。」

ルカ 9:51-56; 10:22-24
8月16日、御手のなき救い主の御像。

ルカによる福音書 第49章

その頃、イエスが旅をしておられたとき、ある人がイエスに言った。「主よ。あなたがどこへ行かれるにしても、私はあなたに従います。」イエスは彼に言われた。「きつねには巣があり、空の鳥には巣があるが、人の子には頭を横たえる場所さえない。」 また、別の人には、「わたしに従いなさい」と言われた。すると、その人は、「主よ、まず父を葬らせてから、あなたに従いたいのです」と言った。しかし、イエスは彼に言われた。「死者に死者を葬らせるのは、死者に任せておきなさい。あなたは行って、神の国を宣傳えなさい。」 また別の人が言った。「主よ、あなたに従います。しかし、まず家族に別れを告げさせてください。」しかし、イエスは彼に言われた。「鋤に手をかけながら後ろを振り返る者は、神の国にふさわしくない。」

ルカ 9:57-62
第26週の土曜日。

ルカによる福音書、50A節

その頃、主はさらに七十人の弟子を選び、ご自身が向かおうとしていたあらゆる町や場所に、二人一組で御自身の先立って遣わし、彼らにこう言われた。「収穫は多いが、働

き手は少ない。だから、収穫の主なる神に、御自分の収穫のために働き手を送ってくださるよう祈りなさい。行きなさい。 わたしはあなたがたを、狼の群れの中に小羊を送り込むように遣わす。袋も、旅袋も、履物も持ってはならない。また、道中で誰にも挨拶をしてはならない。どの家に入っても、まず『この家に平安あれ』と言いなさい。もしそこに平和の子がいれば、あなたがたの平和はその人の上に留まるが、もしいなければ、あなたがたのもとに戻ってくる。 その家にはとどまり、彼らが用意するものを食べ、飲みなさい。働く者は、その労苦に見合う報いを受けるにふさわしいからである。家から家へと移ってはならない。もし、ある町に入って受け入れられたなら、出されるものを食べ、その町にいる病人を癒やし、彼らにこう言いなさい。『神の御国があなたがたに近づいた。』もし、どの町に入っても受け入れられないなら、通りに出てこう言いなさい。『あなたがたの町から私たちに付着したほこりを、あなたがたに振り払う。しかし、神の御国があなたがたに近づいていることを知っておきなさい。』言っておくが、その日、ソドムは、その町よりもまだましである。ああ、ホラジンよ、 ああ、ベツサイダよ！ もしティルスやシドンに、あなたがたに現れたような力が現れていたなら、彼らはとくに、粗布をまとい、灰をまいて悔い改めていたはずだ。しかし、裁きの日には、ティルスやシドンでさえ、あなたがたよりもましな扱いを受けるだろう。そして、カペナウムよ、天にまで高ぶったあなたは、地獄にまで突き落とされるだろう。

ルカ 10:1-15
第22週の金曜日。

ルカによる福音書、50B節

そのころ、主はさらに七十人の弟子を選び、ご自身が訪れようとしていたあらゆる町や場所に、二人一組で御自身の先立って遣わし、彼らにこう言われた。「収穫は多いが、働き手は少ない。だから、収穫の主なる神に、御自分の収穫のために働き手を送ってくださるよう祈りなさい。行きなさい。 わたしはあなたがたを、狼の群れの中に小羊を送り込むように遣わす。袋も、旅袋も、履物も持ってはならない。また、道中で誰にも挨拶をしてはならない。どの家に入っても、まず『この家に平安あれ』と言いなさい。もしそこに平和の子がいれば、あなたがたの平和は彼の上にとどまるが、もしいなければ、あなたがたのもとに戻ってくる。 その家にはとどまり、彼らが用意するものを食べ、飲みなさい。働く者は、その労苦に見合う報いを受けるにふさわしいからである。家から家へと移ってはならない。もし、ある町に入って受け入れられたなら、出されるものを食べ、その町にいる病人を癒やし、彼らにこう言いなさい。『神の御国があなたがたに近づいた。』もし、どの町に入っても受け入れられないなら、通りに出てこう言いなさい。『あなたがたの町から私たちに付着したほこりを、あなたがたに振り払う。しかし、神の御国があなたがたに近づいていることを知っておきなさい。』言っておくが、その日、ソドムは、その町よりもまだましである。ああ、ホラジンよ、 ああ、ベツサイダよ！ もしティルスやシドンに、あなたがたに現れたような力が現れていたなら、彼らはとくに、粗布をまとい、灰をまいて悔い改めていたはずだ。しかし、裁きの日には、ティルスやシドンでさえ、あなたがたよりもましな扱いを受けるだろう。そして、カペナウムよ、天にまで高ぶったあなたは、地獄にまで落とされるだろう。 あなたがたに耳を傾ける者は、わたしに耳を傾けるものであり、あなたがたを拒む者は、わたしを拒む者である。そして、わたしを拒む者は、わたしを遣わした方を拒むのである。七十人の弟子たちが喜びながら戻ってきて、こう言った。「主よ、あなたの御名によって、悪霊たちまでもが私たちに従います。」すると、イエスは彼らに言われた。『わたしは、サタンが稲妻のように天から落ちるのを見た。見よ、わたしはあなたがたに、蛇やサソリ、また敵のあらゆる力に立ち向かう権威を与える。あなたがたに害を及ぼすものは何もない。しかし、霊たちがあなたがたに従うこと自体を喜んでではない。むしろ、あなたがたの御名が天に記されていることを

喜べ。』 そのとき、イエスは御霊に満たされて喜び、こう言われた。「天と地の主である父よ、知恵ある者や賢い者からはこれを隠し、幼子たちに現してくださったことを、私はあなたを賛美します。ああ、父よ！ それは、あなたの御心であったからです。」

ルカ 10:1-21
使徒たちへ。

ルカによる福音書、第51A章

主は弟子たちに言われた。「あなたがたに耳を傾ける者は、わたしに耳を傾ける者であり、あなたがたを拒む者は、わたしを拒む者である。また、わたしを拒む者は、わたしを遣わされた方を拒むのである。」七十人の弟子たちは喜びながら戻ってきて、こう言った。「主よ、あなたの御名によって、悪霊たちまでもが私たちに従います。」すると、主は彼らに言われた。『わたしは、サタンが稲妻のように天から落ちるのを見た。見よ、わたしはあなたがたに、蛇やサソリ、また敵のあらゆる力に立ち向かう権威を与える。あなたがたに害を及ぼすものは何もない。しかし、霊たちがあなたがたに従うこと自体を喜んでではない。むしろ、あなたがたの御名が天に記されていることを喜べ。』 そのとき、イエスは御霊に満たされて喜び、こう言われた。「天と地の主である父よ、知恵ある者や賢い者からはこれを隠し、幼子たちに現してくださったことを、私はあなたを賛美します。ああ、父よ！ それは、あなたの御心であったからです。」

ルカ 10:16-21
天使たちへ、聖体礼儀において。

ルカによる福音書、第51B節

主は弟子たちに言われた。「見よ、わたしはあなたがたに、蛇やサソリや、あらゆる敵の力に打ち勝つ権能を与える。あなたがたに害を及ぼすものは何もない。しかし、霊たちがあなたがたに従うからといって喜んでではない。むしろ、あなたがたの御名が天に記されていることを喜べ。」 そのとき、イエスは御霊に満たされて喜び、こう言われた。「父よ、天と地の主よ、私はあなたを賛美します。あなたは、このことを知恵ある者や賢い者からは隠し、幼子たちに現わしてくださいました。そうです、父よ。それは、あなたの御心であったからです。」

ルカ 10:19-21
第27週の土曜日。

ルカによる福音書、第52章の冒頭

主は弟子たちに言われた。「わたしの父は、すべてのものをわたしに委ねておられる。子とは誰であるかを知る者は、父以外にはいない。また、父とは誰であるかを知る者は、子と、子がそれを明らかにしたいと思う者以外にはいない。」 そして、弟子たちの方を向いて、特にこう言われた。「あなたがたが見ているものを見る目を持つ者は幸いである。あなたがたに言うておく。多くの預言者や王たちが、あなたがたが見ているものを見たいと願ったが、見ることができず、あなたがたが聞いていることを聞きたいと願ったが、聞くことができなかったのだ。」

ルカ 10:22-24
第23週の月曜日。

ルカによる福音書、第53章の冒頭

そのとき、ある律法学者がイエスに近づき、試みて言った。「先生、永遠のいのちを得るためには、何をすべきでしょうか。」 イエスは彼に言われた。「律法には何と書いてあるか。あなたはそれをどう読んでいますか。」 彼は答えて言った。「『心を尽くし、魂を尽くし、力を尽くし、思いを尽くして、あなたの神、主を愛し、あなたの隣人をあなた

自身のように愛しなさい』とあります。」イエスは彼に言われた。「その答えは正しい。それを実行すれば、あなたは生きる。」しかし、その人は自分を正当化しようと、イエスに言った。「では、私の隣人とは誰のことですか。」するとイエスは言われた。「ある人がエルサレムからエリコへ下って行く途中、強盗に襲われた。彼らはその人の服を剥ぎ取り、傷を負わせ、かろうじて息のある状態で置き去りにして去っていった。たまたま、ある祭司がその道を通りかかり、彼を見て通り過ぎてしまった。また、レビ人もその場所にいたが、近づいて見ては通り過ぎてしまった。ところが、あるサマリア人が通りかかって彼を見つけ、彼を見て憐れに思い、近づいて傷に油とぶどう酒を注いで包帯を巻いてやり、そして、彼を自分のロバに乗せ、宿屋へ連れて行き、世話をした。翌日、旅立つ際、二ディナリを取り出し、宿屋の主人に渡し、『彼の世話をしなさい。もしそれ以上の出費があれば、私が戻った時に払い戻す』と言った。この三人のうち、誰が強盗に襲われた人の隣人だったと思うか。」彼は言った。「彼に慈しみを示した人です。」そこでイエスは彼に言われた。「行って、あなたもそのようにしなさい。」

ルカ 10:25-37
第25週。

ルカによる福音書、54節

その頃、イエスはある村にお入りになった。そこでは、マルタという名の女性がイエスを自分の家に迎え入れた。彼女にはマリアという名の妹がいて、マリアはイエスの足もとに座り、その御言葉を聞いていた。マルタは、盛大なもてなしの準備に追われていたが、近づいて言った。「主よ、私の姉が私一人に奉仕を任せて、放っておいていることについて、お気になさらないのですか。彼女に、私を手伝うように言ってください。」すると、イエスは彼女に答えて言われた。「マルタ、マルタ。あなたは多くのことで心配し、あちこちと奔走しているが、必要なことはただ一つだけだ。マリアは良い部分を選んだ。それは彼女から取り去られることはない。」と。イエスがこうおっしゃっているとき、群衆の中から一人の女性が声を上げて言った。「あなたを身ごもった胎と、あなたを育てた乳房は、幸いである。」すると、イエスは言われた。「神の御言葉を聞いて、それを守る者たちは幸いである。」

ルカ 10:38-42; 11:27-28
至聖なる神の母よ、聖体礼儀において。

ルカによる福音書、第55章

その頃、イエスがある場所で祈っておられ、祈りを終えられたとき、弟子の一人がイエスに言った。「主よ、ヨハネが自分の弟子たちに教えたように、私たちにも祈ることを教えてください。」イエスは彼らに言われた。「祈るときは、こう言いなさい。『天におられる私たちの父よ、御名が聖とされますように。御国が来ますように。御心が天で行われるように、地でも行われますように。私たちの日ごとの糧を、今日もお与えください。私たちの罪をお赦しください。私たちも、私たちに罪を犯した者を赦しますから。私たちを誘惑に遭わせないでください。悪から救い出してください。』そして、彼らに言った。「仮に、あなたがたのうちの誰かが、友人を持ち、真夜中にその友人のところへ行ったら、『友よ！パンを三つ貸してくれ。旅の途中で友人が私のところへ立ち寄ったのだが、彼に振る舞うものが何もないのだ』と頼んだとしよう。すると、家の中から相手がこう答えるだろう。「私を煩わせないでくれ。もう戸は閉まっているし、子供たちも私と一緒に寝ている。起き上がって君に与えることはできない。」もし、その友人が、友情ゆえに起き上がって与えてくれないとしても、そのしつこさゆえに、起きて、求めた分だけ与えてくれるだろう。だから、あなたがたに言うておく。求めなさい。そうすれば与えられ

る。探しなさい。そうすれば見つかる。門をたたきなさい。そうすれば開かれる。求める者は皆受け、探す者は皆見つけ、門をたたく者には開かれるからである。

ルカ 11:1-10
第23週の火曜日。

ルカによる福音書、第56章の冒頭

主は弟子たちに言われた。「求めなさい。そうすれば与えられます。探しなさい。そうすれば見つかります。門をたたきなさい。そうすれば開かれます。求める者はみな受け、探す者はみな見つけ、門をたたく者には開かれるからです。」あなたがたのうち、息子がパンを求めに来たとき、石を与える父親がどこにいるだろうか。あるいは、魚を求められたとき、魚の代わりに蛇を与える父親が、いったい誰がいるだろうか。あるいは、卵を求められたとき、サソリを与える父親が、いったい誰がいるだろうか。それゆえ、あなたがたは、悪であるにもかかわらず、自分の子供たちに良いものを与えることができるのだから、なおさら、天の父は、御自分に求める者たちに聖霊を与えてくださる。

ルカ 11:9-13
第23週の水曜日。

ルカによる福音書、第57章

その頃、イエスは口がきけない人に取りついていて悪霊を追い出された。悪霊が出て行くと、その人は話すようになった。人々は驚いた。しかし、その中には、「彼は悪霊の王ベエルゼブルの力によって悪霊を追い出しているのだ」と言う者もいた。また、試そうとして、天からのしるしをイエスに求めた者たちもいた。しかし、イエスは彼らの考えを知って、こう言われた。「どんな王国であれ、内部で分裂すれば荒廃し、家も内部で分裂すれば倒れる。もしサタンが内部で分裂しているのなら、その王国はどうして立ち続けることができようか。それなのに、あなたがたは、『わたしがベエルゼブルの力で悪霊を追い出している』と言う。もしわたしがベエルゼブルの力で悪霊を追い出しているのなら、あなたがたの息子たちは、いったい誰の力で悪霊を追い出しているのか。それゆえ、彼らこそがあなたがたを裁くことになる。もしわたしが神の指で悪霊を追い出しているのなら、神の御国は確かにあなたがたに到来したことになる。強い者が武器を持って自分の家を警備しているときは、その財産は安全である。しかし、彼よりも強い者が襲いかかって彼を打ち負かすと、その者は彼が頼りにしていたすべての武器を奪い取り、彼から奪ったものを分け与える。わたしと共にいない者は、わたしに敵対する者であり、わたしと共に集めない者は、散らす者である。

ルカ 11:14-23
第23週の木曜日。

ルカによる福音書、58節

主は言われた。「わたしと共にある者でなければ、わたしに敵対する者であり、わたしと共に集める者でなければ、散らす者である。汚れた霊が人から出て行くと、水のない場所をさまよい、安らぎを求めても見つからず、『出て行った自分の家に戻ろう』と言う。戻ってみると、その家は掃除され、整えられている。そこで、自分よりさらに邪悪な七つの霊を連れて戻り、そこに入り込んで住み着く。そうして、その人にとって、後の状態は最初の状態よりもさらに悪くなるのである。

ルカ 11:23-26
第23週の金曜日。

ルカによる福音書、第59章の冒頭

その頃、大勢の群衆が集まってきたので、イエスは語り始められた。「この世代は悪賢い。しるしを求めているが、預言者ヨナのしるし以外には、しるしは与えられない。ヨナがニネベの人々にとってのしるしであったように、人の子もまた、この世代にとってのしるしとなるからである。南方の女王は、この世代の人々と共に裁きの座に立ち、彼らを裁くであろう。彼女は地の果てから、ソロモンの知恵を聞くためにやって来たからである。見よ、ここにはソロモンよりも偉大な者がいる。ニネベの人々は、この世代と共に裁きの座に立ち、彼らを裁くであろう。彼らはヨナの説教によって悔い改めたからである。見よ、ここにはヨナよりも偉大な者がいる。だれも、灯をともして、それを隠れた場所や器の下に置くことはなく、燭台の上に置く。それは、入ってくる人々がその光を見るためである。

ルカ 11:29-33
第24週の月曜日。

ルカによる福音書、第60章の冒頭

主は言われた。「体の灯は目である。だから、もしあなたの目が清ければ、あなたの体全体も明るい。しかし、もし目が悪ければ、あなたの体も暗くなる。だから、よく見なさい。あなたの中にある光は、もしかすると闇ではないか。もしあなたの体がすべて明るく、暗い部分が一つもないなら、まるで灯があなたを照らしているかのように、すべてが明るくなるであろう。主がこう語っておられるとき、あるパリサイ人が主を自分の家に招いて食事を共にしようと願った。主はそこへ行って席に着かれた。すると、パリサイ人は、主が食事の前に手を洗われないのを見て驚いた。しかし、主は彼に言われた。「今、あなたがたパリサイ人は、杯や皿の外側を清めているが、あなたがたの内側は強奪と欺きで満ちている。愚かな者たちよ。外側を造られた方が、内側も造られたのではないのか。むしろ、あなたがたが持っているものから施しをすれば、すべてが清くなるだろう。」

ルカ 11:34-41
第24週の火曜日。

ルカによる福音書、第61章

主は、御自身のもとにやって来たユダヤ人たちにこう言われた。「ファリサイ派の人々よ、あなたがたはミントやルッコラ、あらゆる野菜の十分の一を納めながら、神の裁きと愛を顧みない。これを行うべきであり、あれを怠ってはならない。ファリサイ派の人々よ、あなたがたは会堂での席次や、人々の集まりでの挨拶を好む。「ああ、律法学者たち、パリサイ人たち、偽善者たちよ。あなたがたは、人々がその上を歩いても気づかない、隠された墓のような者たちだ。」すると、律法学者の一人が主に向かって言った。「先生、そうおっしゃるなら、私たちも侮辱されていることになります。」しかし、イエスは言われた。「あなたがた律法学者たちにも、災いだ。あなたがたは人々に背負いきれない重荷を課しておきながら、自分たちはその重荷に指一本触れることさえしないからだ。」

ルカ 11:42-46
第24週の水曜日。

ルカによる福音書、第62章の冒頭

主は、御自身のもとにやって来たユダヤ人たちに言われた。「あなたがたは、あなたがたの先祖たちが殺した預言者たちの墓を築いている。それゆえ、あなたがたは先祖たちの行いを証しし、彼らに同調している。なぜなら、彼らは預言者たちを殺したが、あなたがたは彼らの墓を築いているからだ。それゆえ、神の知恵はこう言われた。「わたしは

彼らに預言者や使徒たちを遣わすが、ある者は殺され、ある者は追い出される。こうして、世界の創造以来、アベルの血から、祭壇と神殿の間に殺されたザカリヤの血に至るまで、すべての預言者の流された血の責任が、この世代に問われることになる。」 まことに、あなたがたに言うておく。この世代からその責任が問われるのだ。律法学者たちよ、あなたがたは知恵の鍵を奪い取った。自分たちは入らず、入ろうとする者をも妨げた。イエスがこう語っておられると、律法学者やパリサイ人たちは激しくイエスに詰め寄り、多くのことについて答えを迫り、イエスの言葉の隙を探して、何かを捕らえて告発しようと試みた。その間、何千人もの群衆が集まり、互いに押し合いへし合いになるほどになったので、イエスはまず弟子たちにこう語り始められた。「ファリサイ派のパン種、すなわち偽善に気をつけなさい。」

ルカ 11:47-12:1
第24週の木曜日。
12月17日、預言者ダニエル。

ルカによる福音書、第63章の冒頭

主は言われた。「隠されているもので、明らかにされないものはない。また、秘密にされているもので、知られないものはない。だから、あなたがたが暗闇の中で語ったことは、光の中で聞かれる。また、家の中で耳元で語ったことは、屋上で宣べ伝えられる。」 さて、わたしの友であるあなたがたに言うておく。体を殺しても、それ以上は何もできない者たちを恐れてはならない。しかし、誰を恐れるべきか、あなたがたに教えてあげよう。殺した後、ゲヘナに投げ込むことのできる者を恐れなさい。そう、あなたがたに言うておく。その者を恐れなさい。小さな鳥五羽が二アサリで売られているではないか。そのうちのどれ一羽も、神の御前から忘れられることはない。それなのに、あなたがたの頭の毛さえも、すべて数えられている。だから、恐れてはならない。あなたがたは、多くの小鳥よりも尊いのだ。あなたがたに言うておく。人の前でわたしを公に認める者は、人の子も神の御使いたちの前でその者を公に認める。しかし、人の前でわたしを否む者は、神の御使いたちの前でも否まれる。また、人の子に対して何か言葉を語った者は、赦される。しかし、聖霊を冒瀆する者は、決して赦されない。あなたがたが会堂や、役人や権力者の前に引き出されたとき、どう答え、何を語り、何を言うべきか、心配してはならない。その時には、聖霊が、あなたがたに語るべきことを教えてくださるからである。

ルカ 12:2-12
第24週の金曜日。
4月24日、聖ゲオルギオスの日、早課にて。

ルカによる福音書、第64章の冒頭

主は言われた。「だれでも、人の前でわたしを公に認めるなら、人の子も神の御使いたちの前でその人を公に認める。しかし、人の前でわたしを否む者は、神の御使いたちの前でも否まれる。また、人の子に対して何か言葉を語った者は、赦される。しかし、聖霊を冒瀆する者は、決して赦されない。あなたがたが会堂や、役人や権力者の前に引き出されたとき、どう答え、何を語り、何を言うべきか、心配してはならない。その時には、聖霊が、あなたがたに語るべきことを教えてくださるからである。

ルカ 12:8-12
11月6日、聖パウロ・殉教者。

ルカによる福音書、第65章

その頃、イエスが教えを説いておられると、群衆の中からある人がイエスに言った。「先生、私の兄弟に、遺産を私と分け合うように言うてください。」 イエスはその人に言われた。「わたしを、あなたがたを裁いたり分けたりする者としたのは、だれか。」 そ

して、彼らにこう言われた。「見よ、貪欲に気をつけなさい。人の命は、その持ち物の多さにかかっているのではない。だから、あなたがたに言う。自分の魂のために、何を食べるか、また体のために、何を着るかを心配してはならない。魂は食べ物よりも大切であり、体は衣服よりも大切だからである。カラスを見てごらん。彼らは種を蒔かず、刈り取らず、倉も穀物庫もない。それでも神は彼らを養ってくださる。あなたがたは、鳥よりもはるかに優れているではないか。また、あなたがたのうち、どれほど心配したところで、自分の身長をたった一肘でも伸ばすことなどできる者がいるだろうか。それならば、最も小さなことさえできないのに、なぜ他のことを心配するのだろうか。ユリの花がどのように育つかを見てごらん。働かず、紡ぎもしない。しかし、あなたがたに言う。ソロモンでさえ、その全盛期の栄華のさなかで、これらの一つほどにも着飾ってはいない。もし、今日あるが明日炉に投げ込まれる野の草でさえ、神がこのような着飾ってくださるのなら、あなたがた、信仰の薄い者たちよ、あなたがたはなおさらではないか。だから、何を食べ、何を飲むかを求めたり、心配したりしてはならない。この世の人々は、こうしたことばかりを求めているからだ。あなたがたに必要なものは、あなたがたの父が知っておられる。むしろ、神の国を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて与えられる。

ルカ 12:13-15; 22b-31
第25週の月曜日。

ルカによる福音書、66節

主はこのたとえを語られた。「ある金持ちが、畑で豊作を得た。彼は心の中でこう考えた。『どうすればよいだろうか。収穫物を集める場所がない。こうしよう。倉を壊して、もっと大きな倉を建て、そこにすべての穀物と財産を集め、自分の魂にこう言おう。『魂よ、お前のところには、何年分もの財産が蓄えられている。安心して、食べて、飲んで、楽しめ』』と言うのだ。」しかし、神は彼に言われた。「愚かな者よ。今夜、お前の魂はお前から取り去られる。それでは、お前が蓄えたものは、いったい誰のものになるのか。自分のために宝を蓄え、神に富むことのない者は、みなこうなるのである。

ルカ 12:16-21
第26週。

ルカによる福音書、第67章

主は言われた。「恐れるな、小さな群れよ。あなたがたの父は、あなたがたに御国を与えることを喜ばれたからである。あなたがたの財産を売り払い、施しをきなさい。朽ちることのない宝倉、天に蓄えられる尽きることのない宝を備えなさい。そこには盗人が近づかず、虫も食わない。あなたがたの宝のあるところ、そこにあなたがたの心もあるからである。腰に帯を締め、灯火をともしておきなさい。また、婚礼から帰って来る主人の帰りを待ち望む人々のようでありなさい。そうすれば、主人が来て戸を叩いたとき、すぐに開けてあげることができる。主人が帰って来て、目を覚ましているのを見つけたしもべたちは幸いである。まことに、あなたがたに言う。主人は腰に帯を締め、彼らを食卓に着かせ、自ら近づいて彼らに仕えるであろう。もし、第二の番の時間に、あるいは第三の番の時間に帰って来て、彼らをそのように見つけたなら、そのしもべたちは幸いである。あなたがたも知っているように、もし家の主人が、泥棒がいつ来るかを知っていたなら、目を覚ましていて、自分の家に穴を掘られるのを防いだであろう。だから、あなたがたも備えをしておきなさい。あなたがたが思ってもいない時に、人の子が来るからである。

ルカ 12:32-40
第28週の土曜日。

ルカによる福音書、第68章

主は言われた。「主人が、自分のしもべたちの上に、時が来たら彼らに定量のパンを配るようにと任命した、忠実で分別のある家政係とは、いったい誰のことか。主人が帰って来て、そのようにしているのを見つけたしもべは、幸いである。まことに、あなたがたに告げる。主人は、そのしもべを自分のすべての財産の管理者に任命するであろう。しかし、もしそのしもべが心の中で、『主人はすぐには来ない』と言って、しもべや女中たちを殴り始め、食べたり飲んだりして酔っ払ったりするなら、そのしもべの主人は、彼が予期しない日、思いもよらない時に来て、彼を打ちのめし、不忠実な者たちと同じ運命に処するであろう。また、主人の意志を知りながら、備えをせず、その意志に従わなかったしもべは、激しく打たれる。しかし、知らずに罰に値する行いをした者は、軽く打たれる。誰にでも、多く与えられた者からは多くが求められ、多くを任された者からは、さらに多くが求められるのである。

ルカ 12:42-48
第25週の火曜日。

ルカによる福音書、第69章の冒頭

主は言われた。「多くを与えられた者には多くが求められ、多くを任された者には、それ以上に求められる。わたしは火を地上に降らせに来了。それがすでに燃え上がっていることを、どれほど願っていることか。わたしはバプテスマを受けなければならない。それが成し遂げられるまで、どれほど心焦っていることか。あなたがたは、わたしが地上に平和をもたらすために来たと思っているのか。いいえ、あなたがたに言うておく。分断をもたらすためである。これから、一つの家の中で五人が分かれ、三人が二人に、二人が三人に対立するようになる。父は息子に、息子は父に、母は娘に、娘は母に、姑は嫁に、嫁は姑に対立するようになる。また、民にこう言われた。「あなたがたは、西から雲が立ち上るのを見ると、すぐに『雨が降る』と言い、その通りになる。南風が吹くと、『暑くなる』と言い、その通りになる。偽善者たちよ。あなたがたは、地や空の様子を見分けることはできるのに、どうしてこの時のことを見分けることができないのか。なぜ、自分たち自身で、何が起こるべきかを判断しないのか。あなたが敵と一緒に行政官のもとへ向かうときは、道中でその敵と和解するように努めなさい。そうすれば、敵があなたを裁判官に引き渡すこともなく、裁判官があなたを拷問人に引き渡すこともなく、拷問人があなたを牢屋に投げ込むこともない。あなたに言うておく。最後の小銭一つまで払い終えるまでは、そこから出られない。

ルカ 12:48b-59
第25週の水曜日。

ルカによる福音書、第70章の冒頭

その頃、何人かがやって来て、ピラトがガリラヤ人の血を彼らのいけにえの血と混ぜ合わせたことをイエスに告げた。イエスはこれに対し、彼らに言われた。「あなたがたは、このガリラヤ人たちが、他のすべてのガリラヤ人よりも罪深かったから、このような目に遭ったのだと思うのか。いいえ、あなたがたに言うておく。しかし、悔い改めなければ、あなたがたも皆、同じように滅びてしまう。あるいは、シロアムの塔が倒れて押しつぶされたあの十八人は、エルサレムに住むすべての人々よりも罪深かったと思うのか。いいえ、あなたがたに言うておく。しかし、悔い改めなければ、あなたがたも皆、同じように滅びてしまう。そして、このたとえを語った。「ある人が自分のぶどう園にいちじくの木を植えていた。実を探しに来たが、見つからなかった。そこで、ぶどう園の管理人に言った。『見よ、私は三年来、このいちじくの木に実を探しに来ているが、見つからない。それを切り倒せ。なぜ、土地を無駄にしているのか。』しかし、ぶどう園の管理人は

答えて言った。「ご主人様、今年こそはそのままにしておいてください。私とその周りを掘り返し、肥やしを施してみます。もしかしたら実を結ぶかもしれません。もし実を結ばなければ、来年には切り倒してください。」

ルカ 13:1-9
第25週の木曜日。

ルカによる福音書、71章の冒頭

その頃、イエスは安息日に、ある会堂で教えておられた。そこには、十八年間も悪霊に憑かれていた女がいた。彼女は体が曲がり、まっすぐに立つことができなかった。イエスは彼女を見て、呼び寄せ、こう言われた。「女よ、あなたは病から解放された。」そして、イエスは彼女に手を置かれた。すると、彼女はたちまち背筋を伸ばし、神を賛美し始めた。これを見て、会堂の長は、イエスが安息日に癒やしたことに憤り、人々に言った。「働くべき日は六日ある。その日に癒やしを求めて来なさい。安息日には来るな。」主は彼にこう答えて言われた。「偽善者よ。あなたがたは、安息日に、それぞれ自分の牛やロバを飼葉桶から解き放ち、水を飲ませに行かないのか。サタンに十八年も縛られていたこのアブラハムの子を、安息日にその束縛から解き放つべきではなかったのか。」主がこうおっしゃると、主に反対していた者たちは皆、恥じ入り、民はみな、主の行われたすべての栄光ある御業を喜び祝った。

ルカ 13:10-17
第27週。

ルカによる福音書、第72章

主は、このたとえを語られた。「神の国は、何に似ているか。何に例えようか。それは、人が取って自分の畑に蒔いたからしの種のようなものである。それが育って大きな木となり、空の鳥たちがその枝に巣を作った。また、こう言われた。「神の国は、何に例えようか。それは、ある女が取り、三メーラの小麦粉の中に混ぜて、すべてが発酵するまで置いたパン種のようなものである。」そして、イエスは町や村を巡り歩き、教えながら、エルサレムへと向かわれた。ある人がイエスに言った。「主よ、救われる者は果たして少ないのでしょうか。」すると、イエスは彼らに言われた。「狭い門から入るように努めなさい。あなたがたに言うが、多くの人がそこから入ろうとしても、入れないからだ。家の主人が起きて戸を閉めてしまえば、あなたがたは外で戸を叩いて、『主よ、主よ、私たちに開けてください』と言うだろう。しかし、主は答えて言われる。『あなたがたがどこから来たのか、私は知らない。』すると、あなたがたは言うだろう。『私たちはあなたの前で食べ、飲み、また、私たちの通りであなたは教えておられました。』しかし、主は言われる。『あなたがたに言うが、あなたがたがどこから来たのか、私は知らない。不義を行う者たちよ、みな、私から離れ去れ。』そこで、あなたがたは、アブラハム、イサク、ヤコブ、そしてすべての預言者たちが神の御国にいるのを見て、自分たちがそこから追い出されるのを見て、泣き叫び、歯ぎしりするだろう。そして、東から、西から、北から、南から人々がやって来て、神の御国で食卓を囲むことになる。

ルカ 13:18-29
第29週の安息日。
キリスト降誕前の土曜日。

ルカによる福音書、第73章の冒頭

その頃、ファリサイ派の人々の何人かがやって来て、イエスに言った。「ここから出て行って、この地を離れなさい。ヘロデがあなたを殺そうとしているからです。」イエスは彼らに言われた。「行って、あの狐にこう言いなさい。『見よ、私は今日、明日、悪霊を追い出し、病人を癒やしているが、三日目にその務めを終える。しかし、わたしは今

日、明日、そしてその翌日も歩み続けなければならない。預言者がエルサレムの外で死ぬことなどあり得ないからだ。エルサレムよ、エルサレムよ。預言者たちを殺し、あなたのもとに遣わされた者たちを石で打ち殺す者よ。何度、わたしはあなたの子供たちを、鳥が雛を翼の下に集めるように集めたかったのか。しかし、あなたがたはそれを望まなかったのだ！ 見よ、あなたがたの家は荒れ果てたまま残される。あなたがたに言うしておく。あなたがたが『主の御名によって来られる方、祝福あれ』と言う時が来るまで、あなたがたはわたしを見ることはない。

ルカ 13:31-35
第25週の金曜日。

ルカによる福音書、第74章

その頃、イエスは安息日に、あるパリサイ人の指導者の家へパンを食べに訪れられたが、彼らはイエスを注視していた。すると、水病を患っている人がイエスの前に現れた。この機会を利用して、イエスは律法学者やパリサイ人たちに尋ねられた。「安息日に治療を行うことは許されるか。」しかし、彼らは黙っていた。そこで、イエスはその人に触れて癒やし、送り出された。その際、イエスは彼らに言われた。「もし、あなたがたのうちの誰かが、ロバや牛を井戸に落としてしまったら、安息日であっても、すぐに引き上げないだろうか。」彼らはこれに対して答えることができなかった。また、招かれた人々が上座を選んでいるのを見て、イエスは彼らにたとえを語られた。「誰かに婚礼に招かれたとき、上座に座ってはならない。あなたより身分の高い人が招かれているかもしれないからだ。そうすれば、あなたと彼を招いた人が近づいてきて、『彼に席を譲りなさい』と言うだろう。そうなれば、あなたは恥をかい、最後席に座らなければならないことになる。」しかし、招かれたときは、入ってきて一番後ろの席に座りなさい。そうすれば、あなたを招いた人が近づいてきて、『友よ、もっと上の席に移りなさい』と言うだろう。そうすれば、あなたと一緒に座っている人々の中で、あなたは栄誉を受けることになる。なぜなら、自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるからである。

ルカ 14:1-11
第30週の土曜日。

ルカによる福音書、第75章の冒頭

その頃、イエスは安息日に、あるパリサイ人の指導者の家へパンを食べに訪れ、自分を招いた人にこう言われた。「昼食や夕食を催すときは、友人や兄弟、親族、あるいは裕福な隣人を招いてはならない。そうすれば、彼らがあなたを招いたときに、あなたへの報いがなくなるからだ。しかし、宴会を開くときは、貧しい人、体の不自由な人、足の不自由な人、目の見えない人を招きなさい。そうすれば、彼らはあなたに報いることができるが、あなたは幸いである。義人の復活の日に、あなたに報いが与えられるからである。」これを聞いて、イエスと共に食卓についていたある人が言った。「神の御国でパンを口にすることは、なんと幸いなことか！」

ルカ 14:12-15
第26週の月曜日。

ルカによる福音書、76節

主はこのたとえを語られた。「ある人が盛大な夕食会を開き、多くの人を招いた。夕食の時間が近づくと、その人はしもべを遣わして、招かれた人々にこう告げさせた。『さあ、おいでください。もうすべて用意ができています。』すると、皆がまるで打ち合わせでもしたかのように、次々と断り始めた。最初の者は言った。『土地を買ったので、それを見に行かなければなりません。どうかお許しください。』別の者は言った。『私は牛

を五組買ったので、それを試してみに行かなければなりません。どうかお許してください。」三番目の者は言った。「私は結婚したので、行けません。」そして、そのしもべが戻って来て、このことを主人に報告した。すると、家の主人は怒って言った。「急いで町の通りや路地を回り、貧しい者、体の不自由な者、足の不自由な者、目の見えない者をここに連れて来なさい。」しもべは言った。「ご主人様、お命じになったとおりにしました。まだ席に余裕があります。」主人はしもべに言った。「道や垣根のそばへ行き、人々を説得してここに来させ、私の家を満員にせよ。あなたがたに言うておくが、招かれた者たちのうち、だれも私の晩餐を味わうことはない。招かれた者は多いが、選ばれた者は少ないからだ。」

ルカ 14:16-24

第28週。

聖なる先祖たちの週。

ルカによる福音書、第77章

その頃、大勢の群衆がイエスに従っていた。イエスは振り返って彼らに言われた。「だれでも、わたしのもとに来るなら、父や母、妻や子供、兄弟や姉妹、さらには自分の命までも憎まなければならない。そうでなければ、わたしの弟子になることはできない。また、自分の十字架を負ってわたしに従わない者は、わたしの弟子になることはできない。あなたがたのうち、塔を建てようとする者が、まず座って費用を計算し、それを完成させるのに必要なものがあるかどうかを確かめないうちに、基礎を据えた後で完成させることができなくなったら、見ている者すべてが彼を嘲り、『この人は建て始めたが、完成させることができなかつた』と言うことになるだろう。また、ある王が別の王と戦おうとする時、まず座って、自分の手持ちの兵一万で、二万の兵を率いて攻めてくる敵に立ち向かえるかどうかを相談しない者がいるだろうか。そうでなければ、敵はまだ遠くにうちに、使者を送って和平を請うだろう。それゆえ、あなたがたのうち、自分の持っているすべてのものを捨てない者は、わたしの弟子になることはできない。塩は良いものである。しかし、もし塩が塩気を失ったら、何でそれを直せるだろうか。土にも、肥料にも役立たない。だから、それを捨ててしまうのだ。耳のある者は、聞きなさい。」

ルカ 14:25-35

第26週の火曜日。

ルカによる福音書、第78章

そのころ、すべての徴税人や罪人たちが、イエスの御言葉を聞くために、イエスのところに集まってきた。しかし、パリサイ人や律法学者たちは、不平を言いながら、「この人は罪人たちを受け入れ、彼らと一緒に食事をしている」と言った。そこで、イエスは彼らに次のたとえを語られた。「あなたがたのうち、百匹の羊を飼っている人がいて、そのうちのひと匹をなくしたなら、九十九匹を荒野に残して、失われた一匹を見つけ出すまで探しに行かない者がいるだろうか。そして、見つけると、喜んでその羊を肩に担ぎ、家に帰って友人や隣人を招き集め、こう言うだろう。『私と一緒に喜んでください。私の迷い羊を見つけたのです。』」言うておくが、天では、悔い改める一人の罪人のために、悔い改める必要のない九十九人の義人よりも、さらに大きな喜びがあるのだ。また、十ドラクマを持っている女が、そのうちのひとドラクマを失ったなら、ろうそくを灯し、部屋を掃除して、それを見つかるまで丹念に探し回らないだろうか。そして見つけると、女友達や近所の女たちを呼び集めて、『私と一緒に喜んでください。失ったひとドラクマを見つけたのです』と言うだろう。そう、あなたがたに言うておく。神の御使いたちも、ただ一人の罪人が悔い改めるだけで、このように喜び合うのである。

ルカ 15:1-10

第26週の水曜日。

ルカによる福音書、第79章の冒頭

主はこのたとえを語られた。「ある人に二人の息子がいた。そのうち、末の息子が父に言った。『父よ、私に相続分をお与えください。』そこで、父は財産を二人に分け与えた。数日後、末の息子はすべての財産をまとめて、遠い国へ旅立ち、そこで放蕩な生活を送って財産を浪費してしまった。やがて、彼がすべてを使い果たした頃、その国に大飢饉が訪れ、彼は困窮するようになった。そこで、その国の住人の一人に頼み込んだところ、その人は彼を自分の畑に送り出し、豚の世話をさせた。彼は、豚が食べるトウモロコシの穂軸で腹を満たせればと願ったが、誰も彼に与えてはくれなかった。そこで、彼は我に返って言った。「父のもとには、雇い人たちがパンに事欠かないのに、私はここで飢え死にしそうだ。立ち上がって、父のもとへ行き、こう言おう。『父よ、私は天に対しても、またあなたに対しても罪を犯しました。もはやあなたの息子と呼ばれる資格はありません。どうか、あなたの雇い人の一人として私を受け入れてください』」。彼は立ち上がって、父のもとへ向かった。まだ遠く離れていたとき、父は彼を見て憐れみに動かされ、駆け寄って彼の首に抱きつき、口づけをした。息子は父に言った。「父よ、私は天に対しても、またあなたに対しても罪を犯しました。もはやあなたの息子と呼ばれる資格はありません。」すると、父はしもべたちに言った。「最上の服を持ってきて、彼に着せなさい。指には指輪を、足には靴を履かせなさい。そして、肥えた子牛を連れてきて、屠りなさい。食べて楽しみましょう。この私の息子は、死んでいたのに生き返り、失われていたのに見つかったのだから。」そして、彼らは楽しみ始めた。一方、長男は畑にいた。帰って来て家に近づくと、歌声と歓声が聞こえた。そこで、使用人の一人を呼び止めて、「これはどういうことだ」と尋ねた。使用人は、「あなたの弟が帰ってきました。父は、彼が無事に戻ってきたことを喜んで、肥えた子牛を屠りました」と答えた。長男は腹を立て、家に入ることを拒んだ。すると、父は外に出て、彼を呼び寄せた。しかし、彼は父にこう答えた。「私はこれほど長い間、あなたに仕え、あなたの命令に背いたことは一度もありません。それなのに、あなたは私に、友人と楽しむための子山羊さえ一度も与えてくれませんでした。ところが、このあなたの息子は、娼婦たちと財産を浪費して帰ってきたというのに、あなたは彼のために肥えた子牛を屠ったのです。」すると父は彼に言った。「わが子よ。あなたはいつも私と一緒にいるし、私のものはすべてあなたのものだ。しかし、このあなたの兄弟は、死んでいたのに生き返り、失われていたのに見つかったのだから、喜んで祝うべきだったのだ。」

ルカ 15:11-32

第34週、放蕩息子の話。

ルカによる福音書、第80節

主はこのたとえを語られた。「ある金持ちがいて、管理人を一人置いていた。その管理人が主人の財産を浪費していると告げられたので、主人は彼を呼びつけて言った。『お前について、そのような話を聞いているが、どうなっているのか。管理の報告をせよ。もうお前には管理を任せられない。』そこで、管理人は心の中でこう考えた。「どうすればよいのか。主人は、この家の管理を私から取り上げようとしている。土を掘ることもできないし、物乞いをするのも恥ずかしい。家の管理から解任されたとき、人々が私を家に迎え入れてくれるようにするには、どうすればよいのか。」そして、主人の借主たちを一人ずつ呼び寄せ、最初の人に言った。「あなたは私の主人にいくら借りているのか。」彼は言った。「オリーブ油百メーラです。」そこで管理人は彼に言った。「その借用証書を取り、さっさと座って、『五十』と書きなさい。」次に、もう一人に言った。「あなたはいくら借りているのか。」彼は答えた。「小麦百メーアです。」管理人は彼に言った。「その借用証書を取り、『八十』と書きなさい。」主人は、その不忠実な管理人を、機転

を利かせたとして称賛した。この世の子らは、その点において、光の子らよりも機転が利くからである。だから、わたしはあなたがたに言う。不義の富を使って友を作れ。そうすれば、あなたがたが貧しくなったとき、彼らがあなたがたを永遠の住まいへと迎え入れてくれるだろう。

ルカ 16:1-9
第26週の木曜日。

ルカによる福音書、81節

主は言われた。「小さなことに忠実な者は、大きなことにも忠実であり、小さなことに不忠実な者は、大きなことにも不忠実である。それゆえ、もしあなたがたが不正な富において忠実でなかったなら、誰があなたがたに真実を信じるだろうか。また、もし他人のものにおいて忠実でなかったなら、誰があなたがたに自分のものを与えるだろうか。どんなしもべも、ふたりの主人に仕えることはできない。一方を憎んで他方を愛するか、一方に熱心で他方を疎かにするかのどちらかになるからだ。神とマモンとに仕えることはできません。これらすべてを、金に貪欲なパリサイ人たちも聞いていましたが、彼らはイエスを嘲笑しました。イエスは彼らに言われました。「あなたがたは人々の前で自分を義人であるかのように見せかけていますが、神はあなたがたの心を知っておられます。なぜなら、人々が尊ぶものは、神の前では忌まわしいものだからです。」

ルカ 16:10-15
第31週の土曜日。

ルカによる福音書、第82章の冒頭

主は、御自身のもとにやって来たユダヤ人たちに言われた。「あなたがたは人々の前で自分を義人であるかのように見せかけているが、神はあなたがたの心を知っておられる。なぜなら、人々の間で尊ばれているものは、神の御前では忌まわしいものだからである。律法と預言者はヨハネまでであった。それ以来、神の国は福音が宣べ伝えられ、人は皆、努力してそこに入るのである。しかし、律法の一点一画でさえ消え去るよりは、天と地が滅びる方がまだ早い。妻と離婚して別の女性と結婚する者は皆、姦淫を犯すものであり、夫と離婚した女性と結婚する者もまた、姦淫を犯すのである。また、イエスは弟子たちに言われた。「つまずきは避けられないが、それをもたらす者には災いがある。その者には、水車の石を首に掛けて海に投げ込まれるほうが、むしろましである。この小さな者たちのうちの一人をつまずかせるよりは、自分自身の行いに気をつけなさい。もしあなたの兄弟があなたに対して罪を犯したなら、彼を戒めなさい。もし悔い改めたなら、彼を赦しなさい。たとえ一日に七回あなたに対して罪を犯し、一日に七回立ち返って『悔い改めます』と言ったとしても、彼を赦しなさい。」

ルカ 16:15-18; 17:1-4
第26週の金曜日。

ルカによる福音書、第83章

主はこのたとえを語られた。「ある金持ちがいた。彼は紫の衣と細布の衣を着て、毎日盛大な宴を催していた。また、ラザロという名の貧しい人がいて、その門口に床ずれを負って横たわり、金持ちの食卓から落ちるパンくずを食べたいと願っていた。犬たちがやって来て、彼の床ずれを舐めていた。その貧しい人は死んで、天使たちに連れられ、アブラハムの懷へと運ばれた。金持ちもまた死んで、葬られた。そして、地獄で苦しみながら、彼は目を上げ、遠くにアブラハムと、その懷にいるラザロを見て、叫んで言った。「アブラハムよ、父よ！　どうか私を憐れんでください。ラザロを遣わし、その指の先を水に浸して、私の舌を冷やしてください。私はこの炎の中で苦しんでいるのです。」しかし

、アブラハムは言った。「子よ、思い出しなさい。あなたは生前にすでに良いものを得ていましたが、ラザロは悪いものを受けました。今や彼はここで慰めを受けているが、あなたは苦しんでいる。それだけでなく、私たちとあなたたちの間には大きな溝が引かれており、ここからあなたたちのところへ渡ろうとする者はできず、また、あちらからこちらへ渡ってくる者もないのだ。」すると彼は言った。「それなら、父よ、どうか彼を私の父の家に遣わしてください。私には五人の兄弟がいるのです。彼に証しをさせて、彼らもこの苦しみを受ける場所に来ないようにしてください。」アブラハムは彼に言った。「彼らにはモーセと預言者たちがいる。彼らに聞き従えばよい。」しかし、彼は言った。「いいえ、アブラハムよ。もし死者の中から誰かが彼らのところへ来れば、彼らは悔い改めるでしょう。」そこでアブラハムは彼に言った。「もしモーセや預言者たちの言葉に聞き従わないのなら、たとえ死者の中から誰かがよみがえったとしても、彼らは信じないだろう。」

ルカ 16:19-31
第22週。

ルカによる福音書、84節

主は言われた。「自分自身の行いに気をつけなさい。もしあなたの兄弟があなたに対して罪を犯したら、彼を戒めなさい。もし悔い改めれば、彼を赦しなさい。たとえ一日に七度あなたに対して罪を犯し、一日に七度立ち返って『悔い改めます』と言っても、彼を赦しなさい。」使徒たちは主に向かって言った。「私たちの信仰を増してください。」主は言われた。「もしあなたがたに、からし種ほどの信仰があり、このイチジクの木に向かって『根こそぎになって、海に植え替えられよ』と言ったら、それはあなたがたの言うことを聞くであろう。あなたがたのうち、畑で耕したり、羊の世話をしたりしているしもべを一人でも持っている者が、そのしもべが畑から戻ってきたとき、『さあ、急いで食卓に着きなさい』と言うだろうか。むしろ、『私の夕食を用意しなさい。そして、腰に帯を締め、私が食べたり飲んだりする間、私に仕えなさい。その後で、あなた自身も食べて飲みなさい』と言うのではないだろうか。その主人は、そのしもべが命令を果たしたからといって、彼に感謝するだろうか。そうは思わない。あなたがたも、命じられたことをすべて果たしたとき、『私たちは役に立たないしもべです。すべきことをしただけですから』と言うべきである。

ルカ 17:3-10
第32週の土曜日。

ルカによる福音書、第85章の冒頭

イエスがある村に入ろうとしたとき、十人のハンセン病患者がイエスに出迎え、少し離れたところに立ち止まって、大声で言った。「イエス様、先生！ 私たちを憐れんでください。」イエスは彼らを見て、こう言われた。「行って、祭司たちに体を示しなさい。」彼らが歩いているうちに、彼らは清められた。そのうちのひとり、癒やされたのを見て、戻ってきて、大声で神を賛美し、イエスの足元にひれ伏して感謝した。その人はサマリア人であった。そこでイエスは言われた。「十人が清められたのではないか。九人はどこにいるのか。この異邦人以外、神に栄光を帰すために戻ってきた者はいないのか。」そしてイエスは彼に言われた。「立ち上がって行きなさい。あなたの信仰があなたを救ったのです。」

ルカ 17:12-19
第29週。

ルカによる福音書、第86章

その頃、イエスはパリサイ人たちから「神の国はいつ来るのか」と尋ねられ、こう答えられた。「神の国は目に見える形で来るものではなく、『見よ、ここにある』とか『見よ、あそこにある』と言われることもない。なぜなら、神の国はあなたがたの内にあるからだ。」 また、弟子たちに言われた。「人の子の日々を、たとえ一日でも見たいと願う日が来るが、見ることができない。そして、『見よ、ここにある』とか、『見よ、あそこにある』と言われるだろう。行ったり、追いかけてたりしてはならない。なぜなら、空の一方の端から稲妻が光り、もう一方の端まで輝くように、人の子もその日にはそうなるからである。しかし、その前に、彼は多くの苦しみを受け、この民に拒まれなければならない。

ルカ 17:20-25
第27週の月曜日。

ルカによる福音書、第87章の冒頭

主は言われた。「ノアの日のように、人の子の日にもそうなる。ノアが箱舟に入ったその日まで、人々は食べ、飲み、結婚し、嫁いでいた。そして、大洪水がやって来て、すべての人を滅ぼした。 また、ロトの時代もそうであった。人々は食べ、飲み、買い、売り、植え、建てていた。しかし、ロトがソドムから出たその日、天から火と硫黄の雨が降り注ぎ、すべての人を滅ぼした。人の子が現れるその日も、同じようになる。 その日、屋根の上にいる、家の中に持ち物がある者は、それを取りに戻ってはならない。また、野原にいる者も、決して後ろを振り返ってはならない。ロトの妻のことを思い起こせ。自分の命を救おうとする者は、それを失い、それを失う者は、それを救うことになる。 あなたがたに言う。その夜、同じベッドに二人が寝ているなら、一人は連れ去られ、もう一人は残される。二人が一緒に粉を挽いているなら、一人は連れ去られ、もう一人は残される。二人が畑にいるなら、一人は連れ去られ、もう一人は残される。すると、人々はイエスに、「主よ、それはどこで起こるのですか」と尋ねた。イエスは彼らに言われた。「死体があるところには、鷲が集まる。」

ルカ 17:26-37
第27週の火曜日。

ルカによる福音書、第88章の冒頭

主はこのたとえを語られた。「ある町に、神を恐れず、人を恥じもしない裁判官がいた。その町には一人の未亡人がいて、彼女は彼のところへ来て、『私の敵から私を守ってください』と訴えた。しかし、彼は長い間、それを聞き入れようとしなかった。 そこで、彼は心の中でこう言った。「私は神を恐れず、人を恥じもしないが、この未亡人が私を休ませてくれないのだから、もう二度と私のところに来て煩わせないように、彼女を助けてやろう。」主は言われた。「この不義な裁判官の言うことを聞いているか。 神は、昼も夜も神に叫び求めるご自分の選ばれた者たちを、たとえ救うのが遅れても、救ってくださらないだろうか。あなたがたに言う。神はすぐに彼らを救ってくださる。」

ルカ 18:2-8
第33週の土曜日。

ルカによる福音書、第89章

主はこのたとえを語られた。「二人の人が、祈るために神殿に入った。一人はパリサイ人、もう一人は徴税人であった。 ファリサイ派の人は立って、心の中でこう祈った。「神よ、私は他の人々、すなわち強盗や不正を行う者、姦淫をする者、あるいはこの徴税人のようではないことを、あなたに感謝します。私は週に二度断食し、得たものの十分の

一を献げています。」 一方、徴税人は遠くに立って、天を見上げることもできず、胸を打ちながらこう言った。「神よ、この罪人である私に憐れみをお与えください。」あなたがたに言う。この人の方が、あの人よりも義と認められて家に帰った。なぜなら、自分を高くする者は低くされ、自分を低くする者は高くされるからである。

ルカ 18:10-14
第33週、徴税人とパリサイ人の話。

ルカによる福音書、第90章

そのころ、人々が幼子たちをイエスのもとに連れて来て、触れてもらおうとした。しかし、弟子たちはそれを見て、彼らを制止した。そこでイエスは、彼らを呼び寄せて言われた。「子供たちをわたしのところに來させなさい。妨げてはならない。神の国は、このような者たちのものである。」 まことに、あなたがたに告げます。子どものように神の御国を受け入れない者は、そこに入ることはできません。」これを聞いた人々は、「それでは、誰が救われることができるのでしょうか」と言いました。しかし、イエスは言われました。「人にとっては不可能なことも、神にとっては可能です。」 ペテロは言った。「見よ、私たちはすべてを捨てて、あなたに従いました。」イエスは彼らに言われた。「まことに、あなたがたに言います。神の御国のために、家や両親、兄弟、姉妹、妻、あるいは子供たちを捨てた者は、今この世で何倍もの報いを受け、来世では永遠のいのちを得るのです。」

ルカ 18:15-17; 26-30
第27週の水曜日。

ルカによる福音書、第91章の冒頭

そのとき、ある人がイエスのところに来て、試みて言った。「善き先生。永遠のいのちを得るためには、何をすべきでしょうか。」 イエスは彼に言われた。「なぜ、わたしを『善い』と呼ぶのか。神お一人だけが善い方である。あなたは戒めを知っている。『姦淫してはならない。殺してはならない。盗んではならない。偽証してはならない。父と母を敬え』と。」すると彼は言った。「これらのことは、若い頃からすべて守ってきました。」 これを聞いて、イエスは彼に言われた。「あなたにはまだ一つ足りない。持っているものをすべて売り払い、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天に宝を持つことになる。そして、私に従ってきなさい。」しかし、彼はこれを聞いて悲しんだ。彼は非常に裕福だったからである。 イエスは、彼が悲しんでいるのを見て、こう言われた。「富を持つ者が神の国に入るのは、なんと難しいことか。富んだ者が神の国に入るのは、らくだが針の穴を通るよりも難しい。」これを聞いた人々は、「それでは、誰が救われることができるのか」と言った。しかし、イエスは言われた。「人にとっては不可能なことも、神にとっては可能である。」

ルカ 18:18-27
第30週。

ルカによる福音書、第92章の冒頭

そのとき、イエスは十二人の弟子を呼び寄せ、こう言われた。「見よ、私たちはエルサレムへ上る。そして、預言者たちによって人の子について書かれたことはすべて成就する。彼は異邦人に引き渡され、侮られ、辱められ、ののしられ、打たれ、殺される。しかし、三日目に復活する。」 しかし、彼らはそのことを何も理解しなかった。これらの言葉は彼らには隠されたものであり、言われたことを悟ることができなかった。

ルカ 18:31-34
第27週の木曜日。

ルカによる福音書、第93章の冒頭

その頃、イエスがエリコに近づかれたとき、ある盲人が道端に座って物乞いをしていました。人々が自分のそばを通り過ぎるのを聞いて、「これは何事か」と尋ねた。人々は、「ナザレのイエスが通っている」と答えた。すると彼は叫んだ。「ダビデの子イエスよ、私を憐れんでください。」先を行く者たちは彼を黙らせようとしたが、彼はなおさら大声で叫んだ。「ダビデの子よ、私を憐れんでください。」イエスは立ち止まり、彼を自分のところへ連れてくるように命じられた。そして、彼がイエスのところに来ると、イエスは彼に尋ねられた。「わたしに何を望むのか。」彼は言った。「主よ、目が見えるようになりたいのです。」イエスは彼に言われた。「目が見えるようになりなさい。あなたの信仰があなたを救った。」すると、彼はたちまち目が見えるようになり、神を賛美しながらイエスに従った。それを見た民衆は皆、神を賛美した。

ルカ 18:35-43
第31週。

ルカによる福音書、第94章

そのころ、イエスはエリコにお入りになった。すると、ザケオという名の、徴税人の長で裕福な人が、イエスがどのような方か見ようとしたが、背が低かったため、人々の背越しには見る事ができなかった。そこで、先回りしてイチジクの木に登り、イエスを見ようとした。イエスはその木の前を通られるはずだったからである。イエスはその場所にたどり着くと、見上げ、彼を見つけ、こう言われた。「ザケイよ、急いで降りてきなさい。今日、私はあなたの家に泊まらなければならない。」そこで彼は急いで降りてきて、喜びをもってイエスを迎え入れた。それを見た人々は皆、不平を言い始め、「あの人は罪人の家に入った」と言った。ザケイは立ち上がって、主にこう言った。「主よ、私の財産の半分を貧しい人々に分け与え、誰かに損害を与えたなら、その四倍を返します。」イエスは彼に言われた。「今、この家に救いが訪れた。彼もアブラハムの子だからである。人の子は、滅びている者を捜し出し、救うために来たのだ。」

ルカ 19:1-10
第32週。

ルカによる福音書、95節

主はこのたとえを語られた。「ある高貴な人が、王位を受け継いで帰ってくるために、遠い国へ旅立った。彼は十人のしもべを呼び寄せ、十ミナを与え、『私が戻ってくるまで、これを運用しなさい』と言った。しかし、その国の民は彼を憎み、使節団を彼の後を追わせて、「彼が私たちを治めるのは望まない」と言った。そして、王位を受け継いで帰ってきたとき、銀を渡した僕たちを呼び寄せ、誰がどれだけの利益を上げたかを知ろうとした。最初に一人の僕が来て言った。「ご主人様、あなたのミナは十ミナの実りをもたしました。」主人は彼に言った。「よくやった、良い僕だ。わずかなことに忠実であったから、十の町を治めなさい。」二番目の者が来て言った。「ご主人様、あなたのミナは五ミナの実りを生みました。」主人はこの者にも言った。「あなたも五つの町を治めなさい。」三番目の者が来て言った。「ご主人様、ここにあなたのミナがあります。私はそれを布に包んで保管しておきました。あなたが厳しい人だからです。置いてもないものを取り、蒔いてもいないものを刈り取る人だからです。」主人は彼に言った。「お前の口で、お前を裁いてやる、不忠実な僕よ！ 私が厳しい人であり、置かなかったものを取り、蒔かなかったものを刈り取ることを知っていたのに、なぜ私の銀を運用して、私が戻ってきた時に利益を得られるようにしなかったのか？」そして、そこにいた人々に言った。「彼からそのミナを取り上げ、十ミナを持っている者に与えなさい。」すると、人々は彼に言った。「ご主人様、彼にはすでに十ミナあります。」「あなたがたに言ってお

く。持っている者にはさらに与えられ、持たない者からは、持っているものまでも取り上げられる。そして、わたしが彼らの王となることを望まなかったわたしの敵たちを、ここに連れて来て、わたしの前で打ち砕きなさい。」こう言って、主はエルサレムへと上って行かれた。

ルカ 19:12-28
第27週の金曜日。

ルカによる福音書、96節

その頃、イエスはピファジアとピファニヤに近づき、オリーブ山と呼ばれる山に向かって、二人の弟子を遣わしてこう言われた。「向かい側の村へ行きなさい。そこに入ると、まだ誰も乗ったことのない若いロバが繋いであるのを見つけるだろう。それを解いて連れて来なさい。もし誰かが『なぜそれを解くのか』と尋ねたら、こう答えなさい。『主が必要とされているからです』と。」遣わされた者たちは行って、主が言われたとおりに見つけた。彼らが若いロバの綱を解いていると、その飼い主たちが彼らに言った。「なぜその子ロバの綱を解いているのですか。」彼らは答えた。「主が必要とされているのです。」そして、それをイエスのところへ連れて行き、自分の服をその子ロバの上に敷いて、イエスをその上に座らせた。イエスが乗って行かれると、人々は道に自分の服を敷いた。イエスがオリーブ山の下り坂に近づくと、大勢の弟子たちは、自分たちが目撃したすべての奇跡を喜び、大声で神を賛美し始めた。「主の御名によって来られる王は、祝福された方です。天には平和、高き所には栄光があります！」すると、群衆の中にいたあるパリサイ人たちがイエスに言った。「先生、弟子たちを叱って、黙らせてください。」しかし、イエスは彼らに答えて言われた。「あなたがたに言うておく。もし彼らが黙ったら、石が叫ぶだろう。」さて、過越の祭りの日、すなわち過越の小羊を屠るべき日が来た。イエスはペテロとヨハネを遣わして、「行って、私たちのために過越の食事を用意しなさい」と言われた。彼らはイエスに、「どこで用意すればよいのですか」と尋ねた。イエスは彼らに言われた。「見よ、あなたがたが町に入る時、水瓶を運んでいる人が出会うだろう。その人の後について、彼が入る家に入り、その家の主人にこう言いなさい。『先生がおっしゃる。私と弟子たちとで過越の食事をとる部屋はどこか』と。そうすれば、彼は敷物が敷かれた広い上階の部屋をあなたがたに示すだろう。そこで準備をしなさい。」彼女たちは行って、言われたとおりに見つけ、過越の食事を用意した。時が来ると、イエスは十二人の使徒たちと共に食卓に着き、彼らに言われた。「わたしは、苦難に遭う前に、あなたがたと共にこの過越の食事をとることを切に望んでいた。あなたがたに言うておくが、神の御国でそれが成就するまでは、もはやこれを食べることはないだろう。」そして、杯を取り、感謝をささげて言われた。「これを受け取り、互いに分け合いなさい。あなたがたに言うておく。神の御国が来るまでは、ぶどうの実から造られたものを飲むことはない。」また、パンを取り、感謝をささげてから、それを裂いて彼らに与え、こう言われた。「これは、あなたがたのためにささげられるわたしの体である。わたしの記念としてこれを行いなさい。」また、夕食の後、杯を取り、こう言われた。「この杯は、あなたがたのために注がれるわたしの血による新しい契約である。」見よ、わたしを裏切る者の手は、わたしと共に食卓にある。しかし、人の子は定められたとおりに進む。ただ、わたしを裏切るその人には、災いがある。そこで、彼らは互いに、自分たちのうち誰がそのようなことをするのかと尋ね合い始めた。また、彼らの間では、誰が最も偉い者と思われるべきかについて論争があった。そこで、イエスは彼らに言われた。「王たちは民を支配し、権力者たちは『恩人』と呼ばれるが、あなたがたはそうではない。あなたがたのうちで偉い者は、最も小さい者のようになり、指導者は奉仕する者のようになりなさい。なぜなら、食卓に横たわっている者と、仕えている者、どちらが偉いのか。横たわっている者ではないか。しかし、わたしはあなたがたの間で、しもべのように振る舞って

いる。あなたがたは、わたしの苦難の時にわたしと共にいた。だから、わたしの父がわたしに約束してくださったように、わたしもあなたがたに約束する。すなわち、わたしの御国で、わたしの食卓を囲んで食べ、飲み、またイスラエルの十二部族を裁くために王座に着くことになるのだ。」主は言われた。「シモンよ！ シモンよ！ 見よ、サタンはあなたがたを小麦のようにふるいにかけることを求めたが、わたしはあなたの信仰が失われないよう、あなたのために祈った。そして、あなたが立ち直った時には、兄弟たちを力づけてほしい。」彼は答えて言った。「主よ、あなたと共になら、牢獄にも死にも行く用意があります。」しかし、主は言われた。「ペトロよ、今日、雄鶏が鳴く前に、あなたは三度、『私はあなたを知らない』と私を否むだろう。」そして、彼らに言われた。「私あなたがたを、袋も、旅袋も、履物も持たずに遣わしたとき、何か不足したことはあったか。」彼らは答えた。「何もありませんでした。」そこで、主は彼らに言われた。「しかし今、袋を持っている者はそれを持ち、袋も同様に持ちなさい。持っていない者は、自分の服を売って剣を買いなさい。あなたがたに言うておく。わたしについて書かれている、『彼は悪人たちに数え入れられる』という言葉が、わたしに成就しなければならないからだ。わたしに関することは、終わりを迎えようとしている。」彼らは言った。「主よ、ここに剣が二本あります。」イエスは彼らに言われた。「それで十分だ。」そして、外に出て、いつものようにオリーブ山へ上られた。弟子たちもイエスに従った。

ルカ 19:29-40; 22:7-39
チーズ週間の月曜日。

ルカによる福音書、第97章の冒頭

イエスがオリーブ山を下りようとしたとき、大勢の弟子たちは、自分たちが目撃したすべての奇跡を喜び、声を高らかに神を賛美し始め、「主の御名によって来られる王は、祝福された方です。天には平和、至高の所には栄光があります」と言った。すると、群衆の中にいたあるパリサイ人たちがイエスに言った。「先生、『あなたの弟子たちを制止してください。』しかし、イエスは彼らに答えて言われた。「あなたがたに言うておく。もし彼らが黙ったとしても、石が叫ぶだろう。」そして、町に近づくと、その町を見渡し、それを哀れんで泣きながら言われた。「ああ、もしあなたも、この日、あなた自身の平和につながることを知っていたなら！ しかし、今はそれがあなたの目から隠されている。あなたの敵が、あなたを堀で囲み、四方から包囲し、圧迫し、あなたを荒廃させ、あなたのうちであなたの子供たちを殺し、石を石の上に残さないような日が、あなたに来るからだ。あなたが、あなたを訪ねてくださった時を見分けなかったからである。

ルカ 19:37-44
第28週の月曜日。

ルカによる福音書、98節

そのころ、イエスは神殿に入られると、そこで売り買いしている者たちを追い出し始め、彼らにこう言われた。「『わたしの家は祈りの家である』と書いてあるが、あなたがたはそれを強盗の巣窟にしてしまった。」そして、イエスは毎日、神殿で教えを説かれた。しかし、祭司長や律法学者、民の長老たちは、イエスを滅ぼそうとしていたが、どうすればよいか分からなかった。なぜなら、民全体が熱心にイエスの言葉に耳を傾けていたからである。

ルカ 19:45-48
第28週の火曜日。

ルカによる福音書、第99章の冒頭

その頃、イエスが神殿で民に教え、福音を宣べ伝えておられたとき、大祭司や律法学者たち、そして長老たちが近づいて来て、イエスに言った。「あなたがこのようなことをする権威は、どこから来たのですか。あるいは、誰があなたにその権威を与えたのですか。」 イエスは彼らに答えて言われた。「わたしもあなたがたに一つのことを尋ねよう。答えてほしい。ヨハネの洗礼は、天から来たものか、それとも人から来たものか。」彼らは互いに議論し合い、こう言った。「『天から』と言えば、『では、なぜ彼を信じなかったのか』と言われるだろう。『もし「人間から』と言えば、民衆全員が私たちに石で打ち殺すだろう。彼らはヨハネが預言者であると確信しているからだ』と。そこで彼らは、「どこから来たのかは分からない」と答えた。イエスは彼らに言われた。「それなら、わたしも、どのような権威をもってこのようなことをしているのか、あなたたちに言わない。」

ルカ 20:1-8
第28週の水曜日。

ルカによる福音書、第100章

主はこのたとえを語られた。「ある人がぶどう園を植え、それをぶどう園の番人たちに任せて、長い間旅に出た。時が来ると、その人はぶどう園の番人たちに、ぶどう園の実を届けよう、しもべを一人遣わした。しかし、ぶどう園の番人たちは、そのしもべを殴りつけ、何も持たせずに追い返した。また別のしもべを送ったが、彼らもこのしもべを殴りつけ、ののしって、何も持たせずに追い返した。さらに三番目のしもべを送ったが、彼らもこのしもべを傷つけ、追い出した。そこで、ぶどう園の主人は言った。「どうすればよいだろうか。私の愛する息子を送ろう。彼を見れば、彼らは恥じるかもしれない。」しかし、ぶどう園の農夫たちは彼を見て、互いに話し合い、『これは相続人だ。行こう、彼を殺して、その相続財産を我々のものにしよう』と。そして、彼をぶどう園の外へ引きずり出し、殺してしまった。さて、ぶどう園の主人は彼らにどうするだろうか。来て、その農夫たちを滅ぼし、ぶどう園を他の者たちに渡すだろう。これを聞いた人々は、「そんなことがあってはならない」と言った。しかし、イエスは彼らを見据えて言われた。「『建築者たちが捨てた石が、隅の親石となった』と書かれているのは、どういう意味か。その石にぶつかる者は皆、粉々に砕け、その石が誰の上に落ちて、その人を押しつぶす。」

ルカ 20:9-18
第28週の木曜日。

ルカによる福音書、101節

その頃、祭司長や律法学者たちは、イエスに手をかけようとしていたが、民衆を恐れていた。イエスがこのたとえ話を自分たちのことを指して語られたと悟ったからである。そこで、イエスを監視しつつ、偽善者を差し向けた。彼らは敬虔なふりをして、イエスの言葉の隙を突いて、イエスを総督の裁判所に引き渡そうとしたのである。そこで彼らはイエスに尋ねた。「先生、私たちは、あなたが真実を語り、教え、人を差別することなく、まことに神の道を教えていることを知っています。では、カエサルに税を納めてもよいのでしょうか、それとも納めてはならないのでしょうか。」イエスは彼らの悪巧みを見抜いて、こう言われた。「なぜ、わたしを試みるのですか。『デナリウス硬貨を一つ見せてください。そこに描かれているのは誰の肖像で、どんな銘文が刻まれているのですか。』」彼らは答えた。「カエサルのものです。」イエスは彼らに言われた。「それなら、カエサルのものはカエサルに返し、神のものは神に返しなさい。」こうして、人々の前でイエスの言葉を罠にかけすることはできず、その答えに驚いて、黙り込んでしまった。

ルカによる福音書、第102章

その頃、復活を否定するサドカイ派の人々がイエスのところに来て、こう尋ねた。「先生、モーセは私たちにこう書いています。『もし兄弟が妻を残して子供のないまま死んだら、その兄弟は妻を娶り、兄弟のために子孫を残さなければならない』と。」 七人の兄弟がいました。長男は妻を娶りましたが、子供を残さずに死にました。次に次男がその妻を娶りましたが、彼もまた子供を残さずに死にました。三男も彼女を娶りましたが、同様に七人全員が子供を残さずに死にました。その後、その妻も死にました。では、復活の時、彼女はどの兄弟の妻となるのでしょうか。七人全員が彼女を妻としていたのですから。」 イエスは彼らに答えて言われた。「この世の子らは結婚し、嫁ぐ。しかし、あの世と死からの復活にふさわしい者とされた者たちは、結婚もせず、嫁ぐこともなく、もはや死ぬこともない。彼らは天使に等しく、復活の子らとして神の子だからである。 また、死者がよみがえることについては、モーセも燃える荊のそばで、主を『アブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神』と呼んだときに示した。神は死者の神ではなく、生ける者の神である。神のもとでは、すべての者が生きているからである。これを聞いて、律法学者たちの中には、「先生、よくおっしゃいました」と言う者もいた。そして、もはやイエスに何一つ尋ねようとはしなかった。そこで、イエスは彼らに言われた。「人々は、キリストはダビデの子だと言うが、ダビデ自身は詩篇の中でこう言っている。『主は、わが主に言われた。「わたしの右の座にすわっていなさい。わたしがあなたの敵をあなたの足の下に置くまで。」』」 このように、ダビデは彼を『主』と呼んでいる。それなのに、どうして彼がダビデの子となり得るのか。

ルカによる福音書、103節

主は弟子たちに言われた。「律法学者たちに気をつけなさい。彼らは長い衣をまとい、人々の集まりで挨拶されるのを好み、会堂では最前列の席を、宴会では上座を好む。彼らは未亡人の家を食い物にし、偽善的に長い祈りを捧げる。彼らはそれゆえ、なおさら厳しい裁きを受けることになる。」 主は目を上げると、富める者たちが献金を宝物庫に納めているのをご覧になり、 また、そこに二レプタを投げ入れた貧しい未亡人も見つけ、こう言われた。「まことに、あなたがたに言っておく。この貧しい未亡人は、だれよりも多く捧げたのである。なぜなら、あの人たちはみな、余剰の中から神への献げ物を捧げたが、彼女は貧しさの中から、自分の生計のすべてを捧げたからである。」

ルカによる福音書、第104章の冒頭

ある人々が、その神殿は高価な石や献金で飾られていると語っていたとき、イエスはこう言われた。「やがて、あなたがたがここで見ているものの中から、石が石の上に残らない日が来る。すべてが破壊されるのだ。」 人々はイエスに尋ねた。「先生、それはいつのことですか。また、それが起こる時のしるしは何ですか。」すると、イエスは彼らに言われた。「民族は民族に、王国は王国に立ち向かい合う。各地で大地震が起こり、飢饉や疫病、恐ろしい現象、そして天からの大きなしるしがあるだろう。 エルサレムが軍勢に包囲されているのを見たら、その荒廃が近づいていることを知れ。その時、ユダヤにいる者は山へ逃げよ。町にいる者はそこから出て行き、郊外にいる者は町に入ってはならな

い。それは、報復の日々であり、書かれていることがすべて成就するためである。　そのころ、妊娠している者や乳飲み子を抱えている者には、悲惨なことになる。地には大いなる災いが臨み、この民には怒りが下るからである。彼らは剣の刃に倒れ、あらゆる国々に捕らえられて連れ去られる。そして、異邦人の時代が終わるまで、エルサレムは異邦人によって踏みにじられる。

ルカ 21:5-7; 10-11; 20-24
第29週の水曜日。

ルカによる福音書、105節

主は言われた。「だれにも惑わされないように気をつけなさい。多くの者がわたしの名をかたって来て、『わたしだ』と言うからである。その時は近い。彼らに従ってはならない。　また、戦争や騒乱の話を聞いても、恐れてはならない。それらはまず起こらなければならないことだが、すぐには終わりは来ない。太陽や月や星に兆しがあり、地の上では諸国民が不安と困惑に陥り、海は荒れ狂い、波立つ。　人々は、全世界に降りかかる災いを恐れ、待ちわびて息も絶え絶えになる。天の力は揺らぎ、その時、人々は、力と大きな栄光を帯びて雲に乗って来る人の子を見るであろう。　天と地は過ぎ去るが、わたしの言葉は決して過ぎ去らない。だから、あなたがたは、ご自身の心に注意を払い、ごちそうや酒、この世の心配事で心が重くならないようにしなさい。そうすれば、その日が突然あなたがたを襲うことはない。その日は、網のように、地上のあらゆる場所に住むすべての人を捕らえるからである。　それゆえ、常に目を覚まして祈り続けなさい。そうすれば、これらの来るべき災いをすべて免れ、人の子の御前に立つことができるようになるでしょう。

ルカ 21:8-9, 25-27, 33-36
肉断ちの土曜日。

ルカによる福音書、第106章

主は弟子たちに言われた。「人々を警戒しなさい。何よりもまず、彼らはあなたがたに手をかけ、あなたがたを迫害し、会堂や牢屋に引き渡し、わたしの名のために王や支配者たちの前に引き出すであろう。しかし、それはあなたがたにとって証しとなるのである。　だから、あらかじめ何を答えるか考えようとしないように心に留めておきなさい。わたしがあなたがたに口と知恵を与えるからである。あなたがたに敵対する者たちは、それに反論することも、立ち向かうこともできない。　また、あなたがたは、両親、兄弟、親族、友人からも裏切られる。あなたがたのうちの何人かは殺される。あなたがたは、わたしの名のためにすべての人から憎まれるが、あなたがたの頭の毛一本も失われることはない。あなたがたの忍耐によって、あなたがたの魂を救いなさい。

ルカ 21:12-19
第29週の火曜日。
殉教者たち。

ルカによる福音書、107節

主は弟子たちに言われた。「元気を出し、頭を上げなさい。あなたがたの救いが近づいているからである。」そして、彼らにたとえを語られた。「いちじくの木や、すべての木を見なさい。それらが芽を出し始めたら、それを見て、夏が近いことをあなたがた自身でわかるだろう。　それと同じように、あなたがたがこれらのことが起こるのを見たら、神の御国が近づいていることを知れ。まことに、あなたがたに告げる。この世代が過ぎ去る前に、これらすべてが起こる。天と地は過ぎ去っても、わたしの言葉は決して過ぎ去らない。

ルカによる福音書、108A節

その頃、イエスは昼間は神殿で教え、夜は神殿を出て、オリブ山と呼ばれる山で過ごしておられた。そして、民衆は皆、朝から神殿にやって来て、イエスの教えを聞くのだった。過越の祭りと呼ばれる無酵パンの祭りが近づいていたが、大祭司や律法学者たちは、民衆を恐れて、イエスをどうにかして滅ぼそうと画策していた。そこで、サタンは十二使徒の一人であるイスカリオテと呼ばれるユダに取りつき、彼は行って、大祭司や指導者たちに、イエスを彼らに引き渡す方法を話し合った。彼らは喜び、彼に金を与えることに同意した。ユダは約束し、民衆のいないところでイエスを彼らに引き渡す好機を伺っていた。さて、過越の羊を屠るべき過越祭の日がやって来た。イエスはペトロとヨハネを遣わし、「行って、私たちのために過越の食事を用意しなさい」と言われた。

ルカ 21:37-22:8
第29週の金曜日。

ルカによる福音書、108B節

その頃、過越の祭りと呼ばれる無酵パンの祭りが近づいていた。大祭司や律法学者たちは、民衆を恐れていたため、どうすればイエスを滅ぼせるか画策していた。そこで、サタンは十二使徒の一人であるイスカリオテと呼ばれるユダに入り込み、彼は行って、大祭司や指導者たちと、イエスを彼らに引き渡す方法について話し合った。彼らは喜び、彼に金を与えることに同意した。彼は約束し、民衆のいないところでイエスを彼らに引き渡す好機を伺っていた。さて、過越の祭りの日、すなわち過越の小羊を屠るべき日が来た。イエスはペテロとヨハネを遣わして、「行って、私たちのために過越の食事を用意しなさい」と言われた。彼らはイエスに、「どこで用意すればよいのですか」と尋ねた。イエスは彼らに言われた。「見よ、あなたがたが町に入る時、水瓶を運んでいる人が出会うだろう。その人の後について、彼が入る家に入り、その家の主人にこう言いなさい。『先生がおっしゃる。私と弟子たちとで過越の食事をとる部屋はどこか』と。そうすれば、彼は敷物が敷かれた広い上階の部屋をあなたがたに示すだろう。そこで準備をしなさい。」彼女たちは行って、言われたとおりに見つけ、過越の食事を用意した。時が来ると、イエスは十二人の使徒たちと共に食卓に着き、彼らに言われた。「わたしは、苦難に遭う前に、あなたがたと共にこの過越の食事をとることを切に望んでいた。あなたがたに言うのが、神の御国でそれが成就するまでは、もはやこれを食べることはないだろう。」そして、杯を取り、感謝をささげて、こう言われた。「これを受け取り、互いに分け合いなさい。神の御国が来るまでは、ぶどうの実から造られたものを飲むことはない、とあなたがたに告げておく。」また、パンを取り、感謝をささげてから、それを裂いて彼らに与え、こう言われた。「これは、あなたがたのためにささげられるわたしの体である。わたしの記念として、これをなしなさい。」また、夕食の後、杯を取り、こう言われた。「この杯は、あなたがたのために注がれるわたしの血による新しい契約である。」見よ、わたしを裏切る者の手は、わたしと共に食卓にある。しかし、人の子は定められたとおりに進む。ただ、わたしを裏切るその人には、災いがある。そこで、彼らは互いに、自分たちのうち誰がそのようなことをするのかと尋ね合い始めた。また、彼らの間では、誰が最も偉い者と見なされるべきかについて論争があった。そこで、イエスは彼らに言われた。「王たちは民を支配し、権力者たちは『恩人』と呼ばれるが、あなたがたはそうではない。あなたがたのうちで偉い者は、最も小さい者のようになり、指導者は奉仕する者のようになりなさい。なぜなら、横たわっている者と奉仕する者、どちらが偉いのか。横たわっている者ではないか。しかし、わたしはあなたがたの間で、しもべのように振る舞って

いる。あなたがたは、わたしの苦難の時にわたしと共にいてくれた。だから、わたしの父がわたしに約束してくださったように、わたしもあなたがたに約束する。すなわち、わたしの御国で、わたしの食卓を囲んで食べ、飲み、またイスラエルの十二部族を裁くために王座に着くことになるのだ。」主は言われた。「シモンよ！ シモンよ！ 見よ、サタンはあなたがたを小麦のようにふるいにかけることを求めたが、わたしはあなたの信仰が失われないよう、あなたのために祈った。そして、あなたが立ち直った時には、兄弟たちを力づけてほしい。」彼は答えて言った。「主よ、あなたと共になら、牢獄にも死にも行く用意があります。」しかし、主は言われた。「ペトロよ、今日、雄鶏が鳴く前に、あなたは三度、『私はあなたを知らない』と私を否むだろう。」そして、彼らに言われた。「私あなたがたを、袋も、旅袋も、履物も持たずに遣わしたとき、何か不足したことはあったか。」彼らは答えた。「何もありませんでした。」そこで、主は彼らに言われた。「しかし今、袋を持っている者はそれを持ち、袋も同様に持ちなさい。持っていない者は、自分の服を売って剣を買いなさい。あなたがたに言うておく。わたしについて書かれている、『彼は悪人たちに数え入れられる』という言葉が、わたしに成就しなければならないからだ。わたしに関することは、終わりを迎えようとしている。」彼らは言った。「主よ、ここに剣が二本あります。」イエスは彼らに言われた。「それで十分だ。」そして、外に出て、いつものようにオリーブ山へ上られた。弟子たちもイエスに従った。

ルカ 22:1-39

聖木曜日、早課にて。

ルカによる福音書、第109章

その頃、イエスはいつものようにオリーブ山へ上られ、弟子たちもイエスに従った。その場所に到着すると、イエスは彼らに言われた。「誘惑に陥らないように、祈りなさい。」そして、イエスは彼らから石を投げられるほどの距離まで離れ、ひざまずいて祈り、こう言われた。「父よ！ ああ、もし御心にかなうなら、この杯をわたしから取り除いてください。しかし、わたしの願いではなく、御心のままになさってください。」そして、弟子たちのところに戻ると、彼らは悲しみのあまり眠り込んでいた。そこでイエスは彼らに言われた。「なぜ眠っているのか。起きて、誘惑に陥らないように祈りなさい。」彼がまだそう言っているうちに、群衆が現れ、その先頭には十二使徒の一人、ユダと呼ばれる者がいて、彼はイエスに近づき、口づけをしようとした。彼は彼らにこう合図していたからである。「私が口づけをする者が、その人だ。」すると、イエスは彼に言われた。「ユダよ。口づけで人の子を裏切るのか。」イエスと共にいた者たちは、事態がどうなりつつあるかを見て、イエスに言った。「主よ、剣を振るって撃つべきでしょうか。」すると、その中の一人が大祭司の僕を打ち、その右の耳を切り落とした。そこでイエスは言われた。「やめなさい。もう十分だ。」そして、その耳に触れて、彼を癒やされた。イエスは、御自身に敵対して集まった大祭司たち、神殿の長たち、長老たちに向かって言われた。「まるで強盗を捕らえるかのように、剣や棒を持って私を捕らえに来たのか。私は毎日、あなたがたと共に神殿にいたが、あなたがたは私に手を下そうとはしなかった。しかし、今はあなたがたの時であり、闇の勢力の支配下にあるのだ。」彼らはイエスを捕らえて連れ出し、大祭司の家に連れて行った。ペテロは遠くからついて行った。彼らが中庭で火を焚き、一緒に座ったとき、ペテロも彼らの間に座った。ある女中が、火のそばに座っている彼を見て、じっと見つめ、「この人もあの方と一緒にいた」と言った。しかし、ペテロは彼女に、「私はあの方を知らない」と言って、イエスを否認した。その直後、別の者が彼を見て言った。「あなたもその一味だ。」しかし、ペテロはその人に言った。「いいえ、違います。」一時間ほど経った頃、また別の者が強く言った。「間違いなく、この人もあの方と一緒にだった。彼はガリラヤ人だからだ。」しかし、ペテロはその人に言った。「あなたが何を言っているのか、私には分かりません。」そして、彼がまだ話し

ている最中に、鶏が鳴いた。その時、主は振り返ってペテロを見つめられ、ペテロは主が彼に言われた言葉を思い出した。「鶏が鳴く前に、あなたはわたしを三度否むだろう。」そして、外に出て、激しく泣き出した。イエスを捕らえていた者たちは、イエスをのしり、殴りつけた。そして、イエスの顔を覆い隠して頬を打ちながら、「さあ、誰があなたを打ったのか、言い当ててみろ」と尋ねた。また、他にも多くの冒涇的な言葉を彼に対して浴びせた。日が明けると、民の長老たち、大祭司たち、律法学者たちが集まり、彼をサンヘドリンに連れて行き、言った。「あなたはキリストか。私たちに答えよ。」彼は彼らに言った。「もし私が言ったとしても、あなたがたは信じないだろう。また、私があなたがたに尋ねても、答えず、私を釈放することもないだろう。これからは、人の子が神の力の右の座に着く。」すると、皆が言った。「では、あなたは神の子なのか。」イエスは彼らに答えて言われた。「あなたがたがそう言うのだ。」彼らは言った。「これ以上、どんな証言が必要だろうか。私たち自身が、その口から聞いたのだから。」そこで、彼らの群衆は皆立ち上がり、イエスをピラトのもとに連れて行った。

ルカ 22:39-42; 45b-23:1
チーズ週間の火曜日。

ルカによる福音書、110節

その頃、祭司長たち、律法学者たち、そして民の長老たちは、イエスをピラトのもとに連れて行き、こう告発し始めた。「この人は、私たちの民を惑わし、カエサルへの税を納めることを禁じ、自らを『キリスト、すなわち王』と呼んでいることがわかりました。」ピラトはイエスに尋ねた。「あなたはユダヤ人の王か。」イエスは彼に答えて言われた。「あなたがそう言うのです。」ピラトは大祭司たちや民衆に言った。「この人に何の罪も見当たらない。」しかし、彼らは、「この人は、ガリラヤからこの地に至るまで、ユダヤ全土で教えを広め、民を扇動している」と主張し続けた。ピラトはガリラヤという言葉聞いて、「この人はガリラヤ人なのか」と尋ねた。そして、イエスがヘロデの管轄区域の出身であることを知ると、当時エルサレムに滞在していたヘロデのもとへイエスを送った。ヘロデはイエスを見て、大いに喜んだ。彼は以前からイエスに会いたがっていたからである。イエスのことを多く聞いていたため、何か奇跡を見られるのではないかと期待し、多くの質問を投げかけたが、イエスは彼に何も答えなかった。一方、祭司長や律法学者たちは立ち、激しくイエスを非難した。しかし、ヘロデは自分の兵士たちと共に、イエスを辱め、嘲笑した後、白い衣を着せて、ピラトのもとへ送り返した。その日、ピラトとヘロデは互いに友好関係を結んだ。それまでは、二人は敵対関係にあったからである。ピラトは、大祭司たちや指導者たち、そして民衆を呼び集め、彼らにこう言った。『あなたがたは、この人を民を扇動する者として私のところに連れてきた。しかし、私はあなたがたの前で彼を審問したが、あなたがたが告発しているような罪は、この人に何一つ見当たらなかった。ヘロデも同様である。私は彼をヘロデのもとに送ったが、彼には死に値するような罪は何も見当たらなかった。それゆえ、彼を懲らしめてから釈放しよう。』彼には、祭りのために囚人一人を釈放する義務があった。しかし、民衆全体が叫び出した。「彼を死刑にせよ！ バラバを釈放せよ。」バラバは、町で起こした騒動と殺人の罪で投獄されていた。ピラトは再び声を張り上げ、イエスを釈放しようとした。しかし、彼らは叫んだ。「十字架につけよ、彼を十字架につけよ！」ピラトは三度目に彼らに言った。「彼は一体どんな悪事を働いたというのか。私は彼に死に値する罪を見いださなかった。だから、懲らしめた上で釈放しよう。」しかし、彼らは大声を上げて、イエスを十字架につけるよう要求し続けた。そして、彼らの叫び声と祭司長たちの声が勝った。そこでピラトは、彼らの願い通りにすることに決め、彼らが求めている、騒乱と殺人罪で牢に閉じ込められていた男を釈放し、イエスを彼らの意のままに引き渡した。イエスが連れ去られるとき、畑から帰ってきたシモンというキリネ人を捕まえ、彼に十字架を負わせ

て、イエスの後ろから運ばせた。大勢の群衆と女たちがイエスの後をついて行き、イエスのために泣き叫んでいた。イエスは彼女たちの方を向いて言われた。「エルサレムの娘たちよ！ わたしのために泣くな。むしろ、あなたがた自身とあなたがたの子供たちのために泣け。やがて、『子を産まなかった者、胎に子を宿さなかった者、乳を与えなかった者は幸いである』と言われる日が来るからだ。そのとき、人々は山に向かって『わたしたちの上に崩れ落ちよ』と言い、丘に向かって『わたしたちを覆い隠せ』と言い始めるだろう。緑の木にさえこうするのだから、枯れた木にはどうなることか。」そして、二人の悪党もイエスと共に死刑場へと連れて行かれた。そして、「顎の丘」と呼ばれる場所に到着すると、そこでイエスと悪党たちを十字架につけた。一人は右に、もう一人は左に。イエスはこう言われた。「父よ、彼らをお赦してください。彼らは、自分が何をしているのか分かっていないのです。」その時、ちょうど正午頃であったが、全地に暗闇が訪れ、第九時までの間続いた。太陽は暗くなり、神殿の幕は真ん中から裂けた。イエスは大声で叫んで言われた。「父よ、私の霊を御手に委ねます。」そう言って、息を引き取られた。百人隊長は、この出来事を見て、神を賛美し、「この人はまことに義人であった」と言った。この光景を見ようと集まっていた民衆は皆、その出来事を目撃すると、胸を打ちながら帰っていった。しかし、イエスを知っていた者たちや、ガリラヤからイエスに従っていた女たちは、遠く離れて立って、その様子を見守っていた。その時、ヨセフという名の、ユダヤの町アリマタヤ出身の、善良で正直な人であり、議会や彼らの行いに加わっていなかった議会の議員が、神の御国を待ち望んでいた者であったが、ピラトのもとへ行き、イエスの遺体を求めた。そして、その遺体を降ろし、亜麻布で包んで、岩を掘って造られた、まだ誰も葬られたことのない墓に納めた。その日は金曜日で、安息日が近づいていた。また、ガリラヤからイエスと共に来た女性たちも後について行き、墓と、イエスの遺体がどのように安置されたかを見守った。そして帰って、香料と香油を用意し、安息日には戒めに従って静かに過ごした。

ルカ 23:1B-34A; 44-56
チーズ週間の木曜日。

ルカによる福音書、111節の冒頭

その頃、イエスと共に二人の悪党も死刑に処されることになっていた。そして、「顎の丘」と呼ばれる場所に到着すると、そこでイエスと悪党たちを十字架につけた。一人は右に、もう一人は左に。イエスはこう言われた。「父よ、彼らをお赦してください。彼らは、自分が何をしているのか分かっていないのです。」そして、人々はくじを引いて、イエスの服を分け合った。民衆は立ち止まってそれを見ていた。また、役人たちも彼らと共に嘲り、こう言った。「他の人々を救ったではないか。もし神に選ばれたキリストなら、自分を救ってみよ。」兵士たちもまた、イエスをののしり、近づいて酢を差し出し、「もしあなたがユダヤ人の王なら、自分を救ってみよ」と言った。また、その上には、ギリシャ語、ラテン語、ヘブライ語で書かれた銘板があり、「この人はユダヤ人の王である」と記されていた。十字架にかけられた悪人の一人が、イエスをののしって言った。「もしあなたがキリストなら、自分と私たちを救ってみよ。」しかし、もう一人は、それに対して彼を戒めて言った。「あなたも、同じ刑に処されているのに、神を恐れないのか。私たちは、自分の行いに応じて当然の報いを受けているが、この方は何の悪もなさっていない。主よ、あなたが御国に来られるとき、私を思い出してください。」すると、イエスは彼に言われた。「まことに、あなたに告げます。あなたは今日、わたしと共に楽園にいます。」その時、午後六時頃になると、全地に暗闇が訪れ、九時まで続いた。太陽は暗くなり、神殿の幕が真ん中から裂けた。イエスは大声で叫んで言われた。「父よ、私の霊を御手に委ねます。」そう言って、息を引き取られた。百人隊長は、この出来事を見て、神を賛美し、「この人はまことに義人であった」と言った。この光景を見ようと集まっ

ていた民衆は皆、この出来事を目撃すると、胸を打ちながら帰っていった。しかし、イエスを知っていた人々や、ガリラヤからイエスに従ってきた女性たちは、遠く離れて立って、この様子を見守っていた。

ルカ 23:32-49
聖金曜日、早課の第8福音書。
聖金曜日、第6時。

ルカによる福音書、112節の冒頭

その頃、週の初めの日の早朝、妻たちが香油を携えて墓を訪れた。彼女たちと一緒に、他にも何人かの人々がいた。しかし、墓の石が転がされているのを見つけた。中に入ってみると、主イエスの御体は見当たらなかった。彼女たちがそのことで戸惑っていると、突然、輝く衣をまとった二人の男が彼女たちの前に現れた。彼女たちが恐れおののき、顔を地面に伏せていると、彼らは言った。「なぜ、死者のうちから生きている方を探しているのですか。『彼はここにはいない。復活されたのだ。彼がまだガリラヤにいたとき、あなたがたにこう語られたことを思い出せ。「人の子は、罪人である人々の手に引き渡され、十字架につけられ、三日目に復活する」と。』」彼女たちはその言葉を思い出し、墓から戻ると、これらすべてを十一人の弟子たちや他のすべての人々に告げた。彼女たちは、マグダラのマリア、ヨハナ、ヤコブの母マリア、そして彼女たちと共にいた他の女性たちであり、使徒たちにこのことを伝えた。しかし、その言葉は彼らには空虚に聞こえ、彼らは彼女たちを信じなかった。ところが、ペトロは立ち上がって墓へと駆け寄り、身を乗り出して見ると、ただ布だけが置かれているのを見て、何が起きたのかと心の中で不思議に思いながら、引き返した。

ルカ 24:1-12
第4主日福音。

ルカによる福音書、113節

そのとき、ペトロは立ち上がって墓へと駆け寄り、身を乗り出して見ると、そこには布だけが置かれているのを見て、何が起きたのかと心の中で不思議に思いながら、引き返した。その日、二人の弟子が、エルサレムから六十スタディオン離れたエマオという村へ向かって歩いており、これらの出来事すべてについて互いに語り合っていた。彼らが語り合い、議論しているうちに、イエスご自身が近づいてきて、彼らと共に歩まれた。しかし、彼らの目は覆われていたため、イエスだと気づけなかった。そこでイエスは彼らに言われた。「歩きながら、互いに話し合っているのは何のことか。なぜ悲しんでいるのか。」そのうちのひとり、クレオパという者が答えて言った。「エルサレムに来た者の中で、この数日間にそこで起こったことを知らないのは、あなただけでしょいか。」イエスは彼らに、「何のことか」と尋ねられた。彼らはイエスに言った。「ナザレのイエスのことです。その方は預言者であり、神とすべての民の前で、行いにおいても言葉においても力強い方でした。しかし、大祭司たちや私たちの指導者たちが、その方を死刑に処すために引き渡し、十字架につけたのです。私たちは、彼がイスラエルを救うべき方だと期待していた。しかし、その出来事から今日で三日目になる。しかも、私たちの仲間の女性たちが私たちを驚かせた。彼女たちは早朝に墓に行ったが、その遺体を見つけられず、戻ってきて、天使たちの現れを見たこと、そして天使たちが『彼は生きている』と言っていたと語ったのだ。そこで、私たちのうちの何人かが墓へ行き、女性たちが言っていたとおりの様子を確認したが、イエスご自身は見当たらなかった。すると、イエスは彼らに言われた。「ああ、無知で、預言者たちが語ったことをすべて信じるのに心が鈍い者たちよ。キリストがこのような苦しみを受け、その栄光に入られるべきではなかったのか。」そして、モーセから始めて、すべての預言者の中から、聖書全体に記されている御自身に関

する言葉を彼らに解き明かされた。彼らが向かっていた村に近づくと、イエスはさらに先へ進もうとされる様子を見せられた。しかし、彼らはイエスを引き留めて言った。「私たちと一緒にいてください。もう日が暮れかけています。」そこで、イエスは家に入り、彼らと一緒に過ごされた。そして、イエスが彼らと共に食卓に着かれたとき、パンを取り、祝福し、裂いて彼らに与えられた。すると、彼らの目が開かれ、イエスだと分かった。しかし、イエスは彼らの目から姿を消された。彼らは互いに言った。「道中でイエスが私たちに語り、聖書を解き明かしてくださったとき、私たちの心は燃えていたのではないか。」そして、彼らはすぐに立ち上がってエルサレムに戻り、十一人の使徒たちと、彼らと共にいた人々が、主が確かに復活され、シモンに現れたと語っているのを見つけた。そして、彼らは道中で起こったことや、パンを裂く時に主が彼らに認識されたことを語った。

ルカ 24:12-35
復活節第5主日の福音。
復活節の火曜日。

ルカによる福音書、114節

その頃、イエスは死者の中からよみがえり、弟子たちの真ん中に立たれて、彼らに言われた。「平安あれ。」弟子たちは驚き、恐れて、幽霊を見ているのだと思った。しかし、イエスは彼らに言われた。「なぜ驚いているのか。なぜそのような思いが心に浮かぶのか。『わたしの手と足を見てごらん。これはまさにわたし自身だ。触れて確かめ、よく見てごらん。霊には肉も骨もないが、あなたがたが見ているように、わたしにはあるのだ。』」そう言って、イエスは彼らに手と足をお見せになった。しかし、彼らは喜びのあまりまだ信じられず、驚いていると、イエスは彼らに言われた。「ここに何か食べるものはあるか。」彼らは焼き魚と蜂の巣の蜂蜜を少し差し出した。イエスはそれを受け取ると、彼らの前で食べられた。そして彼らに言われた。「これこそ、わたしがまだあなたがたと共にいた時に話していたことである。すなわち、モーセの律法や預言者、詩篇に、わたしについて書かれていることはすべて成就しなければならない。」その時、イエスは彼らの心を開き、聖書の言葉を悟らせた。そして、彼らに言われた。「こう書かれているとおり、キリストは苦難を受け、三日目に死者の中からよみがえり、エルサレムをはじめとして、すべての民に、その御名によって悔い改めと罪の赦しとが宣べ伝えられるべきであった。あなたがたは、その証人である。わたしは、わたしの父の約束をあなたがたに送る。あなたがたは、天からの力に包まれるまで、エルサレムにとどまりなさい。」そして、彼らを町の外、ベタニヤまで連れて行き、両手を上げて彼らを祝福された。そして、彼らを祝福しながら、イエスは彼らから遠ざかり、天に昇って行かれた。彼らはイエスにひれ伏し、大きな喜びをもってエルサレムに戻った。そして、彼らはいつも神殿に留まり、神を賛美し、祝福していた。アーメン。

ルカ 24:36-53
第6主日福音。
主の昇天、聖体礼儀にて。

目次へ。

ヨハネによる福音書

ヨハネによる福音書、冒頭1

初めに言葉があった。言葉は神と共にあった。言葉は神であった。この言葉は、初めに神と共にあった。万物は、この方によって造られた。造られたもので、この方によらないものは一つもなかった。この方には命があり、その命は人の光であった。光は闇の中に輝いている。しかし、闇はそれを理解しなかった。神から遣わされた人がいた。その名はヨハネである。彼は証しをするために来た。すなわち、光について証しをし、すべての人々が彼を通して信じるようになるためである。彼は光ではなかったが、光について証しをするために遣わされたのである。まことの光があり、それはこの世に来るすべての人を照らす。その方は世におられ、世はその方によって造られたが、世はその方を知らなかった。その方は自分の民のところに來られたが、民はその方を受け入れなかった。しかし、その方を受け入れ、その御名を信じた人々には、神の子となる権能を与えられた。彼らは、血によっても、肉の欲によっても、人の意志によってもなく、神によって生まれたのである。そして、御言葉は肉となり、私たちの間に住まわれた。その方は恵みと真理に満ちておられた。私たちは、御父から独り子として來られた方の栄光、すなわち御父の栄光を、この方に見出した。ヨハネはこの方について証しし、声を上げて言った。「この方こそ、私が『私の後に来る方が、私より先に行かれる。それは、その方が私より先にいたからである』と言った方である。」そして、私たち皆は、その満ち満ちた豊かさから、恵みの上に恵みを受けた。律法はモーセによって与えられたが、恵みと真理はイエス・キリストによって現れたのである。

ヨハネによる福音書 1:1-17
聖なる偉大なる復活祭の週、聖体礼儀にて。

ヨハネによる福音書、第2章の冒頭

神をこれまで誰も見たことがない。父の懷におられる独り子、すなわち神ご自身が、神を現されたのである。さて、ユダヤ人たちがエルサレムから祭司たちやレビ人を遣わして、ヨハネに「あなたは誰か」と尋ねさせたとき、ヨハネはこう答えた。「私はキリストではない。」そこで彼らは彼に尋ねた。「では、あなたはエリヤなのか。」彼は「いいえ」と答えた。「預言者か。」彼は「いいえ」と答えた。彼らは彼に言った。「では、あなたは一体誰なのか。私たちを遣わした者たちに答えるために、あなた自身について何と言うのか。」彼は言った。「私は、預言者イザヤが言ったように、『荒野で叫ぶ者の声。主の道を整えよ』という者です。」遣わされた者たちはパリサイ人であった。彼らは彼に尋ねた。「もしあなたがキリストでも、エリヤでも、預言者でもないのなら、なぜバプテスマを授けているのですか。」ヨハネは答えて言った。「私は水でバプテスマを授けていますが、あなたがたの中には、あなたがたが知らない方がおられます。その方は、私の後に來られる方ですが、私よりも先に行かれる方です。私は、その方の靴のひもを解くに値しない者です。この出来事は、ヨハネがバプテスマを授けていたヨルダン川のほとりのベタニヤで起こりました。

ヨハネによる福音書 1:18-28
復活節の月曜日。

ヨハネによる福音書、第3章の冒頭

その時、ヨハネは、自分に向かって歩いてくるイエスを見て、こう言った。「見よ、世の罪を取り除く神の小羊。この方こそ、私が『私の後に来る方は、私より先におられる。なぜなら、その方は私より先にいたからである』と言った方である。私はその方を知らなかった。しかし、その方がイスラエルに現われるために、私は水でバプテスマを授けるために来たのである。そして、ヨハネは証しして言った。「私は、鳩のように天から降りてきて、その方の上にとどまる御霊を見た。私はその方を知りませんでした。しかし、私を水で洗礼を授けるように遣わされた方が、私にこう言われました。『御霊が降りてきて、その方の上に留まるのを見たら、その方が聖霊で洗礼を授ける方です。』そして、私はそれを見て、この方が神の子であることを証しました。

ヨハネによる福音書 1:29-34
1月7日、洗礼者ヨハネ。

ヨハネによる福音書、第4章の冒頭

そのとき、ヨハネとその弟子たちのうち二人が立っていた。ヨハネはイエスが歩いて来られるのを見て、「見よ、神の小羊だ」と言った。この言葉を聞いた二人の弟子は、イエスの後を追った。イエスは振り返って、彼らがついてくるのを見て、こう言われた。「何を求めているのか。」彼らはイエスに言った。「ラビ（先生という意味）よ、どこにお住まいですか。」イエスは彼らに言われた。「行って、自分の目で見てごらん。」彼らは行って、イエスがどこにお住まいであるかを見て、その日、イエスと共にとどまった。時刻は十時頃であった。ヨハネからイエスのことを聞いてイエスに従った二人のうちの一人は、シモン・ペテロの兄弟であるアンデレであった。彼は真っ先に自分の兄弟シモンを見つけ、「私たちはメシア——すなわちキリスト——を見つけた」と言って、彼をイエスのところへ連れて行った。イエスは彼を見て、こう言われた。「あなたはシモン、ヨナの子だ。あなたはケファと呼ばれることになる。これは『岩』（ペトロ）という意味だ。」翌日、イエスはガリラヤへ行こうとされ、フィリポを見つけ、彼に言われた。「わたしについてきなさい。」フィリポは、アンデレやペトロと同じ町、ベツサイダ出身であった。フィリポはナタナエルを見つけ、彼に言った。「私たちは、モーセの律法や預言者たちが書いたその方、ナザレのヨセフの子イエスを見つけた。」しかし、ナタナエルは彼に言った。「ナザレから、良いものが生まれるだろうか。」フィリポは彼に言った。「行って、自分の目で確かめてごらん。」イエスは、自分に向かって歩いてくるナタナエルを見て、彼についてこう言われた。「見よ、これこそ真のイスラエル人であり、その心には偽りがない。」ナタナエルはイエスに言った。「どうして私をご存じなのですか。」イエスは彼に答えて言われた。「フィリポがあなたを呼ぶ前に、あなたがいちじくの木の下にいたとき、わたしはあなたを見ていた。」ナタナエルはイエスに答えた。「ラビ、あなたは神の子、イスラエルの王です。」イエスは彼に答えて言われた。「『いちじくの木の下にいるのを見た』と私が言ったから、あなたは信じるのか。これよりもっと大きなことを見るようになる。」そして彼に言われた。「まことに、まことに、あなたがたに告げる。これから、天が開き、神の御使いたちが人の子の上を行き来するのを見るようになる。」

ヨハネによる福音書 1:35-51
復活節の週の水曜日。
11月30日、使徒アンドレアの記念日。

ヨハネによる福音書、第5章の冒頭

その頃、イエスはガリラヤへ行こうとされ、フィリポを見つけ、彼に言われた。「わたしについてきなさい。」フィリポは、アンデレやペトロと同じ町、ベツサイダ出身であ

った。 フィリポはナタナエルを見つけ、彼に言った。「私たちは、モーセの律法や預言者たちが記していた方、ナザレのヨセフの子イエスを見つけた。」しかし、ナタナエルは彼に言った。「ナザレから、良いものが生まれるだろうか。」フィリポは彼に言った。「行って、自分の目で確かめてごらん。」 イエスは、自分に向かって歩いてくるナタナエルを見て、彼についてこう言われた。「見よ、これこそ真のイスラエル人であり、その心には偽りが無い。」ナタナエルはイエスに言った。「どうして私をご存じなのですか。」イエスは彼に答えて言われた。「フィリポがあなたを呼ぶ前に、あなたがイチジクの木の下にいたとき、わたしはあなたを見ていた。」 ナタナエルはイエスに答えて言った。「ラビ、あなたは神の子、イスラエルの王です。」 イエスは彼に答えて言われた。「『いちじくの木の下にいるのを見た』と私が言ったから、あなたは信じるのです。これよりもさらに大きなことを見るようになるでしょう。」そして、彼に言われた。「まことに、まことに、あなたがたに言います。これから、天が開き、神の御使いたちが人の子のもとへ上ったり下ったりするのを見るようになるのです。」

ヨハネによる福音書 1:43-51

四旬節第1週。

11月14日、使徒フィリポの記念日。

ヨハネによる福音書、第6章の冒頭

その頃、ガリラヤのカナで婚礼があり、イエスの母もそこにいた。イエスとその弟子たちも、その婚礼に招かれていた。ぶどう酒が足りなくなると、イエスの母はイエスに言った。「彼らにはぶどう酒がありません。」 イエスは彼女に言われた。「女よ、私とあなたと、何の関係があるのですか。私の時はまだ来ていません。」すると、イエスの母は給仕たちに言った。「彼が何と言おうと、その通りにしてください。」 そこには、ユダヤ人の清めの慣習に従って置かれた六つの石の水瓶があり、それぞれ二メーラか三メーラ入る大きさであった。イエスは彼らに言われた。「その器に水を満たしなさい。」彼らは器を縁まで満たした。イエスは彼らに言われた。「さあ、汲んで、宴会の責任者のところへ持って行きなさい。」 彼らは運んだ。すると、宴会の責任者が、水からワインに変わったものを味わった。彼はそのワインがどこから来たのか知らなかったが、水を汲んだ使用人たちは知っていた。そこで責任者は花婿を呼び、こう言った。「人は誰でも、まず良いワインを出し、客が酔ってから悪いものを出すものだ。しかし、あなたは良いワインを今までとっておいた。」 こうして、イエスはガリラヤのカナで最初の奇跡を行い、ご自身の栄光を現された。そして、弟子たちはイエスを信じた。

ヨハネによる福音書 2:1-11

復活祭後第2週の月曜日。

結婚の秘跡を執り行う際。

ヨハネによる福音書、第7章の冒頭

その頃、イエスはカペナウムに来られた。ご自身と、御母、兄弟たち、そして弟子たちも一緒であった。そして、そこを数日間過ごされた。ユダヤ人の過越の祭りが近づいていたので、イエスはエルサレムに行かれた。すると、神殿の中で、牛や羊や鳩が売られており、両替商たちが座っているのを見られた。そこで、イエスは縄で鞭を作り、すべての人々、また羊や牛までも神殿から追い出し、両替商たちの金をまき散らし、彼らの机をひっくり返した。そして、鳩を売っている人々に言われた。「これをここから持ち出せ。わたしの父の家を商売の場にしてはならない。」 これを聞いて、弟子たちは、「あなたの家への熱意が、わたしを焼き尽くしている」と書かれていることを思い出した。すると、ユダヤ人たちは言った。「どのようなしるしによって、あなたがこのようにする権威があることを、私たちに証明するのですか。」 イエスは彼らに答えて言われた。「この神殿を壊しなさい。そうすれば、わたしは三日でそれを建て直そう。」 すると、ユダヤ人た

ちは言った。「この神殿は四十六年もかけて建てられたのに、あなたが三日で建て直すというのか。」しかし、イエスはご自身の体を神殿としておっしゃっていたのである。イエスが死者の中からよみがえられたとき、弟子たちは、イエスがこうおっしゃっていたことを思い出し、聖書とイエスが語られた言葉とを信じた。

ヨハネによる福音書 2:12-22
復活節の金曜日。

ヨハネによる福音書、第8章の冒頭

そのころ、パリサイ人の中にニコデモという人がいた。彼はユダヤ人の指導者の一人であった。彼は夜、イエスのところに来て言った。「ラビ、私たちは、あなたが神から来られた教師であることを知っています。あなたがなさるような奇跡は、神が共におられない限り、だれも行うことはできません。」 イエスは彼に答えて言われた。「まことに、まことに、あなたに告げます。だれでも上から生まれなければ、神の国を見ることはできません。」ニコデモは言った。「年をとった人が、どうして生まれ変わることができるのでしょうか。再び母の胎内に入って生まれることなどできるのでしょうか。」 イエスは答えられた。「まことに、まことに、あなたに告げます。だれでも水と御霊によって生まれなければ、神の国に入ることはできません。肉から生まれたものは肉であり、御霊から生まれたものは御霊です。私が『あなたがたは上から生まれなければならない』と言ったことを、不思議に思わないでください。御霊は、御自分の望むところへ吹く。あなたはその音を聞くが、どこから来てどこへ行くのかは知らない。御霊から生まれた者は皆、そのようである。」ニコデモは答えて言った。「どうしてそのようなことがあり得るのでしょうか。」 イエスは答えて言われた。「あなたはイスラエルの教師でありながら、このようなことも知らないのですか。まことに、まことに、あなたに言います。私たちは知っていることを語り、見たことを証ししていますが、あなたがたは私たちの証しを受け入れません。もし私が地上のことについて語っても、あなたがたが信じないのなら、天上のことについて語ったとき、どうして信じることができるのでしょうか。天に上った者は、天から下って来て、今や天におられる人の子以外には、だれもいない。モーセが荒野で蛇を掲げたように、人の子もまた、掲げられなければならない。それは、彼を信じる者がだれも滅びることなく、永遠の命を得るためである。

ヨハネによる福音書 3:1-15
復活節の週の木曜日。

ヨハネによる福音書、第9章の冒頭

主は言われた。「天に上った者は、天から下って来た、天におられる人の子以外にはいない。モーセが荒野で蛇を掲げたように、人の子もまた掲げられなければならない。それは、彼を信じる者がだれも滅びることなく、永遠の命を得るためである。神は、この世をこれほどまでに愛されたので、御自身の独り子をお与えになった。それは、御子を信じる者が一人として滅びることなく、永遠の命を得るためである。神は、御子をこの世に遣わされたのは、この世を裁くためではなく、御子によってこの世が救われるためである。

ヨハネ 3:13-17
十字架の挙揚の前週。

ヨハネによる福音書、第10章の冒頭

主は言われた。「神は、この世をこれほどまでに愛されたので、御独り子をお与えになった。それは、御子に信じる者が一人も滅びることなく、永遠の命を得るためである。神が御子を世に遣わされたのは、世を裁くためではなく、御子によって世が救われるため

である。」 御子を信じる者は裁かれないが、信じない者はすでに裁かれている。それは、神の独り子のお名を信じなかったからである。裁きとは、光がこの世に来たのに、人々が光よりも闇を愛したことにある。彼らの行いが悪かったからである。 悪を行う者は皆、光を憎み、光のもとへは行かない。それは、自分の行いが悪であるため、それが暴かれるのを恐れるからである。しかし、真理に従って生きる者は、光のもとへ行く。それは、自分の行いが神によってなされたものであることが明らかになるためである。

ヨハネ3:16-21
復活祭後第2週の火曜日。

ヨハネによる福音書、第11章の冒頭

そのころ、イエスは弟子たちを連れてユダヤの地へ行き、そこで彼らと共に住み、バプテスマを授けていた。 また、ヨハネも、水が豊富にあったため、サリムの近くのエノンでバプテスマを授けていた。人々はそこへ来てバプテスマを受けていた。それは、ヨハネがまだ牢に入れられていなかったからである。その頃、ヨハネの弟子たちとユダヤ人との間で、清めについて論争が起きた。そこで、彼らはヨハネのところに来て言った。「ラビ、 ヨルダン川であなたと共にいた方、あなたが証ししたその方が、今やバプテスマを授けておられ、皆が彼のもとへ行っています。」ヨハネは答えて言った。「天から与えられない限り、人は何事も自ら受け取ることはできません。 あなたがた自身が、私が『私はキリストではない。ただ、彼の前に遣わされた者である』と言ったことの証人です。花嫁を持つ者は花婿であり、花婿の友は、その傍らに立って花婿の声を聞き、その声を聞いて喜びに満ちるものです。この喜びこそ、私の喜びが満たされたのです。彼は大きくなり、私は小さくならなければならないのです。 上から来られる方は、すべての人よりも高い方である。地から出た者は、地の人であり、地の人として語り、天から来られた方は、すべての人よりも高い方であり、ご自身が目撃し、耳にしたことを証しされる。しかし、だれもその証しを受け入れない。その証しを受け入れた者は、神が真実な方であることを証ししたのである。

ヨハネ3:22-33
復活節の安息日。

ヨハネによる福音書、第12章の冒頭

その頃、イエスはサマリアの町、シカルと呼ばれる場所に来られた。そこは、ヤコブが息子のヨセフに与えた土地の近くであった。そこにはヤコブの井戸があった。イエスは旅の疲れから、井戸のそばに座られた。時刻は六時頃であった。 サマリアの女が水を汲みに来た。イエスは彼女に言われた。「私に水を飲ませてくれ。」そのとき、弟子たちは町へ食べ物を買って出かけていたからである。サマリアの女はイエスに言った。「あなたはユダヤ人なのに、どうして私のようなサマリア人の女に水を飲ませてほしいと言うのですか。ユダヤ人はサマリア人と交わらないのですから。」 イエスは彼女に答えて言われた。「もしあなたが、神の賜物と、『私に水を飲ませてくれ』と言っている方がどなたであるかを知っていたなら、あなた自身がその方に願い求め、その方があなたに生ける水を与えてくださったでしょう。」すると、その女はイエスに言った。「ご主人様、あなたには水を汲むものもなく、井戸は深いのです。その生ける水は、どこから得られるのですか。 まさか、この井戸を私たちに与え、ご自身も、その子らも、家畜もそこから水を飲まれた私たちの父ヤコブよりも、あなたが偉いというのですか？」イエスは彼女に答えて言われた。「この水を飲む者はだれでも、また渇くことになる。しかし、わたしが与える水を飲む者は、決して渇くことがない。 私が与える水は、その人の内で、永遠の命へと湧き出る泉となるのです。」女はイエスに言った。「主よ、その水を私にください。そうすれば、もう渇くこともなく、ここへ水を汲みに来る必要もなくなります。」 イエスは彼

女に言われた。「行って、あなたの夫を呼び、ここに来なさい。」すると、女は答えて言った。「私には夫がいません。」イエスは彼女に言われた。「『私には夫がない』と言ったのは正しい。あなたは五人の夫がいたが、今一緒にいる人はあなたの夫ではない。その通りだ。」女はイエスに言った。「主よ、あなたは預言者だとわかります。私たちの先祖はこの山で礼拝してきましたが、あなたがたは、礼拝すべき場所はエルサレムにあると言っています。」イエスは彼女に言われた。「私を信じてください。時が来ます。その時には、この山でもエルサレムでもなく、父に礼拝することになるのです。あなたがたは、何に礼拝しているのか知らないが、私たちは、何に礼拝しているのか知っている。救いはユダヤ人から来るからだ。しかし、真の礼拝者たちが霊と真理をもって父に礼拝する時が来る。いや、すでに来ている。父は、そのような礼拝者たちを求めておられるからだ。神は霊である。だから、神を礼拝する者は、霊と真理をもって礼拝しなければならない。すると、その女はイエスに言った。「メシア、すなわちキリストが来られることは知っています。その方が来られたら、私たちにすべてを明らかにしてくださるでしょう。」イエスは彼女に言われた。「あなたと話しているのは、私です。」その時、弟子たちがやって来て、イエスが女と話しているのを見て驚いた。しかし、誰も「何を求めておられるのですか」とか、「彼女と何をお話しになっているのですか」とは尋ねなかった。そこで、その女は水瓶をそこに置いて町へ行き、人々に言った。「さあ、行って、私のしたことをすべて教えてくださった方を見てください。この方がキリストではないでしょうか。」人々は町を出て、イエスのところへ行った。その間、弟子たちはイエスに「ラビ、何か食べてください」と頼んだ。しかし、イエスは彼らに言われた。「わたしには、あなたがたが知らない食物がある。」そこで、弟子たちは互いに話し合った。「もしかして、誰かがイエスに食べ物を運んできたのだろうか。」イエスは彼らに言われた。「わたしを遣わした方の御心を行い、その業を成し遂げること、それがわたしの食物である。あなたがたは、『あと四ヶ月で収穫の時期が来る』と言っているではないか。しかし、わたしはあなたがたに言う。目を上げて、畑を見なさい。それはすでに白く色づき、刈り入れの時期を迎えている。刈り取る者は報いを受け、永遠のいのちのための実を刈り集める。そうすれば、種を蒔く者も刈り取る者も共に喜ぶことになる。なぜなら、この場合、『一人が蒔き、もう一人が刈り取る』という言葉が当てはまるからである。わたしは、あなたがたが労苦しなかったものを刈り取るために、あなたがたを遣わした。他の人々が労苦し、あなたがたはその労苦の成果を受け継いだのである。その町の多くのサマリア人は、ある女の言葉によって、彼を信じた。その女は、自分がしたすべてのことを、彼が自分に告げた、と証ししたのである。それゆえ、サマリア人たちが彼のところに来て、彼らのところに留まってほしいと願った。そこで、彼は二日間、そこに留まった。さらに多くの人々が、イエスの御言葉によって信じるようになった。そして、その女には、「もはやあなたの言葉によって信じるのではない。私たち自身が聞いて、この方がまことに世の救い主、キリストであることを知ったからだ」と言った。

ヨハネによる福音書 4:5-42
復活後第5週、サマリアの女について。

ヨハネによる福音書、13章の冒頭

その頃、カペナウムに、息子が病気の宮廷の役人がいた。彼は、イエスがユダヤからガリラヤに来られたと聞き、イエスのところへ来て、死の淵にある自分の息子を癒やしてくださるよう懇願した。イエスは彼に言われた。「しるしや奇跡を見なければ、あなたがたは信じない。」その宮廷の役人はイエスに言った。「主よ、私の息子が死ぬ前に、どうかおいでください。」イエスは彼に言われた。「行きなさい。あなたの息子は元気です。」彼はイエスが言われた言葉を信じて、立ち去った。道中で、彼の家来たちが彼に出迎え、「あなたの息子は元気です」と言った。彼は彼らに尋ねた。「いつから良くなったの

か。」 彼らは言った。「昨日の第七時に、熱が下がりました。」そこで父は、それがイエスが『あなたの息子は元気です』と言われた時刻であることを知り、自分と家族全員が信じた。これは、イエスがユダヤからガリラヤに戻られた後、行われた第二の奇跡である。

ヨハネによる福音書 4:46b-54
復活祭後第3週の月曜日。

ヨハネによる福音書、14A節

その頃、イエスはエルサレムにお入りになった。エルサレムには、羊の門のそばに、ヘブライ語でベテズダと呼ばれる浴場があり、その周りには五つの屋根付きの通路があった。そこには、病者、盲人、足の不自由な者、体の萎えた者など、大勢の人が横たわり、水が動くのを待っていた。というのも、主の御使いが時折その水場に来て水を攪拌し、水が攪拌された後、真っ先に水の中に入った者は、どんな病気にかかっているかにも癒やされたからである。そこに、三十八年間も病気で苦しんでいる男がいた。イエスは、彼が横たわっているのを見て、長い間その状態にあることを知ると、彼に言われた。「元気になりたいか。」病人はイエスに答えた。「はい、主よ。しかし、水が揺れ動く時に、私を浴場に下ろしてくれる人がいないのです。私が来ると、いつも他の人が私より先に下りてしまうのです。」イエスは彼に言われた。「起き上がり、床を担いで歩きなさい。」すると、彼はたちまち癒やされ、自分の床を担いで歩き出した。それは安息日のことだった。そこで、ユダヤ人たちは癒やされた人に言った。「今日は安息日だ。寝床を運んではいけない。」彼は彼らに答えた。「私を癒やしてくださった方が、『寝床を運んで歩きなさい』とおっしゃったのです。」彼らは彼に尋ねた。「『寝床を運んで歩きなさい』と言ったその方は、どなたですか。」しかし、癒やされた人は、その方がどなたかを知らなかった。イエスは、その場にいた群衆の中に身を隠しておられたからである。その後、イエスは神殿で彼に出会い、こう言われた。「見よ、あなたは癒やされた。もう罪を犯してはならない。さもないと、あなたにさらに悪いことが起こるだろう。」その人は去って行き、自分を癒やしたのはイエスであるとユダヤ人たちに告げた。

ヨハネによる福音書 5:1-15
復活後第4週、麻痺した人の話。

ヨハネによる福音書、14B節

そのころ、イエスはエルサレムに来られた。エルサレムには、羊の門のそばに、ヘブライ語でベテズダと呼ばれる浴場があり、その周りには五つの屋根付きの回廊があった。そこには、病者、盲人、足の不自由な者、体の萎えた者など、大勢の人が横たわり、水が動くのを待っていた。というのも、主の御使いが時折、その水場に来て水を攪拌し、水が攪拌された後、真っ先に水に入る者は、どんな病気にかかっているかにも癒やされたからである。

ヨハネによる福音書 5:1-4
水の小型別式にて。

ヨハネによる福音書、第15章

主は、御自身のもとにやって来たユダヤ人たちに言われた。「わたしの父は今なお働いておられる。わたしも働いている。」ユダヤ人たちは、イエスが安息日を破っただけでなく、神を『父』と呼び、御自身を神と同等であると見なしたために、なおさらイエスを殺そうとした。これに対し、イエスは言われた。「まことに、まことに、あなたがたに告げる。『子は、父がなさっているのを見ない限り、自分からは何事もなすことはできない。父がなさることを、子もまた同じようになすのである。父は子を愛しておられ、ご自

身がなさるすべてのことを子に示しておられる。そして、これよりもさらに大きなわざを子に示される。それを見て、あなたがたは驚くであろう。』なぜなら、父が死者をもよみがえらせ、生かすように、子もまた、御自分の望む者を生かすからである。父はだれをも裁かれない。すべての裁きを子に委ねられたのは、すべての人が父を敬うように、子を敬うためである。子を敬わない者は、子を遣わされた父をも敬わないのである。まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしの言葉を聞き、わたしを遣わされた方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきを受けることはありません。その人は、死からいのちへと移ったのです。

ヨハネ5:17b-24

復活祭後第2週の水曜日。
月曜日の死者のための祈り。

ヨハネによる福音書、第16章の冒頭

主は、御自身のもとにやって来たユダヤ人たちに言われた。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしの言葉を聞き、わたしを遣わされた方を信じる者は、永遠のいのちを持ち、さばきを受けることはありません。すでに死からいのちへと移ったのです。まことに、まことに、あなたがたに告げます。死者が神の御子の声を聞き、それを聞いて生き返る時が来ています。すでにその時は来ています。父が御自身の中に命をお持ちであるように、御子にも御自身の中に命を持つように与えられたからです。また、御子には裁きの権威も与えられました。御子は人の子だからです。これを不思議に思うな。墓の中にいる者たちがみな、神の子の声を聞く時が来るからである。善を行った者はいのちの復活へと、悪を行った者はさばきの復活へと出て行くのである。わたしは、自分からは何事も行うことができない。聞いたとおりに裁く。わたしの裁きは正しい。なぜなら、わたしは自分の御心ではなく、わたしを遣わされた父の御心を求めているからである。

ヨハネによる福音書 5:24-30

復活祭後第2週の木曜日。
火曜日と土曜日の安息の祈り。

ヨハネによる福音書、第17章の冒頭

主は、御自身のもとにやって来たユダヤ人たちに言われた。「わたしが聞くままに裁く。わたしの裁きは正しい。わたしは自分の御心ではなく、わたしを遣わされた父の御心を求めるからである。もしわたしが自分自身について証しをするなら、その証しは真実ではない。わたしについて証しをする者がもう一人いる。そして、その者がわたしについて証しするその証しは真実であることを、わたしは知っている。あなたがたはヨハネのもとへ使者を送ったが、彼は真理について証しをした。しかし、わたしは人から証しを受けるのではない。ただ、あなたがたが救われるために、こう言っているのだ。彼は燃えて輝いている灯だった。しかし、あなたがたは、その光の中でほんの少しの間だけ喜びたがった。わたしには、ヨハネの証しよりも大きな証しがある。すなわち、父がわたしに成し遂げさせようとしてくださったわざ、すなわち、わたしが今行っているこれらのわざこそが、父がわたしを遣わされたことを証ししているのだ。また、わたしを遣わされた父ご自身が、わたしについて証ししてくださった。しかし、あなたがたは、その御声を一度も聞いたことがなく、その御顔を見たこともない。また、あなたがたの中には、その御言葉が宿っているわけでもない。それは、あなたがたが、御父が遣わされた方を信じていないからである。聖書を調べなさい。あなたがたは、それによって永遠の命を得られると思っているが、それらはわたしについて証ししている。しかし、あなたがたは、命を得るために、わたしのもとに来ようとはしない。わたしは人から栄光を受けることはないが、あなたがたのことを知っている。あなたがたには、神への愛が心の中にないのだ。わたしは父の名によって来たが、あなたがたはわたしを受け入れない。しかし、もし他の誰かが自

分の名によって来れば、あなたがたは彼を受け入れるだろう。互いに栄光を受け合いながら、唯一の神からの栄光を求めようとしてもしないあなたがたが、どうして信じることができるだろうか。 わたしが父の御前であなたがたを告発すると思うな。あなたがたには、あなたがたが頼りにしているモーセという告発者がいる。もしあなたがたがモーセを信じるなら、わたしをも信じるはずだ。なぜなら、彼はわたしについて書いたからである。もし彼の書物を信じないなら、どうしてわたしの言葉を信じることができるだろうか。 その後、イエスはガリラヤ湖の向こう岸、ティベリアスの近郊へ行かれた。多くの群衆がイエスに従った。それは、イエスが病人のためになされた奇跡を見たからである。

ヨハネ 5:30b-6:2
復活祭後第2週の金曜日。

ヨハネによる福音書、第18章の冒頭

そのとき、イエスは目を上げて、大勢の群衆が自分の方へやって来るのを見て、フィリポに言われた。「彼らに食べさせるためのパンをどこで買えばよいだろうか。」イエスは、フィリポを試そうとしてこう言われたのである。ご自身は、何をなさろうとしているか、すでにご存じだったからである。 フィリポはイエスに答えて言った。「二百デナリ分のパンがあっても、一人ひとりに少しでも分け与えるには足りません。」弟子の一人、シモン・ペトロの兄弟アンデレがイエスに言った。「ここに、ある少年が持ってきた大麦のパン五つと魚二匹がありますが、これほどの大群衆には何の意味もありません。」イエスは言われた。「彼らに横になるように言いなさい。」 その場所には草がたくさん生えていた。そこで、約五千人の人々が横になった。イエスはパンを取り、感謝をささげてから弟子たちに配り、弟子たちは横になっている人々に、魚も各自が望むだけ配った。人々が満腹すると、イエスは弟子たちに言われた。「残ったパンの切れ端を集めなさい。何も無駄にしてはならない。」 人々は集めて、食べた者たちの残した五つの大麦のパンの切れ端を、十二の籠に満たした。そこで、イエスが行われた奇跡を見た人々は、「この方は、まさにこの世に来られるべきあの預言者である」と言った。

ヨハネによる福音書 6:5-14
復活祭後第5週の水曜日。

ヨハネによる福音書、第19章の冒頭

その頃、イエスが行われた奇跡を見た人々は、「この方は、まさにこの世に来られるべきあの預言者だ」と言った。しかし、イエスは、人々が自分を迎えに来て、密かに捕まえ、王にしようとしていることを知ると、再び一人で山へ退かれた。 夕方になると、弟子たちは海辺へ下り、舟に乗り込んで、海の向こう岸にあるカペナウムへ向かった。日が暮れてきたが、イエスはまだ彼らのもとに来られなかった。強い風が吹き、海は荒れていた。 二十五か三十スタディオンほど進んだところで、彼らは海の上を歩いて舟に近づいてくるイエスを見て、恐れた。しかし、イエスは彼らに言われた。「わたしだ。恐れることはない。」彼らはイエスを舟に迎え入れようとした。すると、たちまち舟は彼らが向かっていた岸に接岸した。 翌日、海の向こう側に立っていた人々は、弟子たちが乗った一隻の舟以外に他の舟はなく、イエスが弟子たちと一緒に舟に乗られたのではなく、弟子たちだけが舟で出航したことを知った。 その間、ティベリアから他の舟が、主の祝福を受けてパンを食べた場所の近くまでやって来た。そこで、人々はそこにイエスも弟子たちもいないのを見て、舟に乗り込み、イエスを探し求めてカペナウムへと向かった。 そして、海の向こう岸でイエスを見つけると、彼に言った。「ラビ、いつここに来られたのですか。」イエスは彼らに答えて言われた。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。あなたがたがわたしを探しているのは、しるしを見たからではなく、パンを食べて満腹したからなのです。 朽ちる食物ではなく、永遠の命に至る食物を求めなさい。それは人の

子があなたがたに与えるものである。父なる神は、この人に御自身の印を刻まれたからである。

ヨハネによる福音書 6:14-27
復活後第2週の土曜日。

ヨハネによる福音書、第20章の冒頭

主は、御自身のもとにやって来たユダヤ人たちに言われた。「朽ちる食物ではなく、人の子があなたがたに与える、永遠の命に至る食物を求めなさい。父なる神は、その方に御自身の印を刻まれたからである。」そこで、彼らは主に向かって言った。「では、神の御業を行うためには、何をすべきでしょうか。」イエスは彼らに答えて言われた。「神の業とは、神が遣わされた方をあなたがたが信じることであり、それこそが神の業である。」すると、彼らはイエスに言った。「では、あなたがどのようなしを見せて、私たちがそれを見て、あなたを信じるようにしてくれるのですか。あなたは何をなさるのですか。私たちの先祖は荒野でマナを食べました。『天からのパンを彼らに食べさせた』と書いてある通りです。」イエスは彼らに言われた。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。天からのパンをあなたがたに与えたのはモーセではなく、わたしの父が、天からのまことのパンをあなたがたに与えてくださるのです。神のパンとは、天から下って来て、世にいのちを与えるものです。」

ヨハネ 6:27-33
復活祭後第3週の火曜日。

ヨハネによる福音書、第21章の冒頭

主は、御自身のもとにやって来たユダヤ人たちに言われた。「わたしは命のパンである。わたしのもとに来る者は決して飢えることがなく、わたしを信じる者は決して渴くことがない。しかし、あなたがたはわたしを見たにもかかわらず、信じない。」父がわたしに与えてくださる者は皆、わたしのもとに来る。そして、わたしのもとに来る者を、わたしは決して追い出さない。なぜなら、わたしは天から下って来たのは、自分の御心を行うためではなく、わたしを遣わした父の御心を行うためだからである。わたしを遣わされた父の御心は、父がわたしに与えてくださったものの中から、一つも失うことなく、すべてを最後の日によみがえらせることである。

ヨハネ 6:35-39
復活祭後第3週の水曜日。
水曜日の安息の祈り。

ヨハネによる福音書、第22章の冒頭

主は、御自身のもとにやって来たユダヤ人たちに言われた。「わたしを遣わされた方の御心は、御子を見て、彼を信じる者がだれでも、永遠の命を持つことである。そして、わたしは最後の日にその人をよみがえらせる。」ユダヤ人たちは、主が「わたしは天から下ってきたパンである」と言われたことに、主に対して不平を言った。そして彼らは言った。「この人は、ヨセフの子イエスではないか。その父も母も、私たちにはよく知っているではないか。それなのに、どうして『わたしは天から下ってきた』などと言うのか。」イエスは彼らに答えて言われた。「互いに不平を言ってはならない。わたしを遣わした父に引き寄せられない限り、だれもわたしのもとに来ることはできない。そして、わたしは最後の日にその人をよみがえらせる。」

ヨハネによる福音書 6:40-44
復活祭後第3週の木曜日。

ヨハネによる福音書、第23章の冒頭

主は、御自身のもとにやって来たユダヤ人たちに言われた。「わたしは命のパンである。あなたがたの先祖は荒野でマナを食べたが、死んでしまった。しかし、天から下ってくるパンは、それを食べる者が決して死なないものである。わたしは、天から下ってきた生けるパンである。このパンを食べる者は、永遠に生きる。わたしが与えるパンとは、わたしの肉であり、わたしはそれを世のいのちのために与えるのである。」すると、ユダヤ人たちは互いに論じ合い、「どうして、この人が自分の肉を私たちに食べさせることができるだろうか」と言った。イエスは彼らに言われた。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。もしあなたがたが人の子の肉を食べ、その血を飲まなければ、あなたがたのうちに命はありません。わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、永遠の命を持ち、わたしは最後の日にその人をよみがえらせます。」

ヨハネによる福音書 6:48-54
復活祭後第3週の金曜日。

ヨハネによる福音書、第24章の冒頭

主は、御自身のもとにやって来たユダヤ人たちに言われた。「わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、わたしの中にあり、わたしもその人の中にいる。生ける父がわたしを遣わされたように、わたしも父によって生きている。同じように、わたしを食べる者も、わたしによって生きる。これこそが、天から下ってきたパンである。あなたがたの先祖がマナを食べて死んだのとは異なり、このパンを食べる者は永遠に生きる。イエスはカペナウムの会堂で教えながら、こう言われた。弟子たちの多くは、これを聞いて、「なんて奇妙な言葉だろう。誰がこんなことを聞き入れられるだろうか」と言った。しかし、イエスは、弟子たちがこのことについて不平を言っていることをご自身で知っておられ、彼らに言われた。「これだけであなたがたはつまづくのか。では、人の子が、かつていた所へ上るのを見たら、どうするつもりか。霊こそが命を与えるものであり、肉は何の役にも立たない。わたしがあなたがたに語る言葉は、霊であり、いのちである。しかし、あなたがたの中には、信じない者もいる。イエスは初めから、誰が信じない者であり、誰が自分を裏切る者であるかを知っておられたからである。そして言われた。「それゆえ、わたしの父から与えられない限り、だれもわたしのもとに来ることはできない、とあなたがたに言ったのである。」この時から、弟子たちの多くがイエスから離れ、もはやイエスと共に行かなくなった。そこで、イエスは十二人に言われた。「あなたがたも去りたいのか。」シモン・ペテロが答えて言った。「主よ、私たちは誰のところへ行きましょうか。あなたは永遠のいのちの言葉を持っておられます。私たちは、あなたが生ける神の御子キリストであることを信じ、知りました。」

ヨハネによる福音書 6:56-69
復活後第4週の月曜日。

ヨハネによる福音書、第25章の冒頭

そのころ、イエスはガリラヤを巡回しておられた。ユダヤでは、ユダヤ人たちがイエスを殺そうとしていたため、そこを歩きたくなかったからである。ユダヤの祭り、すなわち「仮庵の祭り」が近づいていた。そこで、イエスの兄弟たちはイエスに言った。「ここから出て、ユダヤへ行かれなさい。そうすれば、あなたの弟子たちも、あなたがなさっている御業を見ることができるでしょう。」「だれも、ひそかに何かをして、自ら知られようとはしないからです。もしあなたがそのようなわざをなさるなら、世に御自身を現してください。」というのも、イエスの兄弟たちでさえ、イエスを信じていなかったからである。これに対し、イエスは彼らに言われた。「わたしの時はまだ来ていないが、あなた

がたにとってはいつでも時である。世はあなたがたを憎むことはないが、わたしを憎む。それは、わたしが世について、その行いが悪であると証ししているからである。あなたがたはこの祭りに参列しなさい。しかし、わたしはまだこの祭りに参列しない。わたしの時はまだ満ちていないからである。」こう言って、イエスはガリラヤにとどまった。しかし、兄弟たちがやって来ると、イエスも祭りに参加された。ただし、公然とではなく、いわばひそかにであった。ユダヤ人たちは祭りの最中にイエスを探し求め、「彼はどこにいるのか」と言っていた。民の間ではイエスについて様々な噂が飛び交っていた。ある者は「彼は善良な人だ」と言い、またある者は「いや、民を惑わしているのだ」と言った。しかし、ユダヤ人たちを恐れて、誰もイエスについて公然と語る者はいなかった。

ヨハネ7:1-13
復活祭後第4週の火曜日。

ヨハネによる福音書、第26章の冒頭

五旬節の半ばに、イエスは神殿に入って教えを説かれた。ユダヤ人たちは驚いて、「学んでもいないのに、どうして聖書を知っているのか」と言った。イエスは彼らに答えて言われた。「わたしの教えは、わたし自身のもではなく、わたしを遣わされた方のものである。その御心を行おうとする者は、この教えが神から来たものか、それとも私が自分から語っているのかを知ることになる。自分から語る者は、自分の栄光を求めようとする。しかし、遣わした方の栄光を求めようとする方こそ真実であり、その方には偽りが無い。モーセはあなたがたに律法を与えなかったのか。それなのに、あなたがたのうちだれ一人として律法に従って行動していない。それなのに、なぜわたしを殺そうとするのか。」民は答えて言った。「あなたには悪霊が宿っているのではないか。誰があなたを殺そうとしているというのか。」イエスはさらにこう言われた。「わたしはただ一つのことをしただけなのに、あなたがたは皆、驚いている。モーセはあなたがたに割礼を与えた（それはモーセからのものではなく、先祖たちからのものであるが）、そしてあなたがたは安息日に人に割礼を施している。もし安息日に人がモーセの律法に違反しないために割礼を受けるのなら、私が安息日に人を完全に癒したからといって、なぜ私に対して憤るのか。外見によって裁いてはならない。正しい裁きをもって裁きなさい。すると、エルサレムの人々のうち数人が言った。「これは、殺そうとしているあの者ではないか。見よ、彼は公然と語っているのに、誰も彼に何も言わない。指導者たちは、彼が本当にキリストであることを確かめたのではないか。」しかし、私たちは彼がどこから来たのかを知っている。キリストが来られたとき、彼がどこから来たのか、誰も知らないだろう。」そこで、イエスは神殿で声を高めて教え、こう言われた。「あなたがたはわたしを知っており、わたしがどこから来たのかも知っている。わたしは自分から来たのではない。わたしを遣わされた方は真実な方であり、あなたがたは彼を知らない。わたしは彼を知っている。なぜなら、わたしは彼から来た者であり、彼がわたしを遣わされたからだ。」人々はイエスを捕らえようとしたが、まだその時は来ていなかったため、だれもイエスに手を下すことはできなかった。

ヨハネによる福音書 7:14-30
復活後第4週の水曜日、ペンテコステの中日。

ヨハネによる福音書、27節

祭りの最後の大きな日に、イエスは立ち上がって声を張り上げ、こう言われた。「渇いている人は、だれでも、わたしのもとに来て飲みなさい。わたしを信じる者には、聖書に書かれているとおり、その腹から生ける水の川が流れ出る。」これは、イエスを信じる者たちが受けようとしていた御霊について、イエスが言われたのである。すなわち、イエスがまだ栄光を受けられていなかったため、彼らにはまだ聖霊が下っていなかったか

らである。民衆の多くは、この言葉を聞いて、「この方は確かに預言者だ」と言った。また、「この方はキリストだ」と言う者もいた。さらに、「キリストがガリラヤから来られるはずがない。聖書には、キリストはダビデの子孫から、ダビデの出身地であるベツレヘムから来ると書いてあるではないか」と言う者もいた。こうして、民の間で彼をめぐって論争が起きた。中には彼を捕らえようとする者もいたが、誰も彼に手を下す者はいなかった。そこで、奉仕者たちは大祭司やパリサイ人たちのところへ戻った。すると、彼らは彼らに言った。「なぜ彼を連れて来なかったのか。」奉仕者たちは答えた。「これまで、この人ほど雄弁に語る人はいなかった。」パリサイ人たちは彼らに言った。「まさか、あなたたちも惑わされたのか。指導者たちやパリサイ人のうち、だれかが彼を信じたというのか。しかし、この民は律法を知らない。彼らは呪われている。」夜、イエスのところへ来ていたニコデモは、彼らの一人であったが、こう言った。「私たちの律法は、まずその人の話を聞き、その行いを知ることなくして、人を裁くものなのか。」すると、彼らはニコデモに言った。「あなたもガリラヤ出身ではないか。よく調べてみれば、ガリラヤからは預言者は出てこないことがわかるだろう。」イエスは再び民に語りかけ、こう言われた。「わたしは世の光である。わたしに従う者は、決して暗闇の中を歩むことはなく、いのちの光を持つことになる。」

ヨハネ 7:37-52; 8:12
ペンテコステの週、聖体礼儀にて。

ヨハネによる福音書、28節から

その頃、律法学者たちとパリサイ人たちが、姦淫の現場で捕らえられた女をイエスのところに連れて来て、その女を真ん中に立たせ、イエスに言った。「先生、この女は姦淫の現場で捕らえられました。モーセは律法の中で、このような者を石打ちにするよう命じています。あなたはどうお考えですか。」彼らは、イエスを試して、非難する口実を見つけようとして、こう言ったのである。しかし、イエスは身をかがめて、指で地面に何かを書いておられ、彼らには目もくれなかった。彼らがさらに問い詰めてきたので、イエスは身を起こして、彼らに言われた。「あなたがたのうち、罪のない者が、まずこの女に石を投げなさい。」そして再び、深く身をかがめて、地面に書き続けた。彼らはそれを聞いて、良心に責められ、年長者から順に、一人また一人と立ち去っていった。残ったのは、イエスと、真ん中に立っているその女だけだった。イエスは顔を上げ、その女以外には誰もいないのを見て、彼女に言われた。「女よ。あなたを告発した者たちはどこにいるのか。あなたを裁いた者は誰もいなかったのか。」彼女は答えた。「誰もいません、主よ。」イエスは彼女に言われた。「わたしもあなたを裁かない。行って、これからはもう罪を犯してはならない。」

ヨハネによる福音書 8:3-11
聖なる女性たちへ。

ヨハネによる福音書、第29章

主は、御自身のもとにやって来たユダヤ人たちに言われた。「わたしは世の光である。わたしに従う者は、決して暗闇の中を歩むことはなく、いのちの光を持つことになる。」すると、パリサイ人たちは主に向かって言った。「あなたはご自身について証言しておられる。あなたの証言は真実ではない。」イエスは彼らに答えて言われた。「たとえわたしが自分自身について証言するとしても、わたしの証言は真実である。なぜなら、わたしはどこから来て、どこへ行くのかを知っているからである。しかし、あなたがたは、わたしがどこから来て、どこへ行くのかを知らない。あなたがたは肉によって裁くが、わたしはだれをも裁かない。たとえわたしが裁くとしても、わたしの裁きは真実である。なぜなら、わたし一人ではなく、わたしを遣わした父も共におられるからである。また、あ

あなたがたの律法にも、『二人の証人の証言は真実である』と書かれている。わたしが自分自身について証言し、わたしを遣わした父もわたしについて証言してくださる。」そこで、彼らはイエスに言った。「あなたの父はどこにおられるのか。」 イエスは答えて言われた。「あなたがたは、わたしも、わたしの父も知らない。もしわたしを知っていたなら、わたしの父も知っていたはずだ。」 イエスは、神殿で教えを説いておられたとき、宝物庫のそばでこう言われた。しかし、まだその時が来ていなかったため、だれもイエスを捕らえようとはしなかった。

ヨハネによる福音書 8:12-20
復活祭後第4週の木曜日。

ヨハネによる福音書、第30章の冒頭

主は、御自身のもとにやって来たユダヤ人たちに言われた。「わたしは去って行く。あなたがたはわたしを捜すが、あなたがたの罪のうちに死ぬことになる。わたしが行く所には、あなたがたは来ることができない。」そこで、ユダヤ人たちは言った。「『わたしが行く所には、あなたがたは来ることができない』と言うのは、まさか、御自身が自殺しようとしているのだろうか。」 イエスは彼らに言われた。「あなたがたは下から来た者であり、わたしは上から来た者である。あなたがたはこの世に属しているが、わたしはこの世に属していない。それゆえ、あなたがたは自分の罪の中で死ぬと、わたしが言ったのである。もし、わたしがそれであると信じないなら、あなたがたは自分の罪の中で死ぬことになる。」そこで、彼らはイエスに言った。「では、あなたはどなたなのですか。」 イエスは彼らに言われた。「初めからおられる方である。私があなたがたに言っている通りだ。」 あなたがたについて語るべきこと、裁くべきことはたくさんある。しかし、わたしを遣わされた方は真実であり、わたしが御父から聞いたことを、わたしは世に語っているのだ。」彼らは、イエスが御父について語っておられることを理解できなかった。そこで、イエスは彼らに言われた。「人の子が上げられるとき、あなたがたは、わたしがそれであり、また、わたしが自分から何事もせず、わたしの父が教えてくださったとおりに語っていることを知るようになる。わたしを遣わされた方は、わたしと共におられる。父はわたしを一人にしておかない。わたしは常に、御心に適うことを行っているからだ。イエスがこう語られたとき、多くの人々がイエスを信じた。

ヨハネによる福音書 8:21-30
復活後第4週の金曜日。
主の十字架の挙揚の後の土曜日。

ヨハネによる福音書、31節

主は、御自分を信じたユダヤ人たちに言われた。「もしあなたがたがわたしの言葉にとどまるなら、あなたがたはまことにわたしの弟子であり、真理を知るようになる。そして、真理はあなたがたを自由にする。」彼らは答えて言った。「私たちはアブラハムの子孫であり、これまで誰の奴隷にもなったことがない。それなのに、どうして『あなたがたは自由になる』などと言うのか。」 イエスは彼らに答えて言われた。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。罪を犯す者は皆、罪の奴隷です。しかし、奴隷は永遠に家にとどまることはありません。子は永遠にとどまります。ですから、もし子があなたがたを自由にするなら、あなたがたはまことに自由になるのです。あなたがたがアブラハムの子孫であることは知っている。しかし、あなたがたはわたしを殺そうとしている。それは、わたしの言葉があなたがたの中に根付かないからである。わたしは、わたしの父のもとで見たことを語っている。しかし、あなたがたは、あなたがたの父のもとで見たことを行っている。彼らは答えて言った。「私たちの父はアブラハムです。」 イエスは彼らに言われた。「もしあなたがたがアブラハムの子であるなら、アブラハムの行いをするはず

だ。それなのに今、あなたがたは、神から聞いた真理をあなたがたに告げたわたし、この人を殺そうとしている。アブラハムはそんなことはしなかった。あなたがたは、あなたがたの父の行いをしているのです。」すると、彼らはイエスに言った。「私たちは姦淫によって生まれたものではありません。私たちには、神というただひとりの父がおられます。」イエスは彼らに言われた。「もし神があなたがたの父であるなら、あなたがたはわたしを愛するはずである。なぜなら、わたしは神から出て来て、ここに来たからである。」

ヨハネ 8:31-42A
復活祭後第4週の土曜日。

ヨハネによる福音書、第32章の冒頭

主は、御自身のもとにやって来たユダヤ人たちにこう言われた。「もし神があなたがたの父であるなら、あなたがたはわたしを愛するはずである。なぜなら、わたしは神から出て来たからであり、神のもとから来たからである。わたしは自分から来たのではなく、神がわたしを遣わされたのである。なぜ、あなたがたはわたしの言葉を理解できないのか。それは、あなたがたがわたしの言葉を聞くことができないからである。あなたがたの父は悪魔であり、あなたがたは、あなたがたの父の欲望を満たそうとしている。彼は初めから人殺しであり、真理に立っていなかった。彼の中には真理がないからだ。彼が偽りを言うとき、それは彼自身の言葉である。彼は偽り者であり、偽りの父だからだ。しかし、私が真理を語っても、あなたがたは私を信じない。あなたがたのうち、だれがわたしを不義であると告発できるのか。もしわたしが真理を語っているのなら、なぜわたしを信じないのか。神から来た者は、神の言葉を聞く。あなたがたが聞かないのは、あなたがたが神から来ていないからだ。これに対し、ユダヤ人たちは答えて言った。「あなたがサマリヤ人であり、あなたの中に悪霊が宿っているというのは、私たちの言う通りではないか。」イエスは答えて言われた。「わたしには悪霊などいない。しかし、わたしは父を敬っているのに、あなたがたはわたしを冒瀆している。とはいえ、わたしは自分の栄光を求めない。求める方、裁く方がおられるからだ。まことに、まことに、あなたがたに告げる。わたしの言葉を守る者は、決して死を見ることはない。」

ヨハネによる福音書 8:42-51
復活後第5週の月曜日。

ヨハネによる福音書、第33章

主は、御自身のもとにやって来たユダヤ人たちに言われた。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしの言葉を守る者は、決して死を見ることはありません。」ユダヤ人たちは主に向かって言った。「今や、わたしたちは、あなたに悪霊が宿っていることを知りました。アブラハムも預言者たちも死んだのに、あなたは『わたしの言葉を守る者は、決して死を味わうことはない』と言われます。まさか、あなたは、死んだ私たちの父アブラハムよりも偉いというのですか。預言者たちも皆死んだのに、あなたは自分を何者だと思っているのですか。」イエスは答えて言われた。「もしわたしが自分自身を栄光に包むなら、わたしの栄光は何の価値もありません。わたしを栄光に包んでくださる方は、あなたがたが『あなたがたの神』と言っているわたしの父です。あなたがたは父を知らないが、私は父を知っている。もし私が『父を知らない』と言え、あなたがたと同じような偽り者となるだろう。しかし、私は父を知っており、父の御言葉を守っている。あなたがたの父であるアブラハムは、私の日を見ることを待ち望んでいた。そしてそれを見て、喜んだのだ。」すると、ユダヤ人たちはイエスに言った。『あなたはまだ五十歳にもなっていないのに、アブラハムを見たというのか?』イエスは彼らに言われた。「まことに、まことに、あなたがたに告げる。アブラハムが生まれる前から、わたしはある

。」そこで、彼らはイエスに投げつけるために石を拾った。しかし、イエスは身を隠して、彼らの真ん中を通り抜け、神殿を出て、その場を去られた。

ヨハネによる福音書 8:51-59
復活祭後第5週の火曜日。

ヨハネによる福音書、第34章

その頃、イエスは通りかかったとき、生まれつき目の見えない人を見かけられた。弟子たちはイエスに尋ねた。「ラビ、この人が盲目で生まれたのは、彼自身の罪のためでしょうか。それとも、両親の罪のためでしょうか。」イエスは答えて言われた。「彼も両親も罪を犯したわけではない。ただ、神の御業がこの人に現れるためである。わたしを遣わされた方の御業を、日があるうちに成し遂げなければならない。夜が来れば、だれも働くことはできない。わたしがこの世にいる限り、わたしは世の光である。」こう言われた後、イエスは地面に唾を吐き、その唾で泥を作り、その泥を盲人の目に塗って言われた。「行って、シロアム（『遣わされた者』という意味）の池で顔を洗いなさい。」彼は行って顔を洗い、目が見えるようになって戻ってきた。すると、近所の人々や、以前彼が盲目だったのを見ていた人々が、「あれは、座って物乞いをしていた人ではないか」と言った。ある者は「彼だ」と言い、またある者は「彼に似ている」と言った。しかし、本人は「私だ」と言った。そこで人々は彼に尋ねた。「どうして目が見えるようになったのか。」彼は答えて言った。「イエスという人が、泥を作り、私の目に塗り、シロアムの水場に行って顔を洗え、と私に言ったのです。私は行って顔を洗い、目が見えるようになった。」そこで人々は彼に、「その方はどこにおられるのか」と尋ねた。彼は、「知りません」と答えた。人々は、かつて盲目だったこの男をパリサイ人たちのところへ連れて行った。イエスが泥を作り、彼の目を開かれたのは、安息日であった。パリサイ人たちもまた、彼に、どうして目が見えるようになったのかと尋ねた。彼は彼らに言った。「その方が私の目に泥を塗り、私が顔を洗ったら、見えるようになったのです。」すると、パリサイ人の中には、「この人は安息日を守らないから、神から来た者ではない」と言う者もいた。また、「罪人がどうしてこのような奇跡を行うことができるのか」と言う者もいた。こうして、彼らの間で論争が起きた。人々は再びその盲人に言った。「彼はあなたの目を開いてくれたのだから、彼についてどう思うか。」彼は言った。「この方は預言者です。」そこで、ユダヤ人たちは、彼が盲人であったこと、また目が見えるようになったことを信じようとしなかった。そこで、彼らはその目が見えるようになった者の両親を呼び出し、尋ねた。「あなたがたが、生まれつき盲目だったと言っているこの子は、本当にあなたがたの子か。それなのに、どうして今は見えるのか。」両親は彼らに答えて言った。「この子が私たちの息子であり、生まれつき目が見えなかったことは知っています。しかし、どうして今見えるようになったのか、また誰が彼の目を開いたのかは、私たちにはわかりません。彼はもう成人しています。彼自身に尋ねてください。彼自身が自分のことについて語るようにしてください。」両親がこのように答えたのは、ユダヤ人たちを恐れていたからである。ユダヤ人たちはすでに、イエスをキリストと認める者は誰でも会堂から追放することに決めていたからである。それゆえ、両親は「彼はもう成人している。本人に尋ねて、彼自身に語らせなさい」と言ったのである。そこで、かつて盲目だったその男を再び呼び寄せ、彼に言った。「神に栄光を帰しなさい。あの人は罪人だと私たちは知っている。」彼は彼らに答えて言った。「彼が罪人かどうかは知りません。ただ一つ知っているのは、私が盲目だったのに、今は見えるということです。」彼らはまた彼に尋ねた。「彼はあなたに何をしたのですか。どうやってあなたの目を開いたのですか。」彼は答えた。「もう言ったでしょう。あなたがたは聞き入れませんでした。まだ何を聞きたいのですか。それとも、あなたたちも彼の弟子になりたいのですか。」すると、彼らは彼を責めて言った。「あなたはあの方の弟子だが、私たちはモーセの弟子だ。神がモーセに

語られたことは知っている。しかし、この方はどこから来られたのか、私たちは知らない。」目が見えるようになった人は彼らに答えて言った。「あなたがたが、この方がどこから来られたのか知らないというのは、実に驚くべきことだ。この方が私の目を開いてくださったのだから。」しかし、私たちは、神が罪人の願いを聞き入れないことを知っています。神を敬い、その御心を行う者の願いこそ、神は聞き入れてくださるのです。生まれつき目の見えない人の目を開いたなどということは、古来、聞いたことがありません。もし彼が神から来た者でなければ、何事も成し遂げることはできなかったでしょう。彼らは彼にこう言い返しました。「あなたは生まれつき罪にまみれているのに、私たちに説教するつもりか。」そして、彼を追い出しました。イエスは、彼が追い出されたと聞き、彼を見つけ出して言われた。「あなたは神の子を信じますか。」彼は答えて言った。「主よ、その方はどなたですか。私がその方を信じるにはどうすればよいのですか。」イエスは彼に言われた。「あなたはすでにその方を見ており、その方があなたに話しておられるではありませんか。」彼は言った。「主よ、信じます。」そして、イエスにひれ伏した。

ヨハネによる福音書 9:1-38
復活後第6週、盲人の話。

ヨハネによる福音書、35A節

主は、御自身のもとにやって来たユダヤ人たちに言われた。「わたしは、この世を裁くために来た。見えない者が見えるようになり、見える者が盲目になるためである。」これを聞いて、イエスと共にいたパリサイ人たちのうち数人が、イエスに言った。「私たちも盲目なのではないですか。」イエスは彼らに言われた。「もしあなたがたが盲目であれば、罪を負うことはなかっただろう。しかし、あなたがたは『見える』と言うから、罪があなたがたに残っているのだ。まことに、まことに、あなたがたに言う。羊の囲いへ門から入らず、別の道からよじ登る者は、盗人であり強盗である。門から入る者は、羊の牧者である。門番が彼のために門を開くと、羊たちはその声に従い、彼は自分の羊を名指しで呼び、彼らを連れ出す。自分の羊をすべて連れ出すと、彼は先頭に立ち、羊たちは彼の声を知っている、彼の後について行く。見知らぬ者の後については行かず、むしろそこから逃げ去る。見知らぬ者の声を認識しないからである。イエスはこのたとえを彼らに語られたが、彼らはイエスが何を言おうとしておられるのか理解できなかった。そこで、イエスは再び彼らに言われた。「まことに、まことに、あなたがたに告げる。わたしは羊の門である。わたしより前に来た者は皆、盗人であり、強盗である。しかし、羊たちは彼らに耳を傾けなかった。わたしは門である。わたしを通して入る者は救われ、出入りし、牧草地を見いだす。」

ヨハネによる福音書 9:39-10:9
復活後第5週の木曜日。

ヨハネによる福音書、35B節

主は、御自身のもとにやって来たユダヤ人たちに言われた。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。羊の囲いへ、門から入らず、別の道からよじ登って入る者は、盗人であり、強盗です。しかし、門から入る者は、羊の牧者です。門番が彼のために門を開き、羊たちはその声に従う。彼は自分の羊を名指しで呼び、彼らを連れ出す。自分の羊をすべて連れ出すと、彼は先頭に立ち、羊たちは彼の声を知っている、彼の後について行く。見知らぬ者の後については行かず、むしろそこから逃げ去る。見知らぬ者の声を認識しないからである。イエスはこのたとえを彼らに語られたが、彼らはイエスが何を言おうとしておられるのか理解できなかった。そこで、イエスは再び彼らに言われた。「まことに、まことに、あなたがたに告げる。わたしは羊の門である。わたしより前

に来た者は皆、盗人であり、強盗である。しかし、羊たちは彼らに耳を傾けなかった。わたしは門である。わたしを通して入る者は救われ、出入りし、牧草地を見いだす。

ヨハネ10:1-9
聖人たちのための、早課にて。

ヨハネによる福音書、第36章

主は、御自身のもとにやって来たユダヤ人たちにこう言われた。「わたしは門である。わたしを通して入る者は救われ、また、出入りし、牧草地を見いだす。盗人は、盗み、殺し、滅ぼすためだけにやって来る。わたしは、人々がいのちを得、しかも豊かに持つために来たのである。わたしは善き羊飼いである。善き羊飼いは、羊のために命を捨てる。しかし、雇い人は、羊の飼い主ではなく、羊が自分のものではないので、狼が来るのを見ると、羊を置き去りにして逃げてしまう。すると、狼は羊を奪い、散らしてしまう。雇い人は、雇い人であるゆえに逃げ去る。彼は羊のことを気にかけていないからだ。わたしは善き羊飼いである。わたしは自分の羊を知り、私の羊もわたしを知っている。父がわたしを知っておられるように、わたしも父を知っている。そして、わたしは羊のために自分の命を捨てる。わたしには、この囲いにはいない他の羊たちもいる。それらをわたしが導き入れなければならない。そして、彼らはわたしの声を聞き、一つの群れ、一人の羊飼いとなる。

ヨハネ10:9-16
聖職者たちへの、聖体礼儀における言葉。

ヨハネによる福音書、37A節

主は、御自身のもとにやって来たユダヤ人たちに言われた。「父がわたしを愛しておられるのは、わたしが自分の命を捨てて、またそれを受け取るためである。だれもわたしからその命を奪うことはできない。わたしが自らそれを捨てるのである。わたしには、それを捨てる権威があり、また、再びそれを受け取る権威もある。この戒めは、わたしの父から受けたものである。」この言葉によって、ユダヤ人たちの間で再び論争が起きた。彼らの多くは、「彼は悪霊に取りつかれており、正気を失っている。なぜ彼の言うことを聞くのか」と言った。他の人々は、「これは悪霊に取りつかれた者の言葉ではない。悪霊が盲人の目を開くことなどできるだろうか」と言った。その頃、エルサレムでは神殿の奉献祭が行われており、冬であった。イエスは神殿のソロモンの回廊を歩いていた。そこへユダヤ人たちがイエスを取り囲み、言った。「いつまで私たちを困惑させ続けるつもりか。もしあなたがキリストなら、はっきり言ってくれ。」イエスは彼らに答えて言われた。「わたしはあなたがたに言ったが、あなたがたは信じない。わたしが父の名によって行っているわざが、わたしについて証ししている。しかし、あなたがたは信じない。それは、わたしが言ったように、あなたがたがわたしの羊ではないからだ。わたしの羊はわたしの声に聞き従い、わたしは彼らを知っており、彼らはわたしに従う。そして、わたしは彼らに永遠の命を与える。」

ヨハネ10:17-28A
復活後第5週の金曜日。

ヨハネによる福音書、37B節

その頃、エルサレムで神殿の清めの祭りが行われ、冬であった。イエスは神殿のソロモンの回廊を歩いていた。すると、ユダヤ人たちがイエスを取り囲み、言った。「いつまで私たちを惑わせ続けるつもりですか。もしあなたがキリストなら、はっきりと教えてください。」イエスは彼らに答えて言われた。「わたしはあなたがたに言ったが、あなたがたは信じない。わたしが父の名によって行っているわざが、わたしについて証ししてい

る。しかし、あなたがたは信じない。それは、わたしが言ったように、あなたがたがわたしの羊ではないからだ。わたしの羊はわたしの声に聞き従い、わたしは彼らを知っており、彼らはわたしに従う。そして、わたしは彼らに永遠の命を与える。」

ヨハネ10:22-28A
神殿の清めの日。

ヨハネによる福音書、第38章の冒頭

主は、御自身のもとにやって来たユダヤ人たちに言われた。「わたしの羊はわたしの声に聞き従い、わたしは彼らを知っている。そして、彼らはわたしに従う。また、わたしは彼らに永遠の命を与える。彼らは決して滅びることがなく、だれもわたしの手から彼らを奪い去ることはできない。わたしに彼らを授けてくださったわたしの父は、すべてにまさっておられる。だれも、わたしの父の手から彼らを奪い去ることはできない。わたしと父とは一つである。そこで、ユダヤ人たちは再び石を拾い、イエスを打ち殺そうとした。イエスは彼らに答えて言われた。「わたしは、わたしの父から与えられた多くの善いわざをあなたがたに示した。そのうちのどれのために、わたしを石で打ち殺そうというのか。」ユダヤ人たちは答えて言った。「善いわざのためにあなたを石で打ち殺そうというのではない。神を冒瀆したからであり、また、あなたが人間でありながら、自分を神だと称しているからだ。」イエスは彼らに答えて言われた。「あなたがたの律法には、『わたしはあなたがたを神々だと言った』と書いてあるではないか。神の御言葉が与えられた者たちを神々と呼んだのであれば、聖書は破られることはない。それなのに、父が聖別し、この世に遣わされた方に対して、あなたがたは、『わたしが「わたしは神の子だ」と言ったから、神を冒瀆している』と言うのか。もし私が父の業を行わないのなら、私を信じないでよい。しかし、もし行っているのなら、たとえ私を信じなくても、私の業を信じてほしい。そうすれば、父が私の中に、私が父の中にいることを知り、信じるようになるだろう。」

ヨハネ10:27-38
復活後第5週の土曜日。

ヨハネによる福音書、39節

そのころ、ベタニヤという村に、ラザロという病人がいた。そこは、マリアとその姉マルタが住んでいた村である。兄弟のラザロが病気だったマリアは、主の頭に香油を注ぎ、自分の髪で主の足を拭いた人である。姉妹たちは、主のもとへ使いを送って言った。「主よ、あなたが愛しておられる方が病気です。」イエスはそれを聞くと、こう言われた。「この病気は死に至るものではなく、神の栄光のためであり、それによって神の御子が栄光を受けるためである。」イエスはマルタとその妹、そしてラザロを愛しておられた。ラザロが病気だと聞くと、イエスはその場に二日間留まられた。その後、弟子たちに言われた。「再びユダヤへ行こう。」弟子たちはイエスに言った。「ラビ、ユダヤ人たちはつい最近まで、あなたを石打ちにしようとしていたのに、またそこへ行かれるのですか。」イエスは答えて言われた。「一日は十二時間あるではないか。昼間歩く者は、この世の光を見ているからつまずくことはない。しかし、夜歩く者は、光が伴っていないからつまずくのだ。」そう言ってから、さらに彼らに言われた。「私たちの友ラザロは眠っている。しかし、私は彼を起こしに行く。」弟子たちは言った。「主よ、もし眠っているのなら、きっと良くなるでしょう。」イエスは彼の死について語っておられたが、彼らは、イエスが普通の眠りのことを言っているのだと思っていた。そこでイエスは彼らに率直に言われた。「ラザロは死んだ。あなたがたが信じるようになるために、私がそこにいなかったことを、あなたがたのために喜んでいる。さあ、彼のところへ行こう。」すると、トマス——別名「双子」と呼ばれる者——が弟子たちに言った。「私たちも行こう。彼と

一緒に死のう。」イエスが到着すると、ラザロはすでに四日間、棺の中に横たわっていた。ベタニヤはエルサレムから十五スタディオンほど離れた場所にあり、多くのユダヤ人がマルタとマリアのもとに来て、兄弟の死を嘆く二人を慰めていた。マルタは、イエスが来られると聞いて、出迎えた。しかし、マリアは家に座っていた。そこでマルタはイエスに言った。「主よ、もしあなたがここにいらしていたなら、私の兄弟は死ななかつたでしょう。しかし、今でも、あなたが神に願われることは、神があなたに与えてくださることを知っています。」イエスは彼女に言われた。「あなたの兄弟はよみがえる。」マルタはイエスに言った。「復活の日、すなわち最後の日に、彼がよみがえることは知っています。」イエスは彼女に言われた。「わたしはよみがえりであり、いのちである。わたしを信じる者は、たとえ死んでも生きる。また、生きていてわたしを信じる者は、決して死ぬことがない。『これを信じるか』とイエスは尋ねられた。彼女は言った。「はい、主よ。あなたが、この世に来られるキリスト、神の子であると信じています。」そう言うと、彼女は行って、密かに妹のマリアを呼び、「先生がおいでになって、あなたをお呼びになっています」と言った。マリアはそれを聞くと、急いで立ち上がり、イエスのところへ行った。イエスはまだ村には入っておらず、マルタが彼に出迎えた場所にいた。家の中で彼女を慰めていたユダヤ人たちは、マリアが急いで立ち上がって出て行くのを見て、彼女が墓へ行ってそこで泣くのだと思い、彼女の後を追った。しかし、マリアはイエスがいる場所に着き、イエスを見ると、その足元にひれ伏して言った。「主よ、もしあなたがここにいらしていたなら、私の兄弟は死ななかつたでしょう。」イエスは、泣いている彼女と、彼女と一緒に来て泣いているユダヤ人たちを見て、御心深く悲しまれ、動揺して言われた。「彼をどこに葬ったのか。」彼らはイエスに言った。「主よ、行って見てください。」イエスは涙を流された。すると、ユダヤ人たちは言った。「ほら、彼がどれほど彼を愛していたか。」また、彼らの中には、「盲人の目を開かれたこの方が、この人も死なないようにすることはできなかったのか」と言う者もいた。イエスは再び心の中で悲しまれ、墓へと向かわれた。そこは洞窟で、その入り口には石が置かれていた。イエスは言われた。「その石を取り除きなさい。」死者の姉であるマルタは、イエスに言った。「主よ、もう腐敗の臭いがしています。墓に入ってから四日も経っていますから。」イエスは彼女に言われた。「もしあなたが信じるなら、神の栄光を見るだろうと、私はあなたに言わなかつたか。」そこで、人々は死者が横たわっていた洞窟の石を取り除いた。イエスは天を仰ぎ見て言われた。「父よ、あなたが私の願いを聞き入れてくださったことを感謝します。あなたがいつも私の願いを聞き入れてくださることは、私にも分かっていました。しかし、ここに立っている人々が、あなたが私を遣わされたことを信じるようにと、こう言ったのです。」そう言って、イエスは大きな声で、「ラザロよ、出てきなさい」と呼びかけられた。すると、死者は、手足に葬送用の布を巻かれ、顔には布が巻かれたまま、外に出てきた。イエスは彼らに言われた。「彼をほどいて、行かせなさい。」すると、マリアのところに来て、イエスがなされたことを見たユダヤ人の多くが、イエスを信じた。

ヨハネによる福音書 11:1-45
ラザロの安息日。

ヨハネによる福音書、第40章の冒頭

その頃、大祭司たちとパリサイ人たちは、イエスに対して集まり、こう話し合った。「どうすればよいのか。この人は多くの奇跡を行っている。このまま放っておけば、皆が彼を信じるようになり、ローマ人がやって来て、私たちの地と民を支配してしまうだろう。」その中の一人、カイアファという者——その年の大祭司であった——が、彼らに言った。「あなたがたは何も分かっていない。一人の人が民のために死ぬ方が、民全体が滅びるよりも、私たちにとって良いことだと考えないのか。」彼がこう言ったのは、自分

自身の考えからではなく、その年の大祭司として、イエスが民のために死ぬこと、そして民のためだけでなく、散らされている神の子らを一つに集めるために死ぬことを予言したのである。この日から、彼らはイエスを殺そうと決めた。それゆえ、イエスはもはやユダヤ人たちの間で公然と歩まれることはなく、そこから荒野に近い地方、エフラ임と呼ばれる町へ行き、そこで弟子たちと共に過ごされた。ユダヤ人の過越の祭りが近づき、国中から多くの人が過越の前にエルサレムに来て、身を清めていた。そこで人々はイエスを探し求め、神殿に立って互いにこう語り合った。「どう思うか。彼は祭りのために来ないだろうか。」一方、大祭司たちやパリサイ人たちは、もし誰かがイエスの居場所を知ったら、彼を捕らえるために通報するよう命じていた。

ヨハネによる福音書 11:47-57
復活祭後第6週の月曜日。

ヨハネによる福音書、41A節

過越の祭りの六日前に、イエスはベタニアに来られた。そこは、イエスが死者の中からよみがえらせたラザロのいた場所であった。そこで、人々はイエスのために夕食を用意し、マルタが給仕をし、ラザロもイエスと共に食卓に着いていた。マリアは、純度の高い貴重なナルドの香油を一ポンド取り、イエスの足に塗り、自分の髪でその足を拭いた。すると、家中は香油の香りで満たされた。その時、弟子の一人、イエスを裏切ろうとしていたユダ・シモン・イスカリオテが言った。「この香油を三百デナリで売って、貧しい人たちに分け与えたらどうだろうか。」彼がこう言ったのは、貧しい人々のことを気遣ったからではなく、彼が泥棒だったからである。彼は金箱を預かっており、そこに投げ入れられるものを管理していた。イエスは言われた。「彼女を放っておきなさい。彼女はわたしの葬りの日のためにこれをとっておいたのだ。」「貧しい人々はいつもあなたがたのそばにいますが、わたしはずっといるわけではありませんから。」多くのユダヤ人が、イエスがそこにいることを知り、イエスだけでなく、イエスが死者の中からよみがえらせたラザロを見るためにもやって来た。しかし、大祭司たちは、ラザロも殺そうと決めた。なぜなら、ラザロのせいでも多くのユダヤ人がやって来て、イエスを信じるようになっていたからである。翌日、祭りに集まっていた大勢の群衆は、イエスがエルサレムへ向かっているという話を聞くと、ヤシの枝を手に取り、イエスを出迎えて、「オサナ！ 主の御名によって来られる方、イスラエルの王よ、祝福あれ！」と叫んだ。イエスは、子ロバを見つけると、それに乗られた。それは、「シオンの娘よ、恐れるな。見よ、あなたの王が、子ロバに乗って来る」と書かれているとおりである。弟子たちは、最初はこれを理解しなかった。しかし、イエスが栄光を受けられたとき、彼らは、イエスについてそのように書かれていたことを思い出し、イエスにそうしたのである。以前イエスと共にいた人々は、イエスがラザロを墓から呼び出し、死者の中からよみがえらせたことを証言した。それゆえ、人々はイエスを出迎えたのである。イエスがこの奇跡を行ったと聞いていたからである。

ヨハネによる福音書 12:1-18
ヴァイの週、典礼にて。

ヨハネによる福音書、41B節

その頃、イエスと共にいた人々は、イエスがラザロを墓から呼び出し、死者の中からよみがえらせたことを証言していた。それゆえ、人々はイエスを出迎えた。イエスがこの奇跡を行われたと聞いていたからである。しかし、パリサイ人たちは互いにこう言い合った。「見てごらん、私たちには何もできないではないか。全世界が彼に従っている。」祭りのために礼拝にやって来た人々の中には、何人かのギリシャ人がいた。彼らは、ガリラヤのベツサイダ出身のフィリポのところへ行き、こう頼んだ。「先生、私たちはイエス

にお会いしたいのです。」フィリポは行って、そのことをアンデレに告げた。そして、アンデレとフィリポは、そのことをイエスに伝えた。イエスは彼らに答えて言われた。「人の子が栄光を受ける時が来た。まことに、まことに、あなたがたに告げる。もし一粒の麦が地に落ちて死ななければ、それはただ一粒のままである。しかし、もし死ねば、多くの実を結ぶ。自分の魂を愛する者は、それを滅ぼす。しかし、この世で自分の魂を憎む者は、それを永遠のいのちに保つ。わたしに仕える者は、わたしに従いなさい。わたしがいるところには、わたしのしもべもいる。わたしに仕える者を、わたしの父は尊ばれる。今、わたしの魂は動揺している。何と云えばよいのか。「父よ、この時からわたしを救ってください！」しかし、私はこの時のために来たのです。父よ、御名をあがめてください。すると、天から声が聞こえてきた。「すでにあがめた。また、あがめるであろう。」そこに立っていた群衆は、それを聞いて、「雷だ」と言う者もいれば、「天使が彼に話しかけたのだ」と言う者もいた。イエスはこれについて言われた。「この声は私のためではなく、民のためであった。」今、この世の裁きが行われる。今、この世の支配者は追い出される。そして、わたしが地から上げられるとき、すべての人をわたしのところへ引き寄せる。」これは、イエスがどのような死を遂げるかをほのめかして言われたのである。人々はイエスに答えて言った。「律法によれば、キリストは永遠に生きると聞いている。どうしてあなたは、『人の子は上げられなければならない』と言うのですか。この『人の子』とは、いったい誰のことですか。」そこで、イエスは彼らに言われた。「光があなたがたと共にいるのは、もうしばらくの間だけです。光があるうちに歩みなさい。そうすれば、闇に包まれることはありません。闇の中を歩く者は、どこへ行くのか分からないからです。光があなたがたと共にいる間、光を信じなさい。そうすれば、あなたがたは光の子となる。こう言って、イエスは彼らから離れて、姿を隠された。イエスは彼らの前でこれほど多くの奇跡を行われたのに、彼らはイエスを信じなかった。それは、預言者イザヤの言葉が成就するためであった。「主よ、私たちの語ったことを誰が信じたのでしょうか。主の御腕が誰に現れたのでしょうか。」それゆえ、彼らは信じることができなかった。イザヤがさらにこう言ったように、「この民は自分の目を盲目にし、心を石のように硬くした。目で見ず、心で悟らず、回心して、わたしが彼らを癒やすことのないようにするためである」。イザヤは、イエスの栄光を見て、イエスについて語ったときに、こう言ったのである。とはいえ、指導者たちの中にも、多くの人々がイエスを信じた。しかし、パリサイ人たちを恐れて、会堂から追放されないように、その信仰を公言しなかった。彼らは、神の栄光よりも、人の栄光を愛していたからである。そこで、イエスは声を高めて言われた。「わたしを信じる者は、わたしを信じるのではなく、わたしを遣わされた方を信じるのである。また、わたしを見る者は、わたしを遣わされた方を見るのである。わたしは、この世に光として来た。わたしを信じる者はだれも、闇にとどまることのないためである。もしだれかがわたしの言葉を聞いても信じないなら、わたしは彼を裁かない。わたしは、この世を裁くために来たのではなく、この世を救うために来たからである。わたしを拒み、わたしの言葉を受け入れない者には、すでに裁き主がいる。すなわち、わたしが語った言葉が、最後の日に彼を裁くのである。なぜなら、わたしは自分から語ったのではなく、わたしを遣わされた父が、何を語り、何を言うべきかをわたしに命じられたからである。そして、わたしは、その御命令が永遠のいのちであることを知っている。それゆえ、わたしが語ることは、父がわたしに言われたとおりに語るのである。

ヨハネ12:17-50
聖水曜日の早課。

ヨハネによる福音書、42A節

その頃、パリサイ人たちはイエスに対して評議會を開き、互いにこう言い合った。「見てごらん、何一つ成果が上がらないではないか。全世界が彼に従っている。」祭りのた

めに礼拝にやって来た人々の中には、何人かのギリシャ人がいた。彼らは、ガリラヤのベツサイダ出身のフィリポのところへ行き、こう頼んだ。「先生、私たちはイエスにお会いしたいのです。」 フィリポは行って、そのことをアンデレに告げた。そして、アンデレとフィリポは、そのことをイエスに伝えた。イエスは彼らに答えて言われた。「人の子が栄光を受ける時が来た。」 まことに、まことに、あなたがたに言います。もし小麦の一粒が地に落ちて死ななければ、ただ一粒のままですが、もし死ねば、多くの実を結びます。自分の命を愛する者はそれを失い、この世で自分の命を憎む者は、それを永遠の命に保ちます。 わたしに仕える者は、わたしに従いなさい。わたしがいるところには、わたしのしもべもいる。わたしに仕える者を、わたしの父は尊ばれる。今、わたしの心は動揺している。何と言えよいいのか。「父よ、この時からわたしを救ってください。」しかし、この時のために、わたしは来たのだ。「父よ、あなたの御名をあがめてください。」すると、天から声が聞こえた。「わたしはすでに栄光を現した。また、さらに栄光を現す。」そこに立ってこれを聞いていた人々は、「雷だ」と言ったが、他の人々は、「天使が彼に話しかけたのだ」と言った。イエスはこれについて言われた。「この声はわたしのためではなく、民のためであった。今、この世に対する裁きが行われる。今、この世の支配者は追い出される。そして、わたしが地から上げられるとき、すべての人をわたしのところへ引き寄せる。」これは、イエスがどのような死を遂げるかをほのめかして言われたのである。人々はイエスに答えて言った。「私たちは律法から、キリストは永遠に存続すると聞いている。それなのに、どうしてあなたは『人の子は上げられなければならない』と言うのですか。その『人の子』とは、いったい誰のことですか。」そこで、イエスは彼らに言われた。「光があなただたと共にいるのは、あと少しの間です。光があるうちに歩みなさい。そうすれば、闇に包まれることはありません。闇の中を歩く者は、どこへ行くのか分かりません。光があなただたと共にいる間、光を信じなさい。そうすれば、あなたがたは光の子となるのです。」

ヨハネによる福音書 12:19-36A
復活後第6週の火曜日。

ヨハネによる福音書、42B節

主は言われた。「父よ、御名をあがめてください。」すると、天から声が聞こえてきた。「すでにあがめた。また、あがめる。」そこに立っていた群衆は、それを聞いて、「雷だ」と言う者もいれば、「天使が彼に話しかけたのだ」と言う者もいた。イエスはこれについて言われた。「この声は、わたしのためではなく、民のためであった。」 今、この世に対する裁きが行われる。今、この世の支配者は追い出される。そして、わたしが地から上げられるとき、すべての人をわたしのところへ引き寄せる。」これは、イエスがどのような死を遂げるかをほのめかして言われたのである。人々はイエスに答えて言った。「律法によれば、キリストは永遠に存続すると聞いている。どうしてあなたは、『人の子は上げられなければならない』と言うのですか。その『人の子』とは、いったい誰のことですか。」そこで、イエスは彼らに言われた。「光があなただたと共にいるのは、あと少しの間です。光があるうちに歩みなさい。そうすれば、闇に包まれることはありません。闇の中を歩く者は、どこへ行くのか分かりません。光があなただたと共にいる間、光を信じなさい。そうすれば、あなたがたは光の子となるのです。」

ヨハネによる福音書 12:28-36A
主の十字架の挙揚、早課にて。

ヨハネによる福音書、第43章の冒頭

主は、御自身のもとにやって来たユダヤ人たちに言われた。「光があなただたとともにいる間、光を信じなさい。そうすれば、あなたがたは光の子となるであろう。」こう言

われた後、イエスは彼らから離れて、姿を隠された。主は彼らの前でこれほど多くの奇跡を行われたにもかかわらず、彼らは主を信じなかった。それは、預言者イザヤの言葉が成就するためであった。「主よ、『私たちから聞いたことを、だれが信じたか。主の御腕が、だれに現れたか。』それゆえ、彼らは信じることはできなかった。イザヤがさらに言ったように、この民は自分の目を盲目にし、心を石のように固くして、目で見ず、心で悟らず、立ち返って、わたしが彼らを癒やすことのないようにしたからである。イザヤは、イエスの栄光を見て、イエスについて語ったときに、こう言ったのである。しかし、指導者たちの中にも、イエスを信じた者は多かった。だが、パリサイ人たちを恐れて、会堂から追放されないように、その信仰を公言しなかった。彼らは、神の栄光よりも、人の栄光を愛していたからである。そこで、イエスは声を高めて言われた。「わたしを信じる者は、わたしを信じるのではなく、わたしを遣わされた方を信じるのである。また、わたしを見る者は、わたしを遣わされた方を見るのである。わたしは、この世に光として来た。わたしを信じる者はだれも、闇にとどまることのないためである。もしだれかがわたしの言葉を聞いても信じないなら、わたしは彼を裁かない。わたしは、この世を裁くために来たのではなく、この世を救うために来たからである。」

ヨハネによる福音書 12:36-47
復活後第6週の水曜日。

ヨハネによる福音書、第44章の冒頭

その頃、過越の祭りが近づく中、イエスは、この世から父のもとへ移る時が来たことを知られ、この世にいる御自分の者たちを愛し、最後まで彼らを愛し通されたことを、その行いによって示された。そして、晩餐の席で、悪魔がすでにイスカリオテのシモン・ユダに、イエスを裏切る思いを心に吹き込んでいたとき、イエスは、父がすべてのものを御自分の手に委ねておられ、また、御自身が神から出てきて、神のもとへ帰られることを知っておられた。そこで、イエスは席から立ち上がり、上着を脱ぎ、布を取り、腰に巻かれた。それから、洗面器に水を注ぎ、弟子たちの足を洗い、腰に巻いていたその布で拭き始めた。シモン・ペテロのところに来ると、ペテロはイエスに言った。「主よ！ 私の足を洗ってくださるのですか？」イエスは彼に答えて言われた。「私が今していることは、今はわからないが、後でわかるようになる。」ペテロは言った。「決して私の足を洗ってはいけません。」イエスは彼に言われた。「もし私があなたを洗わなければ、あなたは私と交わりを持つことができない。」シモン・ペテロは言った。「主よ！ 足だけでなく、手も頭も洗ってください。」イエスは彼に言われた。「すでに洗われた者は、足だけを洗えばよい。全身が清いからである。あなたがたも清いが、すべてではない。」イエスは、ご自分を裏切る者が誰であるかを知っておられたから、「あなたがたはすべて清いわけではない」と言われたのである。

ヨハネによる福音書 13:1-11
聖木曜日、足洗いに関する第一福音。

ヨハネによる福音書、第45章

そのとき、イエスは弟子たちの足を洗い、自分の服を着ると、再び席に着いて、彼らに言われた。「わたしがあなたがたにしたことを、わかっているか。あなたがたはわたしを『先生』、『主』と呼んでいる。その通りである。わたしはまさにそれだからだ。それゆえ、わたしが、主であり師であるのに、あなたがたの足を洗ったのだから、あなたがたも互いに足を洗い合うべきである。わたしがあなたがたに模範を示したのは、わたしがあなたがたにしたのと同じことを、あなたがたも行うためである。まことに、まことに、あなたがたに言う。しもべは主人に勝るものではなく、使者は遣わした者に勝るものでは

ない。もしあなたがたがこれを知っているのであれば、それを実行するとき、あなたがたは幸いである。

ヨハネ13:12-17
聖木曜日、足洗いに関する第二の福音。

ヨハネによる福音書、46節の冒頭

主は弟子たちに言われた。「今、人の子は栄光を受けた。また、神も彼の中で栄光を受けた。もし神が彼の中で栄光を受けたのなら、神も御自身の中で彼を栄光に輝かせ、まもなく彼を栄光に輝かせるであろう。子らよ。わたしがあなたがたと共にいるのは、もう長くはない。あなたがたはわたしを捜すことになる。わたしがユダヤ人たちに言ったように、『わたしが行くところには、あなたがたは来ることができない』と、今、あなたがたにも言う。あなたがたに新しい戒めを与える。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。あなたがたが互いに愛し合うなら、それによって、あなたがたがわたしの弟子であることが、すべての人にわかる。

シモン・ペテロがイエスに言った。「主よ、どこへ行かれるのですか。」イエスは彼に答えて言われた。「わたしが行くところへ、あなたは今はわたしに従うことはできない。しかし、後でわたしに従うことになる。」ペテロはイエスに言った。「主よ、なぜ今はあなたに従うことができないのですか。私はあなたのために命を捧げます。」イエスは彼に言われた。「私のために命を捧げるといえるのか。まことに、まことに、あなたに告げる。鶏が鳴く前に、あなたは三度わたしを否むだろう。あなたがたの心は動揺してはならない。神を信じ、またわたしを信じなさい。わたしの父の家には、住むべき所がたくさんある。そうでなければ、あなたがたに『あなたがたのために場所を用意しに行く』と言っただろう。そして、行ってあなたがたのために場所を用意したら、また戻って来て、あなたがたをわたしのところへ迎え入れ、あなたがたもわたしと同じ場所にいるようにする。わたしがどこへ行くのか、あなたがたは知っているし、その道も知っている。」トマスは彼に言った。「主よ、あなたがどこへ行くのかさえ知らないのに、どうしてその道を知ることができるのでしょうか。」イエスは彼に言われた。「わたしこそが道であり、真理であり、命である。わたしを通らなければ、だれも父のもとに行くことはできない。もしあなたがたがわたしを知っていたなら、わたしの父も知っていたはずだ。そして今や、あなたがたは父を知っており、父を見たのである。」フィリポはイエスに言った。「主よ、父を見てください。それだけで私たちには十分です。」イエスは彼に言われた。「フィリポ、私はこれほど長い間、あなたがたと共にいるのに、あなたは私を知らないのか。私を見た者は父を見たのである。それなのに、どうして『父を見てください』と言うのか。私が父の中にあり、父が私の中におられることを、あなたは信じないのか。私があなたがたに語る言葉は、私自身のものから出るのではない。わたしの中に住んでおられる父こそが、そのわざを行っておられるのだ。わたしが父の中にあり、父がわたしの中にいることを、わたしを信じてほしい。もしそうでないなら、少なくともわたしの行いによって、わたしを信じてほしい。まことに、まことに、あなたがたに告げる。わたしを信じる者は、わたしが行うわざを行うようになり、それ以上に大きなわざを行うようになる。それは、わたしが父のもとに行くからである。また、あなたがたがわたしの名によって父に何かを求めるなら、わたしはそれを成し遂げ、父が子によって栄光を受けるようにする。あなたがたがわたしの名によって何かを求めるなら、わたしはそれを成し遂げる。もしあなたがたがわたしを愛するなら、わたしの戒めを守りなさい。そして、わたしが父に願い求めれば、父はあなたがたに別の助け主、すなわち真理の御霊を遣わしてくださいます。その御霊は、世には受け入れられません。世はその御霊を見ず、また知らないからです。しかし、あなたがたはその御霊を知っています。その御霊はあなたがたと共にいて、あな

たがたのうちにえられるからです。わたしはあなたがたを孤児として置き去りにすることはありません。あなたがたのところへ戻ってきます。もうしばらくすれば、世はもはやわたしを見ることができなくなります、しかし、あなたがたはわたしを見る。わたしは生きているからであり、あなたがたも生きるからである。その日、あなたがたは、わたしが父の中にあり、あなたがたがわたしの中にあり、わたしがあなたがたの中にあることを知るようになる。わたしの戒めを受け入れ、それを守る者は、わたしを愛する者である。わたしを愛する者は、わたしの父に愛される。そして、わたしもその人を愛し、わたし自身がその人に現れる。 ユダ——イスカリオテではない——が、イエスに言った。「主よ、どうして、世には現れず、私たちにだけご自身を現そうとされるのですか。」イエスは彼に答えて言われた。「わたしを愛する者は、わたしの言葉を守る。そうすれば、わたしの父はその人を愛し、わたしたちは彼のところに行き、その人のうちに住まいを築く。わたしを愛さない者は、わたしの言葉を守らない。あなたがたが聞いているこの言葉は、わたしのものではなく、わたしを遣わされた父のものである。わたしはあなたがたと共にいる間に、これらのことをあなたがたに話した。しかし、父がわたしの名によって遣わされる助け主、すなわち聖霊は、あなたがたにすべてのことを教え、わたしがあなたがたに話したすべてのことを思い出させてくださる。わたしはあなたがたに平安を残し、わたしの平安をあなたがたに与える。世が与えるようなものではなく、わたしがあなたがたと与えるのだ。あなたがたの心は動揺してはならない。また、恐れてはならない。あなたがたは、わたしが『あなたがたのもとを去り、あなたがたのところへ戻ってくる』と言ったのを聞いた。もしあなたがたがわたしを愛していたなら、『わたしは父のもとへ行く』と言ったことを喜んだはずだ。なぜなら、わたしの父はわたしよりも偉大だからである。見よ、わたしは、それが起こる前に、あなたがたに告げておいた。それは、それが起こったとき、あなたがたが信じるためである。もはや、あなたがたに話すことはほとんどない。この世の支配者がやって来るからである。しかし、その者には、わたしの中に何ものもない。しかし、わたしが父を愛し、父がわたしに命じられたとおりに、わたしがそれを行うことを、この世が知るために、さあ、立ち上がって、ここから去ろう。わたしはまことのぶどうの木であり、わたしの父はぶどう園の主である。わたしにある実を結ばない枝は、父がすべて切り取り、実を結ぶ枝は、さらに多くの実を結ぶように、父がすべて清めてくださる。あなたがたは、わたしがあなたがたに宣べ伝えたみことばによって、すでに清められている。わたしにとどまりなさい。そうすれば、わたしもあなたがたの中にとどまる。枝がぶどうの木に留まらなければ、それ自体では実を結ぶことができないのと同じように、あなたがたも、わたしの中にいなければ実を結ぶことはできない。わたしはぶどうの木であり、あなたがたは枝である。わたしにとどまり、わたしもその人の中に留まる者は、多くの実を結ぶ。わたしなしには、あなたがたは何もできないからである。わたしにとどまらない者は、枝のように切り捨てられ、枯れてしまいます。そのような枝は集められて火に投げ込まれ、燃やされてしまいます。もしあなたがたがわたしにとどまり、わたしの言葉があなたがたのうちにとどまるなら、何を願っても、求めなさい。そうすれば、あなたがたに与えられます。あなたがたが多くの実を結び、わたしの弟子となるなら、それによってわたしの父は栄光を受ける。父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛した。わたしの愛にとどまりなさい。もしあなたがたがわたしの戒めを守るなら、わたしの愛にとどまることになる。わたしも父の戒めを守り、父の愛にとどまっているのと同じである。これをあなたがたに話したのは、わたしの喜びがあなたがたのうちにとどまり、あなたがたの喜びが完全なものとなるためである。これがわたしの戒めである。わたしがあなたがたを愛したように、互いに愛し合いなさい。友のために自分の命を捨てることほど、大きな愛はない。あなたがたが、わたしが命じることを行うなら、あなたがたはわたしの友である。わたしはもはや、あなたがたを「しもべ」とは呼ばな

い。しもべは、主人が何をしているのか知らないからである。しかし、わたしはあなたがたを「友」と呼んだ。なぜなら、わたしの父から聞いたことをすべて、あなたがたに告げたからである。あなたがたがわたしを選んだのではなく、わたしがあなたがたを選び、あなたがたを任命したのは、あなたがたが行って実を結び、その実が永続するようにするためである。そうすれば、あなたがたがわたしの名によって父に求めるものは何でも、父があなたがたに与えてくださる。あなたがたに命じるのは、互いに愛し合うことである。もし世があなたがたを憎むなら、世があなたがたより先にわたしを憎んだことを知っておきなさい。もしあなたがたが世に属していたなら、世は自分のものを愛したであろう。しかし、あなたがたは世に属しておらず、わたしが世からあなたがたを選んだので、世はあなたがたを憎むのである。わたしがあなたがたに言った言葉を覚えておきなさい。『しもべは主人に勝ることはない』。わたしが迫害されたなら、あなたがたも迫害されるでしょう。わたしの言葉を守ったなら、あなたがたの言葉も守られるでしょう。しかし、彼らはわたしの名のために、あなたがたにこれらすべてを行うのです。それは、わたしを遣わされた方知らないからです。もしわたしが来て、彼らに語らなかったなら、彼らには罪がなかったでしょう。しかし今や、彼らは自分の罪について弁解の余地がありません。わたしを憎む者は、わたしの父をも憎む。もしわたしが、他の誰も成し遂げたことのないわざを彼らの間で成し遂げなかったなら、彼らには罪はなかったであろう。しかし今や、彼らはそれを見て、わたしとわたしの父とを憎んだ。しかし、彼らの律法に書かれている言葉が成就するためである。「彼らはむなしくわたしを憎んだ」。さて、わたしが父からあなたがたに遣わす助け主、すなわち父から出る真理の御霊が来るとき、その御霊はわたしについて証しをなさる。また、あなたがたも証しをすることになる。あなたがたは初めからわたしと共にいたからである。わたしがこれをあなたがたに話したのは、あなたがたが惑わされないためである。あなたがたは会堂から追い出される。さらには、あなたがたを殺す者は誰でも、それによって神に仕えていると思い込む時さえ来る。彼らがそうするのは、父もわたしも知らなかったからである。しかし、わたしがこれをあなたがたに話したのは、その時が来たとき、わたしがあなたがたに告げていたことを思い出すためである。初めからこれをあなたがたに話さなかったのは、わたしがあなたがたと共にいたからである。さて、わたしはわたしを遣わされた方のところへ行くが、あなたがたのうちだれ一人として、『どこへ行くのか』とわたしに尋ねる者はいない。しかし、わたしがこれをあなたがたに言ったので、あなたがたの心は悲しみに満ちている。しかし、わたしはあなたがたに真実を言う。わたしが去るほうが、あなたがたにとってよいのだ。もしわたしが去らなければ、慰め主があなたがたのところに来られない。しかし、もし私が行けば、その方をあなたがたのところへ遣わす。その方が来られたとき、世を罪と義とさばきについて責められる。罪とは、私を信じないこと。義とは、私が父のもとへ行くこと、そしてあなたがたはもはや私を見ることがないということ。さばきとは、この世の支配者が裁かれたということである。あなたがたに語るべきことはまだたくさんあるが、今、あなたがたにはそれを受け入れることができない。しかし、真理の御霊が来られるとき、その方があなたがたをすべての真理に導いてくださる。その方は、ご自身から語るのではなく、聞いたことを語り、また、未来のことをあなたがたに告げ知らせるからである。その方はわたしを栄光に輝かせてくださる。なぜなら、その方はわたしから受け取って、あなたがたに告げ知らせるからである。父が持っておられるものはすべて、わたしのものです。それゆえ、御霊はわたしのものから受け取って、あなたがたに告げると、わたしが言ったのです。まもなく、あなたがたはわたしを見なくなるでしょう。しかし、またまもなく、わたしを見るようになるでしょう。わたしは父のもとに行くからです。そこで、弟子たちの中には、互いにこう言い合う者もいた。「『まもなくあなたがたはわたしを見なくなるが、またまもなくわたしを見る』とか、『わたしは父のもとに行く』とか、これは

一体何を言っているのだろうか。」こうして彼らは、「『まもなく』とはどういう意味だろうか。何を言っているのか分からない」と話し合った。イエスは、彼らが自分に尋ねたいと思っていることを悟り、彼らに言われた。「あなたがたは、私が『まもなくわたしを見なくなるが、またまもなくわたしを見る』と言ったことについて、互いに話し合っているのか。まことに、まことに、あなたがたに告げる。あなたがたは泣き、嘆き悲しむが、世は喜ぶ。あなたがたは悲しむが、その悲しみは喜びに変わる。」女が産むとき、その時は来たからといって苦しむ。しかし、赤ちゃんを産み出せば、喜びのあまりその苦しみをもう思い出さない。世に人が生まれたからである。あなたがたも今、悲しんでいるが、しかし、わたしはまたあなたがたに会う。そのとき、あなたがたの心は喜びに満ち、その喜びをだれもあなたがたから奪うことはできない。その日には、あなたがたはわたしに何も尋ねないだろう。まことに、まことに、あなたがたに告げる。あなたがたがわたしの名によって父に求めるものは何でも、父はあなたがたに与えてくださる。今までは、あなたがたはわたしの名によって何も求めなかった。求めなさい。そうすれば、あなたがたの喜びが完全なものとなる。これまで、わたしはあなたがたにたとえを用いて話してきた。しかし、もはやたとえを用いて話さない時が来る。その時には、父について率直にあなたがたに告げる。その日、あなたがたはわたしの名によって願い求めることになる。わたしは、あなたがたのために父に願い求める、などとは言わない。あなたがたがわたしを愛し、わたしが神から出たことを信じたからである。父ご自身があなたがたを愛しておられるのだ。わたしは父のもとから出て、この世に来た。そして今、再びこの世を去り、父のもとへ帰る。弟子たちはイエスに言った。「今、あなたははっきりとお話しになり、たとえ話は一切なさらない。今、私たちは、あなたがすべてをご存知で、誰かに尋ねられる必要がないことを悟りました。それゆえ、私たちは、あなたが神から来られたと信じます。」イエスは彼らに答えて言われた。「今になって信じるのか。見よ、時が近づいている。いや、すでに来た。あなたがたはそれぞれ自分の道へ散り、わたしを一人残すことになる。しかし、わたしは一人ではない。父がわたしと共におられるからだ。これをあなたがたに話したのは、あなたがたがわたしにあって平安を持つためである。世には苦難がある。しかし、勇気を出しなさい。わたしは世に打ち勝った。これらの言葉を語った後、イエスは目を天に向け、こう言われた。「父よ、時は来ました。御子を栄光に輝かせてください。そうすれば、御子もあなたを栄光に輝かせます。あなたは御子にすべての肉なる者に対する権威をお与えになったからです。御子が、あなたが御子に与えられたすべての人々に、永遠のいのちを与えるためです。この永遠のいのちとは、唯一のまことの神であるあなたと、あなたが遣わされたイエス・キリストとを知ることです。私は地上であなたを栄光に輝かせ、あなたが私に成し遂げるようにと委ねられた業を成し遂げました。今、父よ、あなたが御自身のもとで、私が世界の創造以前にあなたのもとで持っていた栄光をもって、私を栄光に輝かせてください。わたしは、あなたが世からわたしに与えてくださった人々に、あなたの御名を明らかにしました。彼らはもともとあなたのものであり、あなたがわたしに与えてくださったのです。そして彼らはあなたの御言葉を守りました。今や彼らは、あなたがわたしに与えてくださったものはすべて、あなたから出たものであることを悟りました。なぜなら、あなたがわたしに与えてくださった御言葉を、彼らに伝え、彼らはそれを受け入れ、私があなたから出たことを真に悟り、あなたが私を遣わされたことを信じたからです。私は彼らのために祈ります。全世界のために祈るのではなく、あなたが私に与えてくださった人々のために祈ります。彼らはあなたのものであるからです。私のものはすべてあなたのものであり、あなたのもものは私のものです。そして、私は彼らの中で栄光を受けました。わたしはもはやこの世にはいませんが、彼らはこの世にいます。しかし、わたしはあなたのもとへ行きます。聖なる父よ、あなたがわたしに与えてくださった人々を、あなたの御名によって守ってください。そうして、彼らが私

たちと同じように一つとなるように。わたしがこの世で彼らと共にあったとき、わたしはあなたの御名によって彼らを守りました。あなたがわたしに与えてくださった者たちを、わたしは守り抜きました。滅びの子を除いて、そのうちのだれ一人として滅びることはありませんでした。それは、聖書の言葉が成就するためです。今、わたしはあなたのもとへ行こうとしています。そして、この世でこう語るのには、彼らがわたしの完全な喜びを自分たちのうちにもつためです。わたしは彼らにあなたの御言葉を伝えました。そして、世は彼らを憎みました。それは、彼らがこの世のものではないからです。わたしもまた、この世のものではないのです。私は、あなたが彼らをこの世から取り去ってくださるようお願いのではなく、悪から守ってくださるよう願います。彼らはこの世のものではありません。わたしもこの世のものではありません。あなたの真理によって彼らを聖別してください。あなたの御言葉こそが真理です。あなたがわたしをこの世に遣わされたように、わたしも彼らをこの世に遣わしました。そして、彼らのために、わたし自身をささげます。そうすれば、彼らも真理によって聖別されるのです。ただ彼らのためだけでなく、彼らの言葉によってわたしを信じる人々のためにも、祈ります。父よ、あなたがわたしの中に、またわたしがあなたの中にいるように、彼らも私たちの中に一つとなるように。そうすれば、世は、あなたがわたしを遣わされたことを信じるでしょう。また、あなたがわたしに与えてくださった栄光を、わたしは彼らに与えました。わたしたちが一つであるように、彼らも一つとなりますように。わたしは彼らの中にあり、あなたはわたしの中にいます。彼らが完全に一つとなり、世が、あなたがわたしを遣わされたこと、また、わたしを愛されたのと同じように彼らを愛されたことを知るようになりますように。父よ！あなたがわたしに与えてくださった者たちを、わたしがいるところに彼らもわたしと共にいられるようにしたいのです。あなたが、世の基が据えられる前からわたしを愛してくださったゆえに、あなたがわたしに与えてくださったわたしの栄光を、彼らにも見させてください。義なる父よ！世はあなたを知りませんでした、わたしはあなたを知り、また、彼らもあなたがわたしを遣わされたことを知りました。また、わたしは彼らにあなたの御名を明らかにしましたし、これからも明らかにしていきます。それは、あなたがわたしを愛してくださったその愛が、彼らの中にあるように、また、わたしが彼らの中にあるようにするためです。こう言われた後、イエスは弟子たちと共にケドロン川を渡り、そこにあった園へ入られました。イエスと弟子たちもその園に入りました。

ヨハネ13:31b-18:1
聖金曜日、早課の第1福音書。

ヨハネによる福音書、第47章の冒頭

主は弟子たちに言われた。「あなたがたの心は動揺してはならない。神を信じ、またわたしを信じなさい。わたしの父の家には、住むべき所がたくさんある。もしそうでなかったなら、あなたがたのために場所を用意しに行く、とあなたがたに言っただろう。そして、わたしが行って、あなたがたのために場所を用意したら、また戻って来て、あなたがたをわたしのところへ迎え入れ、あなたがたもわたしがいるところにいるようにする。わたしがどこへ行くのか、あなたがたは知っているし、その道も知っている。」トマスが言った。「主よ、あなたがどこへ行かれるのか、私たちは知りません。どうしてその道を知ることができるのでしょうか。」イエスは彼に言われた。「わたしは道であり、真理であり、命である。わたしを通らなければ、だれも父のもとに行くことはできない。もしあなたがたがわたしを知っていたなら、わたしの父も知っていたはずだ。そして今や、あなたがたは父を知っており、父を見たのである。」フィリポがイエスに言った。「主よ、父を見せてください。それだけで私たちには十分です。」イエスは彼に言われた。「これほど長い間、あなたがたと共にいるのに、フィリポ、あなたはわたしを知らないのか。わたしを見た者は、父を見たのです。それなのに、どうして『父を見せてください』と言う

のですか。わたしが父の中にあり、父がわたしの中にいることを、あなたは信じないのですか。わたしがあなたがたに語る言葉は、わたし自身から出るものではありません。わたしの中に住んでおられる父が、その業を行っておられるのです。わたしが父の中にあり、父がわたしの中にいることを、信じてください。」

ヨハネ14:1-11A
復活祭後第6週の金曜日。

ヨハネによる福音書、48A節

主は弟子たちに言われた。「わたしがあなたがたに語る言葉は、わたし自身から出るものではない。わたしの中に住んでおられる父が、その業を行っておられるのだ。わたしが父の中にあり、父がわたしの中にいることを、わたしを信じてほしい。もしそうではないとしても、わたしの行いそのものによって、わたしを信じてほしい。まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしを信じる者は、わたしが行う業を行うようになり、それ以上に大きな業を行うようになります。それは、わたしが父のもとに行くからです。また、あなたがたがわたしの名によって父に何かを求めるなら、わたしはそれを成し遂げます。そうすれば、父が子によって栄光を受けられるのです。あなたがたがわたしの名によって何かを求めるなら、わたしはそれを成し遂げます。もしわたしを愛するなら、わたしの戒めを守りなさい。そうすれば、わたしは父に願い求め、父はあなたがたに別の助け主、すなわち真理の御霊を遣わしてくださる。その方は、世には受け入れられない。世はその方を見ず、また知らないからである。しかし、あなたがたはその方を知っている。その方はあなたがたと共にいて、あなたがたのうちにおられるからである。わたしはあなたがたを孤児として置き去りにすることはない。わたしはあなたがたのところに来る。もうしばらくすれば、世はわたしを見なくなる。しかし、あなたがたはわたしを見る。わたしは生きているからであり、あなたがたも生きるからである。その日、あなたがたは、わたしが父の中にあり、あなたがたがわたしの中にあり、わたしがあなたがたの中にあることを知るようになる。わたしの戒めを受け入れ、それを守る者は、わたしを愛する者である。わたしを愛する者は、わたしの父に愛される。そして、わたしもその人を愛し、わたし自身がその人に現れる。

ヨハネ14:10b-21
復活祭後第6週の土曜日。

ヨハネによる福音書、48B節

主は弟子たちに言われた。「わたしの戒めを受け入れ、それを守る者は、わたしを愛する者である。わたしを愛する者は、わたしの父に愛される。そして、わたしもその人を愛し、その人にわたし自身を現す。」ユダ——イスカリオテではない——が、主に向かって言った。「主よ、なぜ、世ではなく、私たちに御自身を現そうとされるのですか？」イエスは彼に答えて言われた。「わたしを愛する者は、わたしの言葉を守る。そうすれば、わたしの父もその人を愛し、わたしたちは彼のところに行き、その人のうちに住まいを築く。わたしを愛さない者は、わたしの言葉を守らない。あなたがたが聞いているこの言葉は、わたしのものではなく、わたしを遣わされた父のものである。

ヨハネ14:21-24
6月19日、使徒ユダ。

ヨハネによる福音書、第49章の冒頭

主は弟子たちに言われた。「あなたがたの心は動揺してはならない。また、恐れてはならない。あなたがたは、わたしが『あなたがたのもとを去って、またあなたがたのところに戻ってくる』と言ったのを聞いた。もしあなたがたがわたしを愛していたなら、『わ

たしが父のもとに行く』と言ったことを喜んだはずである。なぜなら、わたしの父はわたしよりも偉大だからである。見よ、わたしは、それが起こる前にあなたがたに告げておいた。それは、それが起こったとき、あなたがたが信じるためである。もはや、あなたがたに話すことはほとんどない。この世の支配者がやって来るからである。しかし、その者には、わたしの中に何ももない。しかし、世が、わたしが父を愛していること、また、父がわたしに命じられたとおりに、わたしがそれを行っていることを知るために、さあ、立ち上がって、ここから去ろう。わたしはまことのぶどうの木であり、わたしの父はぶどう園の主である。わたしにある実を結ばない枝は、父がすべて切り取り、実を結ぶ枝は、さらに多くの実を結ぶように、父がすべて清めてくださる。あなたがたは、わたしがあなたがたに宣べ伝えたみことばによって、すでに清められている。わたしにとどまりなさい。そうすれば、わたしもあなたがたの中にとどまる。枝がぶどうの木に留まらなければ、それ自体では実を結ぶことができないのと同じように、あなたがたも、わたしの中にいなければ実を結ぶことはできない。わたしはぶどうの木であり、あなたがたは枝である。わたしにとどまり、わたしもその人の中に留まる者は、多くの実を結ぶ。わたしなしには、あなたがたは何もできないからである。わたしにとどまらない者は、枝のように切り捨てられ、枯れてしまいます。そのような枝は集められて火に投げ込まれ、燃やされてしまいます。もしあなたがたがわたしにとどまり、わたしの言葉があなたがたのうちにとどまるなら、何を願っても、求めなさい。そうすれば、あなたがたに与えられます。

ヨハネ14:27b-15:7
復活後第7週の月曜日。

ヨハネによる福音書、第50章

主は弟子たちに言われた。「わたしはまことのぶどうの木であり、わたしの父はぶどう園の主である。わたしにある枝で実を結ばないものは、父がすべて切り取り、実を結ぶものは、さらに多くの実を結ぶように清めてくださる。あなたがたは、わたしがあなたがたに宣べ伝えたみことばによって、すでに清められている。わたしにとどまりなさい。そうすれば、わたしもあなたがたの中にとどまる。枝がぶどうの木に留まらなければ、それ自体では実を結ぶことができないのと同じように、あなたがたも、わたしにとどまらなければ実を結ぶことができない。わたしはぶどうの木であり、あなたがたは枝である。わたしにとどまり、わたしもその人にとどまる者は、多くの実を結ぶ。わたしなしには、あなたがたは何もできないからである。わたしにとどまらない者は、枝のように切り捨てられ、枯れてしまいます。そのような枝は集められて火に投げ込まれ、燃やされてしまいます。もしあなたがたがわたしにとどまり、わたしの言葉があなたがたのうちにとどまるなら、何を願っても、求めなさい。そうすれば、あなたがたに与えられます。

ヨハネ15:1-7
9月2日、殉教者マメント。

ヨハネによる福音書、第51章

主は弟子たちに言われた。「父がわたしを愛されたように、わたしもあなたがたを愛した。あなたがたはわたしの愛にとどまりなさい。もしあなたがたがわたしの戒めを守るなら、わたしの愛にとどまることになる。わたしも父の戒めを守り、父の愛にとどまっているのと同じである。これをあなたがたに話したのは、わたしの喜びがあなたがたのうちにとどまり、あなたがたの喜びが満ちあふれるためである。これがわたしの戒めである。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。友のために自分の命を捨てることほど、大きな愛はない。あなたがたが、わたしがあなたがたに命じることを行うなら、あなたがたはわたしの友である。わたしはもはやあなたがたを「しもべ」とは呼びません。しもべは、主人が何をしているのか知らないからです。しかし、

わたしはあなたがたを「友」と呼びました。それは、わたしの父から聞いたことをすべてあなたがたに告げたからです。あなたがたがわたしを選んだのではなく、わたしがあなたがたを選び、あなたがたを任命したのは、あなたがたが行って実を結び、その実が永続するようにするためである。そうすれば、あなたがたがわたしの名によって父に求めるものは何でも、父があなたがたに与えてくださる。

ヨハネ15:9-16
5月11日、聖殉教者モキオス。

ヨハネによる福音書、第52章

主は弟子たちに言われた。「あなたがたにこの戒めを与える。互いに愛し合いなさい。もし世があなたがたを憎むなら、世があなたがたより先にわたしを憎んだことを知っておきなさい。もしあなたがたが世のものであったなら、世は自分のものを愛したであろう。しかし、あなたがたは世のものではなく、わたしが世からあなたがたを選んだので、世はあなたがたを憎むのである。わたしがあなたがたに言った言葉を覚えておきなさい。「しもべは主人に勝ることはない」。わたしが迫害されたなら、あなたがたも迫害されるでしょう。わたしの言葉を守ったなら、あなたがたの言葉も守られるでしょう。しかし、彼らはわたしの名のために、あなたがたにこれらすべてを行うのです。それは、わたしを遣わされた方を知らないからです。もしわたしが来て、彼らに語らなかったなら、彼らには罪がなかったでしょう。しかし今や、彼らは自分の罪について弁解の余地がありません。わたしを憎む者は、わたしの父をも憎む。もしわたしが、他の誰も成し遂げたことのないわざを彼らの間で成し遂げなかったなら、彼らには罪はなかったであろう。しかし今や、彼らはそれを見て、わたしとわたしの父とを憎んだ。しかし、彼らの律法に書かれている言葉が成就するためである。『彼らはむなしくわたしを憎んだ』と。さて、わたしが父からあなたがたに遣わす助け主、すなわち父から出る真理の御霊が来るとき、その方がわたしについて証しをなさる。また、あなたがたも証しをすることになる。あなたがたは初めからわたしと共にいたからである。わたしがこれをあなたがたに話したのは、あなたがたが惑わされないためである。あなたがたは会堂から追い出される。さらには、あなたがたを殺す者は誰でも、それによって神に仕えていると思い込む時さえ来る。

ヨハネ15:17-16:2
復活祭後第3週の安息日。
殉教者たち。

ヨハネによる福音書、第53章

主は弟子たちに言われた。「あなたがたを殺す者すべてが、それによって神に仕えていると思い込む時が来る。彼らは、父もわたしも知らなかったから、そうするのだ。しかし、わたしがこれをあなたがたに話したのは、その時が来たとき、あなたがたが、わたしがあなたがたに話していたことを思い出すためである。初めからこれをあなたがたに話さなかったのは、私があなたがたと共にいたからである。しかし今、私を遣わされた方のところへ行くが、あなたがたのうちだれ一人として、『どこへ行くのか』と私に尋ねる者はいない。しかし、私がこれをあなたがたに言ったので、あなたがたの心は悲しみに満ちている。しかし、私はあなたがたに真実を言う。私が去る方が、あなたがたにとってよいのである。なぜなら、もし私が去らなければ、慰め主があなたがたのところに来られない。しかし、もし私が行けば、その方をあなたがたのところへ遣わす。その方が来られたとき、世を罪と、義と、さばきについて責められる。罪とは、私を信じないこと。義とは、私が父のもとへ行くこと、そしてあなたがたはもはや私を見ることがないということ。さばきとは、この世の支配者が裁かれたということである。あなたがたに語るべきこと

はまだたくさんあるが、今はあなたがたには受け入れることができない。しかし、真理の御霊が来られるとき、その方があなたがたをすべての真理に導いてくださる。

ヨハネ16:2B-13A
復活後第7週の火曜日。

ヨハネによる福音書、54節

主は弟子たちに言われた。「父が持つておられるものはすべて、わたしのものです。それゆえ、父から取って、あなたがたに告げると言ったのです。まもなく、あなたがたはわたしを見なくなるが、またまもなくわたしを見るようになる。わたしは父のもとに行くからです。そこで、弟子たちの中には、互いにこう言い合う者もいた。「『まもなくわたしを見なくなるが、またまもなくわたしを見る』とか、『わたしは父のもとへ行く』とか、主は私たちに何を言っておられるのだろうか。」こうして彼らは、「『まもなく』とはどういう意味だろうか。主が何を言っておられるのか分からない」と話し合った。イエスは、彼らが自分に尋ねたいと思っていることを悟って、彼らに言われた。「あなたがたは、私が『まもなくわたしを見なくなるが、またまもなくわたしを見る』と言ったことについて、互いに話し合っているのか。まことに、まことに、あなたがたに告げる。あなたがたは泣き、嘆き悲しむが、世は喜ぶ。あなたがたは悲しむが、その悲しみは喜びに変わる。」女が産むとき、その時は来たからといって苦しむ。しかし、赤ちゃんを産み出せば、喜びのあまりその苦しみをもう思い出さない。なぜなら、人がこの世に生まれたからである。あなたがたも今、悲しんでいる。しかし、わたしは再びあなたがたに会う。そのとき、あなたがたの心は喜びで満たされ、その喜びをだれもあなたがたから奪うことはできない。その日、あなたがたはわたしに何も尋ねることはない。まことに、まことに、あなたがたに告げる。あなたがたがわたしの名によって父に何を願っても、父はあなたがたに与えてくださる。

ヨハネ16:15-23
復活後第7週の水曜日。

ヨハネによる福音書、第55章の冒頭

主は弟子たちに言われた。「まことに、まことに、あなたがたに告げます。あなたがたがわたしの名によって父に何を願っても、父はあなたがたに与えてくださいます。これまで、あなたがたはわたしの名によって何も願いませんでした。願いなさい。そうすれば、あなたがたの喜びが全うされるように、あなたがたは受け取るでしょう。これまで、わたしはあなたがたにたとえを用いて話してきた。しかし、もうすぐ、たとえを用いずに、父について率直にあなたがたに告げる時が来る。その日、あなたがたはわたしの名によって願い求めることになる。わたしは、あなたがたのために父に願い求める、などとは言わない。あなたがたがわたしを愛し、わたしが神から出たことを信じたからである。わたしは父のもとから出て、この世に来た。そして今、再びこの世を去り、父のもとへ帰る。弟子たちはイエスに言った。「今、あなたははっきりとお話しになり、たとえ話は一切なさらない。今、私たちは、あなたがすべてをご存知で、誰かに尋ねられる必要がないことを悟りました。それゆえ、私たちは、あなたが神から来られたと信じます。」イエスは彼らに答えて言われた。「今になって信じるのか。見よ、時が近づいている。いや、すでに来た。あなたがたはそれぞれ自分の道へ散り、わたしを一人残すことになる。しかし、わたしは一人ではない。父がわたしと共におられるからだ。あなたがたがわたしにあって平安を持つために、わたしはこれをあなたがたに話したのだ。」

ヨハネ16:23B-33A
復活後第7週の木曜日。

ヨハネによる福音書、第56章の冒頭

そのとき、イエスは目を天に向け、こう言われた。「父よ、時は来ました。御子を栄光に輝かせてください。そうすれば、御子もあなたを栄光に輝かせます。あなたは御子にすべての肉なる者に対する権威をお与えになりました。御子が、あなたが御子に与えられたすべての者に、永遠のいのちを与えるためです。この永遠のいのちとは、唯一のまことの神であるあなたと、あなたが遣わされたイエス・キリストとを知ることです。私は地上であなたを栄光に輝かせ、あなたが私に成し遂げるよう委ねられた業を成し遂げました。今、父よ、あなたが御自身のもとで、私が世界の創造以前にあなたのもとで持っていた栄光をもって、私を栄光に輝かせてください。わたしは、あなたが世からわたしに与えてくださった人々に、あなたの御名を明らかにしました。彼らはもともとあなたのものであり、あなたがわたしに与えてくださったのです。そして彼らはあなたの御言葉を守りました。今や彼らは、あなたがわたしに与えてくださったものはすべて、あなたから出たものであることを悟りました。なぜなら、あなたがわたしに与えてくださった御言葉を、彼らに伝え、彼らはそれを受け入れ、私があなたから出たことを真に悟り、あなたが私を遣わされたことを信じたからです。私は彼らのために祈ります。全世界のために祈るのではなく、あなたが私に与えてくださった人々のために祈ります。彼らはあなたのものであるからです。私のものはすべてあなたのものであり、あなたのもものは私のものです。そして、私は彼らの中で栄光を受けました。わたしはもはやこの世にはいませんが、彼らはこの世にいます。しかし、わたしはあなたのもとへ行きます。聖なる父よ、あなたがわたしに与えてくださった人々を、あなたの御名によって守ってください。そうして、彼らが私たちと同じように一つとなるように。わたしが世にいて彼らと共にいたとき、わたしはあなたの御名によって彼らを守りました。あなたがわたしに与えてくださった者たちを、わたしは守り抜きました。滅びの子を除いて、彼らの中から一人も滅びる者はいませんでした。それは、聖書の言葉が成就するためです。今、わたしはあなたのもとへ行きます。世にいる彼らにこう語るのには、彼らがわたしのもつ完全な喜びを自分たちのうちにもつためです。

ヨハネ 17:1-13

復活後第7週、第1全地公会議の聖なる教父たち。

ヨハネによる福音書、57節

そのとき、イエスは目を天に向け、こう言われた。「父よ、あなたがわたしを世に遣わされたように、わたしも彼らを世に遣わしました。そして、彼らのために、わたしは自分自身をささげます。そうすれば、彼らも真理によって聖別されるからです。わたしは彼らだけのために祈るのではなく、彼らの言葉によってわたしを信じる者たちのためにも祈ります。父よ、あなたがわたしの中に、またわたしがあなたの中にあるように、彼らも私たちの中の一つとなるように。そうすれば、世はあなたがわたしを遣わされたことを信じるでしょう。また、あなたがわたしに与えてくださった栄光を、わたしは彼らに与えました。わたしたちが一つであるように、彼らも一つとなりますように。わたしは彼らの中にあり、あなたはわたしの中にいます。彼らが完全に一つとなり、世が、あなたがわたしを遣わされたこと、また、わたしを愛されたのと同じように彼らを愛されたことを知るようになりますように。父よ！あなたがわたしに与えてくださった者たちを、わたしがいるところに彼らもわたしと共にいられるようにしたいのです。あなたが、世の基が据えられる前からわたしを愛してくださったゆえに、あなたがわたしに与えてくださったわたしの栄光を、彼らにも見させてください。義なる父よ！世はあなたを知りませんでした。私はあなたを知り、これらの人々も、あなたが私を遣わされたことを知りました。私は彼らにあなたの御名を明らかにしましたし、これからも明らかにしていきます。それは

、あなたが私を愛してくださったその愛が、彼らの中にあるように、また私が彼らの中にあるようにするためです。

ヨハネ17:18-26
復活後第7週の金曜日。

ヨハネによる福音書、58節の初め

その頃、イエスは弟子たちを連れてケドロン川を渡り、そこにあった園へ入られた。イエスと弟子たちはその園に入った。イエスを裏切ったユダも、その場所を知っていた。イエスはよくそこで弟子たちと集まっていたからである。そこで、ユダは、大祭司やパリサイ人たちから兵士や役人たちの部隊を引き連れ、松明やランプ、そして武器を持ってそこへやって来た。イエスは、ご自身に何が起こるかをすべて知っておられたので、外に出て彼らに言われた。「誰を探しているのか。」彼らは答えた。「ナザレのイエスです。」イエスは彼らに言われた。「わたしだ。」そこには、イエスを裏切ったユダも彼らと一緒に立っていた。イエスが「わたしだ」と言われたとき、彼らは後ずさりして地面に倒れた。イエスは再び彼らに尋ねた。「だれを探しているのか。」彼らは言った。「ナザレのイエスです。」イエスは答えた。「『わたしだ』とすでに言ったではないか。もしわたしを探しているのなら、彼らを放して行かせなさい。そうすれば、『あなたがわたしに与えてくださった者たちのうち、わたしは一人も滅ぼさなかった』という御言葉が成就するからだ。」シモン・ペテロは剣を持っていたので、それを抜き、大祭司のしもべを打ち、その右の耳を切り落とした。そのしもべの名前はマルコであった。しかし、イエスはペテロに言われた。「剣を鞘に納めなさい。父がわたしに与えてくださった杯を、わたしが飲まないでいられるだろうか。」そこで、兵士たちと千人隊長、そしてユダヤ人の役人たちは、イエスを捕らえて縛り、まずアンナのもとに連れて行った。アンナは、その年の大祭司であったカイアフアの義父であった。このカイアフアこそ、ユダヤ人たちに、「一人の人が民のために死ぬほうがよい」と助言した者であった。イエスの後を、シモン・ペテロと、もう一人の弟子が従っていた。この弟子は大祭司と顔見知りだったので、イエスと共に大祭司の庭に入った。しかし、ペテロは門の外に立っていた。すると、大祭司と顔見知りだったもう一人の弟子が外に出てきて、門番の女に告げ、ペテロを中へ案内した。すると、門番の女中がペテロに言った。「あなたも、あの人の弟子の一人ではありませんか。」ペテロは「いいえ」と答えた。その間、奴隷や使用人たちは、寒かったので火を焚き、そこに立って暖をとっていた。ペテロも彼らと一緒に立って暖をとっていた。大祭司はイエスに、弟子たちのことや教えについて尋ねた。イエスは彼に答えて言われた。「わたしは世に公然と語ってきた。いつも会堂や、ユダヤ人たちが集まる神殿で教えてきた。隠れて何かを語ったことは一度もない。なぜわたしに尋ねるのか。わたしが彼らに語ったことを聞いた人たちに尋ねなさい。見よ、彼らはわたしが何を語ったか知っている。」イエスがこう言われたとき、近くに立っていた奉仕者の一人が、イエスの頬を平手打ちして言った。「大祭司にそう答えるのか。」イエスは彼に答えて言われた。「もし私が悪いことを言ったのなら、それがどこが悪いのか示せ。もし正しいことなら、なぜ私を打つのか。」アンナは、イエスを縛ったまま大祭司カイアフアのもとへ送った。シモン・ペテロはそこに立って、火のそばで暖まっていた。すると、ある者が彼に言った。「あなたも、あの人の弟子の一人ではないか。」彼はそれを否定して、「いいえ」と言った。大祭司の僕の一、ペテロが耳を切り落とした男の親族が言った。「私が、園であなたが彼と一緒にいるのを見なかったか。」ペテロは再び否定した。すると、すぐに雄鶏が鳴いた。カイアフアのもとから、イエスは総督の官邸へ連行された。朝になっていた。彼らは、身を汚さないため、また過越の食事をとれるようにするために、総督の官邸には入らなかった。

ヨハネによる福音書、59A節

その頃、イエスはカイアファから総督官邸へ連行された。それは朝のことだった。彼らは、不浄になることを避けるため、また過越の食事をとれるようにするため、総督官邸には入らなかった。ピラトは彼らのもとに出て来て言った。「あなたがたはこの人を何の罪で告発するのか。」彼らは答えて言った。「もし彼が悪人ではなかったなら、私たちは彼をあなたに引き渡したりはしなかったでしょう。」ピラトは彼らに言った。「あなたがた自身で彼を引き取り、あなたがたの律法に従って裁きなさい。」ユダヤ人たちは彼に言った。「私たちには、だれをも死刑にする権限はありません。」——これは、イエスが、ご自身がどのような死を遂げるかをほのめかして言われた言葉が成就するためであった。そこでピラトは再び総督官邸に入り、イエスを呼び出して言った。「あなたはユダヤ人の王か。」イエスは彼に答えて言われた。「それはあなた自身の考えか。それとも、他の者たちがわたしについてあなたに告げたのか。」ピラトは答えた。「私がユダヤ人だろうか。あなたの民と祭司長たちが、あなたを私に引き渡したのだ。あなたは一体何をしたというのか。」イエスは言われた。「わたしの王国はこの世のものではない。もしわたしの王国がこの世のものであったなら、わたしのしもべたちは、わたしがユダヤ人たちに引き渡されないように、わたしのために戦ったはずだ。しかし、今や、わたしの王国はこの世のものではない。」ピラトはイエスに言った。「では、あなたは王なのか。」イエスは答えて言われた。「あなたがそう言うのです。私は、真理について証しをするために生まれ、この世に来たのです。真理に属する者は皆、私の声に耳を傾けます。」ピラトはイエスに言った。「真理とは何ですか。」そう言って、再びユダヤ人たちのところへ出て行き、彼らに言った。「私はこの人に何の罪も見いだせない。」『あなたがたには、過越の祭りのたびに、一人を釈放するという慣習がある。もし望むなら、ユダヤ人の王を釈放してやろうか。』すると、再び皆が叫んで言った。「この人ではなく、バラバを。」バラバは強盗であった。そこでピラトはイエスを引き取り、鞭打たせた。兵士たちは、いばらの冠を編んでイエスの頭に載せ、緋色の衣を着せ、「ユダヤの王よ、万歳！」と言って、頬を打った。ピラトは再び外に出て、彼らに言った。「さあ、この人をあなたがたの前に連れ出す。私がこの人に何の罪も見出さないことを、あなたがたに知ってもらうためだ。」すると、イエスはいばらの冠と緋色の外套を身にまとして出てきた。ピラトは彼らに言った。「見よ、この人だ。」しかし、大祭司や役人たちはイエスを見ると、叫んで言った。「十字架につけよ、十字架につけよ！」ピラトは彼らに言った。「あなたがたが彼を引き取って、十字架につけなさい。私はこの人に何の罪も見いださない。」ユダヤ人たちは彼に答えた。「私たちには律法があり、その律法によれば、彼は死ななければならない。なぜなら、彼は自分を神の子だと名乗ったからだ。」ピラトはこの言葉を聞いて、ますます恐れた。そして再び総督官邸に入り、イエスに言った。「あなたはどこから来たのか。」しかし、イエスは彼に答えなかった。ピラトはイエスに言った。「わたしに答えないのか。わたしには、あなたを十字架につける権威も、釈放する権威もあることを知らないのか。」イエスは答えて言われた。「もし上から与えられていなければ、あなたはわたしに対して何の権威も持たなかっただろう。それゆえ、わたしをあなたに引き渡した者の罪は、より重い。」この時から、ピラトはイエスを釈放しようと努めた。しかし、ユダヤ人たちは叫んで言った。「もし彼を釈放するなら、あなたはカエサルの味方ではない。自分を王とする者は皆、カエサルの敵である。」ピラトはこの言葉を聞くと、イエスを外に連れ出し、リフォストロトンと呼ばれる場所、ヘブライ語でガヴァファと呼ばれる裁判所の席に着いた。その日は過越祭前の金曜日で、第六時であった。ピラトはユダヤ人たちに言った。「見よ、あなたがたの王だ。」しかし、彼らは叫んだ。「引き渡せ

、引き渡せ、彼を十字架につけよ！」ピラトは彼らに言った。「あなたがたの王を十字架につけるのか。」大祭司たちは答えた。「私たちには、カエサル以外の王はいない。」そこで、ついにピラトはイエスを彼らに引き渡し、十字架につけさせた。

ヨハネによる福音書 18:28-19:16A
聖金曜日、早課における第4福音書。

ヨハネによる福音書、59B節の冒頭

その頃、イエスはカイアファから総督官邸へ連行された。それは朝のことだった。彼らは、汚れることを避けるため、また過越の食事をとれるようにするため、総督官邸には入らなかった。ピラトは彼らのもとに出て来て言った。「あなたがたはこの人を何の罪で告発するのか。」彼らは答えて言った。「もし彼が悪人ではなかったなら、私たちは彼をあなたに引き渡したりはしなかったでしょう。」ピラトは彼らに言った。「あなたがた自身で彼を引き取り、あなたがたの律法に従って裁きなさい。」ユダヤ人たちは彼に言った。「私たちには、だれをも死刑にする権限はありません。」——これは、イエスが、ご自身がどのような死を遂げるかをほのめかして言われた言葉が成就するためであった。そこでピラトは再び総督官邸に入り、イエスを呼び出して言った。「あなたはユダヤ人の王か。」イエスは彼に答えて言われた。「それはあなた自身の考えか。それとも、他の者たちがわたしについてあなたに告げたのか。」ピラトは答えた。「私がユダヤ人だろうか。あなたの民と祭司長たちが、あなたを私に引き渡したのだ。あなたは一体何をしたいのか。」イエスは言われた。「わたしの王国はこの世のものではない。もしわたしの王国がこの世のものであったなら、わたしのしもべたちは、わたしがユダヤ人たちに引き渡されないように、わたしのために戦ったはずだ。しかし、今や、わたしの王国はこの世のものではない。」ピラトはイエスに言った。「では、あなたは王なのか。」イエスは答えて言われた。「あなたがそう言うのです。私は、真理について証しをするために生まれ、この世に来たのです。真理に属する者は皆、私の声に耳を傾けます。」ピラトはイエスに言った。「真理とは何ですか。」そう言って、再びユダヤ人たちのところへ出て行き、彼らに言った。「私はこの人に何の罪も見いだせない。」『あなたがたには、過越の祭りのたびに、一人を釈放するという慣習がある。もし望むなら、ユダヤ人の王を釈放してやろうか。』すると、再び皆が叫んで言った。「この人ではなく、バラバを。」バラバは強盗であった。そこでピラトはイエスを引き取り、鞭打たせた。兵士たちは、いばらの冠を編んでイエスの頭に載せ、緋色の衣を着せ、「ユダヤの王よ、万歳！」と言って、頬を打った。ピラトは再び外に出て、彼らに言った。「さあ、この人をあなたがたの前に連れ出す。私がこの人に何の罪も見出さないことを、あなたがたに知ってもらうためだ。」すると、イエスはいばらの冠と緋色の衣を身にまとして出てきた。ピラトは彼らに言った。「見よ、この人だ！」しかし、大祭司や役人たちはイエスを見ると、叫んで言った。「十字架につけよ、十字架につけよ！」ピラトは彼らに言った。「あなたがたが彼を引き取って、十字架につけなさい。私はこの人に何の罪も見いださない。」ユダヤ人たちは彼に答えて言った。「私たちには律法があり、その律法によれば、彼は死ななければならない。なぜなら、彼は自分を神の子だと名乗ったからだ。」ピラトはこの言葉を聞いて、ますます恐れた。そして再び総督官邸に入り、イエスに言った。「あなたはどこから来たのか。」しかし、イエスは彼に答えなかった。ピラトはイエスに言った。「わたしに答えないのか。わたしには、あなたを十字架につける権威も、釈放する権威もあることを知らないのか。」イエスは答えて言われた。「もし上から与えられていなければ、あなたはわたしに対して何の権威も持たなかっただろう。それゆえ、わたしをあなたに引き渡した者の罪は、より重い。」この時から、ピラトはイエスを釈放しようと努めた。しかし、ユダヤ人たちは叫んで言った。「もし彼を釈放するなら、あなたはカエサルの味方ではない。自分を王とする者は皆、カエサルの敵である。」ピラトはこの言葉を聞くと、イエ

スを外に連れ出し、リフォストロトンと呼ばれる場所、ヘブライ語でガヴァファと呼ばれる裁判の席に着いた。その日は過越の祭りの前の金曜日で、第六時であった。ピラトはユダヤ人たちに言った。「見よ、あなたがたの王だ。」しかし、彼らは叫んだ。「引き渡せ、引き渡せ、彼を十字架につけよ！」ピラトは彼らに言った。「あなたがたの王を十字架につけるのか。」祭司長たちは答えた。「私たちには、カエサル以外の王はいない。」そこで、ピラトはついにイエスを彼らに引き渡し、十字架につけることにした。人々はイエスを捕らえて連れ去った。イエスはご自身の十字架を背負って、「顎の丘」、ヘブライ語でゴルゴタと呼ばれる場所へ出られた。そこで、イエスと、その左右に二人の犯罪者を、イエスを真ん中にして十字架につけた。ピラトはまた、銘板を書いて十字架の上に掲げた。そこには、「ナザレのイエス、ユダヤ人の王」と書かれていた。イエスが十字架につけられた場所は町から遠くなかった上、その銘板はヘブライ語、ギリシャ語、ラテン語で書かれていたため、多くのユダヤ人がそれを読んだ。ユダヤ人の大祭司たちはピラトに言った。「『ユダヤ人の王』と書くのではなく、彼が言った『私はユダヤ人の王である』と書きなさい。」ピラトは答えた。「私が書いたものは、すでに書いたのだ。」兵士たちは、イエスを十字架につけた後、その衣を取り、四つに分け、兵士一人ひとり一つずつ、またキトンも分け合った。そのキトンは縫い合わせられておらず、上から一枚で織られていた。そこで兵士たちは互いに言った。「これを引き裂くのはやめよう。くじを引いて、誰のものにするか決めよう。そうすれば、聖書に書かれている『彼らはわたしの衣を分け合い、わたしの服をめぐってくじを引いた』という言葉が成就するからだ。」兵士たちはそのようにした。イエスの十字架のそばには、御母と、御母の姉妹であるマリア・クレオパ、そしてマリア・マグダレナが立っていた。イエスは、そこに立っている御母と、御自身が愛しておられた弟子を見て、御母に言われた。「婦人よ。見よ、あなたの息子です。」それから、その弟子に言われた。「見よ、あなたの母です。」それ以来、その弟子は彼女を自分の家に引き取った。その後、イエスは、すべてがすでに成し遂げられたことを知り、聖書の言葉が成就するようにと、「渴いている」と言われた。そこには、酢で満たされた器が置かれていた。兵士たちは、スポンジに酢を浸し、ヒソプの枝に付けて、イエスの口元に差し出した。イエスは酢を味わうと、「すべては成し遂げられた」と言われた。そして、頭を垂れて、息を引き取られた。しかし、その日は金曜日であったため、ユダヤ人たちは、安息日に十字架に遺体を残さないように——その安息日は大安息日であったから——ピラトに、彼らのすねの骨を砕いて遺体を降ろすよう求めた。そこで兵士たちが来て、最初に十字架につけられた者のすねの骨を砕き、イエスと共に十字架につけられたもう一人の者のすねの骨も砕いた。しかし、イエスのところに来て、すでに死んでいるのを見ると、そのすねの骨は砕かなかった。その代わりに、兵士の一人が槍でイエスの脇腹を刺すと、たちまち血と水が流れ出た。これを見た者が証言しており、その証言は真実である。彼は、あなたがたが信じるようにと、真実を語っていることを知っている。なぜなら、これは聖書の言葉が成就するためであった。「その骨は一つも砕かれない」。また、聖書の別の箇所にもこう書かれている。「彼らは、彼を刺した者を見つめる」。

ヨハネ18:28-19:37
聖金曜日、第九時。

ヨハネによる福音書、第60章

その頃、すべての祭司長と長老たちは、イエスを死に追いやるために、イエスについて協議した。そして、イエスをポンティオ・ピラトのもとに引き渡し、「引き取れ、引き取れ、この者を十字架につけよ」と叫んだ。ピラトは彼らに言った。「あなたがた自身で彼を引き取って、十字架につけなさい。私は彼に罪を見いだせない。」ユダヤ人たちは

彼に答えた。「私たちには律法があり、その律法によれば、彼は死ななければならない。彼は自分を神の子だと名乗ったからだ。」ピラトはこの言葉を聞いて、ますます恐れた。そして再び総督官邸に入り、イエスに言った。「あなたはどこから来たのか。」しかし、イエスは彼に答えなかった。ピラトはイエスに言った。「わたしに答えないのか。わたしには、あなたを十字架につける権威も、釈放する権威もあることを知らないのか。」イエスは答えて言われた。「もし上から与えられていなければ、あなたはわたしに対して何の権威も持たなかっただろう。」ピラトはこの言葉を聞くと、イエスを外に連れ出し、リフォストロトンと呼ばれる場所、ヘブライ語でガヴァファと呼ばれる裁判の座に着いた。その日は過越の祭りの前の金曜日で、第六時であった。ピラトはユダヤ人たちに言った。「見よ、あなたがたの王だ。」しかし、彼らは叫んで言った。「彼を十字架につけよ、彼を十字架につけよ。」ピラトは彼らに言った。「あなたがたの王を十字架につけるのか。」祭司長たちは答えた。「私たちには、カエサル以外の王はいない。」そこで、ついにピラトはイエスを彼らに引き渡し、十字架につけることにした。彼らはイエスを捕らえて連れ去った。そして、イエスはご自身の十字架を背負って、ヘブライ語でゴルゴタと呼ばれる場所、すなわち「額」と呼ばれる場所へ出られた。そこで、イエスと、その左右に二人の犯罪者を、イエスを真ん中にして十字架につけた。ピラトはまた、銘板を書いて十字架の上に掲げた。そこには、「ナザレのイエス、ユダヤ人の王」と書かれていた。イエスが十字架につけられた場所は町からそう遠くなかった上、その銘板はヘブライ語、ギリシャ語、ラテン語で書かれていたため、多くのユダヤ人がそれを読んだ。イエスの十字架のそばには、母と、母の姉妹であるマリア・クレオパ、そしてマリア・マグダレナが立っていた。イエスは、そこに立っている母と、愛していた弟子を見て、母に言われた。「婦人よ。見よ、あなたの息子です。」それから、その弟子に言われた。「見よ、あなたの母です。」こうして、その時から、その弟子は彼女を自分の家に引き取った。その後、イエスは、すべてがすでに成し遂げられたことを知ると、うなだれて息を引き取られた。しかし、その日は金曜日であったため、ユダヤ人たちは、安息日に十字架に遺体を残さないように——その安息日は大安息日であったから——ピラトに、彼らのすねの骨を砕いて遺体を降ろすよう求めた。そこで兵士たちが来て、最初に十字架にかけられていた人のすねの骨を砕き、次にイエスと共に十字架にかけられていたもう一人の人のすねの骨も砕いた。しかし、イエスのところに来て、すでに死んでいるのを見ると、そのすねの骨を打ち砕くことはしなかった。その代わりに、兵士の一人が槍でイエスの脇腹を刺すと、たちまち血と水が流れ出た。これを見た者が証言しており、その証言は真実である。

マタイ 27:1-2; ヨハネ 19:6B-11A, 13-20, 25-28A, 30B-35A
8月1日および9月14日、主の十字架の祝日、聖体礼儀において。

ヨハネによる福音書、61A節

そのとき、イエスの十字架のそばには、御母と、御母の姉妹であるマリア・クレオパ、そしてマリア・マグダレナが立っていた。イエスは、御母と、そこに立っている、御自身が愛しておられた弟子とを見て、御母に言われた。「婦人よ。見よ、あなたの息子です。」それから、その弟子に言われた。「見よ、あなたの母です。」それ以来、その弟子は彼女を自分の家に引き取った。その後、イエスは、すべてがすでに成し遂げられたことを知り、聖書の言葉が成就するようにと、「渴いている」と言われた。そこには、酢で満たされた器が置かれていた。兵士たちは、スポンジに酢を浸し、ヒソプの枝に付けて、イエスの口元に差し出した。イエスは酢を味わうと、「すべては成し遂げられた」と言われた。そして、頭を垂れて、息を引き取られた。しかし、その日は金曜日であったため、ユダヤ人たちは、安息日に十字架に遺体を残さないように——その安息日は大安息日であったから——ピラトに、彼らのすねの骨を砕いて遺体を降ろすよう求めた。そこで兵士

たちが来て、最初に十字架につけられた者のすねの骨を砕き、イエスと共に十字架につけられたもう一人の者のすねの骨も砕いた。しかし、イエスのところに来て、すでに死んでいるのを見ると、そのすねの骨は砕かなかった。その代わりに、兵士の一人が槍でイエスの脇腹を刺すと、たちまち血と水が流れ出た。これを見た者が証言しており、その証言は真実である。彼は、あなたがたが信じるようにと、真実を語っていることを知っている。なぜなら、これは聖書の言葉が成就するためであった。「その骨は一つも砕かれない」と。また、聖書の別の箇所にもこう書かれている。「彼らは、彼を刺した者を見つめるであろう」。

ヨハネ19:25-37
聖金曜日、早課における第9の福音書。

ヨハネによる福音書、61B節

そのとき、イエスの十字架のそばには、御母と、御母の姉妹であるマリア・クレオパの妻、そしてマリア・マグダレナが立っていた。イエスは、御母と、そこに立っていた、御自身が愛しておられた弟子とを見て、御母に言われた。「婦人よ。見よ、あなたの息子です。」それから、その弟子に言われた。「見よ、あなたの母です。」それ以来、その弟子は彼女を自分の家に引き取った。この弟子がこのことを証しし、これを書き記したのである。そして、私たちは、彼の証しが真実であることを知っている。イエスは他にも多くのことをなされた。しかし、それらをすべて詳しく書き記そうとすれば、この世界全体でも、その書物を収めきれないだろう。アーメン。

ヨハネ19:25-27; 21:24-25
9月26日および5月8日、神学者ヨハネの祝日、聖体礼儀にて。

ヨハネによる福音書、第62章の冒頭

その頃、アリマタヤのヨセフ——イエスの弟子であったが、ユダヤ人たちを恐れて密かに信仰していた——が、ピラトにイエスの遺体を引き取ることを願い出た。ピラトはそれを許した。そこで彼は行って、イエスの遺体を引き取った。また、以前夜にイエスのところへ来ていたニコデモもやって来て、没薬とアラオの調合薬を約100リットル持ってきた。そこで彼らはイエスの遺体を取り、ユダヤ人の埋葬の慣習に従って、香油を混ぜた布で包んだ。イエスが十字架につけられた場所のそばに園があり、その園には、まだ誰も葬られたことのない新しい墓があった。そこで、ユダヤ人の安息日を控えていたため、その墓が近かったことから、イエスをそこに葬った。

ヨハネ19:38-42
聖金曜日、早課の第11福音書。

ヨハネによる福音書、第63章の冒頭

その頃、週の初めの日、まだ暗いうちに、マグダラのマリアが墓へやって来ると、墓の石が取り除かれているのを見た。そこで、彼女は走ってシモン・ペトロと、イエスが愛しておられたもう一人の弟子のもとへ行き、こう言った。「主が墓から取り去られてしまいました。どこに置かれたのか、私たちにはわかりません。」すると、ペトロともう一人の弟子はすぐに外に出て、墓へと向かった。二人は共に走ったが、もう一人の弟子はペトロよりも速く走り、先に墓に着いた。彼は身を屈めて、布が置かれているのを見たが、墓の中には入らなかった。その後、シモン・ペテロがやって来て、墓の中に入ると、布だけが置かれているのを見た。また、イエスの頭に巻かれていた布は、布と一緒に置かれておらず、別の場所にきちんと畳まれてあった。そこで、先に墓に着いたもう一人の弟子も中に入り、それを見て、信じた。彼らはまだ、聖書に書かれているとおり、イエスが

死者の中からよみがえるべきであることを知らなかったからである。こうして、弟子たちは再び自分たちのところへ戻った。

ヨハネ20:1-10
第7主日福音。

ヨハネによる福音書、第64章

そのとき、マリアは墓のそばに立って泣いていた。泣いているうちに、墓の中をのぞき込むと、白い衣をまとった二人の天使が、イエスの遺体が横たわっていた場所の、頭の方と足の方に座っているのが見えた。天使たちは彼女に言った。「婦人よ、なぜ泣いているのですか。」彼女は彼らに言った。「私の主が持ち去られてしまい、どこに置かれたのか分かりません。」そう言うと、彼女は振り返って、イエスが立っておられるのを見たが、それがイエスであるとは気づかなかった。イエスは彼女に言われた。「女よ、なぜ泣いているのですか。誰を探しているのですか。」彼女は、その人が園丁だと思い、イエスに言った。「ご主人様、もしあなたが主を運び出したのなら、どこに置いたのか教えてください。私がお連れします。」イエスは彼女に言われた。「マリア。」彼女は振り返って、イエスに言った。「ラッブニ！」——これは「先生」という意味である。イエスは彼女に言われた。「わたしに触れてはならない。わたしはまだ父のもとへ上っていないからである。さあ、わたしの兄弟たちのところへ行って、彼らにこう言いなさい。『わたしは、わたしの父であり、あなたがたの父である方、わたしの神であり、あなたがたの神である方のもとへ上る』と。」マリア・マグダレナは行って、弟子たちに、主を見たこと、また主が彼女に言われたことを告げた。

ヨハネによる福音書 20:11-18
第8主日福音。

ヨハネによる福音書、冒頭65A

その週の初めの日の夕方、弟子たちがユダヤ人たちを恐れて家の戸を閉ざしていたところへ、イエスが来られ、彼らの真ん中に立たれて言われた。「平安あれ。」そう言って、イエスは彼らに御自分の手と足と脇腹をお見せになった。弟子たちは主を見て喜んだ。イエスは再び彼らに言われた。「平安あれ。父がわたしを遣わされたように、わたしもあなたがたを遣わす。」そう言って、息を吹きかけ、彼らに言われた。「聖霊を受けなさい。あなたがたが誰の罪でも赦せば、その罪は赦され、あなたがたが誰の罪でも赦さなければ、その罪は赦されない。」十二使徒の一人であるトマス（双子と呼ばれていた）は、イエスが来られたとき、彼らと一緒にいなかった。他の弟子たちは彼に言った。「私たちは主を見た。」しかし、彼は彼らに言った。「私は、その手に釘の跡を見、その釘の跡に私の指を入れ、そのわき腹に私の手を入れてみなければ、決して信じない。」八日後、弟子たちはまた家の中にいたが、トマスも彼らと一緒にいた。戸が閉ざされているところへイエスが来られ、彼らの真ん中に立たれて、「平安あれ」と言われた。それから、トマスに言われた。「指をここに差し出して、わたしの手を触ってみなさい。また、手を差し出して、わたしの脇腹に差し入れてみなさい。疑う者ではなく、信じる者になりなさい。」トマスは答えて言った。「わたしの主、わたしの神！」イエスは彼に言われた。「わたしを見たから信じたのか。見ないで信じる者は幸いである。」イエスは、弟子たちの前で、この書物に記されていない他の多くの奇跡も行われた。しかし、これらが記されたのは、あなたがたが、イエスがキリストであり、神の子であることを信じ、その信仰によって、御名によっていのちを得るためである。

ヨハネ20:19-31
第9主日福音。

アンティバスカの週、聖体礼儀にて。
10月6日、使徒トマス。

ヨハネによる福音書、冒頭65B

その週の初めの日の夕方、弟子たちがユダヤ人を恐れて集まっていた家の戸が閉ざされていたところへ、イエスが来られ、彼らの真ん中に立たれて、「平安あれ」と言われた。そう言って、イエスは彼らに御自分の手と足と脇腹をお見せになった。弟子たちは主を見て喜んだ。イエスは再び彼らに言われた。「平安あれ。父がわたしを遣わされたように、わたしもあなたがたを遣わす。」そう言って、息を吹きかけ、彼らに言われた。「聖霊を受けなさい。あなたがたが誰の罪でも赦せば、その罪は赦され、あなたがたが誰の罪でも赦さなければ、その罪は赦されない。」十二使徒の一人であるトマス（双子のトマスとも呼ばれる）は、イエスが来られたとき、彼らと一緒にいなかった。他の弟子たちは彼に言った。「私たちは主を見た。」しかし、彼は彼らに言った。「私は、その手に釘の跡を見、その釘の跡に私の指を入れ、そのわき腹に私の手を入れてみなければ、決して信じない。」

ヨハネによる福音書 20:19-25
復活祭の週、晩課にて。

ヨハネによる福音書、65B節

その週の初めの日の夕方、弟子たちがユダヤ人たちを恐れて家の戸を閉ざして集まっていたところへ、イエスが来られ、彼らの真ん中に立たれて、「平安あれ」と言われた。そう言って、イエスは彼らに御自分の手と足と脇腹をお見せになった。弟子たちは主を見て喜んだ。イエスは再び彼らに言われた。「平安あれ。父がわたしを遣わされたように、わたしもあなたがたを遣わす。」そう言って、息を吹きかけ、彼らに言われた。「聖霊を受けなさい。あなたがたが誰の罪でも赦せば、その罪は赦され、あなたがたが誰の罪でも赦さなければ、その罪は赦されない。」

ヨハネ20:19-23
ペンテコステの週、早課にて。

ヨハネによる福音書、第66章の冒頭

そのころ、イエスはティベリアスの湖のほとりで、ご自分の弟子たちの前に現れた。その様子はこうであった。シモン・ペトロ、双子のトマス、ガリラヤのカナ出身のナタナエル、ゼベダイの子ら、そして他の二人の弟子が一緒にいた。シモン・ペトロが彼らに言った。「私は魚を捕りに行く。」彼らは彼に言った。「私たちもあなたと一緒にいこう。」彼らは出かけて行き、すぐに舟に乗り込んだが、その夜は何も捕れなかった。朝になると、イエスは岸に立っておられたが、弟子たちはそれがイエスであることに気づかなかった。イエスは彼らに言われた。「子らよ、何か食べるものはあるか。」彼らはイエスに答えた。「いいえ。」するとイエスは言われた。「舟の右側に網を投げ入れなさい。そうすれば捕れる。」彼らが網を投げ入れると、魚があまりにも多くて、網を引き上げることができなくなった。その時、イエスが愛しておられた弟子がペテロに言った。「主だ。」シモン・ペテロは、それが主であると聞くと、裸だったのを衣服を腰に巻きつけ、海に飛び込んだ。他の弟子たちは、陸から約二百肘ほどしか離れていなかったため、魚の入った網を引きずりながら舟で近づいてきた。彼らが陸に上がると、火が焚かれており、その上に魚とパンが置かれているのを見た。イエスは彼らに言われた。「今、あなたがたが捕った魚を持ってきたさい。」シモン・ペテロは行って、大きな魚でいっぱいの網を陸に引き上げた。その数は百五十三匹であったが、これほど大量であっても網は破れなかった。イエスは彼らに言われた。「さあ、食事をしてください。」しかし、弟子たちのうち、だれも「あなたはどなたですか」と尋ねようとはしなかった。それが主であることを

知っていたからである。イエスは近づいてきて、パンを取り、彼らに与え、魚も同様に与えられた。これは、イエスが死者の中からよみがえられてから、弟子たちに現れた三度目のことである。

ヨハネによる福音書 21:1-14
第10主日福音。

ヨハネによる福音書、第67章の冒頭

その頃、イエスは死からよみがえられた後、弟子たちの前に現れ、シモン・ペテロにこう言われた。「シモン・ヨナの子よ、あなたは彼らよりもわたしを愛しているか。」ペテロは答えた。「はい、主よ。」 「あなたが、私があなを愛していることを知っておられます。」イエスは彼に言われた。「私の小羊を養いなさい。」また別の機会に、イエスは彼に言われた。「シモン・ヨナの子よ、あなたは私を愛していますか。」ペテロはイエスに答えた。「はい、主よ。あなたが、私があなを愛していることを知っておられます。」イエスは彼に言われた。「私の羊を養いなさい。」 三度目にイエスは彼に言われた。「シモン・ヨナの子よ、あなたはわたしを愛していますか。」ペテロは、三度も「あなたはわたしを愛していますか」と尋ねられたことを悲しく思い、イエスに言った。「主よ、あなたはすべてをご存じです。私があなを愛していることを、あなたはご存じです。」イエスは彼に言われた。「わたしの羊を養いなさい。」 まことに、まことに、あなたに告げます。あなたが若かったときは、自分で帯を締め、行きたいところへ行っていました。が、年老いたときは、手を伸ばし、他の人があなたに帯を締め、行きたくないところへ連れて行くでしょう。」これは、ペテロがどのような死によって神を栄光に帰すかを示すためでした。そして、こう言った後、イエスは彼に言われました。「わたしについてきなさい。」 ペテロが振り返ると、イエスが愛しておられた弟子が自分の後ろを歩いているのが見えた。その弟子は、晩餐の席でイエスの胸にもたれかかり、「主よ、誰があなを裏切るのですか」と言った者であった。ペテロは彼を見て、イエスに言った。「主よ、あの人はどうなりますか。」 イエスは彼に言われた。「もしわたしが、わたしが戻ってくるまで彼を生かしておきたいと望むなら、それがあなたに何の関係があるか。あなたはわたしに従いなさい。」 こうして、その弟子は死なないという噂が兄弟たちの間で広まった。しかし、イエスは彼に「死なない」とはおっしゃらなかった。ただ、「もしわたしが、わたしが戻ってくるまで彼を生かしておきたいと望むなら、それがあなたに何の関係があるか」と言われたのである。 ——この弟子がこのことを証しし、これを書き記した。そして、私たちは、彼の証しが真実であることを知っている。イエスは他にも多くのことを行われた。しかし、それらをすべて詳しく書き記そうとすれば、この世界全体でも、その書物を収めきれないだろう。アーメン。

ヨハネ21:14-25
第11主日福音。

復活祭後第7土曜日、聖体礼儀にて。
神学者ヨハネおよび他の使徒たちへの説教（早課にて）。
1月16日、使徒ペテロに捧げる、聖体礼儀にて。

目次へ。

福音書の朗読順序 全週にわたる

復活節の週

聖体礼儀にて：ヨハネによる福音書 第1章。**晩課にて：**ヨハネによる福音書 第65B章。

月曜日：ヨハネによる福音書 第2章。

火曜日：ルカによる福音書 第113章。

水曜日：ヨハネによる福音書 第4章。

木曜日：ヨハネによる福音書 第8章。

金曜日：ヨハネによる福音書 第7章、**聖母マリアの箇所：**ルカによる福音書 第54章。

土曜日：ヨハネによる福音書 11章の冒頭。

復活後第2主日、トマスについて

早課：マタイによる福音書第116章。**聖体礼儀：**ヨハネによる福音書第65A章。

月曜日：ヨハネによる福音書、第6章の冒頭。

火曜日：ヨハネによる福音書、第10章の冒頭。

水曜日：ヨハネによる福音書第15章の冒頭。

木曜日：ヨハネによる福音書 16節。

金曜日：ヨハネによる福音書、第17章の冒頭。

土曜日：ヨハネによる福音書 第19章。

復活後第3主日、香油を携えた女性たちについて

早課：マルコによる福音書第71章。**聖体礼儀：**マルコによる福音書第69B章。

月曜日：ヨハネによる福音書第13章。

火曜日：ヨハネによる福音書 20章の冒頭。

水曜日：ヨハネによる福音書 21章の冒頭。

木曜日：ヨハネによる福音書 22節から。

金曜日：ヨハネによる福音書第23章の冒頭。

土曜日：ヨハネによる福音書第52章。

復活祭後第4主日、麻痺した人の話

早課：ルカによる福音書第112章の冒頭。**聖体礼儀：**ヨハネによる福音書第14A章の冒頭。

月曜日：ヨハネによる福音書第24章の冒頭。

火曜日：ヨハネによる福音書第25章。

水曜日（四旬節半ば）：ヨハネによる福音書第26章。

木曜日：ヨハネによる福音書第29章。

金曜日：ヨハネによる福音書第30章。

土曜日: ヨハネによる福音書第31章。

復活後第5主日、サマリアの女について

早課: ヨハネによる福音書第63章。聖体礼儀: ヨハネによる福音書第12章。

月曜日: ヨハネによる福音書第32章。

火曜日: ヨハネによる福音書第33章。

水曜日: ヨハネによる福音書第18章。

木曜日: ヨハネによる福音書第35A章。

金曜日: ヨハネによる福音書第37A章。

土曜日: ヨハネによる福音書 38章。

復活後第6主日、盲人の話

早課: ヨハネによる福音書第64章。聖体礼儀: ヨハネによる福音書第34章。

月曜日: ヨハネによる福音書 第40章。

火曜日: ヨハネによる福音書 第42A章。

水曜日: ヨハネによる福音書第43章。

木曜日、主の昇天

早課: マルコによる福音書第71章。聖体礼儀: ルカによる福音書第114章。

金曜日: ヨハネによる福音書 第47章。

土曜日: ヨハネによる福音書 48A節。

復活後第7主日、第1全地公会議の聖なる父たち

早課: ヨハネによる福音書 66節から。聖体礼儀: ヨハネによる福音書 56節から。

月曜日: ヨハネによる福音書第49章。

火曜日: ヨハネによる福音書第53章。

水曜日: ヨハネによる福音書第54章。

木曜日: ヨハネによる福音書第55章。

金曜日: ヨハネによる福音書第57章。

土曜日: ヨハネによる福音書第67章、および死者のための祈り: ヨハネによる福音書第16章

。

ペンテコステの週

早課: ヨハネによる福音書 65B節。聖体礼儀: ヨハネによる福音書 27節。

聖霊降臨の月曜日: マタイによる福音書第75章の冒頭。

火曜日: マタイによる福音書第10章B節。

水曜日: マタイによる福音書 第12章。

木曜日: マタイによる福音書第13章の冒頭。

金曜日: マタイによる福音書 14章の冒頭。

土曜日: マタイによる福音書 15章の冒頭。

一年を通して

ペンテコステ後第1主日、諸聖人の日（第8調）

早課： マタイによる福音書第116章。 **聖体礼儀：** マタイによる福音書第38A章。

第2週

月曜日： マタイによる福音書 19章の冒頭。

火曜日： マタイによる福音書 22節。

水曜日： マタイによる福音書 23節。

木曜日： マタイによる福音書 27章の冒頭。

金曜日： マタイによる福音書 31節から。

土曜日： マタイによる福音書 20A節。

ペンテコステ後第2主日、ロシアの地に輝きを放ったすべての聖人、第1声

早課： マルコによる福音書第70章。 **聖体礼儀：** マタイによる福音書第9章

および聖人たちのための朗読： マタイによる福音書第10A章。

第3週

月曜日： マタイによる福音書 34A節から。

火曜日： マタイによる福音書 35節から。

水曜日： マタイによる福音書 36節から。

木曜日： マタイによる福音書 37節。

金曜日： マタイによる福音書 38B節。

土曜日： マタイによる福音書 24章の冒頭。

第3主日、第2声

早課： マルコによる福音書第71章。 **聖体礼儀：** マタイによる福音書第18章。

第4週

月曜日： マタイによる福音書 40節から。

火曜日： マタイによる福音書 41節から。

水曜日： マタイによる福音書 42節から。

木曜日： マタイによる福音書 43節から。

金曜日： マタイによる福音書 44章の冒頭。

土曜日： マタイによる福音書 26章の冒頭。

第4週、第3声

早課： ルカによる福音書112節から。 **聖体礼儀：** マタイによる福音書25節から。

第5週

月曜日： マタイによる福音書第45章の冒頭。

火曜日： マタイによる福音書 46A節から。

水曜日： マタイによる福音書 48節から。

一年を通して

木曜日: マタイによる福音書 49節から。

金曜日: マタイによる福音書 50章の冒頭。

土曜日: マタイによる福音書 30節。

第5週、第4声

早課: ルカによる福音書第113章。聖体礼儀: マタイによる福音書第28章。

第6週

月曜日: マタイによる福音書 51節から。

火曜日: マタイによる福音書 52A節。

水曜日: マタイによる福音書 53節から。

木曜日: マタイによる福音書 54節から。

金曜日: マタイによる福音書 55節。

土曜日: マタイによる福音書 32節。

第6主日、第5声

早課: ルカによる福音書 114節。聖体礼儀: マタイによる福音書 29節。

第7週

月曜日: マタイによる福音書 56節から。

火曜日: マタイによる福音書 57節から。

水曜日: マタイによる福音書 60節から。

木曜日: マタイによる福音書 61節から。

金曜日: マタイによる福音書 63節から。

土曜日: マタイによる福音書 39節。

第7週、第6声

早課: ヨハネによる福音書 63節。聖体礼儀: マタイによる福音書 33節。

第8週

月曜日: マタイによる福音書 65節から。

火曜日: マタイによる福音書 66節から。

水曜日: マタイによる福音書 68節から。

木曜日: マタイによる福音書 69節から。

金曜日: マタイによる福音書 71節。

土曜日: マタイによる福音書 47節。

第8主日、第7声

早課: ヨハネによる福音書 64節。聖体礼儀: マタイによる福音書 58節。

第9週

月曜日: マタイによる福音書 74節から。

一年を通して

火曜日: マタイによる福音書 76章の冒頭。

水曜日: マタイによる福音書 80章の冒頭。

木曜日: マタイによる福音書 81節から。

金曜日: マタイによる福音書 83B節。

土曜日: マタイによる福音書 64節から。

第9主日、第8声

早課: ヨハネによる福音書 65A節。聖体礼儀: マタイによる福音書 59節。

第10週

月曜日: マタイによる福音書 84A節。

火曜日: マタイによる福音書 85節から。

水曜日: マタイによる福音書、第86章の冒頭。

木曜日: マタイによる福音書、88節から。

金曜日: マタイによる福音書 91節から。

土曜日: マタイによる福音書 73節から。

第10週、第1声

早課: ヨハネによる福音書 66節から。聖体礼儀: マタイによる福音書 72節から。

第11週

月曜日: マタイによる福音書 94節から。

火曜日: マタイによる福音書 95節から。

水曜日: マタイによる福音書 96節から。

木曜日: マタイによる福音書 99節から。

金曜日: マタイによる福音書 100節から。

土曜日: マタイによる福音書 78節。

第11週、第2声

早課: ヨハネによる福音書 67節から。聖体礼儀: マタイによる福音書 77節から。

第12週

月曜日: マルコによる福音書、2A節から。

火曜日: マルコによる福音書、第3章の冒頭。

水曜日: マルコによる福音書、第4章の冒頭。

木曜日: マルコによる福音書、第5章の冒頭。

金曜日: マルコによる福音書 9章の冒頭。

土曜日: マタイによる福音書 第82章の冒頭。

第12週、第3声

早課: マタイによる福音書第116章。聖体礼儀: マタイによる福音書第79章。

一年を通して

第13週

月曜日: マルコによる福音書、第11章の冒頭。

火曜日: マルコによる福音書 12節から。

水曜日: マルコによる福音書 13章の冒頭。

木曜日: マルコによる福音書第14章。

金曜日: マルコによる福音書、15章の冒頭。

土曜日: マタイによる福音書第90A章。

第13週、第4声

早課: マルコによる福音書第70章の冒頭。聖体礼儀: マタイによる福音書第87章の冒頭。

第14週

月曜日: マルコによる福音書 16章の冒頭。

火曜日: マルコによる福音書、第17章の冒頭。

水曜日: マルコによる福音書 18章の冒頭。

木曜日: マルコによる福音書 19章の冒頭。

金曜日: マルコによる福音書 20章の冒頭。

土曜日: マタイによる福音書 第93章の冒頭。

第14週、第5声

早課: マルコによる福音書第71章。聖体礼儀: マタイによる福音書第89章。

第15週

月曜日: マルコによる福音書 21節から。

火曜日: マルコによる福音書 22節から。

水曜日: マルコによる福音書 23節から。

木曜日: マルコによる福音書 25章の冒頭。

金曜日: マルコによる福音書 26章の冒頭。

土曜日: マタイによる福音書 第97章。

第15週、第6声

早課: ルカによる福音書 112節から。聖体礼儀: マタイによる福音書 92節から。

第16週

月曜日: マルコによる福音書 27節から。

火曜日: マルコによる福音書 28節から。

水曜日: マルコによる福音書第29章。

木曜日: マルコによる福音書第30章。

金曜日: マルコによる福音書 32章の冒頭。

土曜日: マタイによる福音書 第101章。

一年を通して

第16週、第7声

早課: ルカによる福音書 113節から。 **聖体礼儀:** マタイによる福音書 105節から。

第17週

月曜日: マルコによる福音書 48節から。
火曜日: マルコによる福音書、50節から。
水曜日: マルコによる福音書第51章の冒頭。
木曜日: マルコによる福音書第52章の冒頭。
金曜日: マルコによる福音書 53章の冒頭。
土曜日: マタイによる福音書 第104章の冒頭。

第17週、第8声

早課: ルカによる福音書第114章の冒頭。 **聖体礼儀:** マタイによる福音書第62章の冒頭。

第18週

月曜日: ルカによる福音書第10章の冒頭。
火曜日: ルカによる福音書 11章の冒頭。
水曜日: ルカによる福音書 12章の冒頭。
木曜日: ルカによる福音書 13章の冒頭。
金曜日: ルカによる福音書第14章の冒頭。
土曜日: ルカによる福音書第15章の冒頭。

第18主日、第1声

早課: ヨハネによる福音書第63章。 **聖体礼儀:** ルカによる福音書第17章。

第19週

月曜日: ルカによる福音書第16章の冒頭。
火曜日: ルカによる福音書、第18章の冒頭。
水曜日: ルカによる福音書 21節。
木曜日: ルカによる福音書 23節から。
金曜日: ルカによる福音書 24章の冒頭。
土曜日: ルカによる福音書第19章の冒頭。

第19週、第2声

早課: ヨハネによる福音書第64章。 **聖体礼儀:** ルカによる福音書第26章。

第20週

月曜日: ルカによる福音書 25節から。
火曜日: ルカによる福音書 27節から。
水曜日: ルカによる福音書 28節から。
木曜日: ルカによる福音書 31節から。

一年を通して

金曜日: ルカによる福音書 32節から。

土曜日: ルカによる福音書の20章。

第20主日、第3声

早課: ヨハネによる福音書 65A節。聖体礼儀: ルカによる福音書 30節。

第21週

月曜日: ルカによる福音書 33節から。

火曜日: ルカによる福音書、第34章の冒頭。

水曜日: ルカによる福音書、第37章の冒頭。

木曜日: ルカによる福音書 41節から。

金曜日: ルカによる福音書 42章の冒頭。

土曜日: ルカによる福音書 22章の冒頭。

第21週、第4声

早課: ヨハネによる福音書 66節から。聖体礼儀: ルカによる福音書 35節から。

第22週

月曜日: ルカによる福音書 43節から。

火曜日: ルカによる福音書 44節から。

水曜日: ルカによる福音書 47章の冒頭。

木曜日: ルカによる福音書第48章A節。

金曜日: ルカによる福音書 50A節から。

土曜日: ルカによる福音書 29章の冒頭。

第22主日、第5声

早課: ヨハネによる福音書 67節から。聖体礼儀: ルカによる福音書 83節から。

第23週

月曜日: ルカによる福音書、52節から。

火曜日: ルカによる福音書 55節から。

水曜日: ルカによる福音書 56節から。

木曜日: ルカによる福音書 57節から。

金曜日: ルカによる福音書 58章の冒頭。

土曜日: ルカによる福音書第36章の冒頭。

第23週、第6声

早課: マタイによる福音書 116節から。聖体礼儀: ルカによる福音書 38節から。

第24週

月曜日: ルカによる福音書 59節から。

火曜日: ルカによる福音書 60節から。

一年を通して

水曜日: ルカによる福音書 61節。

木曜日: ルカによる福音書 62節から。

金曜日: ルカによる福音書 63章。

土曜日: ルカによる福音書第40章の冒頭。

第24主日、第7声

早課: マルコによる福音書第70章の冒頭。聖体礼儀: ルカによる福音書第39章の冒頭。

第25週

月曜日: ルカによる福音書 65節から。

火曜日: ルカによる福音書 68節から。

水曜日: ルカによる福音書 69節から。

木曜日: ルカによる福音書 70章の冒頭。

金曜日: ルカによる福音書 73章の冒頭。

土曜日: ルカによる福音書第46章。

第25主日、第8声

早課: マルコによる福音書71節から。聖体礼儀: ルカによる福音書53節から。

第26週

月曜日: ルカによる福音書 75節から。

火曜日: ルカによる福音書 77節から。

水曜日: ルカによる福音書 78節から。

木曜日: ルカによる福音書 80節から。

金曜日: ルカによる福音書 82章の冒頭。

土曜日: ルカによる福音書の冒頭49節。

第26週、第1声

早課: ルカによる福音書 112節から。聖体礼儀: ルカによる福音書 66節から。

第27週

月曜日: ルカによる福音書 86節。

火曜日: ルカによる福音書 87節。

水曜日: ルカによる福音書 90節。

木曜日: ルカによる福音書 92節から。

金曜日: ルカによる福音書 95章の冒頭。

土曜日: ルカによる福音書 51B。

第27週、第2声

早課: ルカによる福音書 113節から。聖体礼儀: ルカによる福音書 71節から。

第28週

月曜日: ルカによる福音書 97節から。
火曜日: ルカによる福音書 98節から。
水曜日: ルカによる福音書 99節。
木曜日: ルカによる福音書 100節から。
金曜日: ルカによる福音書 101章の冒頭。
土曜日: ルカによる福音書 67節から。

第28週、第3声

早課: ルカによる福音書 114節から。聖体礼儀: ルカによる福音書 76節から。

第29週

月曜日: ルカによる福音書 102節から。
火曜日: ルカによる福音書 106節から。
水曜日: ルカによる福音書 104節。
木曜日: ルカによる福音書 107節から。
金曜日: ルカによる福音書 108A節から。
土曜日: ルカによる福音書 72節から。

第29主日、第4声

早課: ヨハネによる福音書 63節から。聖体礼儀: ルカによる福音書 85節から。

第30週

月曜日: マルコによる福音書 33節から。
火曜日: マルコによる福音書、34節から。
水曜日: マルコによる福音書 36節から。
木曜日: マルコによる福音書 39節から。
金曜日: マルコによる福音書 41章の冒頭。
土曜日: ルカによる福音書 74節。

第30主日、第5声

早課: ヨハネによる福音書 64節から。聖体礼儀: ルカによる福音書 91節から。

第31週

月曜日: マルコによる福音書 42節から。
火曜日: マルコによる福音書第43章の冒頭。
水曜日: マルコによる福音書第44章の冒頭。
木曜日: マルコによる福音書第45章の冒頭。
金曜日: マルコによる福音書 46章の冒頭。
土曜日: ルカによる福音書 81節から。

一年を通して

第31週、第6声

早課: ヨハネによる福音書 65A節から。 **聖体礼儀:** ルカによる福音書 93節から。

第32週

月曜日: マルコによる福音書 48節から。
火曜日: マルコによる福音書、50節から。
水曜日: マルコによる福音書第51章。
木曜日: マルコによる福音書、第52章の冒頭。
金曜日: マルコによる福音書 53章の冒頭。
土曜日: ルカによる福音書第84章の冒頭。

第32週、第7声

早課: ヨハネによる福音書 66節から。 **聖体礼儀:** ルカによる福音書 94節から。

第33週

月曜日: マルコによる福音書 54節から。
火曜日: マルコによる福音書、55節から。
水曜日: マルコによる福音書 56節から。
木曜日: マルコによる福音書 57節から。
金曜日: マルコによる福音書 58章の冒頭。
土曜日: ルカによる福音書 88節から。

第33週、徴税人とパリサイ人について

早課: 主日の福音。 **聖体礼儀:** ルカによる福音書第89章の冒頭。

第34週

月曜日: マルコによる福音書 59節から。
火曜日: マルコによる福音書 60節から。
水曜日: マルコによる福音書 61節から。
木曜日: マルコによる福音書 62節から。
金曜日: マルコによる福音書 63章の冒頭。
土曜日: ルカによる福音書 103章の冒頭。

第34主日、放蕩息子のたとえ

早課: 主日の福音。 **聖体礼儀:** ルカによる福音書第79章の冒頭。

第35週

月曜日: マルコによる福音書 49節から。
火曜日: マルコによる福音書 64節から。
水曜日: マルコによる福音書 65節から。
木曜日: マルコによる福音書 66節から。

一年を通して

金曜日：マルコによる福音書 68章の冒頭。

肉断ちの土曜日：ルカによる福音書105章の冒頭、**および死者のための祈り：**ヨハネによる福音書16章の冒頭。

第35週、肉断ちの週

早課：復活日の福音書。**聖体礼儀：**マタイによる福音書第106章。

乳製品断食週間

月曜日：ルカによる福音書第96章。

火曜日：ルカによる福音書第109章。

水曜日：聖体礼儀は行われない。

木曜日：ルカによる福音書、110節から。

金曜日：聖体礼儀は行われない。

土曜（大斎前）：マタイによる福音書第16章、**聖人：**マタイによる福音書第43章。

乳断食の週

早課：復活日の福音書。**聖体礼儀：**マタイによる福音書第17章。

[目次へ。](#)

福音書の朗読順序

大齋期間中

大齋第1土曜日

聖体礼儀: マルコによる福音書第10章の冒頭、**聖人に関する箇所:** ヨハネによる福音書第52章の冒頭。

四旬節第1週

早課: 主日の福音。**聖体礼儀:** ヨハネによる福音書第5章。**祈願の歌:** マタイによる福音書第75章。

四旬節第2土曜日

聖体礼儀: マルコによる福音書第6章、**死者のための祈り:** ヨハネによる福音書第16章。

四旬節第2主日

早課: 主日の福音。**聖体礼儀:** マルコによる福音書第7章、**聖人への祈り:** ヨハネによる福音書第36章。

四旬節第3土曜日

聖体礼儀: マルコによる福音書第8章、**死者のための祈り:** ヨハネによる福音書第16章。

四旬節第3主日

早課: 主日の福音。**聖体礼儀:** マルコによる福音書第37章。

四旬節第4土曜日

聖体礼儀: マルコによる福音書第31章、**死者のための祈り:** ヨハネによる福音書第16章。

四旬節第4主日

早課: 主日の福音。**聖体礼儀:** マルコによる福音書第40章の冒頭、**聖人への祈り:** マタイによる福音書第10A章の冒頭。

四旬節第5土曜日

聖体礼儀: マルコによる福音書第35章の冒頭、**聖母マリアへの祈り:** ルカによる福音書第54章の冒頭。

四旬節第5週

早課: 主日の福音。**聖体礼儀:** マルコによる福音書第47章の冒頭、**聖女の福音:** ルカによる福音書第33章の冒頭。

四旬節第6土曜日、ラザロの土曜日

聖体礼儀: ヨハネによる福音書第39章の冒頭。

四旬節

ヴァイの主日

早課: マタイによる福音書第83A節。 **聖体礼儀:** ヨハネによる福音書第41A節。

聖月曜日

早課: マタイによる福音書第84B節。 **聖体礼儀:** マタイによる福音書第98節。

聖火曜日

早課: マタイによる福音書 90B節。 **聖体礼儀:** マタイによる福音書 102節。

聖水曜日

早課: ヨハネによる福音書 41B節から。 **聖体礼儀:** マタイによる福音書 108節から。

聖木曜日

早課: ルカによる福音書 108B節から。

聖体礼儀: マタイによる福音書 107節から。

足洗い式: ヨハネによる福音書 44節から。

足洗い式の後: ヨハネによる福音書 45節から。

聖なる受難の12の福音書

主なる神、また私たちの救い主イエス・キリストの

1. ヨハネによる福音書、第46章の冒頭。
2. ヨハネによる福音書 第58章。
3. マタイによる福音書 109章。
4. ヨハネによる福音書 59A。
5. マタイによる福音書 111章。
6. マルコによる福音書の冒頭 67A。
7. マタイによる福音書 113章。
8. ルカによる福音書 111章の冒頭。
9. ヨハネによる福音書の冒頭 61A。
10. マルコによる福音書 69A節。
11. ヨハネによる福音書の冒頭 62。
12. マタイによる福音書 114章の冒頭。

聖金曜日

第一時: マタイによる福音書 110A節。

第三の刻: マルコによる福音書 67B。

第6時: ルカによる福音書 111節の冒頭。

第9時: ヨハネによる福音書 59B節から。

晩課: マタイによる福音書 110B節から。

四旬節

聖土曜日

早課の賛美の後に： マタイによる福音書114節から。

聖体礼儀にて： マタイによる福音書第115章の冒頭。

[目次へ。](#)

日曜日の早課の福音書

1. マタイによる福音書、116節から。
2. マルコによる福音書、第70章の冒頭。
3. マルコによる福音書、第71章の冒頭。
4. ルカによる福音書 112節。
5. ルカによる福音書 113節。
6. ルカによる福音書 114章の冒頭。
7. ヨハネによる福音書 第63章。
8. ヨハネによる福音書 64章。
9. ヨハネによる福音書 65A。
10. ヨハネによる福音書 66章。
11. ヨハネによる福音書 第67章。

[目次へ。](#)

恒常的な祝日の福音書 および

9月

1. 聖シメオン・ストルブニクと新教会暦

新年の聖体礼儀において：ルカによる福音書第13章の冒頭。

また、聖人への朗読：マタイによる福音書第43節。

4. 聖イオアサフ、ベルゴロドの主教

早課および聖体礼儀：ヨハネによる福音書第36章の冒頭。

5. 聖預言者ザカリアと義人エリサベト

聖体礼儀にて：マタイによる福音書第96章の冒頭。

6. コロッサ（ホナ）における大天使ミカエルの奇跡の記念

聖体礼儀にて：ルカによる福音書第51A章。

7. 殉教者ソゾント

聖体礼儀にて：ヨハネによる福音書第52章の冒頭。

8. 私たちの至聖なる主の母、 および永遠の処女マリアの降誕

早課にて：ルカによる福音書 第4章の冒頭。

聖体礼儀にて：ルカによる福音書第54章の冒頭。

9. 聖なる義人、神の父ヨアキムと母アンナ

聖体礼儀にて：ルカによる福音書 第36章。

11. 聖シルアノス・アフォンスキー

早課：マタイによる福音書 第43章。

聖体礼儀にて：ルカによる福音書 24章の冒頭。

12. 聖母マリアの降誕の祝日

聖体礼儀において：ルカによる福音書第54章の冒頭。

十字架の昇架祭前の土曜日

聖体礼儀：マタイによる福音書第39章の冒頭。

十字架の昇架の前週

聖体礼儀: ヨハネによる福音書第9章の冒頭。

13. エルサレムにあるキリストの復活聖堂の改修

聖体礼儀: マタイによる福音書第67B節。

14. 主の聖なる命を与える十字架の挙揚

早課: ヨハネによる福音書 42B節。

聖体礼儀にて: ヨハネによる福音書 60節。

聖十字架の挙揚後の土曜日

聖体礼儀: ヨハネによる福音書 30節から。

聖十字架の挙揚後の週

聖体礼儀: マルコによる福音書第37章の冒頭。

16. 大殉教女エウフィミア・オール・グローリー

聖体礼儀: ルカによる福音書第33章。

20. 大殉教者エウスタフィオス・プラキドス

聖体礼儀: ルカによる福音書第106章。

21. 十字架の挙揚の祝日。

聖ディミトリイ、ロストフ都主教

早課: ヨハネによる福音書第35B節。

聖体礼儀にて: ヨハネによる福音書第36章の冒頭。

23. 聖ヨハネ・洗礼者（前駆者）の受胎

聖体礼儀にて: ルカによる福音書第2章。

25. ラドネジの聖セルギイの帰天

早課: マタイによる福音書 第43章。

聖体礼儀にて: ルカによる福音書、第24章の冒頭。

26. 聖使徒・福音記者ヨハネ・神学者

早課: ヨハネによる福音書 第67章。

聖体礼儀にて: ヨハネによる福音書 61B節。

28. 聖ハリトン・殉教者

早課: マタイによる福音書、冒頭10A。

聖体礼儀にて: ルカによる福音書第24章の冒頭。

**30. 聖ミカエル、
キエフおよび全ロシアの初代大主教、奇跡行者**

聖体礼儀にて：ヨハネによる福音書、第36節。

10月

1日。聖母マリアの御被覆。使徒アナニア

早課：ルカによる福音書、第4章の冒頭。

聖体礼儀にて：ルカによる福音書第54章の冒頭。

また、使徒の箇所：ルカによる福音書第51A節。

3. 聖殉教者ディオニシオス・アレオパゴス

聖体礼儀にて：マタイによる福音書第55章の冒頭。

5. モスクワの聖ペトロ、アレクシオス、イオナ、フィリッポス、エルモゲノス

早課：ヨハネによる福音書第36章の冒頭。

聖体礼儀にて：マタイによる福音書第11章の冒頭。

6. 聖使徒トマス

早課：ヨハネによる福音書第67章の冒頭。

聖体礼儀にて：ヨハネによる福音書第65A節。

9. 聖使徒ヤコブ・アルフェオ

早課：ヨハネによる福音書、第67章の冒頭。

聖体礼儀：ルカによる福音書第51A節。

10. オブティナのアムブロシオス聖人

早課：マタイによる福音書第43章。

聖体礼儀にて：ルカによる福音書第24章の冒頭。

11. 使徒フィリポ、七人の助祭の一人

聖体礼儀：ルカによる福音書第50B節。

**10月11日に最も近い日曜日。
第7回全地公会議の記念日**

聖体礼儀にて：ヨハネによる福音書 56節。

13. イヴェルスクの聖母イコン

早課：ルカによる福音書第4章の冒頭。

聖体礼儀にて：ルカによる福音書第54章の冒頭。

16. 殉教者ロンギノス百人隊長

聖体礼儀にて：マタイによる福音書 第113章。

18. 聖使徒・福音記者ルカ

早課：ヨハネによる福音書第67章の冒頭。

聖体礼儀にて：ルカによる福音書第51A節。

22. カザン聖母のイコン

早課：ルカによる福音書、第4章の冒頭。

聖体礼儀にて：ルカによる福音書第54章の冒頭。

23. 主の兄弟である聖使徒ヤコブ

聖体礼儀：マタイによる福音書第56章の冒頭。

24. 「すべての悲しむ者の喜び」の聖母イコン

早課：ルカによる福音書 第4章。

聖体礼儀にて：ルカによる福音書 第54章の冒頭。

26. 聖大殉教者ディミトリオス

および、

740年にコンスタンティノーブルで発生した地震の追悼

早課：マタイによる福音書第36章の冒頭。

聖体礼儀にて：マタイによる福音書第27章の冒頭。

また、聖人については：ヨハネによる福音書第52節。

28. 聖ディミトリオス、ロストフ都主教

早課：ヨハネによる福音書第35B節。

聖体礼儀：ヨハネによる福音書 36節。

29. ロストフのアルキマンドリト、聖アブラアミオス

聖体礼儀：マタイによる福音書第43章の冒頭。

11月

1. 無銭の聖人、アジアの奇跡行者コスマスとダミアン

聖体礼儀にて：マタイによる福音書第34B節。

5. 聖イオナ、ノヴゴロドの大司教

早課：ヨハネによる福音書第36章の冒頭。

聖体礼儀にて：ヨハネによる福音書第36章の冒頭。

6. フティン出身の尊者ヴァルラアム、ノヴゴロドの奇跡行者

聖体礼儀にて: ルカによる福音書、第24章の冒頭。

8. 大天使ミカエルおよびすべての天の無形なる軍勢の祝祭

早課: マタイによる福音書第52B章。

聖体礼儀にて: ルカによる福音書、冒頭51A。

13. 聖ヨハネ・クラマトリオス

早課: ヨハネによる福音書、第35B章の冒頭。

聖体礼儀にて: ヨハネによる福音書 36節。

14. 聖使徒フィリッポ

早課: ヨハネによる福音書第67節。

聖体礼儀にて: ヨハネの説教第5章。

15. 聖パイシオス・ヴェリチコフスキー

早課: マタイによる福音書第43章。

聖体礼儀: ルカによる福音書第24章。

16. 聖使徒・福音記者マタイ

早課: ヨハネによる福音書第67章。

聖体礼儀にて: マタイによる福音書第30章の冒頭。

19. 聖フィラレート、モスクワおよびコロメンスク都主教

早課: ヨハネによる福音書第35B章。

聖体礼儀にて: マタイによる福音書第11章の冒頭。

21. 聖母マリアの神殿入りの日

早課: ルカによる福音書、第4章の冒頭。

聖体礼儀: ルカによる福音書第54節。

22. 使徒フィリモンとアルキッポ

聖体礼儀にて: ルカによる福音書 第50A章。

23. 聖アレクサンドル・ネフスキー大公の帰天

早課および聖体礼儀: マタイによる福音書第43章の冒頭。

24. 大殉教女エカテリーナ

聖体礼儀において: ルカによる福音書第106節。

**25. 聖母マリアの神殿入りの祝日の終わり。
聖殉教者クレメンス、ローマ教皇
およびアレクサンドリアの大司教ペトロ**

聖体礼儀において：ルカによる福音書第54章の冒頭。

また、殉教者たちについて：マタイによる福音書第11章の冒頭。

**27. ノヴゴロドで現れた至聖なる神の母の御現れ。
ペルシアのヤコブ大殉教者**

早課にて：ルカによる福音書第4章の冒頭。

聖体礼儀にて：ルカによる福音書第54節。

また、大殉教者には：ヨハネによる福音書、冒頭50節。

30. 聖使徒アンドレイ・ペルヴォズヴァンヌイ

早課：マタイによる福音書 第9章。

聖体礼儀：ヨハネによる福音書第4章の冒頭。

12月

3日 聖サヴァ・ストロジェフスキー、ズヴェニゴロドの聖人

聖体礼儀にて：マタイによる福音書 第10A章。

4. 聖大殉教者バルバラ

早課：マタイによる福音書第104章の冒頭。

聖体礼儀にて：マルコによる福音書、第21章の冒頭。

5. 聖サヴァ・オスヴェシュチェンヌイ

早課：ルカによる福音書第24章。

聖体礼儀：マタイによる福音書第43節。

6. 聖ニコライ、リキアのミール大司教、奇跡行者

早課：ヨハネによる福音書第36章の冒頭。

聖体礼儀にて：ルカによる福音書第24章の冒頭。

9. 義人アンナによる至聖なる神の母の受胎

聖体礼儀にて：ルカによる福音書第36章の冒頭。

10. 殉教者ミーナ、エルモゲノス、エウグラフ

聖体礼儀：ルカによる福音書第106節。

12. トリミフントの主教、聖スピリドン

聖体礼儀にて：ルカによる福音書第24章の冒頭。

13. 聖殉教者エウストラティオス、アウクセンティオス、エウゲニオス、マルダリオス、オレストス

早課：マタイによる福音書第36章の冒頭。

聖体礼儀にて：ルカによる福音書 第106章。

17. 預言者ダニエルと三人の少年：アナニア、アザリヤ、ミサイア

聖体礼儀にて：ルカによる福音書第62章の冒頭。

聖先祖たちの週

聖体礼儀：ルカによる福音書 76節から。

キリスト降誕前の土曜日

聖体礼儀：ルカによる福音書第72節。

キリスト降誕前の週——聖なる父たちの週

聖体礼儀：マタイによる福音書 第1章。

20. 義人ヨハネ・クロンシュタット

および聖殉教者イグナティオス・神担ぎ

義人：マタイによる福音書第11章。

聖殉教者：マルコによる福音書第41章。

21. モスクワの聖人、ペトロ大主教の帰天

早課にて：ヨハネによる福音書第35B節。

聖体礼儀にて：ルカによる福音書第24章の冒頭。

22. 大殉教者アナスタシア・ウゾレシテリツァ

聖体礼儀にて：ルカによる福音書第33章の冒頭。

24. キリスト降誕前夜

第1時：マタイによる福音書第2章の冒頭。

第3時：ルカによる福音書 第5章の冒頭。

第6時：マタイによる福音書第3章の冒頭。

第9時：マタイによる福音書第4章の冒頭。

聖体礼儀にて：ルカによる福音書第5章の冒頭。

（土曜日または日曜日：マタイによる福音書第53章の冒頭）。

25. キリストの降誕

早課：マタイによる福音書 第2章の冒頭。

聖体礼儀にて：マタイによる福音書第3章の冒頭。

26. 聖母マリアの祝日

聖体礼儀にて：マタイによる福音書第4章の冒頭。

キリストの降誕後の土曜日

聖体礼儀：マタイによる福音書 第46B節。

キリストの降誕後の週

聖体礼儀：マタイによる福音書 第4章の冒頭。

27. 聖使徒、第一殉教者、大助祭ステファノ

聖体礼儀：マタイによる福音書 87節。

28. ニコミディアの2万人の殉教者

聖体礼儀：ルカによる福音書 第51B章。

29. ヘロデによって殺害された聖なる幼子たち

聖体礼儀にて：マタイによる福音書 第4章の冒頭。

31. キリストの降誕の終わり

聖体礼儀：通常の福音書。

1月

1. 主の割礼。聖バシレイオス大主教

早課：ヨハネによる福音書、第36章。

聖体礼儀にて：ルカによる福音書、第6章の冒頭。

聖人への朗読：ルカによる福音書第24章。

主の顕現前の土曜日

聖体礼儀：マタイによる福音書第5章。

主の顕現前の週

聖体礼儀：マルコによる福音書 第1章。

2. 聖セラフィム・サロフの帰天

早課：マタイによる福音書第43章の冒頭。

聖体礼儀にて：ルカによる福音書 第24章の冒頭。

4. 七十人の使徒たちの祝日

聖体礼儀にて：ルカによる福音書 第50A章。

5. 主の顕現の前夜

第1時：マタイによる福音書 冒頭5節。

第3時：マルコによる福音書、冒頭1。

第6時：マルコによる福音書、冒頭2A。

9時：マタイによる福音書、第6章の冒頭。

前夜祭の典礼（土曜日または日曜日の晩課）において：ルカによる福音書第9章の冒頭。

水の聖別式において：マルコによる福音書第2章B節。

6. 聖なる神現祭

早課：マルコによる福音書第2B章の冒頭。

聖体礼儀にて：マタイによる福音書第6章の冒頭。

水の聖別式：マルコによる福音書第2B章の冒頭。

7. 洗礼者ヨハネの祝日

聖体礼儀にて：ヨハネによる福音書、冒頭3。

主の顕現後の土曜日

聖体礼儀：マタイによる福音書、第7章の冒頭。

主の顕現後の週

聖体礼儀：マタイによる福音書第8章の冒頭。

9. 聖フィリッポス、モスクワ都主教

早課：ルカによる福音書第24章の冒頭。

聖体礼儀にて：ヨハネによる福音書、第36章の冒頭。

10. ヴィシエンスキーの隠者テオフアン聖人

早課：ヨハネによる福音書、第35B章。

聖体礼儀にて：ヨハネによる福音書第36章の冒頭。

同日

聖グリゴリオス、ニッサの主教

聖体礼儀にて：マタイによる福音書 34B節。

11. 聖テオドシオス、修道院長

早課にて：ルカによる福音書第24章の冒頭。

聖体礼儀にて：マタイによる福音書、冒頭43。

14. 主の顕現の終わり。使徒に等しいニナ、グルジアの伝道者

早課：マタイによる福音書 34B節。

聖体礼儀にて：マタイによる福音書第104章の冒頭。

16. 使徒ペトロの鎖への礼拝

聖体礼儀にて：ヨハネによる福音書 67節。

17. 聖アントニオス大聖人

早課：マタイによる福音書 43節。

聖体礼儀にて：ルカによる福音書、24節から。

20. 聖エウフィミオス大聖人

早課：マタイによる福音書第43章の冒頭。

聖体礼儀：ルカによる福音書 24節。

1月23日から31日までの間の日曜日。

ロシアの殉教者および信仰告白者たち x

聖体礼儀にて：ルカによる福音書 105-106節。

24. 聖クセニア・ペテルブルク

早課：マタイによる福音書第43章の冒頭。

聖体礼儀にて：ルカによる福音書 54節の冒頭。

25. 聖グリゴリオス・テオロゴス

早課：ヨハネによる福音書 35B節。

聖体礼儀：ヨハネによる福音書 36節。

27日：聖ヨハネ・クロイスモス（金口）の聖遺骨の移送

早課：ヨハネによる福音書第35B節。

聖体礼儀にて：ヨハネによる福音書 36節。

30. 聖人たちの総会

バシレイオス大聖人、神学者グリゴリオス、およびヨハネス・クラマトルスの聖人総会

早課：ヨハネの書から第36章。

聖体礼儀：マタイによる福音書第11章の冒頭。

2月

2. 主の奉献

早課: ルカによる福音書第8章の冒頭。

聖体礼儀: ルカによる福音書第7章の冒頭。

3. 義人シメオン（主を迎えた者）と預言者アンナ

聖体礼儀にて: ルカによる福音書 第8B章。

5. 聖テオドシオス、チェルニヒフ大司教

早課: ヨハネによる福音書第36章の冒頭。

聖体礼儀にて: ルカによる福音書 第24章。

8. 大殉教者テオドロス・ストラティラトス

聖体礼儀にて: マタイによる福音書、第36章の冒頭。

9. 主の奉献の祝日の終わり

聖体礼儀: 通常の福音書。

12. イヴェルスクの聖母イコン。 モスクワの奇跡行者、聖アレクシオス

早課: ルカによる福音書、第4章の冒頭。

聖体礼儀にて: ルカによる福音書 第54章。

聖人: ルカによる福音書、第24章。

17. 大殉教者テオドロス・ティロンの日

聖体礼儀にて: ヨハネによる福音書 第52章。

24. 聖ヨハネ・洗礼者（前駆者）の頭部の第一および第二の発見

早課: ルカによる福音書第31章の冒頭。

聖体礼儀にて: マタイによる福音書第40章の冒頭。

3月

9日。セバステアの40人の殉教者たち

早課: ルカによる福音書 106節。

聖体礼儀: マタイによる福音書第80章の冒頭。

25日 聖母マリアの受胎告知

早課: ルカによる福音書第4章の冒頭。

聖体礼儀にて: ルカによる福音書第3A章。

4月

23日 聖大殉教者ゲオルギオス・ポベドノスツ

早課: ルカによる福音書 第63章。

聖体礼儀: ヨハネによる福音書第52章の冒頭。

25日 聖使徒・福音記者マルコ

早課: ルカによる福音書第50A章の冒頭。

聖体礼儀にて: マルコによる福音書第23章の冒頭。

**27. 使徒にして聖殉教者シメオン、
エルサレムの司教、主の血縁者**

聖体礼儀にて: マタイによる福音書第56章の冒頭。

30. 聖使徒ヤコブ・ゼベダイの子

早課にて: ヨハネによる福音書第67章の冒頭。

聖体礼儀にて: ルカによる福音書第17章の冒頭。

5月

1. 預言者エレミヤ

聖体礼儀にて: ルカによる福音書第14章の冒頭。

2. 敬虔な公爵ボリスとグレブの聖遺骨の移送

早課: ルカによる福音書第106章の冒頭。

聖体礼儀にて: ヨハネによる福音書、第52節。

3. ペチェルスクの聖テオドシオスの帰天

早課: ルカによる福音書第24章の冒頭。

聖体礼儀にて: マタイによる福音書第43節。

7. 351年にエルサレムで主の十字架が天に現れたことの記念

聖体礼儀: ヨハネによる福音書第60章の冒頭。

8. 聖使徒・福音記者ヨハネ・神学者

早課：ヨハネによる福音書第67章の冒頭。

聖体礼儀にて：ヨハネによる福音書、61B節から。

9. 聖人にして奇跡行者ニコラオスの聖遺骨の移送

早課：ヨハネによる福音書第35B節。

聖体礼儀にて：ルカによる福音書第24章の冒頭。

10. 聖使徒シモン・ゼロテ

早課：ヨハネによる福音書 67節。

聖体礼儀にて：マタイによる福音書 56節から。

11. 使徒に等しいキリルとメフォディウス、スラブ人の教師たち

早課：ヨハネによる福音書第36章の冒頭。

聖体礼儀にて：マタイによる福音書第11章の冒頭。

12. 聖殉教者エルモゲノス、モスクワ総主教

早課：ヨハネによる福音書第35B節。

聖体礼儀にて：ヨハネによる福音書第36章の冒頭。

15. 敬虔な皇太子、ウグリチ公ディミトリ

早課：ルカによる福音書、第106節。

聖体礼儀にて：ヨハネによる福音書第52節。

19. 敬虔なる大公ディミトリ・ドンスキー

早課：マタイによる福音書第43章。

聖体礼儀にて：ルカによる福音書第24章。

20. モスクワの奇跡行者、聖アレクシオスの聖遺骨の発見

早課：ヨハネによる福音書 35B節。

聖体礼儀にて：ルカによる福音書 24節。

21. 使徒に等しい聖王コンスタンティヌスとヘレナの祝日

早課：ヨハネによる福音書 36節。

聖体礼儀にて：ヨハネによる福音書 35B節。

**同日、
ウラジーミル聖母イコン**

早課：ルカによる福音書 第4章。

聖体礼儀：ルカによる福音書第54章。

23. 聖レオティオス、ロストフの司教

聖体礼儀にて： マタイによる福音書第11章の冒頭。

25. 聖ヨハネ・洗礼者（前駆者）の頭蓋骨の第三回発見

早課： ルカによる福音書 第31章。

聖体礼儀にて： マタイによる福音書第40章の冒頭。

27. 義人ヨハネ・ルスキー、殉教者

早課： マタイによる福音書 43節から。

聖体礼儀： ルカによる福音書 64節から。

6月

8日 大殉教者テオドロス・ストラティラトス

聖体礼儀にて： マタイによる福音書第36章の冒頭。

9日： 聖キリロス、アレクサンドリアの大司教

聖体礼儀にて： マタイによる福音書第11章の冒頭。

同日、

ベロエゼル修道院の院長、聖キリル

聖体礼儀にて： ルカによる福音書第24章の冒頭。

10. 聖ヨハネ、トボリスク都主教

早課にて： ヨハネによる福音書 35B節。

聖体礼儀にて： ヨハネによる福音書第36章の冒頭。

11. 使徒バルトロマイとバルナバ

早課： ヨハネによる福音書第67章の冒頭。

聖体礼儀にて： ルカによる福音書第51A節。

14. 神の預言者エリシャ

聖体礼儀にて： ルカによる福音書第14章の冒頭。

15. 聖イオナ、モスクワ都主教

早課： ヨハネによる福音書 35B節。

聖体礼儀にて： ヨハネによる福音書、冒頭36。

**18. ボゴリユブスクの聖母像
および殉教者レオティオス**

早課: ルカによる福音書 第4章の冒頭。

聖体礼儀にて: ルカによる福音書第54章の冒頭。

殉教者: ヨハネによる福音書第52章の冒頭。

19. 聖使徒ユダ、主の兄弟

早課: ヨハネによる福音書第67章の冒頭。

聖体礼儀: ヨハネによる福音書第48B節。

**同日、
モスクワおよび全ルーシの総主教、聖ヨブ**

早課: ヨハネによる福音書第35B節。

聖体礼儀: ヨハネによる福音書第36章。

23. ウラジーミル聖母イコン

早課: ルカによる福音書 第4章。

聖体礼儀にて: ルカによる福音書第54章。

24. 聖ヨハネ・洗礼者（前駆者）の降誕

早課: ルカによる福音書第3B章。

聖体礼儀にて: ルカによる福音書 第1章。

**25. ムロムの奇跡行者、敬虔なペトロ公とフェヴロニア公妃
ムロムの奇跡行者**

聖体礼儀にて: マタイによる福音書 冒頭10。

26. ティフヴィンの聖母マリアのイコンの顕現

早課にて: ルカによる福音書 第4章。

聖体礼儀にて: ルカによる福音書第54節。

28. 「三手の聖母」と呼ばれる聖母マリアのイコン

早課: ルカによる福音書 第4章の冒頭。

聖体礼儀にて: ルカによる福音書第54節。

**同日、
聖セルギイと聖ゲルマン、ヴァラームの奇跡行者**

早課: マタイによる福音書 第43章。

聖体礼儀: ルカによる福音書第24章の冒頭。

29日. 聖使徒ペトロとパウロ

早課: ヨハネによる福音書第67節。

聖体礼儀：マタイによる福音書第67A節。

30. 十二使徒の総会

聖体礼儀にて：マルコによる福音書 第12章の冒頭。

7月

1. ローマで殉教した無償の医師であり奇跡行者であるコスマスとダミアノ、 ローマにて殉教した

聖体礼儀：マタイによる福音書第34章B節。

2. ヴラヘルナにおける聖母マリアの衣の安置

聖体礼儀：ルカによる福音書、冒頭54。

3. モスクワ都主教聖フィリッポの聖遺骨の移送

早課：ヨハネによる福音書 35B節から。

聖体礼儀にて：ヨハネによる福音書第36章の冒頭。

4. 聖なる王族の殉教者たち： ニコライ2世皇帝、アレクサンドラ皇后、 皇太子アレクセイ、大公女オルガ、タチアナ、マリア、アナスタシア、 不敬虔な権力によって殺害された方々のために。

早課にて：マタイによる福音書第36章。

聖体礼儀にて：ヨハネによる福音書第52章。

同日、

聖アンドレイ・ルブリョフ（イコン画家）の記念日。

早課：マタイによる福音書第43章の冒頭。

聖体礼儀：ルカによる福音書第24章の冒頭。

5. アフォンの聖アファナシイ。ラドネジの聖セルギイの聖遺骨発見

早課：マタイによる福音書第43節。

聖体礼儀：ルカによる福音書第24章の冒頭。

8. カザンの聖母イコン

早課：ルカによる福音書第4章の冒頭。

聖体礼儀にて：ルカによる福音書第54節。

聖大殉教者プロコピオス

聖体礼儀にて：マタイによる福音書 第39章の冒頭。

10. 主なる神、私たちの救い主イエス・キリストの衣の安置

早課: マタイによる福音書第112章の冒頭。

聖体礼儀にて: マルコによる福音書第67A節。

11. すべての称賛に値する大殉教者エウフィミア

聖体礼儀にて: ルカによる福音書第33章の冒頭。

12. 「三手の聖母」と呼ばれる至聖なる神の母のイコン

早課: ルカによる福音書 第4章の冒頭。

聖体礼儀にて: ルカによる福音書第54章の冒頭。

13. 大天使ガブリエルの祝日

聖体礼儀にて: ルカによる福音書 第51節。

15. 聖使徒に等しい大公ウラジーミルの記念日

早課: ヨハネによる福音書第36章の冒頭。

聖体礼儀にて: ヨハネによる福音書第35B節。

7月16日に最も近い日曜日。

六つの全地公会議の聖なる教父たちの記念日

聖体礼儀: ヨハネによる福音書第56章。

19. 聖セラフィム・サロフの聖遺骨発見の日

早課: マタイによる福音書第43節。

聖体礼儀にて: ルカによる福音書第24章の冒頭。

20. 聖預言者エリヤ

早課および聖体礼儀: ルカによる福音書第14章の冒頭。

22. 使徒に等しいマリア・マグダレナ

聖体礼儀: ルカによる福音書第34章の冒頭。

23. ポチャエフの聖母マリアのイコン

早課にて: ルカによる福音書第4章の冒頭。

聖体礼儀にて: ルカによる福音書第54章の冒頭。

24. 聖殉教者ボリス公とグレブ公

早課: ルカによる福音書第106章の冒頭。

聖体礼儀にて: ヨハネによる福音書第52章の冒頭。

25. 義人アンナの永眠

聖体礼儀にて: ルカによる福音書第36章の冒頭。

27. 大殉教者にして癒やしの聖パンテレイモン

早課：ルカによる福音書第106章の冒頭。

聖体礼儀にて：ヨハネによる福音書第52章の冒頭。

28. スモレンスクの聖母イコン

早課：ルカによる福音書第4章の冒頭。

聖体礼儀にて：ルカによる福音書第54節。

30. 殉教者ヨハネ・戦士

早課：ヨハネによる福音書、第51章の冒頭。

聖体礼儀にて：マタイによる福音書 第69章の冒頭。

8月

1. 主の命を与える聖十字架の起源（掲揚）

主の命を与える聖十字架の起源。

マカベオ家の七人の殉教者兄弟、

その母ソロモニア、および師エレアザル

聖体礼儀において：ヨハネによる福音書第60章の冒頭。

聖人への祈り：マタイによる福音書第38章B節。

水の聖別において：ヨハネによる福音書第14章B節。

2. 第一殉教者ステファノの聖遺骨の移送

聖体礼儀にて：マタイによる福音書、87節から。

6. 主の変容

早課にて：ルカによる福音書 45節。

聖体礼儀にて：マタイによる福音書第70章の冒頭。

7. 聖ミトロファン、ヴォロネジの主教

早課：ヨハネによる福音書第35B節。

聖体礼儀にて：ヨハネによる福音書第36章の冒頭。

9. 聖使徒マタイ

早課：ヨハネによる福音書第67章の冒頭。

聖体礼儀にて：ルカによる福音書第40章の冒頭。

13. 変容の祝日。

聖ティホーン、ヴォロネジの主教

早課：ヨハネによる福音書第36章の冒頭。

聖体礼儀: 定例福音書およびマタイによる福音書第11章の冒頭。

15. 聖母マリアの眠り

早課: ルカによる福音書第4章。

聖体礼儀: ルカによる福音書第54章。

16. 私たちの主イエス・キリストの「人の手によらずして描かれた」聖像の移送

早課および聖体礼儀: ルカによる福音書第48B節。

23. 聖母マリアの被昇天の祝日の終了

聖体礼儀: ルカによる福音書第54章の冒頭。

24. モスクワ都主教聖ペトロの聖遺骨の移送

聖体礼儀: ヨハネによる福音書第36章の冒頭。

25. 使徒バルトロマイの聖遺骨の移送。使徒ティトス

聖体礼儀にて: マタイによる福音書第11章の冒頭。

26. ウラジーミル聖母イコンの奉献

早課にて: ルカによる福音書 第4章の冒頭。

聖体礼儀にて: ルカによる福音書第54章の冒頭。

29. 聖ヨハネ・洗礼者（前駆者）の首斬り

早課: マタイによる福音書第57章の冒頭。

聖体礼儀にて: マルコによる福音書第24章の冒頭。

30日 敬虔なる大公アレクサンドル・ネフスキーの聖遺骨の移送

早課および聖体礼儀: マタイによる福音書第43章の冒頭。

31. 至聖なる神の母の帯の安置

聖体礼儀にて: ルカによる福音書第54節。

[目次へ。](#)

聖徒たちのための共通の福音書

聖母マリアへの礼拝

早課: ルカによる福音書第4章の冒頭。

聖体礼儀にて: ルカによる福音書第54節、またはヨハネによる福音書第6節、またはヨハネによる福音書第61B節。

天の無形なる力への礼拝

早課: マタイによる福音書 第52B節。 **聖体礼儀:** ルカによる福音書 第51A節。

預言者への礼拝

マタイによる福音書第96章、またはルカによる福音書第62章。

使徒への礼拝

早課: ヨハネによる福音書 67節から。

聖体礼儀において、一人の使徒に捧げる場合: マタイによる福音書 34B節。

二人の、あるいは多くの使徒への礼拝: ルカによる福音書第50B章、または第51A章の冒頭から。

聖人への礼拝

早課: ヨハネによる福音書第35B節。

聖体礼儀において、一人の聖人への奉仕: ヨハネによる福音書第36章の冒頭、またはルカによる福音書第24章の冒頭。

二人の、あるいは多くの聖人への礼拝: マタイによる福音書 冒頭11。

聖人およびキリストのために狂人となった者たちのための礼拝

早課: マタイによる福音書第43章の冒頭。

聖体礼儀において: マタイによる福音書第10A章、またはルカによる福音書第24章。

殉教者のための礼拝

早課: ルカによる福音書第63章の冒頭。 **聖体礼儀:** ヨハネによる福音書第52章の冒頭。

殉教者への礼拝

早課: マタイによる福音書第36章から。 **聖体礼儀:** ルカによる福音書第106章から。

聖殉教者の礼拝

ルカによる福音書第67章の冒頭。

聖殉教者への礼拝

ルカによる福音書 24節、あるいは52節、あるいは77節。

敬虔な殉教者への礼拝

一人の尊者殉教者に対して：マルコによる福音書第37章。

聖なる殉教者たち：マタイによる福音書第38B章、またはルカによる福音書第64章。

殉教女たちの礼拝

マタイによる福音書第62章、またはマルコによる福音書第21章から始まる。

聖女たちのための礼拝

マタイによる福音書第104章、またはルカによる福音書第33章、またはヨハネによる福音書第28章。

殉教者への礼拝

ルカによる福音書第64章。

無欲の聖人たちのための礼拝

マタイによる福音書第34章B節。

安息の礼拝

月曜日：ヨハネによる福音書 15章の冒頭。

火曜日：ヨハネによる福音書第16章。

水曜日：ヨハネによる福音書 21章。

木曜日：ヨハネによる福音書 22節。

金曜日：ヨハネによる福音書第23章。

土曜日：ヨハネによる福音書 第16章。

[目次へ。](#)

様々な場面における福音書 および

1. 洗礼の秘跡を執り行う際

マタイによる福音書 第116章。

2. 結婚の秘跡を執り行う際

ヨハネによる福音書 第6章。

3. 病者の塗油の秘跡を行う際

1. ルカによる福音書 53章。
2. ルカによる福音書 94章の冒頭。
3. マタイによる福音書 34B節。
4. マタイによる福音書 26章の冒頭。
5. マタイによる福音書 104節。
6. マタイによる福音書 62章の冒頭。
7. マタイによる福音書 30章の冒頭。

4. 告解の秘跡を行う際

マタイによる福音書第30章、またはルカによる福音書第78章。

5. 女性の告解の際

ヨハネによる福音書 第28章。

6. 修道士の剃髪について

マタイによる福音書 39章の冒頭。

7. 信徒の埋葬について

ヨハネによる福音書 16章。

8. 修道士の埋葬の際

ヨハネによる福音書第16章。

9. 司祭の葬儀について

1. ヨハネによる福音書第16章。
2. ヨハネによる福音書第15章。
3. ヨハネによる福音書第21章。
4. ヨハネによる福音書 第22章。
5. ヨハネによる福音書第23章。

10. 幼児の埋葬について

ヨハネによる福音書 第21章。

11. 水の小聖別式にて

ヨハネによる福音書 14B章。

12. 聖堂の奉献式

ヨハネによる福音書 37B **または** マタイによる福音書 67B。

13. 都市の創設の際

マタイによる福音書 67B。

14. 正教の信仰における平和と一致のための礼拝

マタイによる福音書 20B。

15. 教会の和解と合一に関する礼拝

マルコによる福音書 51章の冒頭。

16. 平和の礼拝において

ヨハネによる福音書 48B節。

17. 戦時における勝利の礼拝にて

マルコによる福音書第51章の冒頭。

18. 敵の襲撃時の礼拝

ルカによる福音書第70章の冒頭。

19. 社会的な災害時の礼拝

マルコによる福音書第51章の冒頭。

20. 疫病の際の奉仕

ルカによる福音書第16章の冒頭。

21. 地震の際の奉仕

マタイによる福音書 第27章。

22. 火災時の礼拝

ルカによる福音書 69章の冒頭。

23. 干ばつの最中の礼拝

マタイによる福音書 65節。

24. 長雨の最中の礼拝

マタイによる福音書 20B節。

25. 病人のための礼拝

第一: マタイによる福音書 26章の冒頭。

第二: マルコによる福音書第21章の冒頭。

第三: ヨハネによる福音書13章の冒頭。

26. 病の霊に冒された者のために

マタイによる福音書第28章、あるいは第72章、あるいはマルコによる福音書第19章、あるいは第40章、あるいはルカによる福音書第46章。

27. 施しをする者たちへの祝福

マタイによる福音書第20章B節。

28. あらゆる願いについて

マタイによる福音書第20章B節、あるいはマルコによる福音書第51節、あるいはルカによる福音書第88節。

[目次へ。](#)